

2018年度
授業改善のための学生アンケート
実施報告書

東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

目 次

はじめに	1
2018年度授業改善のための	
学生アンケートについて	2
授業・レッスンアンケート用紙	3
参考資料 ～ 全体集計結果表	11
講義・演習系、実技（個人レッスン）、大学院 全体集計結果	

専攻別集計結果・アンケート結果考察

◆ 大学 ◆

ピアノ	21
声楽	45
管弦打楽器	59
音楽創造	79
音楽療法	85
音楽専門教育科目	93
基礎教育科目	167
教職に関する専門科目	207
音楽療法に関する科目	221
外国人留学生に関する科目	229

◆ 短大 ◆

ピアノ	237
声楽	257
管弦打楽器	269
コンポーザングアーティスト	281
電子オルガン	287
器楽専攻ピアノレスナーコース	293
音楽教養実技	301
音楽専門教育科目	315
基礎教育科目	337
文化教養科目	351
外国人留学生に関する科目	357

◆ 大学院 ◆

ピアノ領域	365
管弦打領域	375
声楽領域	381
作曲領域	395
共通科目	401

はじめに

多様な背景を持っている学生に対する大学教育に対して、学士課程教育の一層の充実が年々求められています。各大学では、これらの状況に対して教育の改善、充実をはかるため全学的な FD 活動が活発に遂行されています。本学に於いても研修会をはじめ、各種アンケートの実施等、着々と FD 活動の実質化を行ってきました。

本学の「授業改善のための学生アンケート」は、平成 17 年度の施行以来、教育内容、方法の改善に重要な役割を果たしています。教員一人一人が自主的な自己点検、評価を行い教育の質的向上を目指すための重要なエビデンスになっています。今後はピアレビューを踏まえた授業公開やアクティブ・ラーニングの活用方法等の実現化に議論を深めたいと思います。教育に関する問題、課題は絶えることはありません。今後とも改善、改革のため不断の対応を継続的に推進したいと思います。

平成 31 年 3 月

東邦音楽大学・短期大学

FD 委員会

三室戸 東光(委員長)

山崎 明美(副委員長)

片岡 啓子

高橋 幸雄

遠山 菜穂美

大場 文恵

宮野 陽子

中島 裕紀

國谷 尊之

荻久保 和明

馬場 存

中村 利博

菅野 映之

2018 年度 授業改善のための学生アンケートについて

I 実施目的

学生による「授業改善のためのアンケート」は、学生の視点から見た授業・レッスン内容、方法、教材などについて意見を聴取し、より充実した授業・レッスンにするための参考資料とするものである。

II 実施対象科目

原則として、すべての開講科目・レッスンについて行う。

III 実施機関

東邦音楽大学・同短期大学 FD 委員会

IV 調査内容

別紙のとおり

V 実施手順

各授業・レッスン担当教員が、授業・レッスン時間終了前に、学生に本調査の趣旨を説明し、用紙を配布した。学生が回答記入後、回収した。

VI 集計

集計は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

VII 教員への結果通知

各授業・レッスン担当教員の各授業・レッスンごとの個人集計分は、平成 31 年度 3 月初旬から順次手渡し、分析を依頼した。

VIII 結果の公表と活用

調査結果については、自己点検・評価特別検討委員会で報告書にまとめ、委員会の責任において公表する。各教員は調査結果を参考にして、次年度の授業・レッスンの内容の改善に役立てる。

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目系用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に教えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を5点法で評価してください。

科目名	曜日
担当教員名	時限

記入上の注意

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例 悪い例  良い例 

5 強く
そう思う

4 ある程度
そう思う

3 どちらとも
言えない

2 あまりそう
思わない

1 全くそう
思わない

I あなたの授業に対する姿勢について

a. この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	5	4	3	2	1
b. この授業の出席は良好であった。	5	4	3	2	1
c. 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5	4	3	2	1
d. 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5	4	3	2	1
e. この授業を受講して、到達目標に達した。	5	4	3	2	1

II この授業について

a. 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5	4	3	2	1
b. 授業のテーマが、はっきりしていた。	5	4	3	2	1
c. 授業の内容に興味・関心を持てた。	5	4	3	2	1
d. 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5	4	3	2	1
e. 授業の内容を理解できた。	5	4	3	2	1
f. クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5	4	3	2	1
g. 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5	4	3	2	1

III 教員の教授方法について

a. 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5	4	3	2	1
b. 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5	4	3	2	1
c. 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5	4	3	2	1
d. 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5	4	3	2	1
e. 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5	4	3	2	1
f. 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5	4	3	2	1
g. 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5	4	3	2	1
h. 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。(当てはまる場合のみマークして下さい。)	5	4	3	2	1
i. あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5	4	3	2	1

IV 自由記述欄 この授業で良かった点、改善すべき点等について書いてください。

授業改善のための学生アンケート

実技(個人レッスン)用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に教えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を5点法で評価してください。

科目名

担当教員名

記入上の注意

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例

良い例



悪い例



うすい

強く
そう思う 5
ある程度
そう思う 4
どちらとも
言えない 3
あまりそう
思わない 2
全くそう
思わない 1

I このレッスン に対しての あなた自身 について

a. 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5	4	3	2	1
b. レッスンには、遅刻をしないで行っていった。	5	4	3	2	1
c. 出席は良好であった。	5	4	3	2	1
d. 教員との信頼関係は、良好であった。	5	4	3	2	1
e. 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5	4	3	2	1
f. レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5	4	3	2	1
g. 図書館の利用等の学習を積極的に行なっていた。	5	4	3	2	1
h. このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5	4	3	2	1
i. このレッスンの総合的評価は良いですか。	5	4	3	2	1

II このレッスン について

a. 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5	4	3	2	1
b. 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5	4	3	2	1
c. 教員の話し方や態度は、適切であった。	5	4	3	2	1
d. 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5	4	3	2	1
e. 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5	4	3	2	1
f. レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5	4	3	2	1
g. 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。(当てはまる場合のみ マークして下さい。)	5	4	3	2	1

III 自由記述欄 このレッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目・
レッスン(共通)用

東邦音楽大学
大学院

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に教えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を5点法で評価してください。

科目名

曜日(授業のみ記入)

担当教員名

時限(授業のみ記入)

記入上の注意

- 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
- 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
- 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例

良い例



悪い例



うすい

強く
そう思う

ある程度
そう思う

どちらとも
言えない

あまりそう
思わない

全くそう
思わない

I あなたの授業・レッスンに対する姿勢について

- a. 出席状況は良好であった。
- b. 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。
- c. 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

II この授業・レッスンについて

- a. シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。
- b. 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。
- c. 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。
- d. 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。
- e. 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。
- f. 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。
- g. 教員は必要に応じて課題を課していた。
- h. 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。
- i. 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。
- j. 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)
- k. この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

5

4

3

2

1

III 自由記述欄 このレッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

全体集計結果表

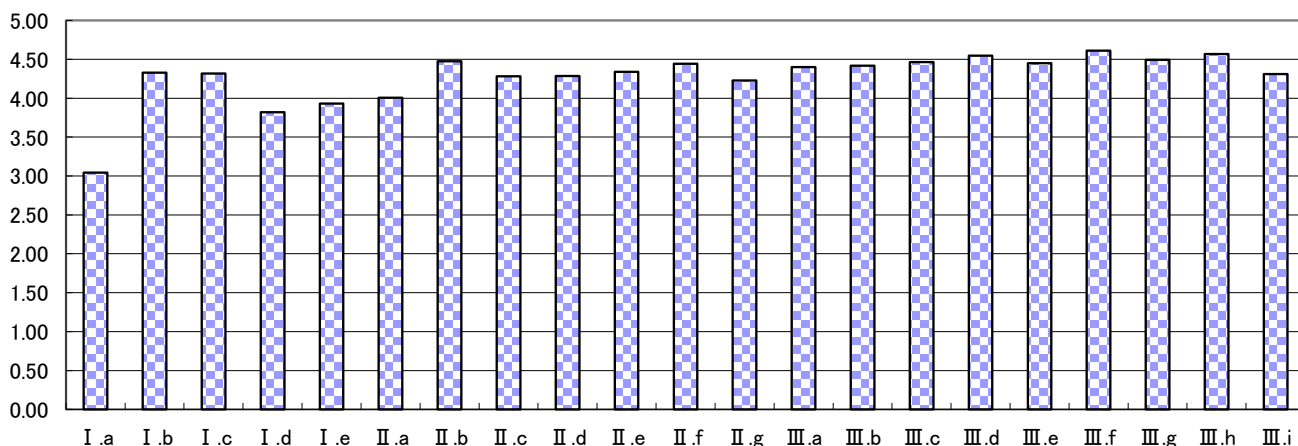
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

区分	大学
科目数	155

履修者数	1,853
回答者数	1,381

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.04	259	287	381	159	293	1,379	2
			18.8	20.8	27.6	11.5	21.2		
	b	4.33	789	347	162	67	13	1,378	3
			57.3	25.2	11.8	4.9	0.9		
	c	4.32	723	420	184	36	10	1,373	8
	52.7		30.6	13.4	2.6	0.7			
d	3.82	464	417	339	101	57	1,378	3	
		33.7	30.3	24.6	7.3	4.1			
e	3.93	462	493	326	64	35	1,380	1	
		33.5	35.7	23.6	4.6	2.5			
II	a	4.01	550	337	440	23	19	1,369	12
			40.2	24.6	32.1	1.7	1.4		
	b	4.47	874	332	138	23	12	1,379	2
			63.4	24.1	10.0	1.7	0.9		
	c	4.28	753	368	175	55	27	1,378	3
			54.6	26.7	12.7	4.0	2.0		
	d	4.29	751	353	204	40	25	1,373	8
	54.7		25.7	14.9	2.9	1.8			
e	4.34	758	392	164	40	17	1,371	10	
		55.3	28.6	12.0	2.9	1.2			
f	4.44	865	301	172	26	11	1,375	6	
		62.9	21.9	12.5	1.9	0.8			
g	4.23	724	364	202	53	34	1,377	4	
		52.6	26.4	14.7	3.8	2.5			
III	a	4.40	815	360	157	30	15	1,377	4
			59.2	26.1	11.4	2.2	1.1		
	b	4.42	823	353	159	27	12	1,374	7
			59.9	25.7	11.6	2.0	0.9		
	c	4.46	873	322	141	26	14	1,376	5
			63.4	23.4	10.2	1.9	1.0		
	d	4.55	941	285	125	20	7	1,378	3
			68.3	20.7	9.1	1.5	0.5		
	e	4.45	869	314	144	33	13	1,373	8
	63.3		22.9	10.5	2.4	0.9			
f	4.61	1,035	197	105	23	14	1,374	7	
		75.3	14.3	7.6	1.7	1.0			
g	4.49	901	293	134	30	11	1,369	12	
		65.8	21.4	9.8	2.2	0.8			
h	4.57	511	93	82	7	6	699	682	
		73.1	13.3	11.7	1.0	0.9			
i	4.31	788	337	162	53	31	1,371	10	
		57.5	24.6	11.8	3.9	2.3			

大学 講義全体平均点



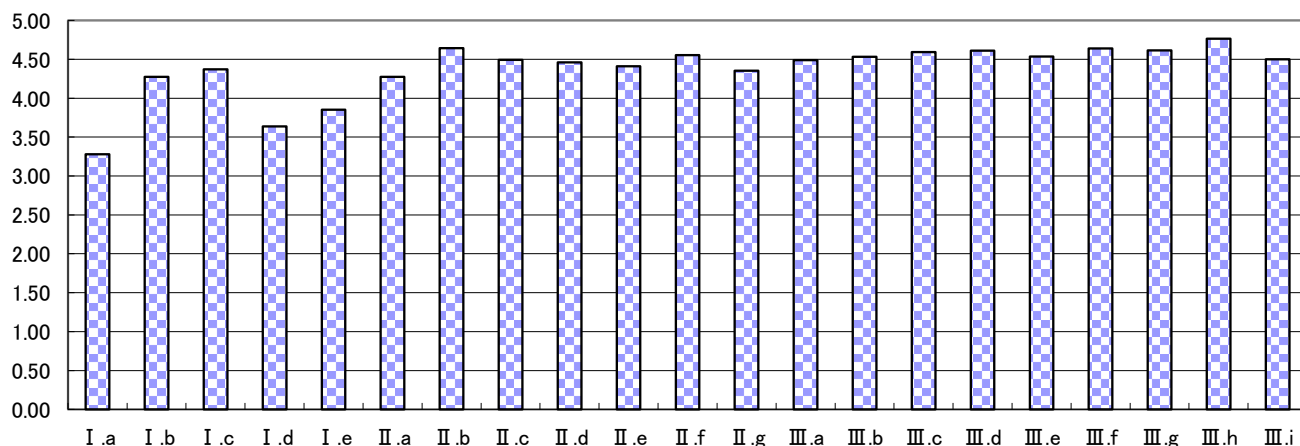
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

区分	短大
科目数	43

履修者数	636
回答者数	478

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数	
			5	4	3	2	1			
I	a	この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.28	92	149	110	38	82	471	7
				19.5	31.6	23.4	8.1	17.4		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.27	273	100	64	25	10	472	6
				57.8	21.2	13.6	5.3	2.1		
	c	授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.37	259	150	53	9	4	475	3
54.5				31.6	11.2	1.9	0.8			
d	予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.64	114	147	161	33	20	475	3	
			24.0	30.9	33.9	6.9	4.2			
e	この授業を受講して、到達目標に達した。	3.85	118	211	110	22	11	472	6	
			25.0	44.7	23.3	4.7	2.3			
II	a	授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.28	248	113	105	2	3	471	7
				52.7	24.0	22.3	0.4	0.6		
	b	授業のテーマが、はっきりしていた。	4.64	351	87	25	8	2	473	5
				74.2	18.4	5.3	1.7	0.4		
	c	授業の内容に興味・関心を持たた。	4.49	310	102	45	12	3	472	6
				65.7	21.6	9.5	2.5	0.6		
	d	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.46	300	110	52	7	5	474	4
63.3				23.2	11.0	1.5	1.1			
e	授業の内容を理解できた。	4.41	268	148	39	15	2	472	6	
			56.8	31.4	8.3	3.2	0.4			
f	クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.55	318	109	40	5	2	474	4	
			67.1	23.0	8.4	1.1	0.4			
g	授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.35	281	115	52	17	9	474	4	
			59.3	24.3	11.0	3.6	1.9			
III	a	授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.49	314	99	46	12	4	475	3
				66.1	20.8	9.7	2.5	0.8		
	b	教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.53	323	99	42	9	3	476	2
				67.9	20.8	8.8	1.9	0.6		
	c	授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.59	339	93	35	5	4	476	2
				71.2	19.5	7.4	1.1	0.8		
	d	教員は、授業の準備を十分に行っていた。	4.61	343	89	37	3	3	475	3
				72.2	18.7	7.8	0.6	0.6		
	e	教員の話し方は、明瞭に聞きやすく、板書等は適切であった。	4.53	322	100	43	5	5	475	3
67.8				21.1	9.1	1.1	1.1			
f	教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.64	357	74	36	6	2	475	3	
			75.2	15.6	7.6	1.3	0.4			
g	授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.62	343	92	31	4	4	474	4	
			72.4	19.4	6.5	0.8	0.8			
h	休講に対する補講は、適切に行なわれていた。(当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.76	299	39	19	0	2	359	119	
			83.3	10.9	5.3	0.0	0.6			
i	あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	310	107	41	12	3	473	5	
			65.5	22.6	8.7	2.5	0.6			

短大 講義全体平均点



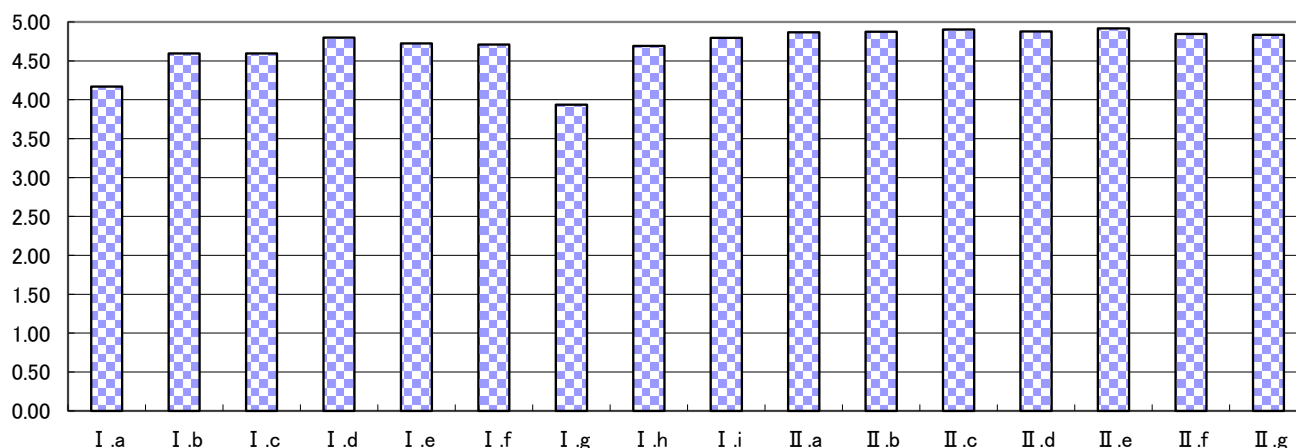
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

区分	大学
科目数	61

履修者数	291
回答者数	255

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.17	95 37.3	117 45.9	34 13.3	9 3.5	0 0.0	255	0
	b	4.60	181 71.0	50 19.6	19 7.5	5 2.0	0 0.0	255	0
	c	4.60	181 71.0	53 20.8	13 5.1	8 3.1	0 0.0	255	0
	d	4.80	209 82.0	42 16.5	3 1.2	1 0.4	0 0.0	255	0
	e	4.73	196 76.9	48 18.8	11 4.3	0 0.0	0 0.0	255	0
	f	4.71	190 74.5	56 22.0	9 3.5	0 0.0	0 0.0	255	0
	g	3.94	104 40.8	69 27.1	52 20.4	22 8.6	8 3.1	255	0
	h	4.69	189 74.1	53 20.8	13 5.1	0 0.0	0 0.0	255	0
	i	4.80	210 82.4	39 15.3	5 2.0	1 0.4	0 0.0	255	0
II	a	4.87	226 88.6	25 9.8	3 1.2	1 0.4	0 0.0	255	0
	b	4.87	228 89.4	23 9.0	3 1.2	1 0.4	0 0.0	255	0
	c	4.90	231 90.6	23 9.0	1 0.4	0 0.0	0 0.0	255	0
	d	4.88	228 89.4	24 9.4	2 0.8	1 0.4	0 0.0	255	0
	e	4.92	236 92.5	18 7.1	0 0.0	1 0.4	0 0.0	255	0
	f	4.85	222 87.1	28 11.0	4 1.6	1 0.4	0 0.0	255	0
	g	4.83	151 86.3	20 11.4	3 1.7	1 0.6	0 0.0	175	80

大学 実技(個人レッスン)全体平均点



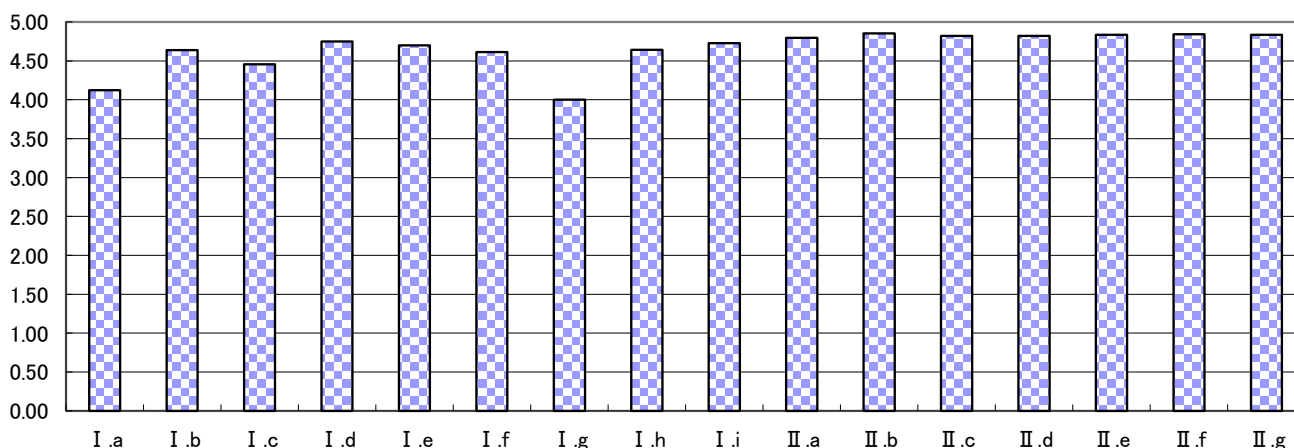
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

区分	短大
科目数	58

履修者数	162
回答者数	132

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.12	48	58	18	4	2	130	2
			36.9	44.6	13.8	3.1	1.5		
	b	4.64	91	29	5	1	1	127	5
			71.7	22.8	3.9	0.8	0.8		
	c	4.46	82	27	12	6	0	127	5
			64.6	21.3	9.4	4.7	0.0		
	d	4.75	103	18	4	2	0	127	5
			81.1	14.2	3.1	1.6	0.0		
	e	4.70	94	26	6	0	0	126	6
	74.6		20.6	4.8	0.0	0.0			
f	4.61	87	34	8	0	0	129	3	
		67.4	26.4	6.2	0.0	0.0			
g	4.00	53	38	24	10	3	128	4	
		41.4	29.7	18.8	7.8	2.3			
h	4.64	90	31	6	1	0	128	4	
		70.3	24.2	4.7	0.8	0.0			
i	4.73	103	17	6	2	0	128	4	
		80.5	13.3	4.7	1.6	0.0			
II	a	4.80	109	11	6	1	0	127	5
			85.8	8.7	4.7	0.8	0.0		
	b	4.85	113	11	4	0	0	128	4
			88.3	8.6	3.1	0.0	0.0		
	c	4.82	115	7	3	2	1	128	4
			89.8	5.5	2.3	1.6	0.8		
	d	4.82	115	8	3	3	0	129	3
	89.1		6.2	2.3	2.3	0.0			
e	4.84	115	8	3	1	1	128	4	
		89.8	6.3	2.3	0.8	0.8			
f	4.84	114	10	1	0	2	127	5	
		89.8	7.9	0.8	0.0	1.6			
g	4.83	84	8	4	0	0	96	36	
		87.5	8.3	4.2	0.0	0.0			

短大 実技(個人レッスン)全体平均点



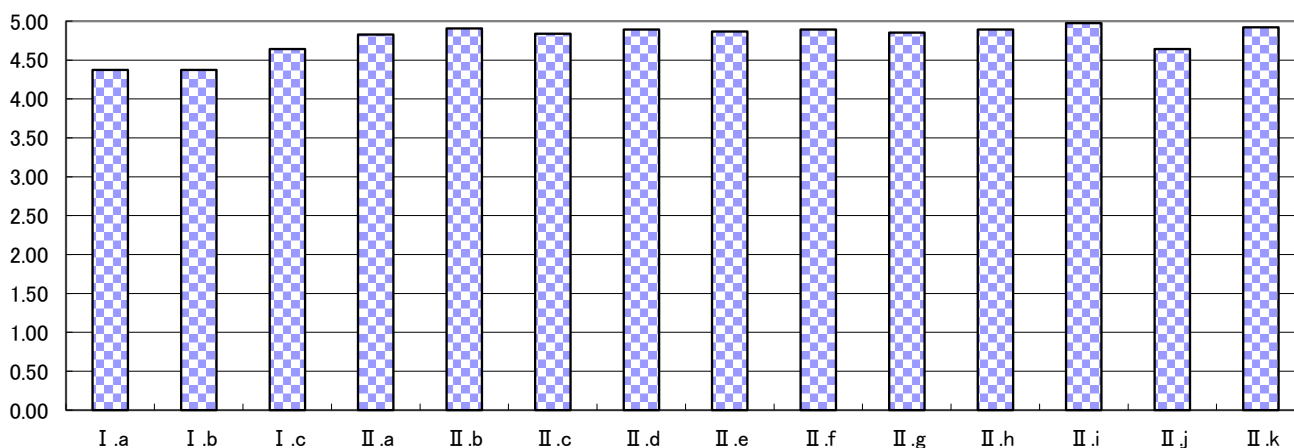
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

区分	大学院
科目数	32

履修者数	99
回答者数	75

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.37	39	29	3	4	0	75	0
			52.0	38.7	4.0	5.3	0.0		
	b	4.37	37	31	5	2	0	75	0
			49.3	41.3	6.7	2.7	0.0		
c	4.64	52	20	2	1	0	75	0	
		69.3	26.7	2.7	1.3	0.0			
II	a	4.83	66	5	4	0	0	75	0
			88.0	6.7	5.3	0.0	0.0		
	b	4.91	69	5	1	0	0	75	0
			92.0	6.7	1.3	0.0	0.0		
	c	4.84	64	10	1	0	0	75	0
			85.3	13.3	1.3	0.0	0.0		
	d	4.89	67	8	0	0	0	75	0
			89.3	10.7	0.0	0.0	0.0		
	e	4.87	65	10	0	0	0	75	0
			86.7	13.3	0.0	0.0	0.0		
	f	4.89	68	6	1	0	0	75	0
	90.7		8.0	1.3	0.0	0.0			
g	4.85	67	6	1	1	0	75	0	
		89.3	8.0	1.3	1.3	0.0			
h	4.89	68	6	1	0	0	75	0	
		90.7	8.0	1.3	0.0	0.0			
i	4.97	72	2	0	0	0	74	1	
		97.3	2.7	0.0	0.0	0.0			
j	4.64	31	2	6	0	0	39	36	
		79.5	5.1	15.4	0.0	0.0			
k	4.92	69	6	0	0	0	75	0	
		92.0	8.0	0.0	0.0	0.0			

大学院全体平均点



東邦音樂大學

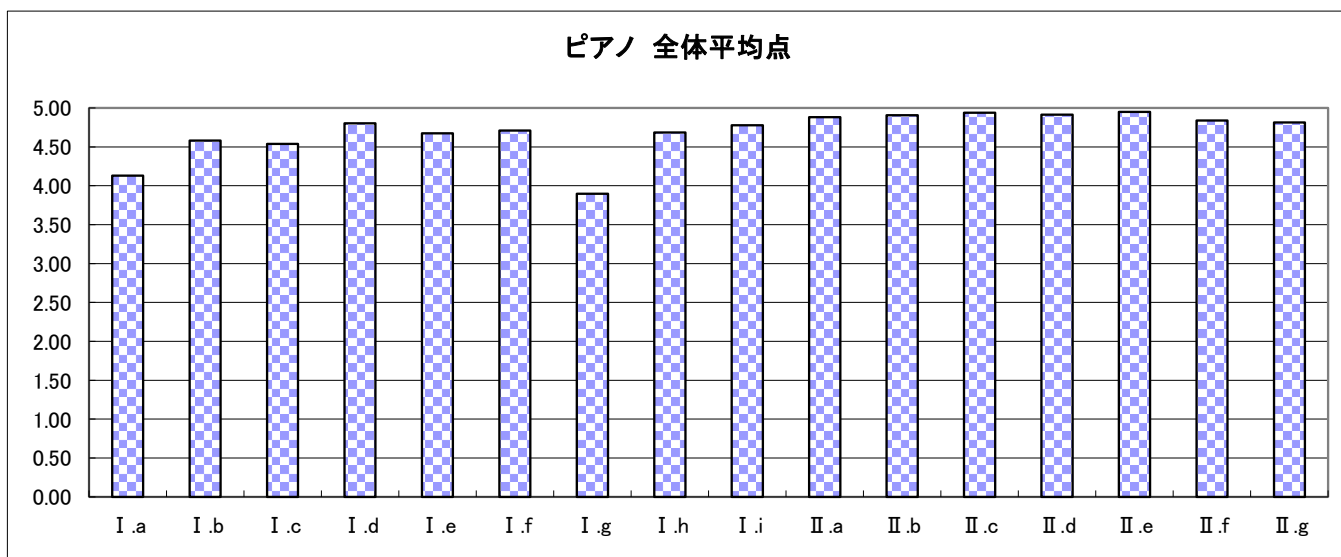
ピアノ

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	ピアノ
科目数	22

履修者数	130
回答者数	117

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.13	41 35.0	55 47.0	16 13.7	5 4.3	0 0.0	117	0
	b	4.58	80 68.4	27 23.1	8 6.8	2 1.7	0 0.0	117	0
	c	4.54	80 68.4	26 22.2	5 4.3	6 5.1	0 0.0	117	0
	d	4.80	96 82.1	19 16.2	2 1.7	0 0.0	0 0.0	117	0
	e	4.68	86 73.5	24 20.5	7 6.0	0 0.0	0 0.0	117	0
	f	4.71	87 74.4	26 22.2	4 3.4	0 0.0	0 0.0	117	0
	g	3.90	42 35.9	39 33.3	21 17.9	12 10.3	3 2.6	117	0
	h	4.68	86 73.5	25 21.4	6 5.1	0 0.0	0 0.0	117	0
	i	4.78	93 79.5	22 18.8	2 1.7	0 0.0	0 0.0	117	0
II	a	4.88	106 90.6	8 6.8	3 2.6	0 0.0	0 0.0	117	0
	b	4.91	107 91.5	9 7.7	1 0.9	0 0.0	0 0.0	117	0
	c	4.94	110 94.0	7 6.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	117	0
	d	4.91	109 93.2	6 5.1	2 1.7	0 0.0	0 0.0	117	0
	e	4.95	111 94.9	6 5.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	117	0
	f	4.84	104 88.9	8 6.8	4 3.4	1 0.9	0 0.0	117	0
	g	4.81	66 88.0	5 6.7	3 4.0	1 1.3	0 0.0	75	42



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

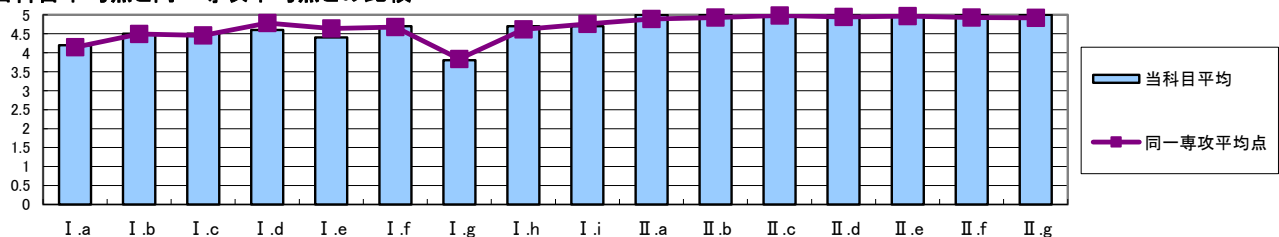
科目名	ピアノ
教員名	國谷 尊之

職名	教授
----	----

履修者数	11
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.20	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	4.50	4.49
	c 出席は良好であった。	4.50	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.60	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.40	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.70	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.80	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.70	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.70	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2018年度は、大学のピアノ専門レッスンを11名担当した。学年別の内訳は1年次生2名、2年次生1名、3年次生4名、4年次生4名である。うち1名はKonzertfach演奏専攻、2名は教職実践専攻である。レッスンでの表現技術や知識の習得のみならず、コミュニケーションスキルや社会人基礎力の向上についての指導も取り入れ、それがさらに能動的な学びにつながるように企図している。演奏専攻の学生には、2回の演奏専攻演奏会、2回のウィーン特別研修の準備を、ウィーンアカデミーのカリキュラムとの連携に留意しながら進めた。

● 問題点

相対的にIの項目において改善の余地がある。特にI-eの設問で「どちらとも言えない」の回答が2名いることに留意したい。

● 改善の方策

全ての学生の授業に対する興味関心を高めることが必要である。学生ひとりひとりの状況の把握と、それを踏まえた適切な指導計画の策定・実行、学修に対する適切な支援を心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

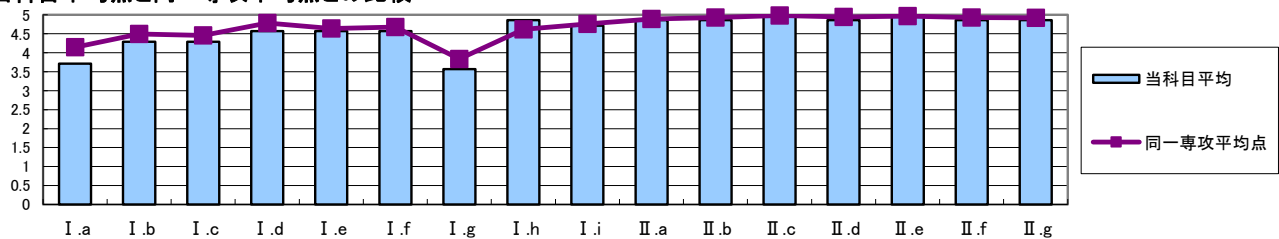
科目名	ピアノ
教員名	中島 裕紀

職名	教授
----	----

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.71	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	4.29	4.49
	c 出席は良好であった。	4.29	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.57	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.57	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.57	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.57	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.86	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.71	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.86	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.86	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.86	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.86	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.86	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本年度の大学のピアノ専攻受け持ちは8名であったが、内1名は9月入学の留学生であり、言語上の問題から、7名の有効回答を得ることができた。ピアノの専攻レッスンは、少ない人数であるため、平均値よりも評価の分布を見てみたい。専攻実技に関しては、個人レッスンという1対1の関係と、担当教員への敬意も含め、学生自身については遠慮がちな評価、教員へは比較的高い評価という傾向があるが、これは、レッスン内容よりもむしろ人間的な信頼関係の表れであると受け止めている。本レッスンに関しても高評価となっている。

● 問題点

レッスンをしている中でも、またアンケートの結果を見ても、大きな問題になる点は見当たらない。毎年、図書館の利用に対するポイントが低い、実技レッスンとの結びつきを自覚できない点があるのではないかとと思われる。

● 改善の方策

ピアノのレッスンは、私自身にとって最も専門性の高いものであるため、今後も自己の研鑽を積み重ねながら、学生たちが生涯にわたり音楽を愛し続けることができるように指導に当たっていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

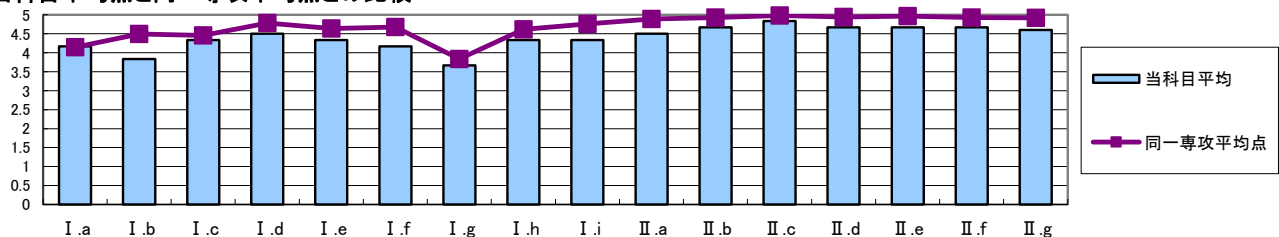
科目名	ピアノ
教員名	太田 幸子

職名	特任教授
----	------

履修者数	7
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.17	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	3.83	4.49
	c 出席は良好であった。	4.33	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.33	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.17	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.67	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.33	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.33	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.67	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.83	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.67	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.67	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.60	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度は7名を担当。1人の学生が前期で専門実技卒業単位の取得が出来たため、後期は出席せず、6名の回答になる。最近では専門実技のレベル差が著しく表れている。特に意欲向上心の低下が見られる。学生の自主性を尊重し、選曲において、十分に配慮を行っている。

● 問題点

設問のI.gが1人とは問題である。課題を与え、図書館をもっと積極的に利用させたい。

● 改善の方策

学生とのコミュニケーションを通し、自主性を尊重し、丁寧な指導を心掛けたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

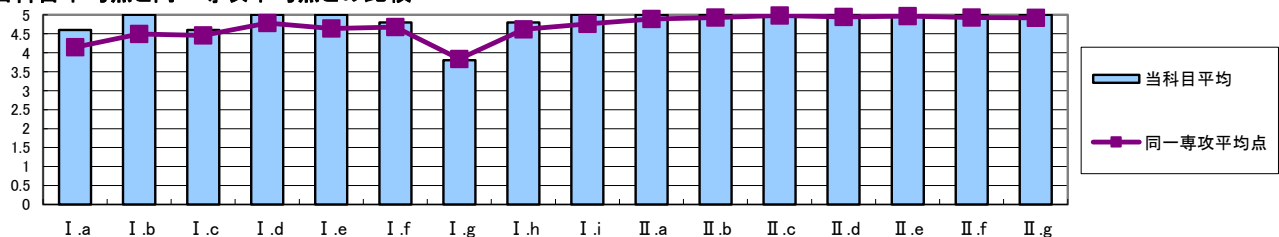
科目名	ピアノ
教員名	大場 文恵

職名	特任教授
----	------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.60	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.49
	c 出席は良好であった。	4.60	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.80	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.80	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.80	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2年生1名、3年生2名、4年生3名のうち、インフルエンザで欠席した1名を除いた5名より回答がありました。全員がたいへん熱心で欠席もほとんどなく、地道に努力を重ねることができる学生ばかりです。そしてそれぞれが、音楽面だけでなく人間的にも確実に成長していることを会話など多くの場面で感じることができ、それはとても大きな喜びでした。

● 問題点

設問 I—g「図書館の利用等の学習を積極的に行っていた」の点数が低くなっています。

● 改善の方策

図書館等を利用する学習は、「アクティブラーニング」という意味からも必要なことです。教員に言われて図書館に行くのではなく、日頃から図書館に馴染み親しんでおくことが大切です。図書館の魅力を伝え、学生が自ら課題を見つけられるよう仕向けて行くことも必要かと思ひます。私自身、図書館の話題を頻繁に出すなど工夫してみたいと思ひます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

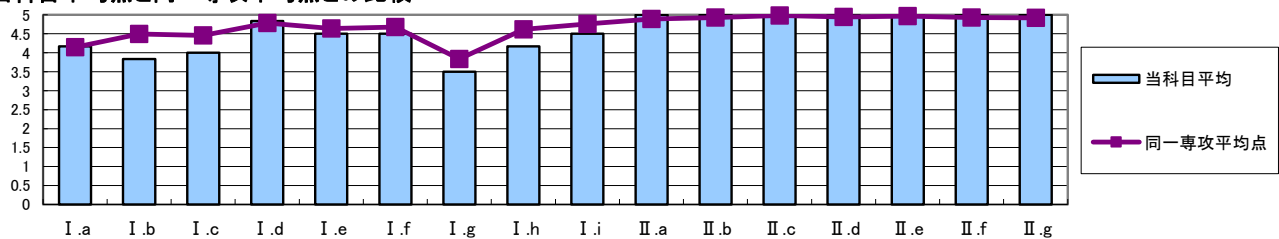
科目名	ピアノ
教員名	野田 説子

職名	専任講師
----	------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.17	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	3.83	4.49
	c 出席は良好であった。	4.00	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.83	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.50	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.17	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.50	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度の受け持ちの学生の内訳は、短大が専門が2年2名、副科は3年目の社会人が1名。大学は専門が2年2名、3年2名、4年2名。副科は1年1名、2年2名、3年4名、4年1名。短大・大学1～3年の専門生は、非常に真面目で真剣に取り組んだ。4年の1名は就職活動で精神的に不安定な時もあったが、何とか乗り切った。もう1名は生活習慣の乱れが慢性化していたが、年が変わって時間が守れるようになってきたことは大きな変化である。副科生は短大・大学共に（或る管楽器の2名以外は）出席も良好で真面目に取り組んだ。

● 問題点

不規則な生活習慣・時間の観念が弱い学生の指導。学習能力が弱い学生への指導。

● 改善の方策

コミュニケーションを密に取りながら、理解、修得が出来るまで根気よく指導することを心掛ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

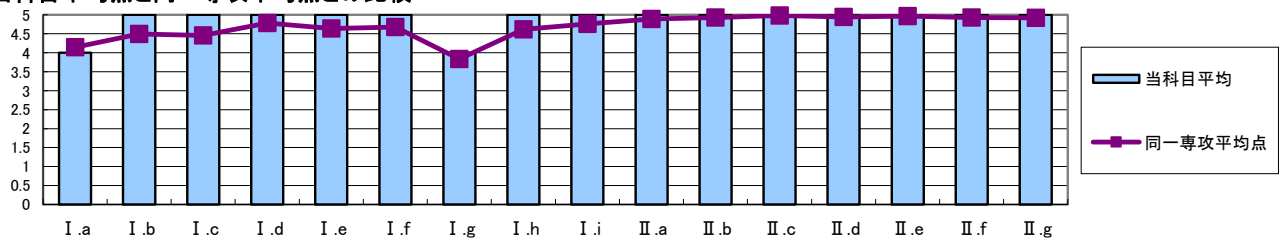
科目名	ピアノ
教員名	浅野 和子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分にレッスンに臨んでいた。	4.00	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.49
	c 出席は良好であった。	5.00	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.76
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		5.00	4.93
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		5.00	4.98
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		5.00	4.95
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		5.00	4.96
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		5.00	4.93
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

短大音楽教養→短大ピアノ専攻→大学編入に進学した学生が2名、2名ともレッスンに対する準備は万全で、とても勉強熱心です。試験に対する準備もきちんとしています。しかし試験の結果が思うようにいかない事が多く（特にメンタル面）、その辺を長い目で見て改善出来ると良いと思います。

● 問題点

アンケートでは意識のズレはありません。

● 改善の方策

本番に対する考え方をじっくり話し合いたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

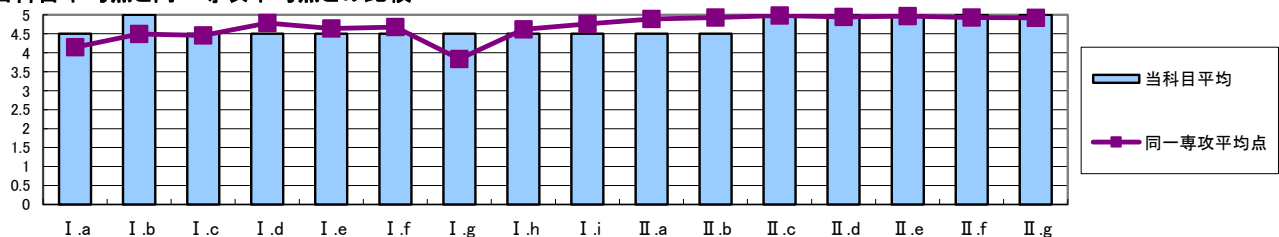
科目名	ピアノ
教員名	泉 玲子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.50	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.49
	c 出席は良好であった。	4.50	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.50	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.50	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.50	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.50	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

授業形態は個人レッスンである。2018年度の受講者は2名、内訳は、Ⅱ1名、Ⅲ1名である。基本的に二人ともレッスン受講時の態度は良好であったが、レッスンに対する熱意や準備には多少差があったと思う。一人は試験等の本番においても準備不足で迎えることが多かった。

● 問題点

今年度は受け持って2年目、3年目の学生であったので、ある程度本人のペースや理解度・家での練習法などをつかむことができたが、それでも、一人の学生に関しては私自身の想定通りには進まないことがあり、結果的に準備不足で本番を迎えることがあった。

● 改善の方策

学生とのコミュニケーションを深め、より正しく理解した上で、なるべく具体的にレッスンの計画について確認しながら、最善のアドバイスができるように心がけたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

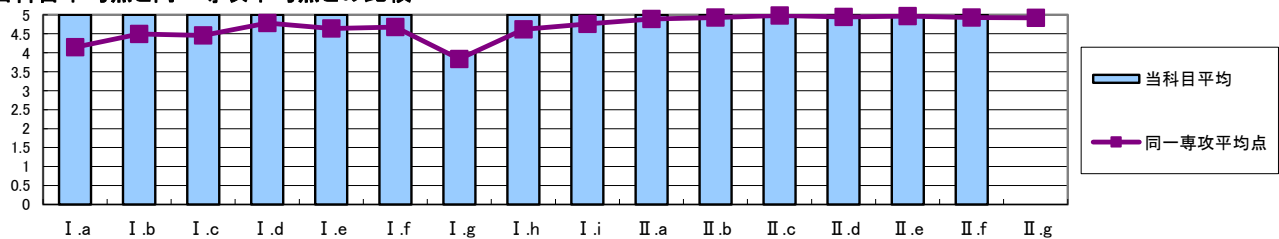
科目名	ピアノ
教員名	亀山 久美子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.49
	c 出席は良好であった。	5.00	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度は履修1名に対し、その回答を得た。附属の二高からの新一年生である。専門実技に対しての思い入れがやや希薄な印象だが、出席は非常に良好で遅刻もなかった。アンケートに対し、レッスンへの積極性や総合評価、教員へのアンケートを見ると問題はないようである。ただ、自らの演奏を客観視したり自他供に様々な物事を結び付けて分析すること等にまだ至っていないことが気掛かりであり、今後は本人の様子を見ながらアドバイスと指導ができればと考えている。本人のアンケートにあるように、図書館の利用についての積極性に欠ける。

● 問題点

図書館の利用の習慣化。

● 改善の方策

専門であるならば自発的に学ぶことを期待したいが、曲の背景の知識を蓄えることや音源を聴くよう幾度となくこちらが促してやっとならった状態である。習慣化も長期戦が大事なので、これからも必要性を説き、レッスンの度に臨機応変に働きかけていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

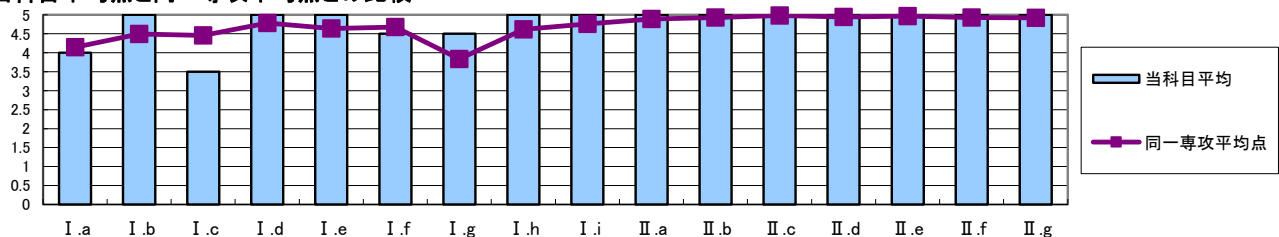
科目名	ピアノ
教員名	永岡 京子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.49
	c 出席は良好であった。	3.50	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.50	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は2名の学生が受講した。一人は、今年度初めて受け持つ事となった学生で、大変意欲的で、自分の実力を可能な限り付けていきたいという気持ちが強く感じられた。音楽に対する関心もとても高かったが、残念ながら体調を崩す事が多く、欠席も時々あった。その向上心に技術と体力がついて来ない状態が続いたのが少し残念だったが、最終的に自分の学習目標に達し、ある程度満足できる演奏をしたと言える。もう一人も大変高い関心と常に集中力を保った取り組みをもって、多くの課題を成し遂げ、例年と違う、より内容の濃い勉強をしていた。以前でがけた事のないレパートリーに挑戦した事が功を奏したと言えるよう。様々な曲を弾くという事と同時に、自分はどのような音楽を弾くのかという自問自答から、より深い音楽理解と新たな意欲を得たように見受けられた。総じて大変意義深い一年であったし、学生たちの努力と成果は素晴らしかった。

● 問題点

限界に挑戦しようとしている学生たちを見て、本当に心身ともに無理が来ていると感じることがあった。身体的、特に指や手など、そして精神的に自らを追い込まずに実力を付けていく事の難しさがある。

● 改善の方策

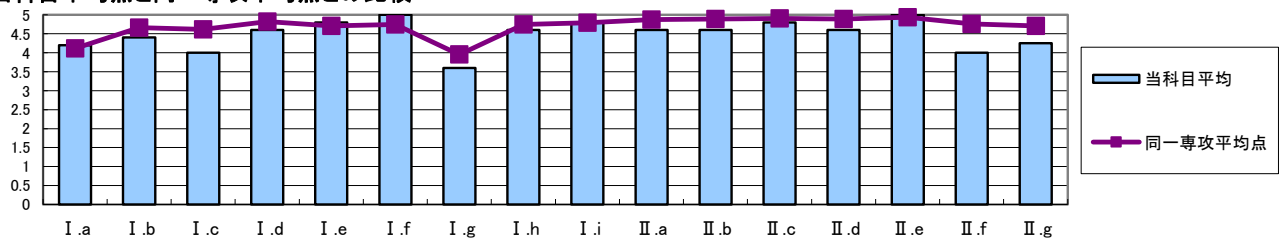
学生たちに、時に冷静になる事、力を使い過ぎずに表現していく事に、注意喚起していく事も必要である。練習の仕方、自分と音楽について、広い視野で考えてみるような話し合いをしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	特任教授	履修者数	5
教員名	太田 幸子			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分にレッスンに臨んでいた。	4.20	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.40	4.66
	c 出席は良好であった。	4.00	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.60	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.80	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.60	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.60	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.80	4.79
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.60
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		4.60	4.89
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		4.80	4.90
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		4.60	4.89
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		5.00	4.94
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		4.00	4.76
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		4.25	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度、副科生5名を担当。全員より回答を得る。副科の学生は、大変忙しく、休みが多くなる学生もあった。中には試験曲届を、私が書いて提出した学生もあった。これはある程度仕方がない事だと考えている。

● 問題点

設問II.f、II.gが低い。補講等を入れる場合は、特に学生とのコミュニケーションをしっかりと、確実に出席できる日程を約束する事が大事である。

● 改善の方策

全員受講態度は大変良く、今後も丁寧で、楽しく充実したレッスンになるよう心掛けていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

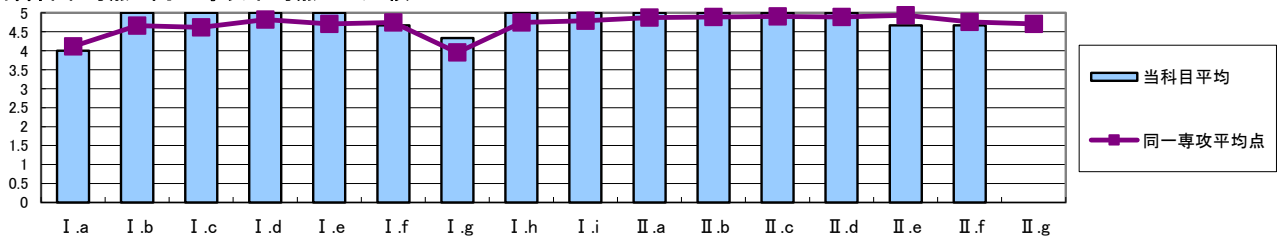
科目名	副科ピアノ
教員名	大場 文恵

職名	特任教授
----	------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.66
	c 出席は良好であった。	5.00	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.67	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.79
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		5.00	4.89
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		5.00	4.90
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		5.00	4.89
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		4.67	4.94
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		4.67	4.76
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		-	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年生2名（ヴァイオリン・声楽）、3年生1名（声楽）の計3名全員より回答がありました。3名とも熱心に取り組み、それぞれが1年間でたいへん上達しました。専門同様に副科ピアノにも力を入れているのは嬉しいことです。

● 問題点

良好な関係の中でレッスンを行うことができ、上達もしましたので特に問題はありません。

● 改善の方策

今年度の進め方が評価され得点も高いので、特に変更する点はありません。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

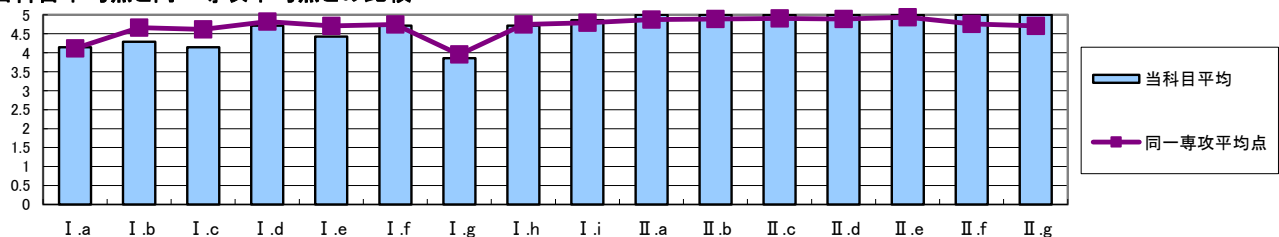
科目名	副科ピアノ
教員名	野田 説子

職名	専任講師
----	------

履修者数	8
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.14	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.29	4.66
	c 出席は良好であった。	4.14	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.71	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.43	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.71	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.86	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.71	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.86	4.79
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.87
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.89
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.90
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.94
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.76
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度の受け持ちの学生の内訳は、短大が専門が2年2名、副科は3年目の社会人が1名。大学は専門が2年2名、3年2名、4年2名。副科は1年1名、2年2名、3年4名、4年1名。短大・大学1～3年の専門生は、非常に真面目で真剣に取り組んだ。4年の1名は就職活動で精神的に不安定な時もあったが、何とか乗り切った。もう1名は生活習慣の乱れが慢性化していたが、年が変わって時間が守れるようになってきたことは大きな変化である。副科生は短大・大学共に（或る管楽器の2名以外は）出席も良好で真面目に取り組んだ。

● 問題点

不規則な生活習慣・時間の観念が弱い学生の指導。学習能力が弱い学生への指導。

● 改善の方策

コミュニケーションを密に取りながら、理解、修得が出来るまで根気よく指導することを心掛ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

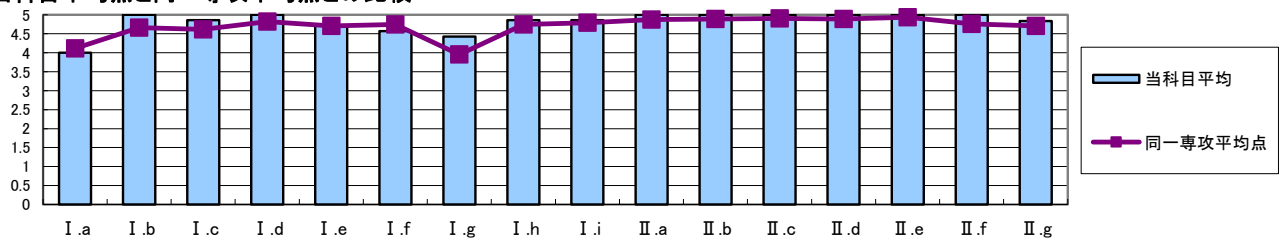
科目名	副科ピアノ
教員名	浅野 和子

職名	講師
----	----

履修者数	9
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.66
	c 出席は良好であった。	4.86	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.71	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.57	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.43	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.86	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.86	4.79
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		5.00	4.89
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		5.00	4.90
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		5.00	4.89
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		5.00	4.94
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		5.00	4.76
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		4.83	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者9名、どの学生も明るく素直でとても好印象でした。レベルは様々ですが、それぞれ準備をしてレッスンに来ていたと思います。

● 問題点

特になし。

● 改善の方策

のびのびとした環境の中で、色々な事を吸収できるように、私自身レッスンの準備をしたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

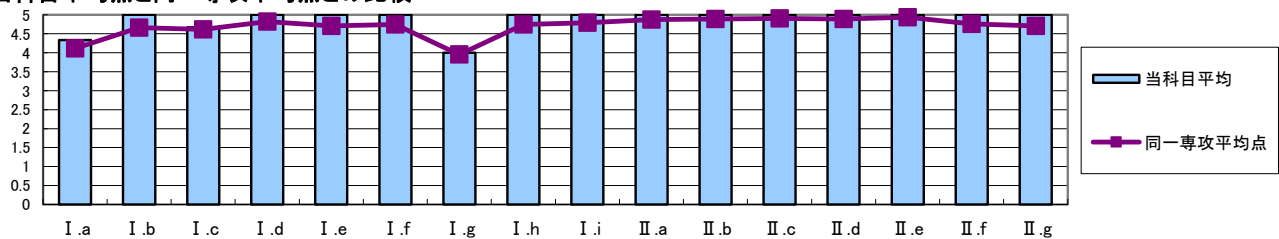
科目名	副科ピアノ
教員名	泉 玲子

職名	講師
----	----

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.33	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.66
	c 出席は良好であった。	4.67	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.79
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.87
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.89
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.90
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.94
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.76
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

授業形態は個人レッスンである。副科ピアノに際して、ピアノを弾くということと同じくらいに目標としているのは、ピアノ曲のレパートリーの広さを生かし、なるべく色々な時代の多くの作曲家の作品に触れ、その多彩な様式・楽曲形式を経験して音楽的な教養の助けとすることである。2018年度は3名の学生の副科ピアノを担当し、全員から回答を得た。内訳は、Ⅲ1名、Ⅳ2名である。3人とも非常に真面目に取り組んでいた。I - aとgのポイントが完全ではなかった。

● 問題点

図書館の利用に関して十分な指導が行えていなかった。

● 改善の方策

図書館の利用を日常的な習慣にするために、具体的に課題を与える試みをするつもりである。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

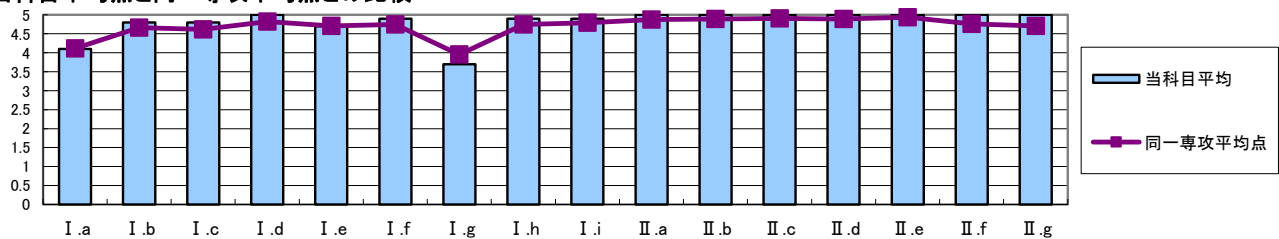
科目名	副科ピアノ
教員名	亀山 久美子

職名	講師
----	----

履修者数	11
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.10	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	4.80	4.66
	c 出席は良好であった。	4.80	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.70	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.90	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.70	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.90	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.90	4.79
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.87
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.89
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.90
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.94
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.76
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度は履修11名に対し、10名から回答を得た。今年度より導入されたピアノエクササイズにより、大多数に対しての継続の効果が見られ大変良かったと感じている。今年度は新1年生も何名か履修しているが、非常に真面目で勤勉な学生が多く印象的だった。毎年のものであるが、それぞれ各学年に上がることで、その年の研修や実習などで副科実技まで手が回らない学生も派生してしまい、フォローや対応に苦慮することも多かった。まだまだ自己管理の及ばない学生もおり、そこをどう導き補っていけるかが担当教員の役割であると常々感じていた。それがこの度、図書館の利用についての設問で、顕著に出たように思う。

● 問題点

設問 I-e 興味・関心を持つこと。設問 I-g 図書館の利用の積極性を高めること。毎年同じように図書館の利用について働きかけていく上で、自らの課題に追われ、それが難しい状況に陥っている学生にどう対処していくか。

● 改善の方策

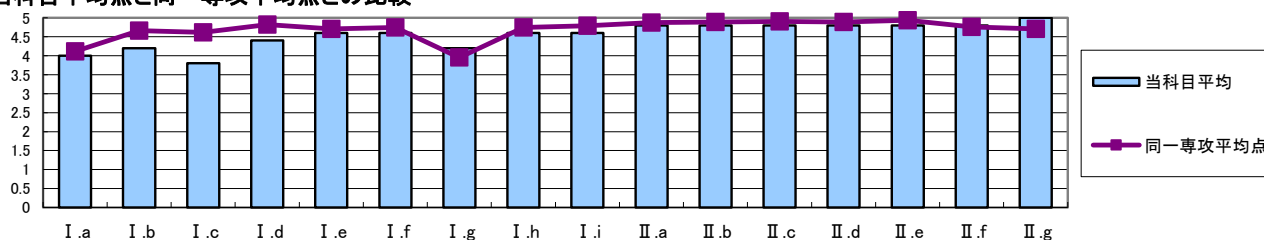
興味・関心と、知識を深めていくことは結び付くものなので、学生自身が不安に思っていることや現在何を学びたいかをしっかり受け止めること。学生によっては非常に意識が高く、専門に対する意欲が上昇していたりするので、それをサポートしながら副科へのアドバイスをすること。単純に興味・関心を広げていく場合は、専門や習慣と結び付けて副科への理解を深め、図書館の利用を呼び掛けること。こちらがある程度図書館の使い方をフォローすること等。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	講師	履修者数	6
教員名	永岡 京子			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	4.20	4.66
	c 出席は良好であった。	3.80	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.40	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.60	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.60	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.20	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.60	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.60	4.79
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.80	4.87
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.80	4.89
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.80	4.90
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.80	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.80	4.94
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.80	4.76
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、様々な専攻で様々な関心と技術傾向を持った6名の学生たちが受講した。概ね出席やレッスンに対する取り組みはとても良く、最終的には全員が学習目標に達する事ができたという意味で、非常に充足したレッスンであったように思う。レッスン前の譜読みや練習に関しては、副科実技であるため、教員側から過度な要求や無理難題を課さないようにしていた。設問Iのa、b、cなどで過小評価している学生も見受けられるが、決して少ない努力ではなかったと言える。一人の学生を除いては出席は良好で、それぞれの実力を出し切って曲を演奏できるように練習していた。出席が少し少なかった学生についても、出席できた時にはきちんと成果を見せていたし、欠席していた間に自分だけ相当練習していた様子が、演奏から伺い知る事ができた。学生個人各自で関心や目標が違うので、必ず十分に反しあい課題を設定し、それぞれに合った進度を見極めていく事を大切にしていた。それが総じて学生たちの関心の向上と、演奏の上達につながったと思う。そして喜びを持って演奏してくれた学生たちに感謝している。

● 問題点

20分という短いレッスン時間に、ある時は曲の一部のみのレッスンで終わってしまったり、学生の要求を十分に聞き出せないでいた事もあったと思う。

● 改善の方策

20分と言えども一番大切な事を次回へつなげていくために、適正な課題設定と、レッスンポイントを要約し、学生の発言発表を十分に展開させるようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

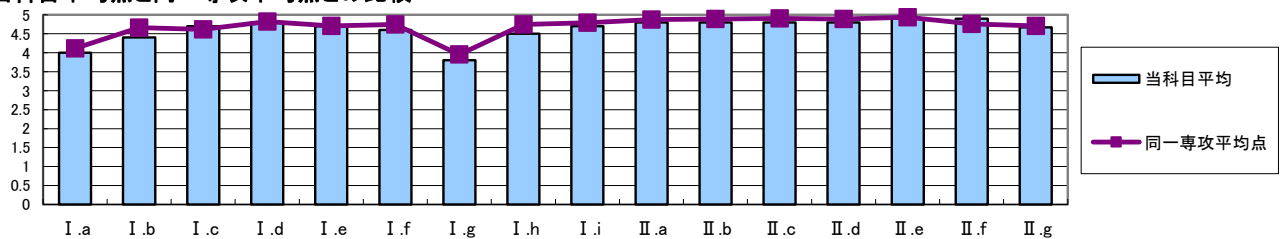
科目名	副科ピアノ
教員名	中島 剛

職名	講師
----	----

履修者数	10
回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.40	4.66
	c 出席は良好であった。	4.70	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.80	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.70	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.60	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.80	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.50	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.70	4.79
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.80
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		4.80	4.89
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		4.80	4.90
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		4.80	4.89
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		4.90	4.94
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		4.90	4.76
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		4.67	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2018年度、大学副科ピアノ十名を担当しました。新たに留学生二名加わり意思疎通が出来るか不安でしたが、すぐにとけ込み充実した一年を送る事が出来ました。大変熱心で基礎的な部分も取り入れてレッスンに臨みました。

● 問題点

基本生徒の好きな曲目を弾かせるのですが、中々曲がまとまらない傾向が見られました。譜読みという作業をもっときめ細かく丁寧に見てもらえるよう根気強さを身につけて欲しいと思いました。

● 改善の方策

今年度からは生徒とよく話し合っ、なるべく僕から生徒にあった曲を選曲するよう心がけていきたいと思います。図書館の利用も積極的に促していきたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

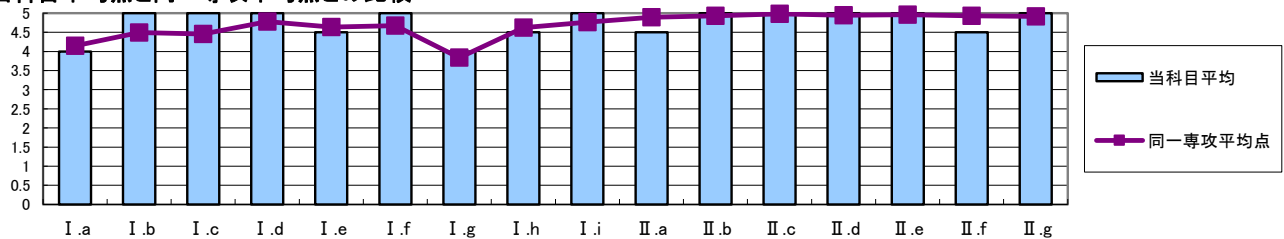
科目名	ピアノ
教員名	久邇 之宜

職名	特任教授
----	------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.49
	c 出席は良好であった。	5.00	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.50	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.50	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



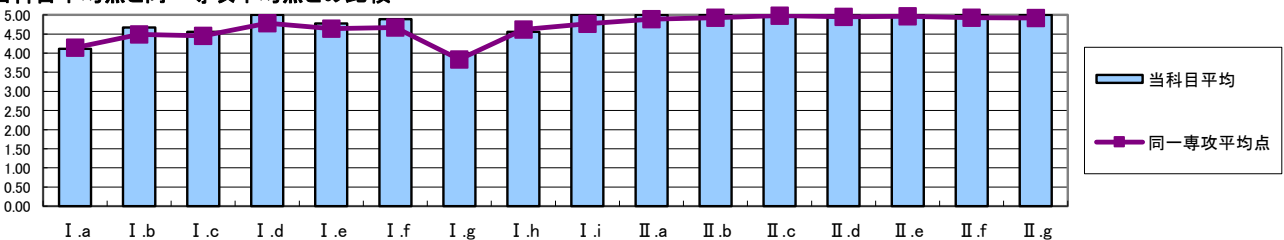
科目名	ピアノ
教員名	小林 律子

職名	准教授
----	-----

履修者数	9
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.11	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.67	4.49
	c 出席は良好であった。	4.56	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.78	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.89	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.56	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

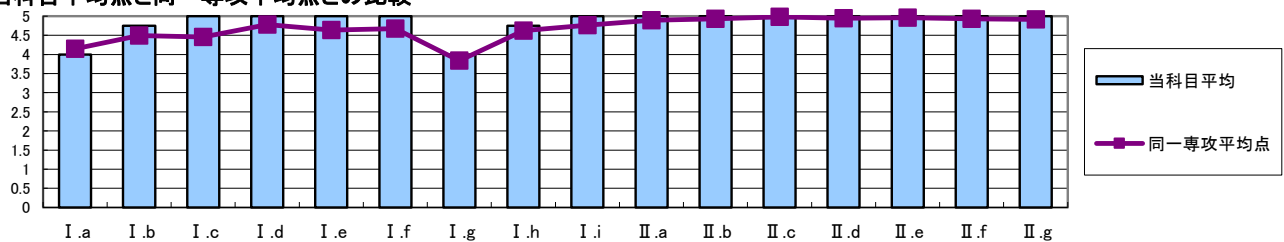
科目名	ピアノ
教員名	浦川 玲子

職名	専任講師
----	------

履修者数	6
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.15
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.75	4.49
	c 出席は良好であった。	5.00	4.45
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.64
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.84
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.75	4.62
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.76
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.93
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.98
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.96
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



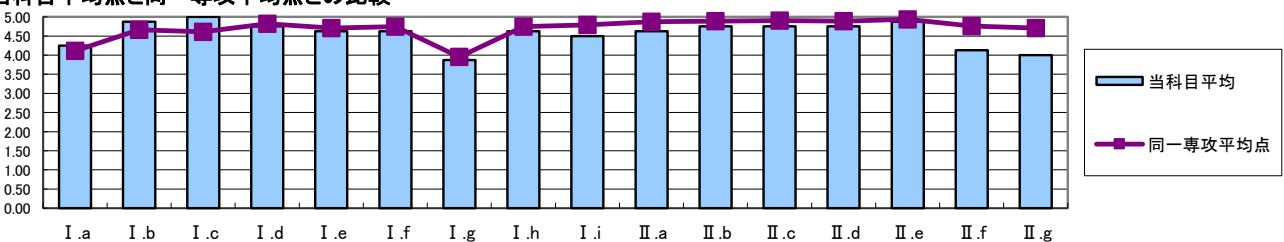
科目名	副科ピアノ
教員名	久邇 之宜

職名	特任教授
----	------

履修者数	8
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.25	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.88	4.66
	c 出席は良好であった。	5.00	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.75	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.63	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.63	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.88	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.63	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.50	4.79
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.63	4.87
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.75	4.89
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.75	4.90
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.75	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.88	4.94
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.13	4.76
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

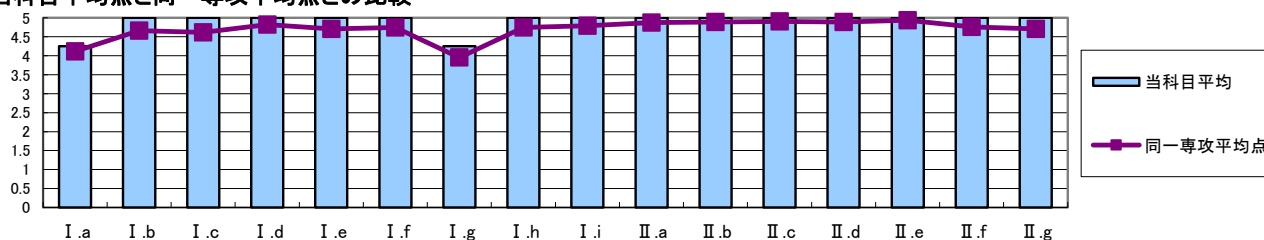
科目名	副科ピアノ
教員名	浦川 玲子

職名	専任講師
----	------

履修者数	6
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分にレッスンに臨んでいた。	4.25	4.11
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.66
	c 出席は良好であった。	5.00	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.71
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.74
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.25	3.95
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.79
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.87
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.89
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.90
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.94
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.76
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.71

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



声 楽

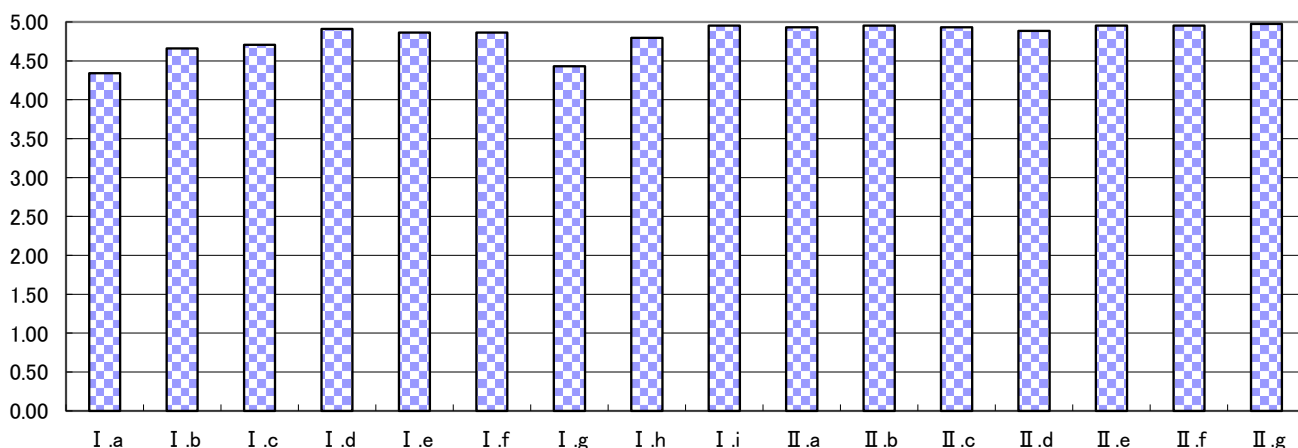
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	声楽
科目数	11

履修者数	56
回答者数	44

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.34	21	18	4	1	0	44	0
			47.7	40.9	9.1	2.3	0.0		
	b	4.66	34	6	3	1	0	44	0
			77.3	13.6	6.8	2.3	0.0		
	c	4.70	34	8	1	1	0	44	0
			77.3	18.2	2.3	2.3	0.0		
	d	4.91	40	4	0	0	0	44	0
			90.9	9.1	0.0	0.0	0.0		
	e	4.86	38	6	0	0	0	44	0
	86.4		13.6	0.0	0.0	0.0			
f	4.86	38	6	0	0	0	44	0	
		86.4	13.6	0.0	0.0	0.0			
g	4.43	27	11	4	2	0	44	0	
		61.4	25.0	9.1	4.5	0.0			
h	4.80	36	7	1	0	0	44	0	
		81.8	15.9	2.3	0.0	0.0			
i	4.95	42	2	0	0	0	44	0	
		95.5	4.5	0.0	0.0	0.0			
II	a	4.93	41	3	0	0	0	44	0
			93.2	6.8	0.0	0.0	0.0		
	b	4.95	42	2	0	0	0	44	0
			95.5	4.5	0.0	0.0	0.0		
	c	4.93	41	3	0	0	0	44	0
			93.2	6.8	0.0	0.0	0.0		
	d	4.89	39	5	0	0	0	44	0
	88.6		11.4	0.0	0.0	0.0			
e	4.95	42	2	0	0	0	44	0	
		95.5	4.5	0.0	0.0	0.0			
f	4.95	42	2	0	0	0	44	0	
		95.5	4.5	0.0	0.0	0.0			
g	4.97	37	1	0	0	0	38	6	
		97.4	2.6	0.0	0.0	0.0			

声楽 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

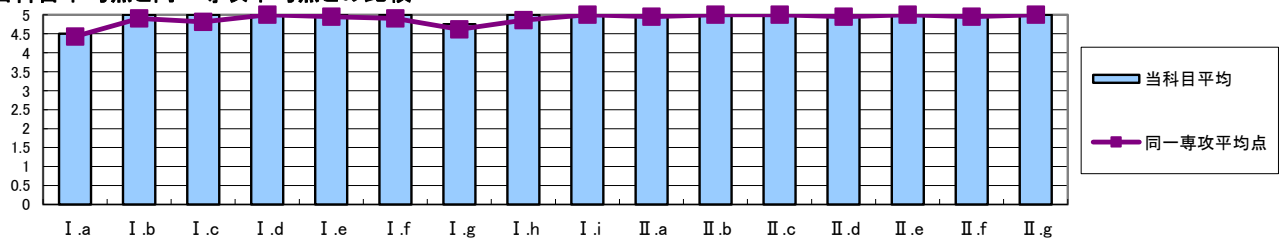
科目名	声楽
教員名	山崎 明美

職名	教授
----	----

履修者数	6
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分にレッスンに臨んでいた。	4.50	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.90
	c 出席は良好であった。	5.00	4.81
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.95
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.90
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.75	4.62
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.86
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.95
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.95
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学において専攻声楽の学生6人を担当している。アンケートは、アンケート実施時期に欠席であった者、2名を除く4人から提出された。声楽実技は個人レッスンの形式で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されるという形式で進められる。専攻声楽におけるレッスン目的は、1. 声楽技術の習得…呼吸法、レガート唱法の習得、滑らかな声区転換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど。2. 更にそれらを向上させること。3. 言葉への十分な取り組みを行うこと。…語学としての基礎知識を習得することは勿論、正確で美しい発音、内容を正しく把握する、想像力を持って表現するなどである。4. 曲の背景を理解すること…作曲家について、その時代背景、音楽背景、ほかの作品との比較、またテキストとなっている詩への深い理解、詩人のことなどである。また、オペラ、歌曲、宗教曲などのそれぞれの分野の基礎となるレパートリーの学習を4年間に学んでいくことを柱としている。実技は個人個人の特性があり、その特性をいかに伸ばし、充実させていくかが要となる。前期、後期それぞれに実技試験があり、試験はそれぞれ課題が設けられている。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、それぞれ他の授業に差しさわりのない時間を確保する。1年生2名、2年生1名、3年生2名、4年生1名を担当している。アンケートは、本人の受講についての設問9項目、教員の授業の進め方についての設問7項目よりなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。アンケート結果は、I—a「譜読みや練習を十分にした」4. 5であり、そのほかの項目については5点であった。

● 問題点

このアンケートから、教員と学生の信頼関係が結ばれていることが確認できたことは喜ばしい。回答者4名のアンケートであることを考慮に入れつつ問題点を抽出してみると、I—a「譜読みや練習を十分にした」において積極的肯定が2名に留まり、消極的肯定が2名となった点であろうか。

● 改善の方策

実技レッスンにおいては、譜読みをはじめとして、練習時間の確保はスポーツ選手のように不可欠である。しかも練習場所の問題もある。学生によっては、もっと練習したいと思いつつ、通学時間や他の勉強の時間により難しい場合もあるようだ。更なる促しを図りたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

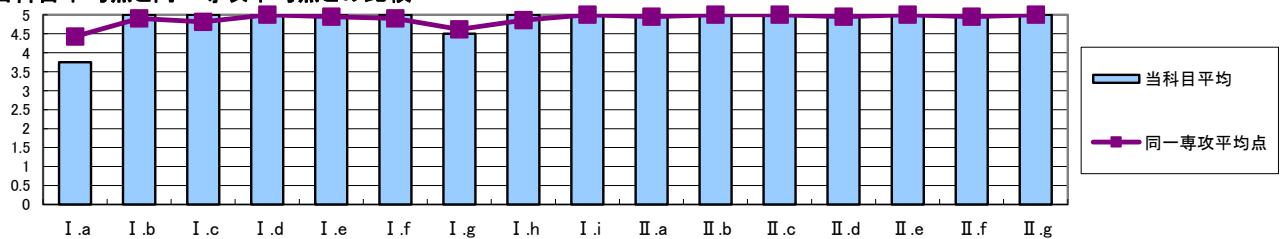
科目名	声乐
教員名	伊藤 和広

職名	准教授
----	-----

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分にレッスンに臨んでいた。	3.75	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.90
	c 出席は良好であった。	5.00	4.81
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.95
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.90
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.50	4.62
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.86
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.95
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.95
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、4年生を1名、3年生を1名、2年生を2名の計4名を担当しました。アンケートには4名全員が回答しました。今年度の4名は全員が大変意欲的で欠席もなく、レッスン態度に関しても模範的な学生ばかりでした。その為、一年間の学習成果は大変高かったと考察します。アンケートの集計結果を見ても、ほとんどが5.00であり、設問I aの3.75については、意識の高さによるものと思われます。以上、全体として、シラバスに提示されている科目の目的、内容は達成できたということが、今年度の状況です。

● 問題点

譜読みに関しては、厳しく指導している為、学生の自己肯定感が低下しています。

● 改善の方策

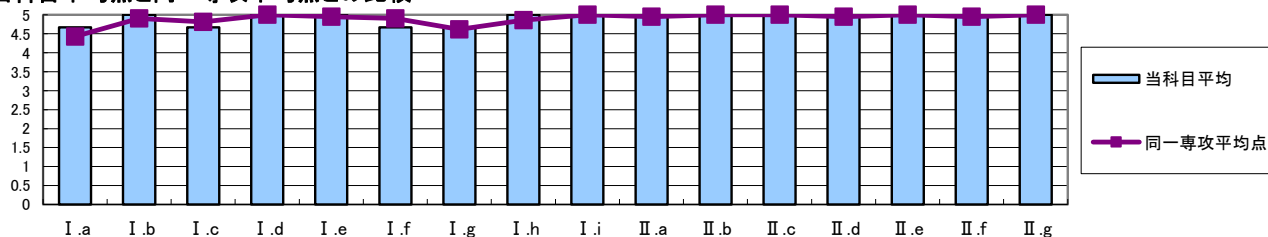
将来的に悪いことではないと考えますが、フォローをしていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	声楽	職名	専任講師	履修者数	3
教員名	岩見 真佐子			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.67	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.90
	c 出席は良好であった。	4.67	4.81
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.95
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.67	4.90
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.67	4.62
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.86
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.95
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.95
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本年度のシラバスに基づき各学年の専攻実技レッスンを実施。前後期のレッスン開講期間に担当曜日に、学生に応じて、オフィスアワー・昼休み・補講を最大活用した。個々の履修状況、生活事情に応じてレッスン回数を配慮。各回学生の自修状況・理解度を確認しながら専攻、副科共に普く開講。声楽専攻生、副科声楽、教職特設専攻生、Konzertfach（演奏専攻）生合わせて17名の個人声楽レッスンを実施。アンケート実施にあたっては、調査期間に履修学生に同じ条件で実施されたことを報告いたします。

● 問題点

昨年度からの改善点、学生自身の図書館利用値が上がるように留意。事前レッスン準備と復習の時間の充実化がGPAに反映することをふまえて指導のポイントにした。学生自身の「習熟達成度と目標設定」に大きな差がみられ、自分の意欲と必要な学修に対して楽観的な傾向があるので、作品へのアプローチの深さ、演奏完成度の意識を高める演奏実践（研究公開発表会）を前後期に開催。自らの気づきで意欲的な図書館利用となるように促して指導を進めた。専門的な発生指導では、自然にリラックスして体得できるよう基礎教材の反復を中心に実施。副科履修生については、個々の学生に時間的な条件の制限がある中で、グループレッスンの形態を取らずにアカデミックスケールに準じて、個人レッスンで開講することができたが、時間的な不足分は回数で補充して実施した。積極的な補講希望については、時間的に前後学生の授業も考慮して、本年度の対応を控えた。

● 改善の方策

声楽的な潜在能力を引き出して育ててゆく教育と、履修進級に関わる諸条件を満たす「専攻力」の育成、この両輪がアンケート数値に表れていることに留意したい。心身共に健全な学生生活の基盤に留意し、教務学生担当をはじめ、学生相談室との連携をはかり、細やかな個人対応を継続。また音楽の感性や表現力、豊かな感性を伸びやかに生かす心身のしなやかさ、を重視した前後期二回の研究発表会が、大きな経験になっている。レッスンの再現に留まらず自らの力で理想の声、響きを実現してゆく長期的な学びで聴く耳、目標達成の共感共有を発展的な学びへの繋げてゆくことは有効である。そのために、そのためにも個々の成長に相応しい教材を取り上げ「作品に対する総合的な気づき」を共有し尊重してゆくことが大切と思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

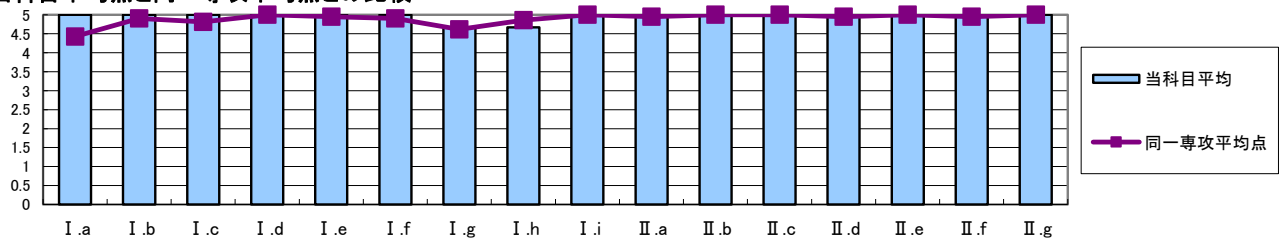
科目名	声楽
教員名	武藤 直美

職名	専任講師
----	------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.90
	c 出席は良好であった。	5.00	4.81
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.95
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.90
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.67	4.62
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.67	4.86
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.95
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.95
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

3名の受講者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。受講生は積極的にレッスンに臨んでおり、声楽に必要な外国言語及び楽曲分析を的確に実施しており、技術の向上がみられました。また、3名中2名が3年生、1名が4年生であり、学内演奏会や卒業試験と昨年に比べ演奏曲数が増えておりながら、きちんと準備ができていたようにおもわれました。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題点はないと思われます。

● 改善の方策

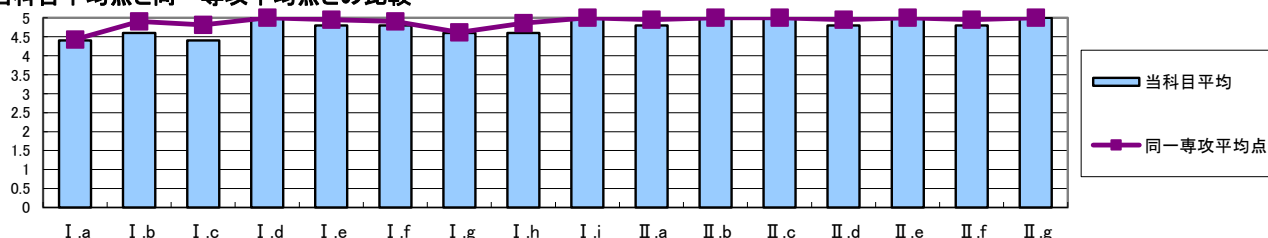
次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本とし、受講生の更なる技術の向上を目的とし、また、9月には留学生の受講生のレッスンを担当するにあたり、スムーズな指導が行われますよう、準備にあたる所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	声楽	職名	講師	履修者数	5
教員名	大島 洋子			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.40	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行ってた。	4.60	4.90
	c 出席は良好であった。	4.40	4.81
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.80	4.95
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.80	4.90
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.60	4.62
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.60	4.86
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.80	4.95
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.80	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.80	4.95
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

内訳は1年生1名。2年生2名(うち1名は演奏専攻)。3年生1名。4年生1名です。5人共に木曜日川越校舎でのレッスンです。30年度については4学年共に楽譜を見る事についての問題がなく、基本的にレッスンはスムーズに捗りました。自宅や学校のレッスン室を借りての稽古と図書館等利用による学習をするしないは個々のこれまでの学習方法また性格にもよりますが、、、やはり時間を掛けて努力を重ねて行けばそこには差が出ますし、個々の技術向上や演奏における表現の幅や音が広がりをもち良い演奏に繋がってきます。レッスンで学んだ事が次回のレッスンには振り出しに戻り、同じ事の繰り返しをする学生もおります。その様な学生には出来ない事を指摘するより今出来ている箇所を褒め、それを土台にもう一歩の努力を勧めています。

● 問題点

● 改善の方策

学生全員を勉強する事が好きと言う気持ちに向けて行くのは難しいですが、個々の個性を尊重する事により自分に自信が持てれば前向きになれる事も有ります。まずは学生の話を聞く。これを実践して腹を割って話せる関係を持ち、個々の個性に添ってスムーズに学習出来る道を作って行く事で学生に少しでも自主性が出て来ればそれを後押しして行きたいと思ひます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

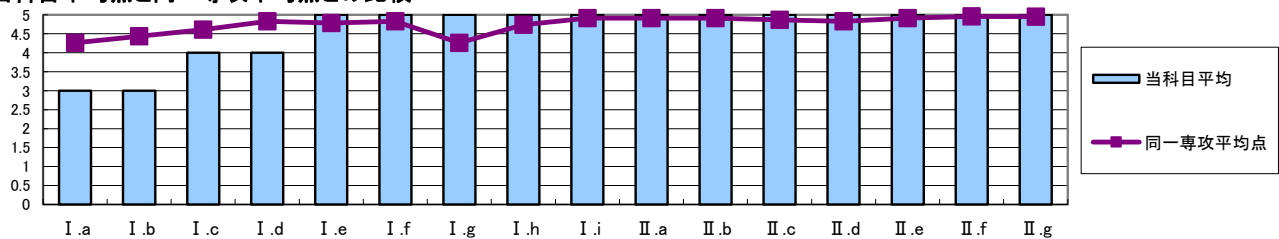
科目名	副科声楽
教員名	山崎 明美

職名	教授
----	----

履修者数	3
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分にレッスンに臨んでいた。	3.00	4.26
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	3.00	4.43
	c 出席は良好であった。	4.00	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.00	4.83
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.83
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.26
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.91
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.91
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.87
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.83
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.96
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.95

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

声楽以外の主専攻を持つ学生に副科として設定されている。自らの体が楽器である認識を持ち、基本的な呼吸法の体得、発声法の理解と実践を身に付けることを目的としている。呼吸法や、言葉を伴うことで理解できるフレーズの作り方など主専攻の学びにも通ずることを考えつつ指導している。今年度は副科声楽Ⅰが4名、副科声楽Ⅱが2名の受講である。アンケート期間実習や体調不良により欠席が3名であり、アンケートは3人から提出された。この授業は、個人レッスン形式で行われる。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、それぞれ他の授業に差しさわりのない時間を確保する。レッスンに関しては、それぞれの専攻を生かす形で進めることを心掛けている。また、教職科目を履修している学生に関しては、声楽指導、日本語の歌い方など指導に役立つように課題を設定している。アンケートは、本人の受講についての設問9項目、教員の授業の進め方についての設問7項目よりなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。アンケート結果は、Ⅰ-a「譜読みや練習を十分にした」3.33、Ⅰ-g「図書館の利用」3.00、そのほかの項目については4点台であった。3名のうち2名の自由記述があったが、いずれも授業に対する肯定的な意見であり、声楽を楽しむ技術を磨くことは伝えられたと感じる。

● 問題点

授業準備に関しては自己評価が低く、図書館はほぼ利用せず、受講に関する評価が低くなった点である。

● 改善の方策

結果的にアンケートに答えた3名は肯定的な授業評価であった。声楽は歌うという技術のみならず、話し声を多用する場合にも呼吸、声の保ち方、響かせ方など身に付ける技術と知って応用の幅が大きいということを学生にアナウンスしながら、声楽の楽しさ、様々な内容を伝えることで改善を図りたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

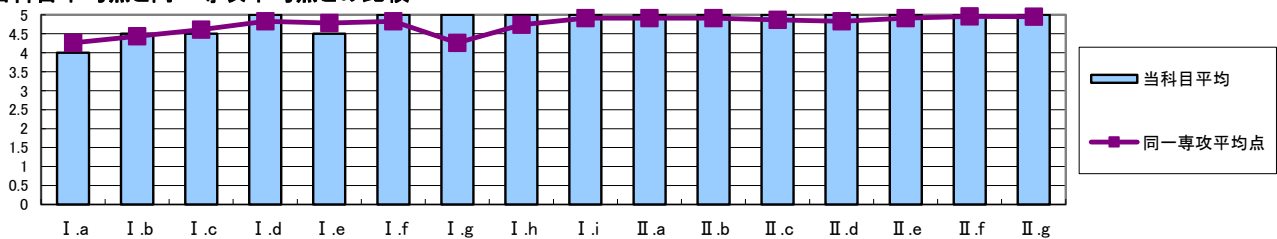
科目名	副科声楽
教員名	伊藤 和広

職名	准教授
----	-----

履修者数	4
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.26
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.50	4.43
	c 出席は良好であった。	4.50	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.83
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.83
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.26
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.91
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.91
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.87
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.83
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.96
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.95

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、4名を担当しましたが、2名が履修を中止しましたので、アンケートには、実際に一年間受講した2名が回答しました。集計結果を見ますと、副科としては充分であると考察します。以上、シラバスも提示されている科目の目的・内容は、ある程度達成できたということが今年度の状況です。

● 問題点

声楽の譜読みに関して、やや積極性に欠けるように思われます。

● 改善の方策

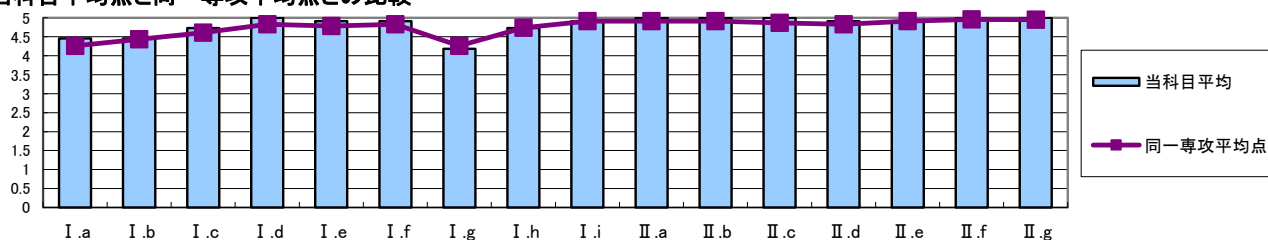
積極性が高まるよう、具体例等を示します。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科声楽	職名	専任講師	履修者数	14
教員名	岩見 真佐子			回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.45	4.26
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.45	4.43
	c 出席は良好であった。	4.73	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.83
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.91	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.91	4.83
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.18	4.26
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.73	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.91	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.91
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.91
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.87
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.91	4.83
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.91	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.96
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.95

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本年度のシラバスに基づき各学年の専攻実技レッスンを実施。前後期のレッスン開講期間の担当曜日に、学生に応じて、オフィスアワー・昼休み・補講を最大限活用した。個々の履修状況、生活事情に応じてレッスン回数を配慮。各回の学生の自修状況・理解度を確認しながら専攻、副科ともに普く開講。声楽専攻生、副科声楽、教職特設専攻生、Konzertfach (演奏専攻) 生合わせて17名の声楽レッスンを実施。アンケート実施にあたっては、調査期間に履修学生に同じ条件で実施されたことを報告いたします。

● 問題点

昨年度からの改善点、学生自身の図書館利用値が上がるように留意。事前レッスン準備と復習の時間の充実化がGPAに反映することをふまえて指導のポイントにした。学生自身の「習熟達成度と目標設定」に大きな差がみられ、自分の意欲と必要な学修に対して楽観的な傾向があるので、作品へのアプローチの深さ、演奏完成度の意識を高める演奏実践 (研究公発表会) を前後期に開催。自らの気づきで意欲的な図書館利用となるように促して指導を進めた。専門的な発生指導では、自然にリラックスして体得できるよう基礎教材の反復を中心に実施。副科履修生については、個々の学生に時間的な条件の制限がある中で、グループレッスンの形態を取らずにアカデミックスケールに準じて、個人レッスンで開講することができたが、時間的な不足分は回数で補充して実施した。積極的な補講希望については、時間的に前後学生の授業も考慮して本年度は対応を控えた。

● 改善の方策

それぞれの専攻実技に反映できるように、声楽の視点から総合的なアドバイスを実施しているが、声楽的な潜在能力を引き出し育ててゆく教育と、履修進級に関わる諸条件を満たす「専攻力」の育成、この両論がアンケート数値に表れていることに留意したい。心身共に健全な学生生活の基盤に留意し、教務学生担当をはじめ、学生相談室との連携をはかり、細やかな個人対応を継続したい。レッスンの再現に留まらず自らの力で理想の声、響きを実現してゆく長期的な学びで聴く耳を育て、目標達成の共感共有を発展的な学びへの意欲に繋げてゆく必要がある。個々に合った有効な教材を作り上げ「作品に対する総合的な気づき」を共有し尊重してゆくことが大切と思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

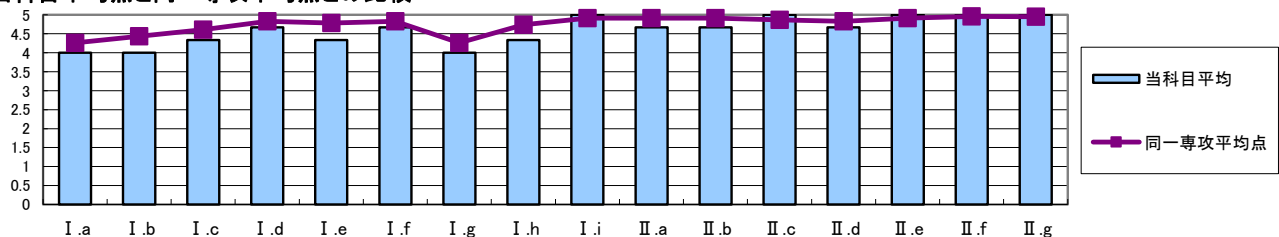
科目名	副科声楽
教員名	武藤 直美

職名	専任講師
----	------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.26
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.43
	c 出席は良好であった。	4.33	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.67	4.83
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.33	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.67	4.83
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.26
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.33	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.67	4.91
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.67	4.91
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.87
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.83
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.96
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.95

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

副科声楽受講者はピアノ専攻3名、音楽療法専攻1名で一人20分の個人レッスンを行いました。今回は3名の受講生が設問に回答いたしました。声楽は身体が楽器であるという認識のもとに、受講一年目の学生はイタリア古典歌曲を、二年目の学生は実習等に役に立つ日本歌曲他、外国歌曲を教材に用いてレッスンを行いました。すべての受講生はレッスンを受けるごとに成果が上がってきたと思料いたします。アンケートの回答については、すべて「4」または「5」でした。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題点はないと思われます。

● 改善の方策

積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでくれていたことから、次年度も個々のレベルに合わせた指導をしていく所存です。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

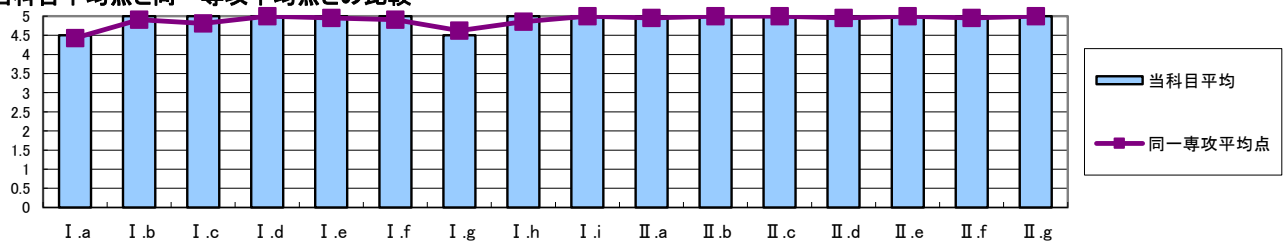
科目名	声楽
教員名	片岡 啓子

職名	特任教授
----	------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.50	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.90
	c 出席は良好であった。	5.00	4.81
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.95
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.90
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.50	4.62
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.86
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.95
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.95
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.95
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



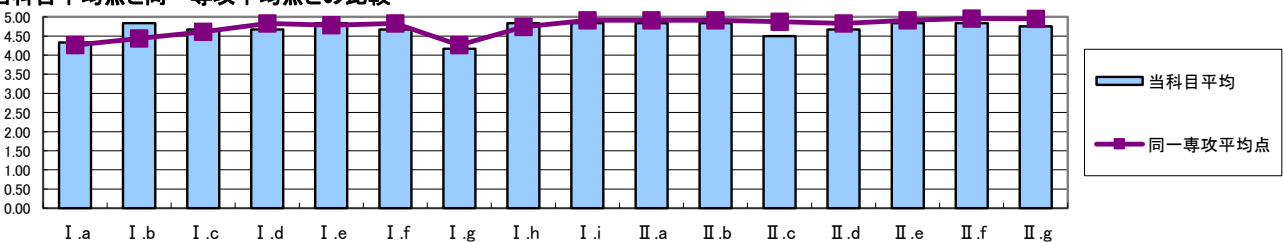
科目名	副科声楽
教員名	片岡 啓子

職名	特任教授
----	------

履修者数	7
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.33	4.26
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.83	4.43
	c 出席は良好であった。	4.67	4.61
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.67	4.83
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.83	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.67	4.83
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.17	4.26
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.83	4.74
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.83	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.83	4.91
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.83	4.91
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.50	4.87
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.83
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.83	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.83	4.96
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.75	4.95

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



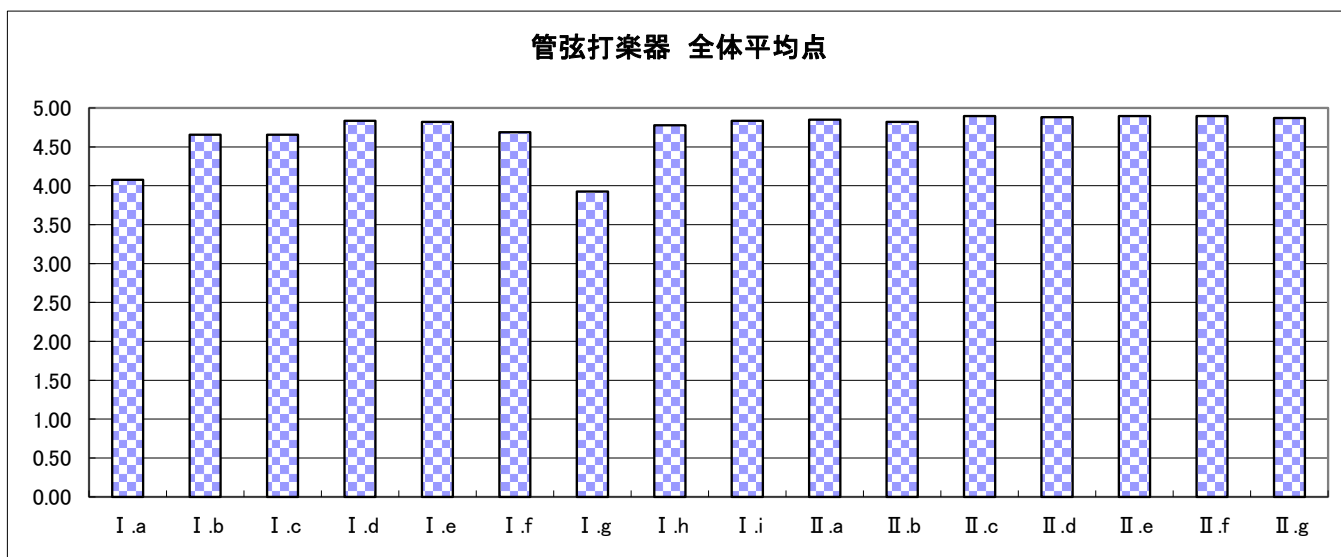
管弦打樂器

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	管弦打楽器
科目数	24

履修者数	77
回答者数	67

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.07	21	32	12	2	0	67	0
			31.3	47.8	17.9	3.0	0.0		
	b	4.66	50	11	6	0	0	67	0
			74.6	16.4	9.0	0.0	0.0		
	c	4.66	50	12	4	1	0	67	0
			74.6	17.9	6.0	1.5	0.0		
	d	4.84	58	8	0	1	0	67	0
			86.6	11.9	0.0	1.5	0.0		
	e	4.82	57	8	2	0	0	67	0
	85.1		11.9	3.0	0.0	0.0			
f	4.69	49	15	3	0	0	67	0	
		73.1	22.4	4.5	0.0	0.0			
g	3.93	27	14	21	4	1	67	0	
		40.3	20.9	31.3	6.0	1.5			
h	4.78	54	11	2	0	0	67	0	
		80.6	16.4	3.0	0.0	0.0			
i	4.84	59	6	1	1	0	67	0	
		88.1	9.0	1.5	1.5	0.0			
II	a	4.85	59	7	0	1	0	67	0
			88.1	10.4	0.0	1.5	0.0		
	b	4.82	59	5	2	1	0	67	0
			88.1	7.5	3.0	1.5	0.0		
	c	4.90	61	5	1	0	0	67	0
			91.0	7.5	1.5	0.0	0.0		
	d	4.88	61	5	0	1	0	67	0
	91.0		7.5	0.0	1.5	0.0			
e	4.90	62	4	0	1	0	67	0	
		92.5	6.0	0.0	1.5	0.0			
f	4.90	60	7	0	0	0	67	0	
		89.6	10.4	0.0	0.0	0.0			
g	4.87	34	5	0	0	0	39	28	
		87.2	12.8	0.0	0.0	0.0			

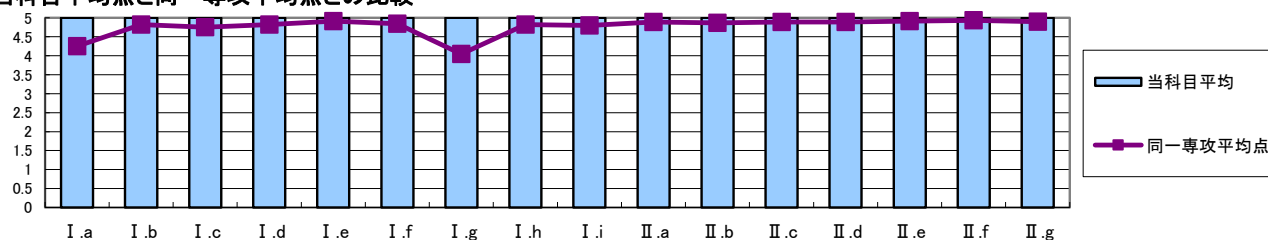


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	管弦打	職名	教授	履修者数	1
教員名	天満 敦子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	5.00	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.80
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		5.00	4.86
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		5.00	4.89
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		5.00	4.89
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		5.00	4.91
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		5.00	4.93
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学院生、学部生、短大生、皆努力が顕著で頼もしいです。在学中に多くのことを学んでもらい、卒業後、演奏家として自立を目指します。

● 問題点

教員と学生と集中関係を目指します。

● 改善の方策

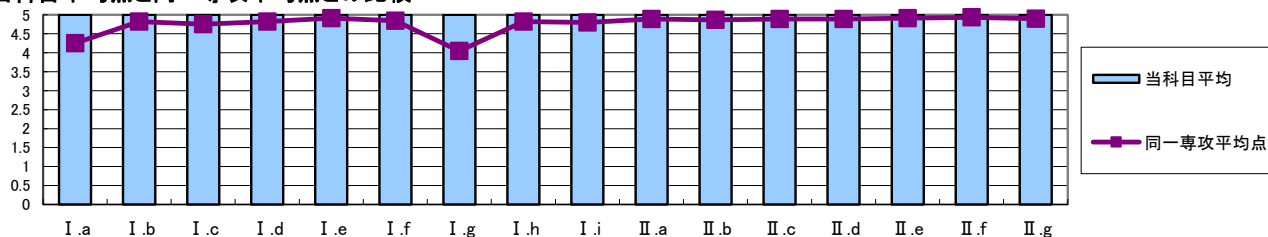
今まで通り、努力していきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	管弦打	職名	准教授	履修者数	1
教員名	岩間 文正			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	5.00	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は担当学生1名であった。アンケート結果を見る限りでは、回答は5のみで、担当学生との関係、レッスンに対する理解度は概ね良好と思われる。特に設問IIの結果からは学生に対して不利益を与えたり、不信感を持たれたりすることは考えにくい。今年度は自由記述欄に記載はなかった。

● 問題点

教員から盗んで覚えるという芸術本来の学び方を教えるのは不可能になってきた。教員は全てを教えてくれるものだと考えている学生が多くなってきた。教員は小中学生に教えるように噛み砕いて教えないとならない。こちらの指導法を変える必要がある。学生数減少によるオーケストラ、ウィンドオーケストラ授業への参加、コンサート出演が増え、学生の能力によっては合奏で手いっぱいになり、専攻実技の練習量が減ってしまう。必然的に進度も落ちる。

● 改善の方策

進度の著しく遅い学生に対し、昨年度から実行している、子どもに教えるような指導法を継続しているため、質問等、学生が言葉を選ばず多くコミュニケーションをとりやすくなった。これを上手く利用すれば一方通行型のレッスンから双方向型のレッスンに改善出来ると思われる。学生自身もレッスンに対する重圧は少ないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

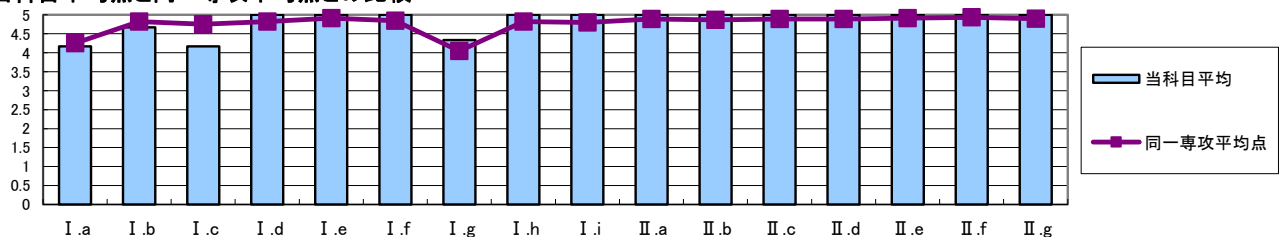
科目名	管弦打
教員名	安藤 芳広

職名	特任准教授
----	-------

履修者数	7
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.17	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.67	4.82
	c 出席は良好であった。	4.17	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2018年度についてもレッスン内容や取り組み姿勢について、例年と同様にある程度の満足が許される評価を得られたことを素直に喜びたいと思う。当然のことながら、今後も「的確な」指導を継続できるよう努力したい。学生たちの「意欲的にレッスンに取り組めたか否か」についての自覚が、アンケートの回答から違和感なく読み取れる点にある種の安堵を伴う好感をもつことができた。一方でその取り組みの結果（自身の成長）に対する自己満足度については、いささか高過ぎる感が否めないのも正直なところなので、自己をより「客観的」に捉えられる視点の育成について一層留意しつつ、さらに「意欲をかき立てられる」レッスンを目指したい。レッスンのスケジューリングについては、その機会を有効に使いきってほしいという思いから、これまで基本的に学生たちに託すスタイルをとってきたが、その意図がさらに浸透を深めつつあることを実感している。

● 問題点

前項に記した通り、演奏技術の向上のみならず、自身の総合的な成長に必要な「客観的視点」の育成について意識的に心がけるべきと感じるが、同時に本学の持ち味、学生たちの美点ともいえる「大らかな真面目さ」がそれぞれ相殺されないよう導きたいと強く感じるものである。

● 改善の方策

オーケストラ奏者としての活動の関係上、固定曜日でのレッスン開催とはできず、安定したスケジューリングが難しい状況にあるのも事実だが、その立場ゆえ演奏現場に近い指導が提供できるという点に思い至ってもらえるよう、内容面の充実をより心がけたい。加えて、本学の規模の小ささを「利点」として活かし、学生個々人と対峙する時間を大切に、各自の成長度合いに即したよりきめ細やかなレッスン実施を目指し、最終的に満足感のある1年だったと感じてもらえるよう、充実したレッスン=学生たちとの時間の積み重ねとなるよう努力したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

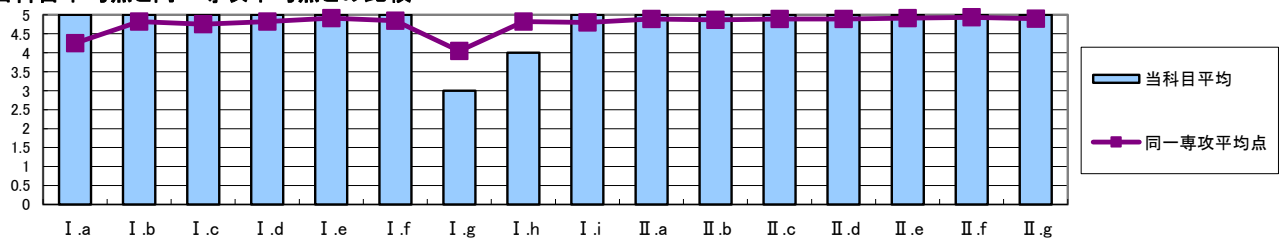
科目名	管弦打
教員名	渡辺 由美子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	5.00	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.00	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

学生は自分の学びの目的や意識をしっかりと理解し、学校内での勉強、活動はもちろん、外部のコンクールなどにも積極的に取り組んでいた。しかし、アンケート結果を見る限り、図書館等の学校施設を利用しての学習が薄れたと考える。大学での学ぶ姿勢を専攻と同じように、他の教科にも前向きに興味関心を大きく持てるように、導いてゆきたい。

● 問題点

東邦らしい学生像と学生の学習に対する成長感度や学びの実態等を、どのように関連付けて効果測定してゆくか。具体的には、楽器に対する意欲は増しているが、音楽的な知識不足を、レッスンの中でも説明する必要があると考える。

● 改善の方策

指導者が学生の音楽的または人間的成果を見守り、より良く頑張ろうとする努力を評価し勇気付ける事を第一の役割と考え、学生とのコミュニケーションを大切に、今まで以上に助言のタイミングや手法等の開発も検討してゆく必要がある。また学生の向上心を更に高められるよう、環境を整えたり、学内の施設も活用したい。技術的指導は具体的にわかりやすく行い、進歩の状況を見極め適切な助言をする事によって改善出来ると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

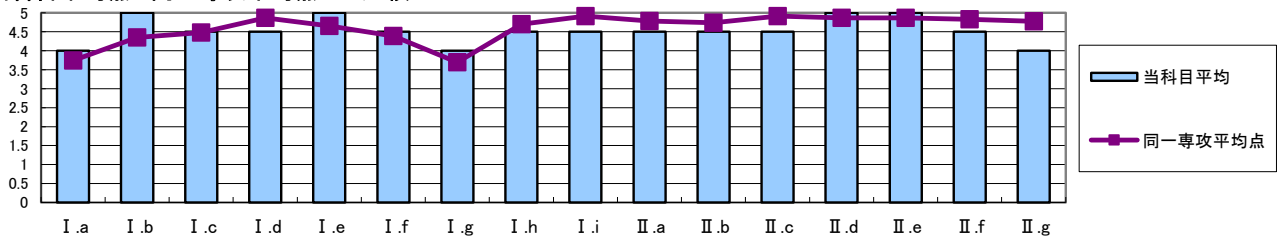
科目名	副科管弦打
教員名	岩間 丈正

職名	准教授
----	-----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	3.74
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.35
	c 出席は良好であった。	4.50	4.48
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.87
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.65
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.39
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.70
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.50	4.70
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.50	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.78
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.50	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.50	4.91
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.87
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.87
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.50	4.83
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

専攻学生同様、各学生のレベルに合った指導をしている。副科であるため高いレベルの演奏技術を求めるのではなく、楽しくフルートを吹いてもらうレッスンを心掛けている。回答はほぼ4~5に集中しているため、信頼関係も上手く築けている様である。実際に上手く吹けるようになり、試験の成績が上がり喜んでいる学生もいる。来年度フルートの室内楽を希望する学生も出た。音楽療法専攻学生は将来現場でフルートを使用することが想定されるので、演奏技術を身につけさせることは重要と考える。

● 問題点

今年度は学生の準備不足もなく概ね良好であった。

● 改善の方策

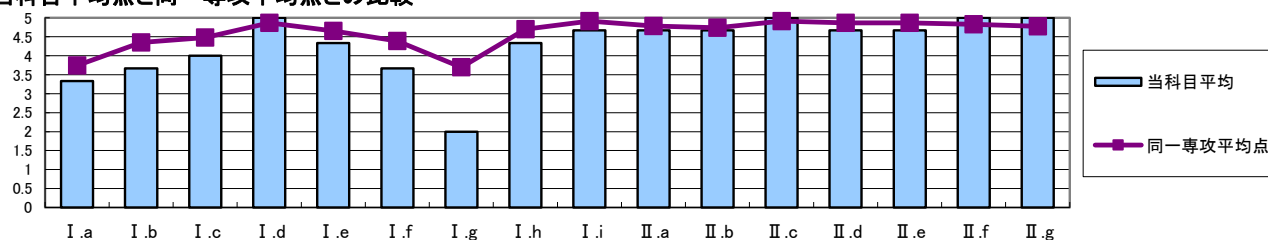
レッスン担当教員として、個人のレベルに合わせたレッスンをさらに心掛けなくてはならないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科管弦打	職名	講師	履修者数	3
教員名	中村 明子			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.33	3.74
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	3.67	4.35
	c 出席は良好であった。	4.00	4.48
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.87
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.33	4.65
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	3.67	4.39
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	2.00	3.70
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.33	4.70
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.67	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.67	4.78
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.67	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.91
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.87
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.67	4.87
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.83
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は4年生2名、2年生1名を担当しました。4年生1名は就職活動と卒業制作に追われ、もう1名は度々体調を崩す中で年度末には大学院受験準備に追われ、2名とも副科レッスンの準備は手薄でした。2年生は程々に頑張っている学生。

● 問題点

上記の理由で遅刻欠席（4年生のみ）、練習の不十分さがありました。

● 改善の方策

レッスン自体は各人の音楽的教養としての役割は果たせていたと思うので、特に大きな問題はないと思われます。4年生の2名は進路が決まり、良かったと思います！

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

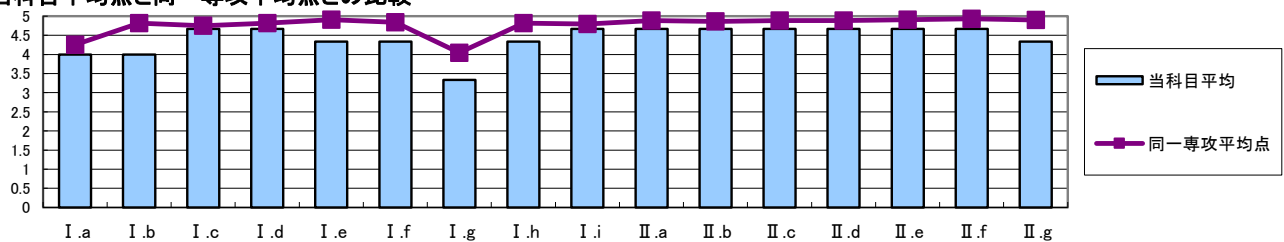
科目名	管弦打
教員名	宮野 陽子

職名	教授
----	----

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.82
	c 出席は良好であった。	4.67	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.67	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.33	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.33	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.33	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.33	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.67	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.67	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.67	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.67	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.67	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.67	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



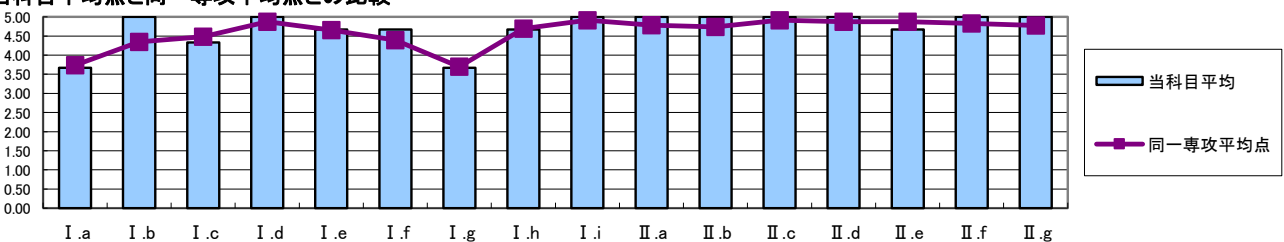
科目名	管弦打
教員名	浅野 高瑛

職名	特任教授
----	------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.67	3.74
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.35
	c 出席は良好であった。	4.33	4.48
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.87
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.67	4.65
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.67	4.39
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.67	3.70
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.67	4.70
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.78
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.91
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.87
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.67	4.87
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.83
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

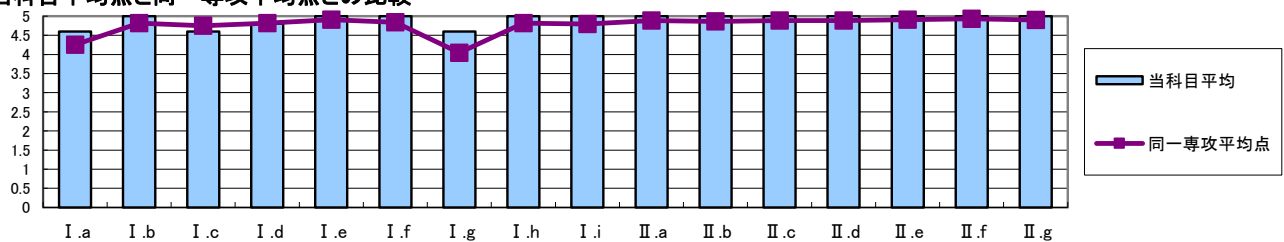
科目名	管弦打
教員名	佐々木 雄二

職名	特任教授
----	------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.60	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	4.60	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.80	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.60	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



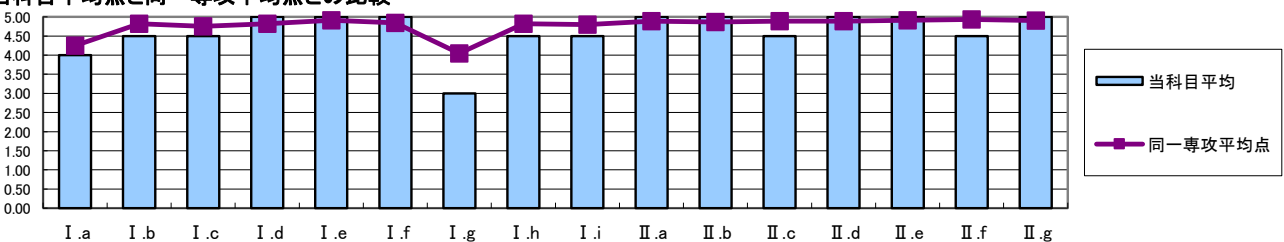
科目名	管弦打
教員名	澤 敦

職名	特任准教授
----	-------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.50	4.82
	c 出席は良好であった。	4.50	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.00	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.50	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.50	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.50	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.50	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

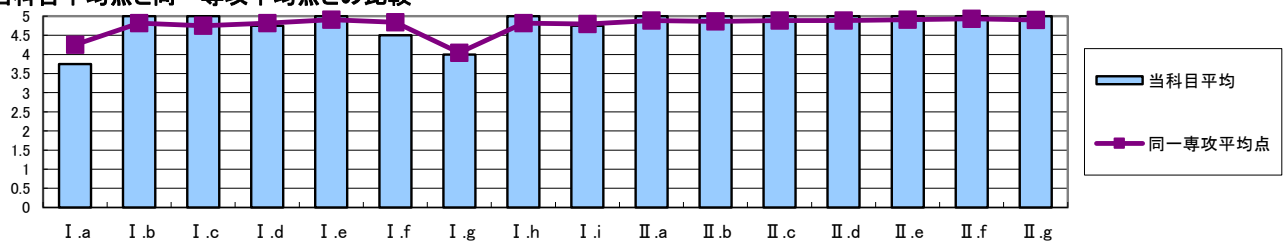
科目名	管弦打
教員名	益田 善太

職名	専任講師
----	------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.75	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	5.00	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.75	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.75	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



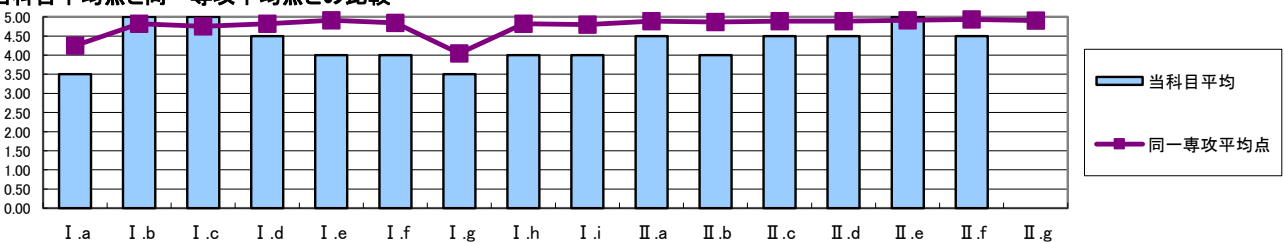
科目名	管弦打
教員名	加古 勉

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.50	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	5.00	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.50	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.00	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.50	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.50	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.50	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

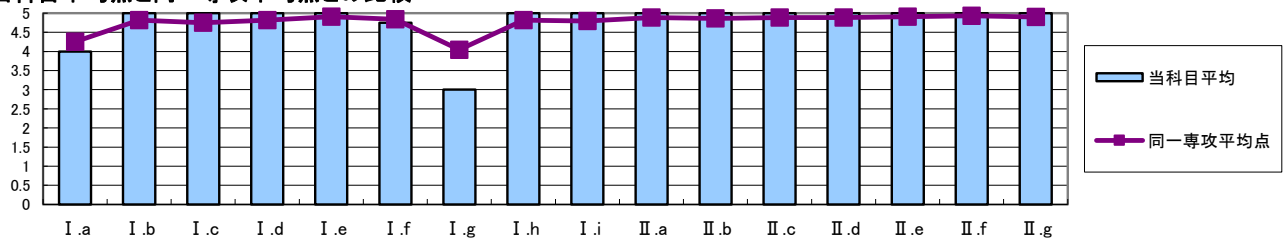
科目名	管弦打
教員名	河野 玲子

職名	講師
----	----

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	5.00	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.75	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.00	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



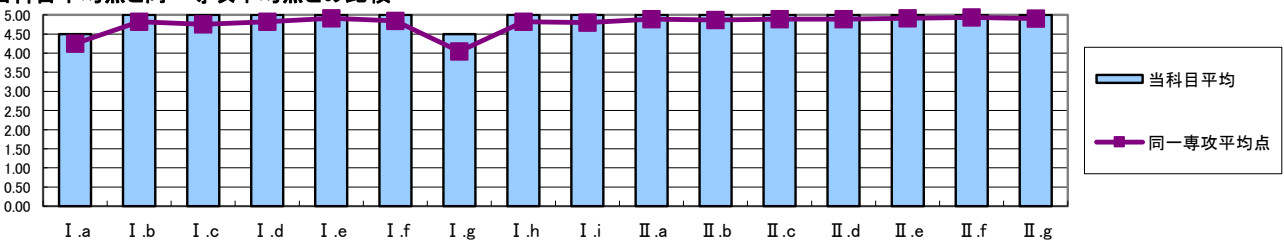
科目名	管弦打
教員名	西久保 友広

職名	講師
----	----

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.50	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	5.00	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.50	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

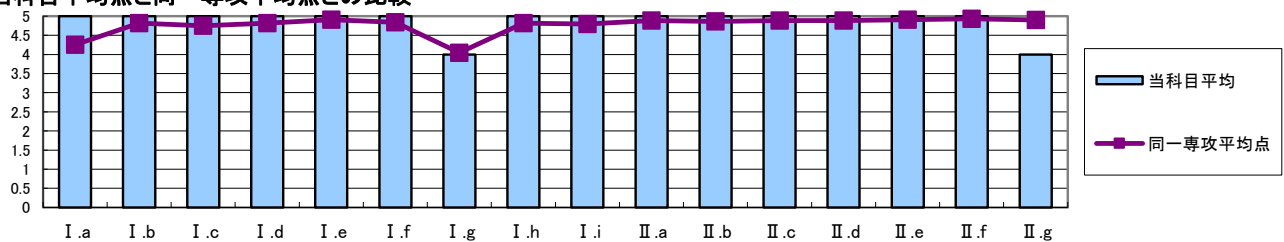
科目名	管弦打
教員名	平野 公崇

職名	講師
----	----

履修者数	3
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	5.00	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



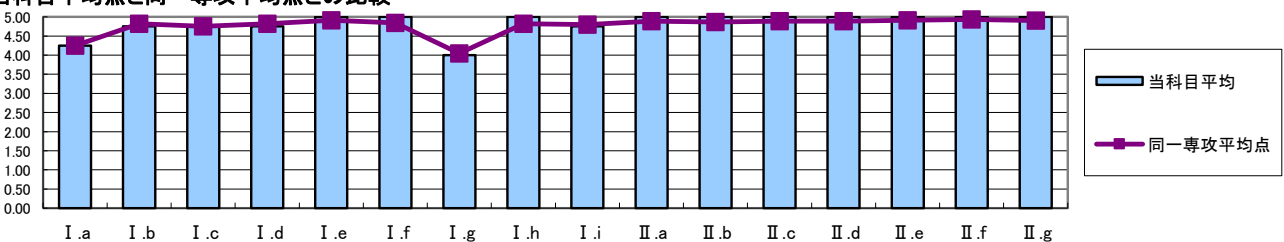
科目名	管弦打
教員名	藤井 完

職名	講師
----	----

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.25	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.75	4.82
	c 出席は良好であった。	4.75	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.75	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.75	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

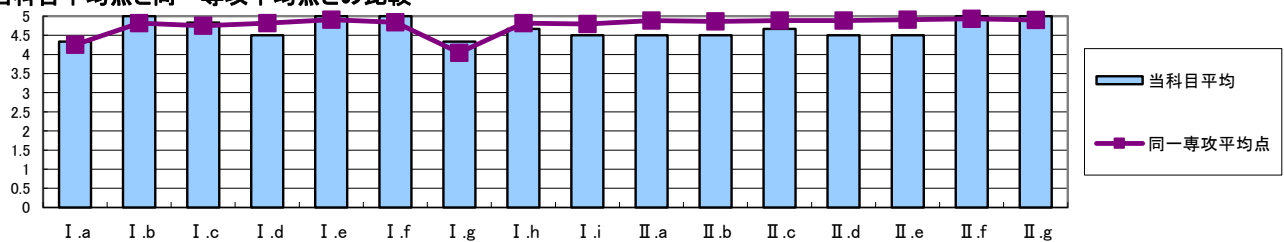
科目名	管弦打
教員名	松尾 賢一郎

職名	講師
----	----

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.33	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.82
	c 出席は良好であった。	4.83	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.67	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.50	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.50	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.67	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.50	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.50	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



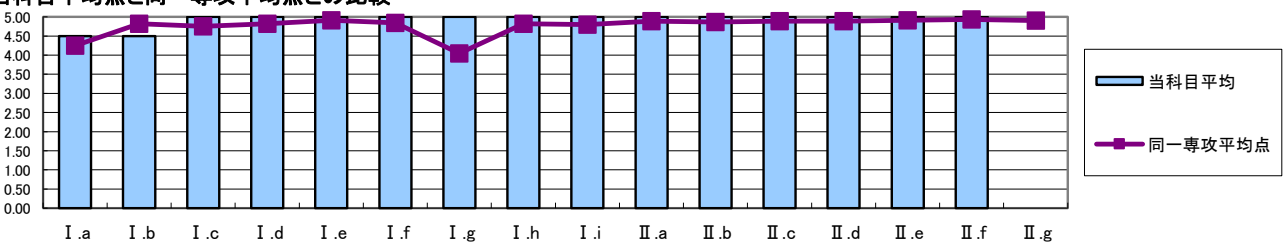
科目名	管弦打
教員名	村越 麻希子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.50	4.25
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.50	4.82
	c 出席は良好であった。	5.00	4.75
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.82
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.91
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.84
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.05
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.82
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.80
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.86
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.91
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.93
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

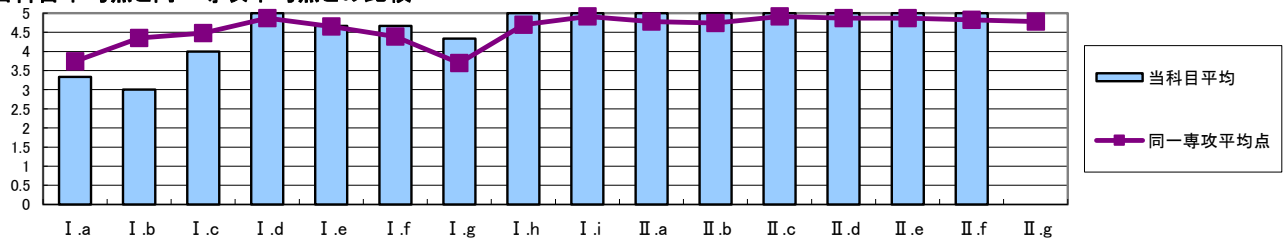
科目名	副科管弦打
教員名	宮野 陽子

職名	教授
----	----

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.33	3.74
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	3.00	4.35
	c 出席は良好であった。	4.00	4.48
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.87
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.67	4.65
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.67	4.39
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	3.70
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.70
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.78
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.91
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.87
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.87
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.83
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



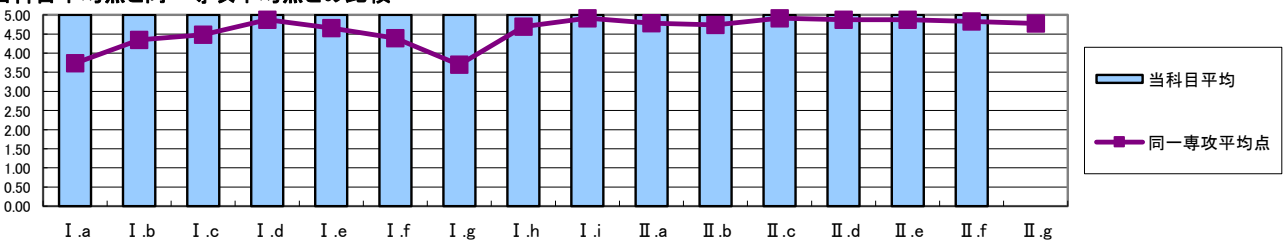
科目名	副科管弦打
教員名	白井 英治

職名	特任教授
----	------

履修者数	5
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	3.74
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.35
	c 出席は良好であった。	5.00	4.48
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.87
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.65
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.39
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	3.70
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.70
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.78
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.91
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.87
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.87
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.83
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

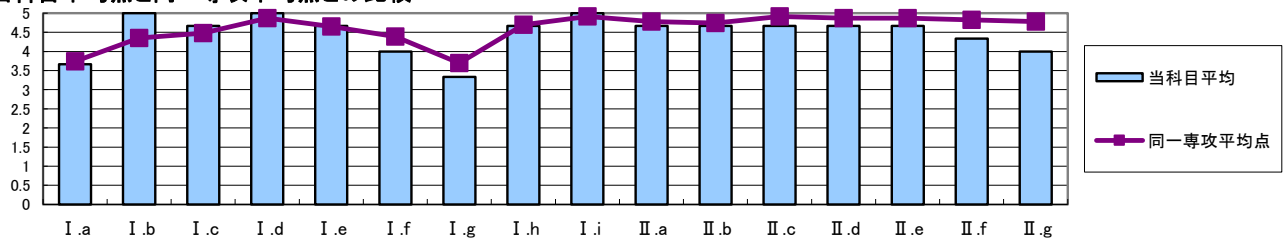
科目名	副科管弦打
教員名	益田 善太

職名	専任講師
----	------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.67	3.74
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.35
	c 出席は良好であった。	4.67	4.48
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.87
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.67	4.65
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.39
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.33	3.70
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.67	4.70
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.67	4.78
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.67	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.67	4.91
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.87
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.67	4.87
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.33	4.83
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



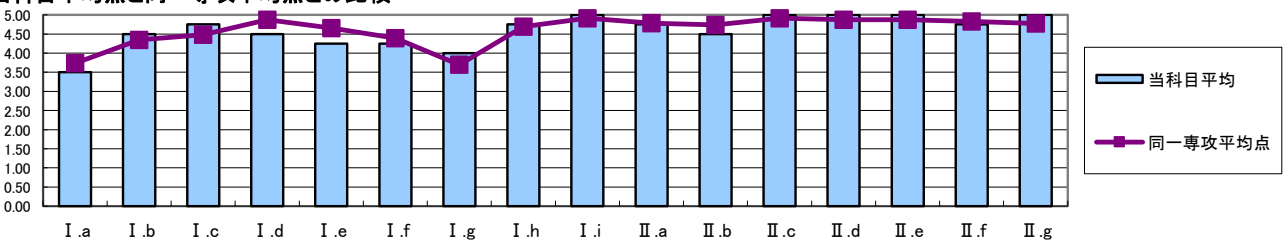
科目名	副科管弦打
教員名	香月 圭佑

職名	講師
----	----

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.50	3.74
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.50	4.35
	c 出席は良好であった。	4.75	4.48
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.87
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.25	4.65
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.25	4.39
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.70
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.75	4.70
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.75	4.78
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.50	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.91
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.87
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.87
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.75	4.83
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

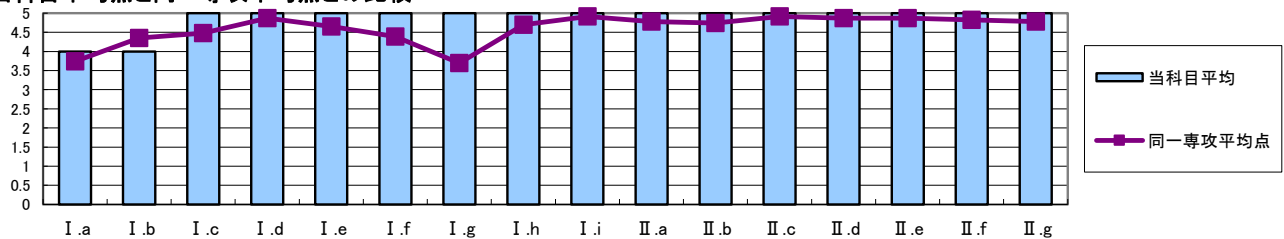
科目名	副科管弦打
教員名	松尾 賢一郎

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	3.74
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.35
	c 出席は良好であった。	5.00	4.48
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.87
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.65
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.39
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	3.70
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.70
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.78
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.91
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.87
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.87
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.83
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



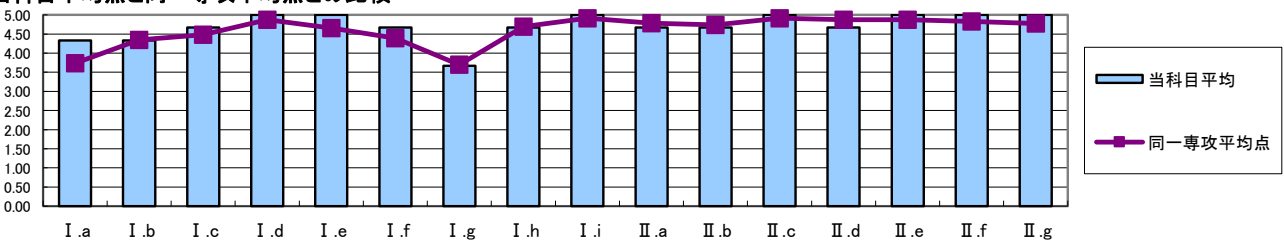
科目名	副科管弦打
教員名	村越 麻希子

職名	講師
----	----

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.33	3.74
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.33	4.35
	c 出席は良好であった。	4.67	4.48
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.87
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.65
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.67	4.39
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.67	3.70
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.67	4.70
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.91
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.67	4.78
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.67	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.91
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.87
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.87
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.83
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



音樂創造

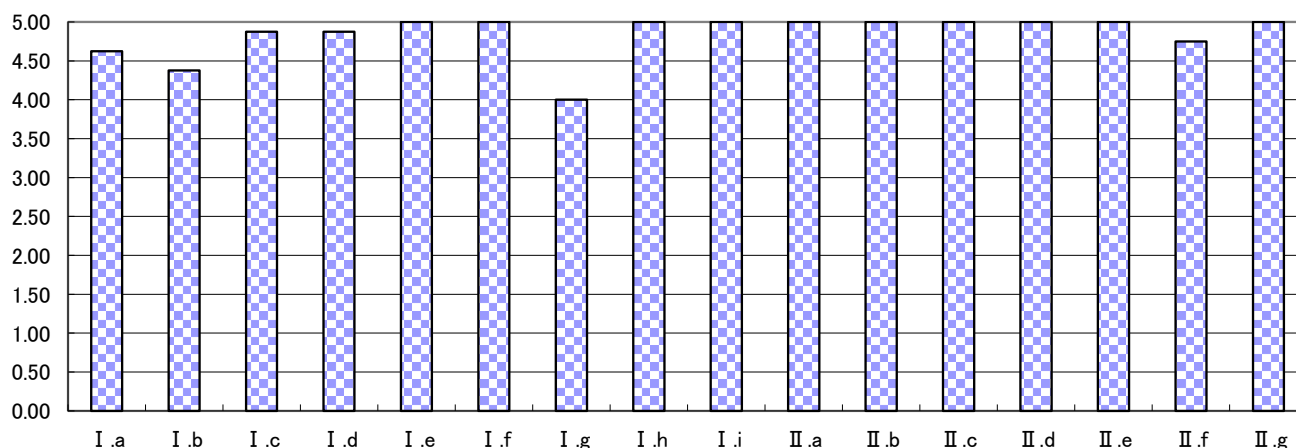
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	音楽創造
科目数	1

履修者数	9
回答者数	8

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.63	6	1	1	0	0	8	0
	譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。		75.0	12.5	12.5	0.0	0.0		
	b	4.38	5	2	0	1	0	8	0
			レッスンには、遅刻をしないで行ってた。		62.5	25.0	0.0		
	c	4.88	7	1	0	0	0	8	0
			出席は良好であった。		87.5	12.5	0.0		
	d	4.88	7	1	0	0	0	8	0
			教員との信頼関係は、良好であった。		87.5	12.5	0.0		
	e	5.00	8	0	0	0	0	8	0
積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
f	5.00	8	0	0	0	0	8	0	
		レッスン時の受講態度は、良かったと思う。		100.0	0.0	0.0			0.0
g	4.00	5	1	0	1	1	8	0	
		図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。		62.5	12.5	0.0			12.5
h	5.00	8	0	0	0	0	8	0	
		このレッスンによって、技術や意欲が向上した。		100.0	0.0	0.0			0.0
i	5.00	8	0	0	0	0	8	0	
		このレッスンの総合的評価は良いですか。		100.0	0.0	0.0			0.0
II	a	5.00	8	0	0	0	0	8	0
	教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	5.00	8	0	0	0	0	8	0
			教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		100.0	0.0	0.0		
	c	5.00	8	0	0	0	0	8	0
			教員の話し方や態度は、適切であった。		100.0	0.0	0.0		
	d	5.00	8	0	0	0	0	8	0
学生の質問や相談への対応は、適切であった。			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
e	5.00	8	0	0	0	0	8	0	
		教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		100.0	0.0	0.0			0.0
f	4.75	6	2	0	0	0	8	0	
		レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		75.0	25.0	0.0			0.0
g	5.00	5	0	0	0	0	5	3	
		休講に対する補講は、適切に行なわれていた。(当てはまる場合のみマークして下さい。)		100.0	0.0	0.0			0.0

音楽創造 全体平均点

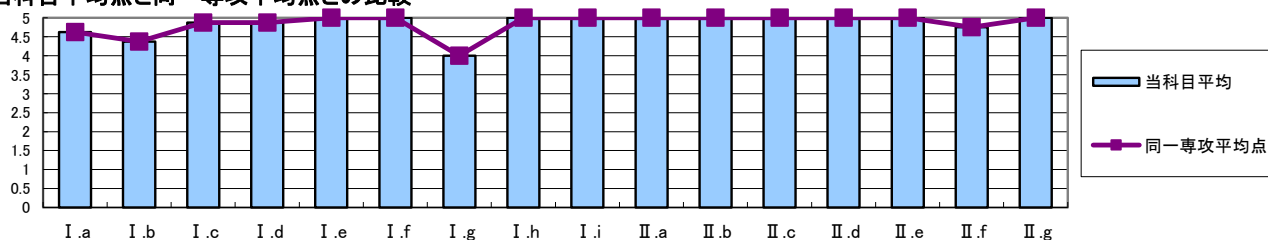


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	音楽創造作曲	職名	特任教授	履修者数	9
教員名	萩久保 和明			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.63	4.63
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.38	4.38
	c 出席は良好であった。	4.88	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.88	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	5.00
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	5.00
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	5.00
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	5.00
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.75	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



音樂療法

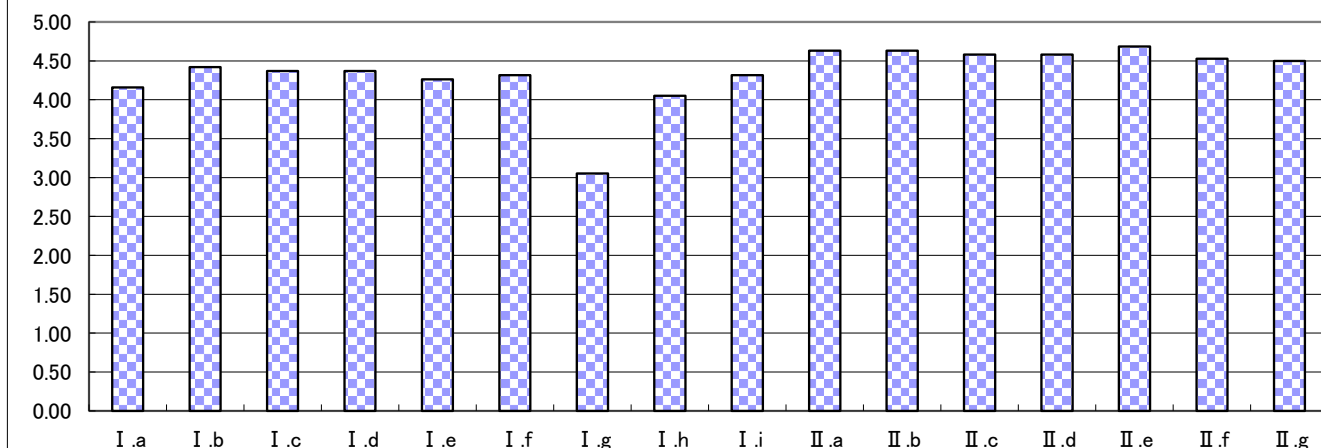
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	音楽療法
科目数	3

履修者数	19
回答者数	19

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.16	6	11	1	1	0	19	0
			31.6	57.9	5.3	5.3	0.0		
	b	4.42	12	4	2	1	0	19	0
			63.2	21.1	10.5	5.3	0.0		
	c	4.37	10	6	3	0	0	19	0
			52.6	31.6	15.8	0.0	0.0		
	d	4.37	8	10	1	0	0	19	0
			42.1	52.6	5.3	0.0	0.0		
	e	4.26	7	10	2	0	0	19	0
	36.8		52.6	10.5	0.0	0.0			
f	4.32	8	9	2	0	0	19	0	
		42.1	47.4	10.5	0.0	0.0			
g	3.05	3	4	6	3	3	19	0	
		15.8	21.1	31.6	15.8	15.8			
h	4.05	5	10	4	0	0	19	0	
		26.3	52.6	21.1	0.0	0.0			
i	4.32	8	9	2	0	0	19	0	
		42.1	47.4	10.5	0.0	0.0			
II	a	4.63	12	7	0	0	0	19	0
			63.2	36.8	0.0	0.0	0.0		
	b	4.63	12	7	0	0	0	19	0
			63.2	36.8	0.0	0.0	0.0		
	c	4.58	11	8	0	0	0	19	0
			57.9	42.1	0.0	0.0	0.0		
	d	4.58	11	8	0	0	0	19	0
	57.9		42.1	0.0	0.0	0.0			
e	4.68	13	6	0	0	0	19	0	
		68.4	31.6	0.0	0.0	0.0			
f	4.53	10	9	0	0	0	19	0	
		52.6	47.4	0.0	0.0	0.0			
g	4.50	9	9	0	0	0	18	1	
		50.0	50.0	0.0	0.0	0.0			

音楽療法 全体平均点

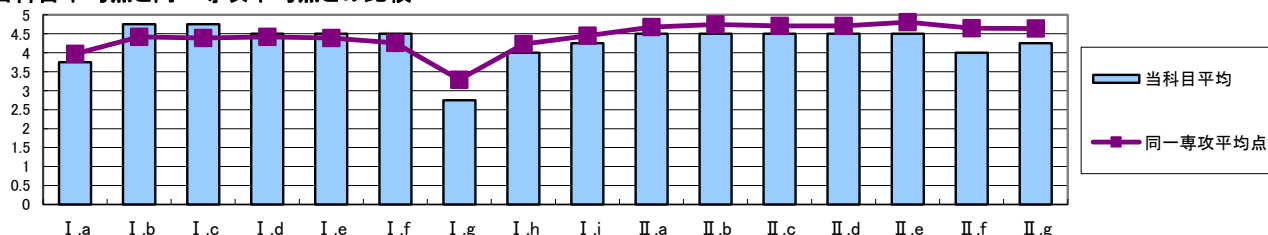


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	音楽療法2-2	職名	特任教授	履修者数	4
教員名	馬場 存			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.75	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	4.75	4.42
	c 出席は良好であった。	4.75	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	2.75	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.25	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行っていた。	4.50	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.50	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.50	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.50	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.00	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.25	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目は、音楽療法の実践の際に必要な最低限のギター演奏能力と応用力の習得を主な目的として、土曜日1限に開講され、演奏家の養成ではなく現場で効果的に臨機応変にギターを活用する技術の習得を目指すものである。受講生は音楽療法専攻1年生2名及び編入3年生2名である。初めてギターに触れる学生が多く、目標の達成には習得すべき知識・技能が多量であり、現状と目標到達点の乖離が大きく困難が予想された。それは要求水準が高いということではなく、時間的制約が大きく細かい点までの指導が物理的に困難で、自ら試行錯誤し発見することが求められるという意味である。例年通り、冒頭で「独学の手伝いがこの授業の目的である」ことを伝え自発的な学習を前提とし、多くの制約の中で目標実現に向け開始された。本年度のアンケート結果は、比較的当専攻平均と同程度もしくは少し下の結果が得られた。同質の指導でも、学年によって異なる学生側の気質が反映され異なる結果となるのが数年来の考察で見出されている。かつては学生の完成度が高いと評価も高く、学生の技能習得水準が低いとアンケート結果も低くなる傾向があったが、その傾向も徐々に変わり、さらにもっと高いレベルの教育を求めるように変化してきている印象を受ける。このように学生の要求水準も相当に高度になって、その結果アンケート結果がやや平均値に比し低いものになったと推測される。ただし、回答数が少ないので誤差範囲である可能性もある。今回、自由記述は無かった。

● 問題点

概ね全般に平均と同程度もしくはそれをやや下回る結果となっており、上記の現状の項のように考察した。

● 改善の方策

来年度は本演習の担当も変わるので、特に改善の方策として特記すべきことは無い。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

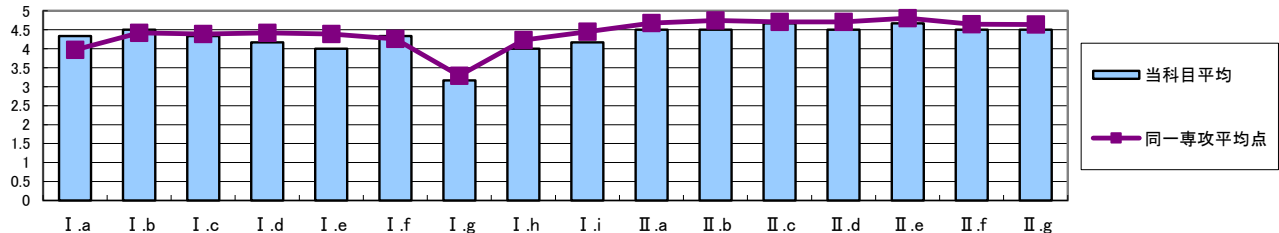
科目名	音楽療法4-2
教員名	馬場 存

職名	特任教授
----	------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分にレッスンに臨んでいた。	4.33	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.50	4.42
	c 出席は良好であった。	4.33	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.17	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.00	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.33	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.17	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.17	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行っていた。	4.50	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.67	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.50	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.67	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.50	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目は、主に音楽療法の実践の際に必要な、最低限のギター演奏能力とその応用力を習得することを目的としたもので、毎週土曜日2限に開講された。クラシックの演奏家を養成するためのものではなく、あくまで音楽療法の現場で、自由に臨機応変にギターを有効活用する技術を習得することを目的とする。受講生は音楽療法専攻2年生6名である。時間的制約から系統立てられた授業ではなく自学自習に重点を置いた指導とならざるを得ないため、例年、目標到達点との乖離があり困難が伴い、必然的にかなり厳しい指導となる。厳しいという意味は、要求水準が高いということではなく、時間的制約が大きく細かい点まで指導することは物理的に困難なため自ら試行錯誤を行い発見してゆくことが求められるという意味である。この時期(2年次)には、かつてはギターについては壁にぶつかる実感を持つことが多かったが、ここ数年傾向は異なり、昨年(一昨年に続き全般に意欲が保たれるようになってきており、やはり昨年も言及したが学生の質が上がってきていることの反映かもしれない。全体としては、昨年と同様平均を下まわる項目が多い。ここ数年の傾向だが、今年度も比較的学生の技能の習得レベルが高く、試験時の演奏の完成度も高いので、それらが反映され、学生の要求水準も相当に高度になって、一部物足りなさも生じているのかもしれない。その結果アンケート結果がやや平均値に比し低いものになったと推測される。

● 問題点

ほとんどの項目で、平均程度か平均をやや下まわる点数であった。前述の通り、ここ数年来の傾向として、学生の要求水準も相当に高度になってきたことの反映と推測した。

● 改善の方策

来年度は本講座を担当しないため、改善の方策として特記すべきことは無い。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

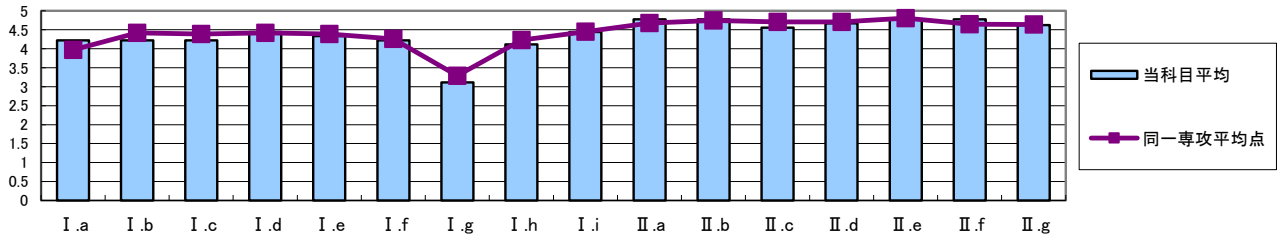
科目名	音楽療法6[実習を含む]a
教員名	二俣 泉

職名	講師
----	----

履修者数	9
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分にレッスンに臨んでいた。	4.22	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.22	4.42
	c 出席は良好であった。	4.22	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.44	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.33	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.22	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.11	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.11	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.44	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.78	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.78	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.56	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.78	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.78	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.63	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



音樂專門教育科目

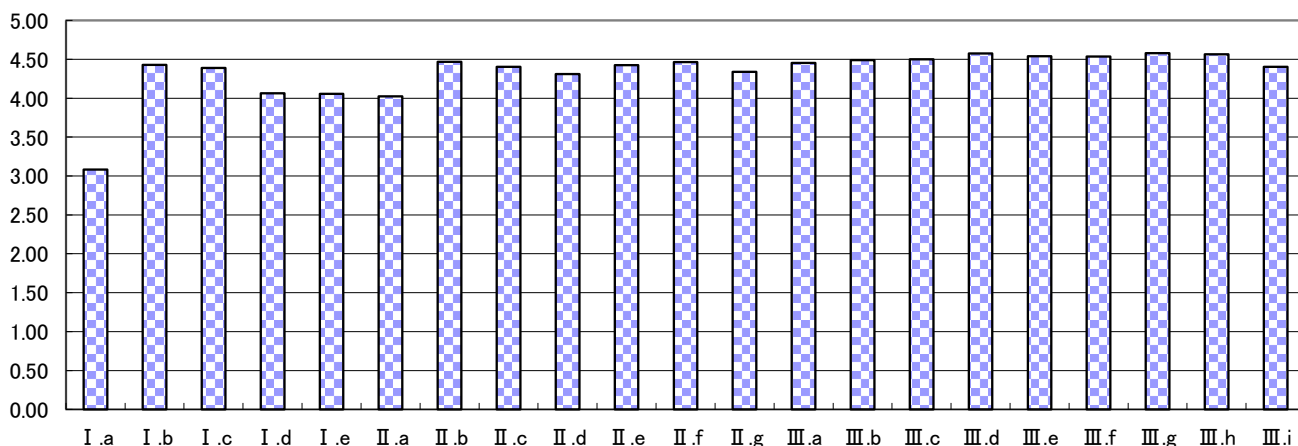
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	音楽専門教育科目
科目数	92

履修者数	903
回答者数	672

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.08	128	141	194	74	134	671	1
			19.1	21.0	28.9	11.0	20.0		
	b	4.43	411	166	68	23	3	671	1
			61.3	24.7	10.1	3.4	0.4		
	c	4.39	371	199	84	8	4	666	6
	55.7		29.9	12.6	1.2	0.6			
d	4.06	266	228	137	30	9	670	2	
		39.7	34.0	20.4	4.5	1.3			
e	4.06	255	247	135	23	12	672	0	
		37.9	36.8	20.1	3.4	1.8			
II	a	4.02	274	166	206	10	11	667	5
			41.1	24.9	30.9	1.5	1.6		
	b	4.47	422	164	69	12	5	672	0
			62.8	24.4	10.3	1.8	0.7		
	c	4.41	397	178	69	18	7	669	3
			59.3	26.6	10.3	2.7	1.0		
	d	4.31	362	181	100	13	10	666	6
	54.4		27.2	15.0	2.0	1.5			
e	4.42	404	178	60	17	9	668	4	
		60.5	26.6	9.0	2.5	1.3			
f	4.46	427	148	73	15	5	668	4	
		63.9	22.2	10.9	2.2	0.7			
g	4.34	375	182	85	18	9	669	3	
		56.1	27.2	12.7	2.7	1.3			
III	a	4.45	415	169	66	12	7	669	3
			62.0	25.3	9.9	1.8	1.0		
	b	4.49	424	164	65	9	5	667	5
			63.6	24.6	9.7	1.3	0.7		
	c	4.50	439	148	63	15	4	669	3
			65.6	22.1	9.4	2.2	0.6		
	d	4.58	465	136	62	4	3	670	2
			69.4	20.3	9.3	0.6	0.4		
	e	4.54	456	137	62	8	6	669	3
	68.2		20.5	9.3	1.2	0.9			
f	4.54	479	107	56	14	12	668	4	
		71.7	16.0	8.4	2.1	1.8			
g	4.58	467	130	59	8	2	666	6	
		70.1	19.5	8.9	1.2	0.3			
h	4.56	260	48	41	3	4	356	316	
		73.0	13.5	11.5	0.8	1.1			
i	4.40	404	160	70	23	7	664	8	
		60.8	24.1	10.5	3.5	1.1			

音楽専門教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	作曲家の肖像と作品の魅力 I B	職名	教授	履修者数	5
教員名	山崎 明美			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.80	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.80	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.60	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.60	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.40	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.80	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.80	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.80	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.80	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.80	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.80	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.80	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.80	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.80	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.80	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.80	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度に立ち上がった新専攻、パフォーマンス総合芸術文化専攻における授業である。1950年代以降のポップ音楽史など現代に求められる音楽業界における実践的知識を中心に学ぶ学生に対し、この講義 I ABにおいてクラシック音楽の音楽史を1600年以降から1950年に亘る作曲家達の横顔を学びつつ作品に触れる講義を行った。講義は、各学生がそれぞれの作曲家について調べ発表をし、それを補う形で講義する、または作曲家によっては講師がその全部を担う形で進めた。アンケートは、専攻生5名全員から提出された。歌とは何か、歌の可能性とは何かを問う、または考えることを常に行い、幅広く作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとり、新しい音の中にも脈々と流れている先人の足取りを辿る事で、自らの答えを導きだしていくことを授業の目的とした。様々な試みが行われてきた音楽史の背景にある時代、作曲家についての知識を持ち、歴史を理解した上で、歌の可能性とは何かという問いに対して、自ら考え、知識を裏付けとした意見を述べる事が出来る事が到達目標である。アンケートは、21項目からなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。アンケート結果は、4.8が半数以上となり、他の項目も4点台であった。

● 問題点

このアンケート結果から、教員と学生の信頼関係が結ばれていることが確認できたことは喜ばしい。回答者5名のアンケートであることを考慮に入れつつ問題点を抽出してみると、I-C「この授業の出席は良好であった。」に消極的肯定：4を記載したものが2名いた点であろうか。

● 改善の方策

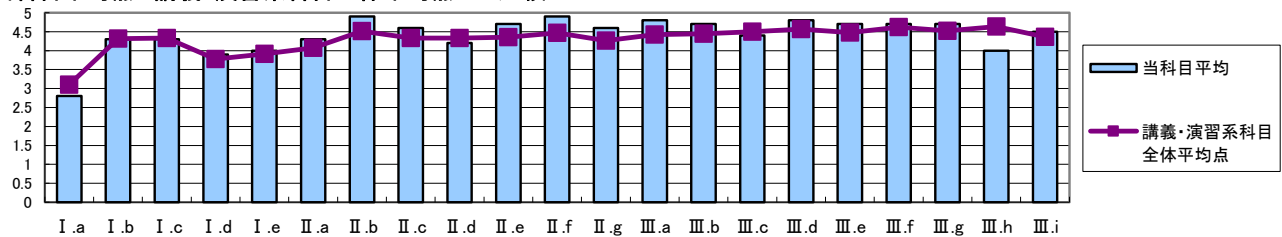
この専攻には、芸能活動を既に行いつつ学ぶ学生もおり、その関係で欠席せざるを得ない事情があったことは、事前に申し出があり、講師も承知している。本学の新たな試みであり、現代の音楽活動に生きる人材の知識、考え方の多様性を引きだす一端を担えれば喜ばしい。今後とも学生との対話を大事にしながら、何が必要なのか、何が提供できるのかを常に考慮しながら、授業に臨むことが授業をさらに進展させていくこととなる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ソルフェージュ4c	職名	特任教授	履修者数	10
教員名	大場 文恵			回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.80	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.30	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.30	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.90	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.30	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.90	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.60	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.70	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.90	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.60	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.80	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.70	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.40	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.80	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.70	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.70	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.70	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は、平成29年度より鍵盤楽器のためのソルフェージュとして始まりました。90分の授業を前半と後半に分け、初見視奏と移調奏を行っています。このアンケートは、私が担当した「初見視奏」を対象にしたものです。「初見視奏」の能力は、ピアノを学ぶ者にとっては必須のものです。それは演奏は勿論のこと、指導者になった場合にもたいへん役立ちます。この授業では、初めて見る楽譜を短時間のうちに理解し、その曲らしく演奏できるようになることを目指しています。履修者全員から回答がありました。

● 問題点

設問Ⅰーa「この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した」の得点が低くなっています。また「この授業を受講して、到達目標に達した」に対して30%の学生が「どちらとも言えない」と回答しています。

● 改善の方策

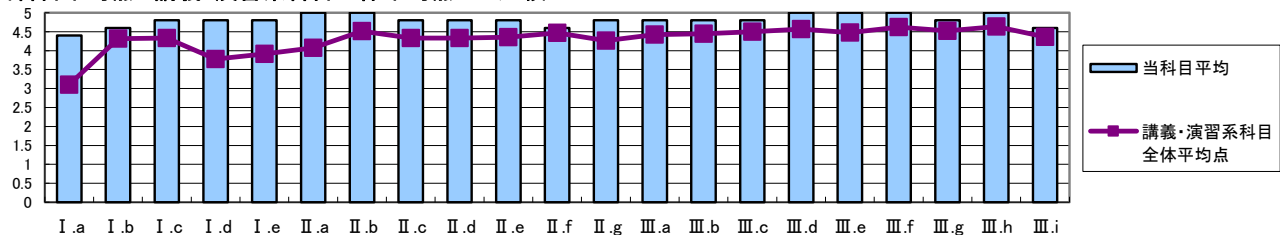
この授業は必修であるため、多くの学生がシラバスを確認することなく履修したものと思われます。また到達目標につきましてはゴールが明らかではありませんので、どこを到達点とするかは本人の考え方かと思います。授業内で100曲余りの初めての曲に向き合った経験により、個人差はあるものの少しでも「できるようになった」という思いが持てるよう、個人のレベルにもさらに配慮をして教材を選びたいと思います。そして初見視奏は授業でだけ学ぶのではなく、ここからどう発展させていくか、これは本人に任されています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ピアノ伴奏法ⅠB	職名	特任教授	履修者数	5
教員名	大場 文恵			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.40	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.60	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.80	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.80	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.80	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.80	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.60	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.80	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.80	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.80	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.80	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.80	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.60	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は、ピアノ専攻の2年生以上を対象としています。ピアノは独奏だけでなく伴奏やアンサンブルの分野でも必要とされています。伴奏は、声楽や単旋律楽器の和声などを支えるという大きな役割を担っています。授業は、声楽や楽器と互いに補い支え合って一つの音楽を作り上げていく過程から最終的にプロの演奏家と合わせて完成させるまで、共に考え意見を出し合いながら進めました。受講者5名全員から回答を得ました。

● 問題点

すべての設問に対して得点が高く、特に問題はありません。しかし気掛かりなのは、履修者の数がピアノ専攻の全体の学生数から見ると少ないことです。数年前まではピアノ専攻の学生の多くが履修していたのですが、ピアノの大切な分野である伴奏に興味を持たないのはとても残念なことです。

● 改善の方策

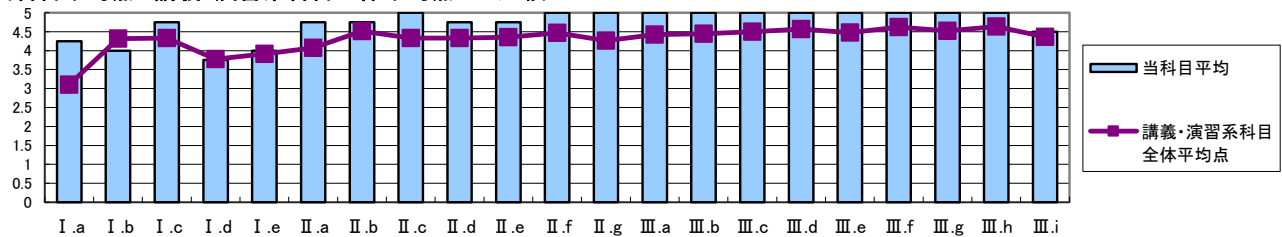
ピアノ専攻の学生が伴奏だけでなく、さまざまなことへの興味を持つよう折に触れ刺激を与えたいと思います。また「ピアノ伴奏法」については、誰もが持っているスキルとして、必修化することも視野に入れて考えてみたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教育総合科目(教職実践)ⅠB	職名	特任教授	履修者数	4
教員名	粕谷 宏美			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.25	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.75	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.75	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
Ⅱ	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.75	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.75	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
Ⅲ	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、教員として求められる資質能力を総合的に身に付けるための科目である。音楽科の教員として求められる歌唱力や伴奏力及びギター、和楽器の知識など、専門的力を高めることを中心に授業を展開した。授業は、「教育総合科目Ⅰ」と「教育総合科目Ⅱ」を2年間継続して受講するようにカリキュラムを編成している。授業は、一人ひとりの学生の資質能力を伸ばせるよう受験する自治体を視野に入れ、個に応じた指導を心がけた。なお、今年度は受講者数が少ないこともあり、より指導効果を高めるために「教育総合科目Ⅰ・Ⅱ」を合同で実施することを多く取り入れた。授業内容は、Ⅰaでは声楽・器楽(ギター)・和楽器(箏)の理論と実技をレッスン形式で行った。後期1bでは教育法規や教育課題に関する知識を身につけ、面接や集団討論などを絡めて有機的に連携するよう授業を展開した。後期第14回は教員採用試験で求められる実技発表を行った。また最終回は、インターンシップの報告会として、全員が今年度を総括するプレゼンテーションを公開形式で行った。学生は目的意識をもって授業に取り組み、モチベーションが高く授業態度も立派であった。

● 問題点

シラバスどおりに授業を進めるように努めたが、内容の変更及び、評価方向についてはより丁寧に学生への周知徹底を図っていく必要があった。学校現場での教職インターンシップでの学びを、教育的意義を含めてプレゼンテーションできる能力を高めていく必要があると考える。

● 改善の方策

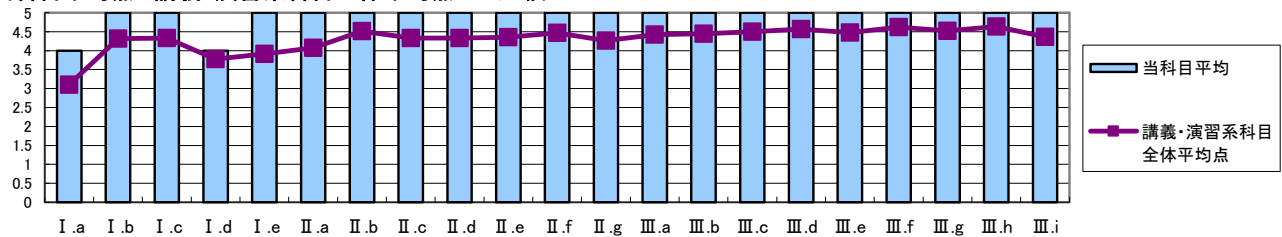
今後、教職実践専攻の学生の増加が予想されるが学年に応じた指導及び、一人ひとりの学生に対する指導はより丁寧に行っていく必要がある。また、人物重視の傾向がより鮮明になってきた教員採用試験の現状をふまえ、特に面接や集団討論の演習においては、より効果的な指導ができるよう教員の役割分担を見直し、授業環境を整えていく必要があると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教育総合科目(教職実践)ⅡB	職名	特任教授	履修者数	1
教員名	粕谷 宏美			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、教員として求められる資質能力を総合的に身に付けるための科目である。音楽科の教員として求められる歌唱力や伴奏力及びギター、和楽器の知識など、専門的力を高めることを中心に授業を展開した。授業は、「教育総合科目Ⅰ」と「教育総合科目Ⅱ」を2年間継続して受講するようにカリキュラムを編成している。授業は、一人ひとりの学生の資質能力を伸ばせるよう受験する自治体を視野に入れ、個に応じた指導を心がけた。なお、今年度は受講者数が少ないこともあり、より指導効果を高めるために「教育総合科目Ⅰ・Ⅱ」を合同で実施することを多く取り入れた。授業内容は、Ⅰaでは声楽・器楽(ギター)・和楽器(箏)の理論と実技をレッスン形式で行った。後期Ⅰbでは教育法規や教育課題に関する知識を身につけ、面接や集団討論などを絡めて有機的に連携するよう授業を展開した。後期第14回は教員採用試験で求められる実技発表を行った。また最終回は、インターンシップの報告会として、全員が今年度を総括するプレゼンテーションを公開形式で行った。学生は目的意識をもって授業に取り組み、モチベーションが高く授業態度も立派であった。

● 問題点

シラバスどおりに授業を進めるように努めたが、内容の変更及び、評価方向についてはより丁寧に学生への周知徹底を図っていく必要があった。学校現場での教職インターンシップでの学びを、教育的意義を含めてプレゼンテーションできる能力を高めていく必要があると考える。

● 改善の方策

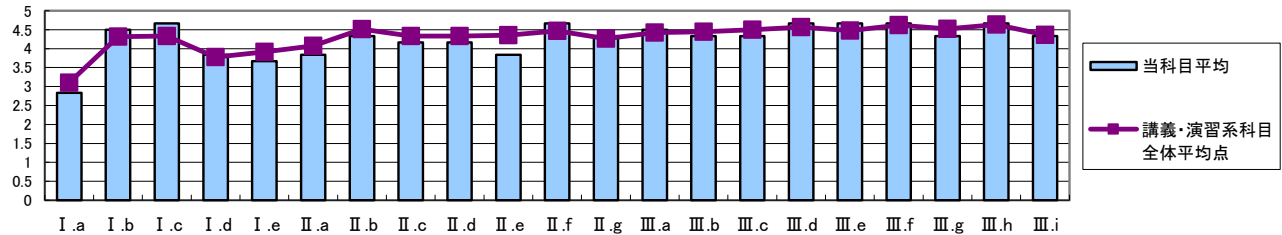
今後、教職実践専攻の学生の増加が予想されるが学年に応じた指導及び、一人ひとりの学生に対する指導はより丁寧に行っていく必要がある。また、人物重視の傾向がより鮮明になってきた教員採用試験の現状をふまえ、特に面接や集団討論の演習においては、より効果的な指導ができるよう教員の役割分担を見直し、授業環境を整えていく必要があると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	学内実習発表(音楽療法)	職名	特任教授	履修者数	8
教員名	馬場 存			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.83	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.67	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.83	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.33	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.17	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.83	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.33	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.33	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.33	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.67	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.67	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.33	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目の目的は、音楽療法士になるにあたって必要な研究能力を修得させ、卒業後に優れた活動の行える音楽療法士の育成の一助とすることである。音楽療法の臨床活動は、常に仮説設定とその検証の繰り返しであり、音楽療法士は、実践のみならず常に研究の視点を持って活動を行わなければならないので、研究能力の獲得は必須条件である。このような目的を基盤に、後期の毎週火曜日4時限に開講された。受講者は、3年生と編入生を含む8名である。リサーチについて比較的平易に解説してある教科書を用い、それを基にした学習をしながら、並行して年度末の研究発表に向けて、文献検索と各自の研究の内容や進捗状況の報告を行い、プレゼンテーションの練習を繰り返した。概ねアンケート項目は平均点の水準であり、著しく低いまたは高い項目はない。

● 問題点

アンケート結果を見ると、平均をやや上回る項目とやや下回る項目が混在している。学生は意欲があり要求水準も高く、また伝えた内容が充分生きた研究発表になっていたため、大きな問題は無いが、さらなるわかりやすさをもたせる可能性はある。

● 改善の方策

来年度は本講座を担当しないため、改善の方策として特記すべきことは無い。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

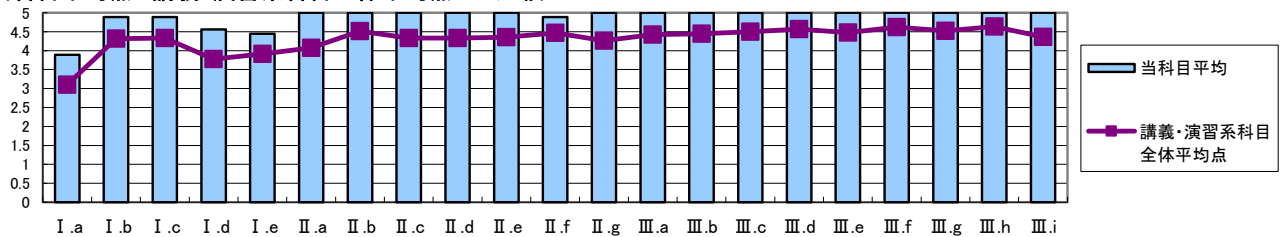
科目名	朗読法B(イタリア語)
教員名	伊藤 和広

職名	准教授
----	-----

履修者数	11
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.89	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.89	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.89	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.56	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.44	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.89	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、11名が受講し、アンケートには9名が回答しました。集計結果を見ますと、設問IとII fに関しては、演習系の科目として特に大きな問題ではないと考察します。その他の設問IIとIIIが全て5.00であることは、私にとっての大変大きな収穫です。以上、全体として、シラバスに提示されている科目の目的と内容は、達成できたということが今年度の状況です。

● 問題点

特になし。

● 改善の方策

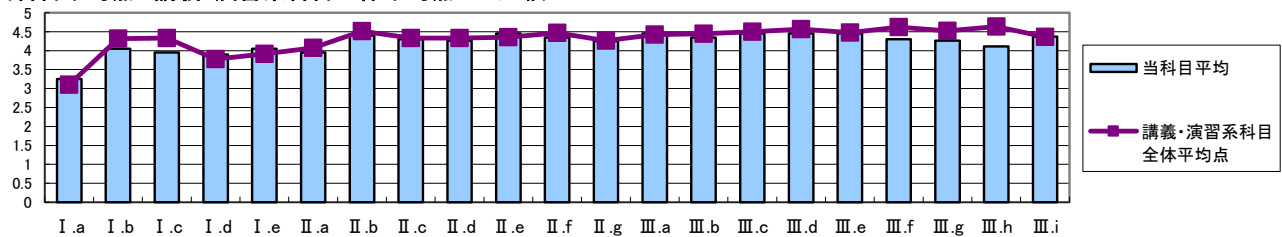
特になし。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ソルフェージュ4a	職名	准教授	履修者数	22
教員名	井上 淳司			回答者数	20

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.25	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.05	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.95	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.90	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.05	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.95	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.40	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.30	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.26	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.45	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.35	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.25	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.45	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.35	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.45	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.45	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.45	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.30	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.26	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.11	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.37	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年次のソルフェージュ2の成績を基にピアノ専攻の学生を除き再編成して2クラスに分けた、上のクラスである。ピアノ専攻の学生を除いたため、1年次でのbクラスの学生が増えたとともに、レベルの差も大幅に広がった。クラスの雰囲気や授業に臨む学生の態度は良好であった。

● 問題点

シラバスにある聴音、新曲視唱、弾き歌い、リズム打ち等を中心に授業を進めたが、その出来や不得手の度合いの個人差が広過ぎ、それだけに課題の難易度を下げざるを得なかった。出来る学生には物足りないと思う。各課題の体得を個人レベルで徹底させるには、不得手な部分を繰り返し練習し、生徒の反応を見ながらその学生に適合した積み重ねを行うことが一番有効であるが、22名では多すぎて、薄く広くの指導や結果はやはりまぬがれず、思ったような成果が出なかった。徹底するためには出来るだけ少人数の方が良いが、一つの課題を広範囲のレベルに適応させることにも無理があり、出来具合や理解にもそれが影響し、決して計画通りとはいかなかった。しかし一人でも「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた学生がいるのは教える側になんらかの不備があったと謙虚に受け止めたい。全体との比較で平均より低かったのが、学生の授業に臨む姿勢に関するもの（I.a～d）、シラバス関係（II.a）があげられる。

● 改善の方策

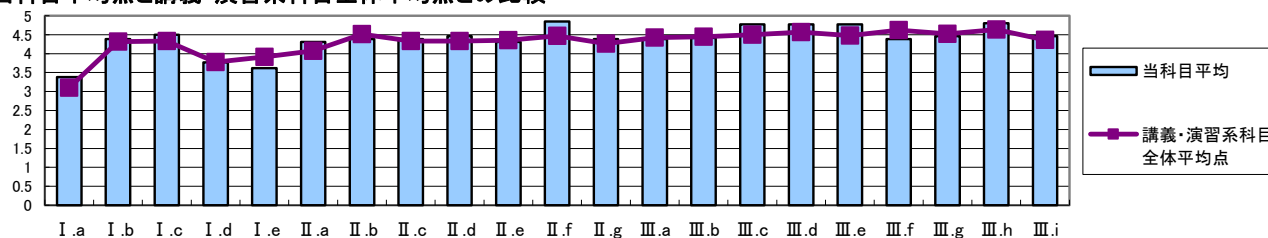
I.a～dについては、シラバスに一応目を通しておくように遡って1年次の時に話をしておくことを徹底したい。日々の努力とその積み重ねや、短い時間での集中力をつけることも音楽をやる上ではとても効果的であることを促したい。個々の能力の現状からシラバスに沿った内容をそのままなぞるようには履行できずに変更せざるを得ず、修正を試みながら授業を進めたため、その内容や授業の進め方、組み立て、教材の見直し等の工夫を心がけたい。教材、指導態度等に見配り・気配りを心がけ、多くの学生のニーズに応えられるように気をつけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ソルフェージュ2b	職名	准教授	履修者数	13
教員名	井上 淳司			回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.38	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.38	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.77	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.62	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.31	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.38	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.38	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.46	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.31	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.85	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.38	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.38	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.42	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.77	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.77	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.77	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.38	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.46	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.80	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.46	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学1年次生を対象に入学直後に聴音による実力試験を行い、2クラスに分けた、基礎訓練がまだ充分に必要な下位クラスである。音符の読み書きがまだ不確かで、特に聴音では、リズムにつながる音価が即座に思い浮かばない、音楽の流れの中でそれを感覚的に捉えることの困難な学生がいる一方で、簡単な問題はたやすく出来てしまう学生もいて、その差は人数以上に大きい。特にリズムを伴わない和音の書き取りで顕著であった。授業で扱う聴音、新曲視唱、リズム打ち、弾き歌い等が音楽の中でどのように結び付けられるかの体感がまだ出来ず、自己の問題として積極的に捉えるより、与えられたものをこなすだけで精一杯な状況である。不得意なことを努力するより避けるような消極的な姿勢も窺われた。

● 問題点

到達目標（I e）、授業の内容の理解（I d, II e）、学習意欲への刺激（II g）、教員の授業の進め方（III a）、授業回数・時間の厳守（III f）、にそう思わない、全くそう思わないという評価が出ている。また一部の学生は出席率が低かった。

● 改善の方策

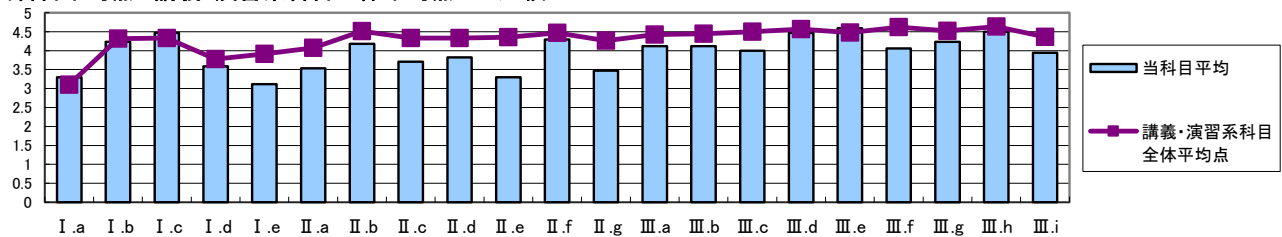
履修者は13名であるが「現状の説明」にもあるとおり、能力の差が大きすぎる。到達目標（I e）、授業の内容の理解（I d, II e）、学習意欲への刺激（II g）、教員の授業の進め方（III a）、への改善に一番の効果はクラスを増やし、サイズを人数で振り分けるのではなく同じレベルの学生だけにすることである。その上で音楽の習得には日々の努力とその積み重ねが、特に基礎訓練にはじっくりと時間をかけて行われなければならないので、授業という限られた環境と時間の中での上達は微々たるものであるため、授業以外にも常にそのことを念頭に訓練を怠らないよう個々に合った方法の指導やアドバイスの徹底を工夫したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	和声学2b	職名	准教授	履修者数	18
教員名	井上 淳司			回答者数	17

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.29	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.24	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.47	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.59	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.12	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.53	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.18	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.71	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.82	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.29	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.29	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.47	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.12	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.12	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.47	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.59	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.06	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.24	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.94	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

和声法の学習のうち、基礎となる和音の構成および連結の実習を習得する授業で、1年生を対象に入学直後に和声法の理解力を測る実力試験を行い、2クラスに分けた結果の全く和声法をやったことが無い学生および実習経験があっても理解力が不確かな学生のクラスである。和声法はやや煩雑な規則を基にした連続している理論的組み立ての上の実習を重ねて行く為、本授業は板書が多く（毎回約1/3の時間）その量に圧倒され、やる気が失せるという声も授業中にあった。しかし、覚えるには自分で書くのが一番でこのやり方は変えるつもりはない。音楽は理論的規則性に縛られない自由な芸術ではあるが、理論的な裏づけや積み重ねの無い感性だけの演奏では表現としては多くの人に伝わらない。学生の中には誤解もあって専攻実技のみに専念すればと、このことを疎かにしてしまいがちな考えがある。こつこつ自己の努力を積み重ねていく重要性は実技のみではなく、むしろ背景にある音楽を支えている部分にも多くあるということをも前提に和声の重要性を理解してもらおう授業である。

● 問題点

復習や実習を怠ることや、また一回の欠席でも授業が分からなくなることも多いため、一旦、分からなくなるとさらに欠席を重ねてしまったり、やる気が失せたりして学習が続かなくなる。また理解が出来てもそれがすぐに実習でうまく行くととは限らず、何回も失敗をしながら体得しなければ上達しないため、これも積み重ねが必要となる。また、実習したノートを時間が許す限りひとりひとり見てアドバイスすることも行っているが、最後まで一度もノートを見せない学生もいた。これも意識や方法の改善が必要であると思う。

● 改善の方策

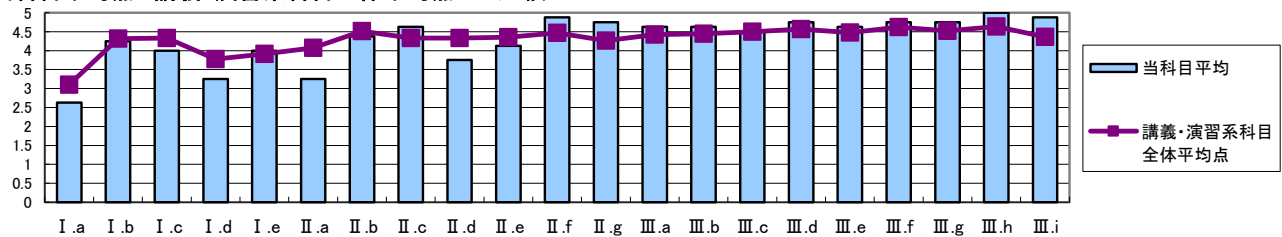
いかに学生の集中力を持続させながらコツコツとやるかに今後さらに腐心したい。下のクラスのクラスサイズは小さいが、学生の理解力や速度はまちまちで、全ての学生に目を行き届かせながらそれぞれの進度に合わせたアドバイスをするにはサイズは今の約半分（10人前後）が良い。加えてやる気の出る板書、話し方、接し方をさらに心がけ、休んだ学生に自覚を促すべく細かな指導を行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	総合作曲演習ⅡB	職名	准教授	履修者数	8
教員名	井上 淳司			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.63	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.25	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.25	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.25	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.38	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.63	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.13	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.88	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.75	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.63	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.63	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.75	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.63	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.75	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.88	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

音楽創造専攻生のための講座で、今年度の1年次生はもともと在籍者はおらず、2年次生3名、3年次生2名、4年次生3名の計8名が履修した。ゼミ形式での授業形態で、メディアデザインコースの学生も普段は作曲を主に行っているののでそれに役立つような様々な音楽や関連する事柄を、学生の希望を聞きながら取り上げた。双方向や学生間の意見交換を行うことにも重点を置いた。

● 問題点

履修登録が終わり授業の始まるまで誰が履修しているのかが判らず、教員から講義内容を押し付けるのではなく各学生が何を学びたいかを優先し、毎回学生の希望や意見を取り上げながら講義を進めたためシラバス通りには行かなかった。毎回の講義でその時々で出た疑問やもっと深く掘り下げるべき事項があればそれらの事がある程度解決するまで変更は余儀なく行った。そのため開講時には成績の評価基準を明確に示す事が出来なかった。

● 改善の方策

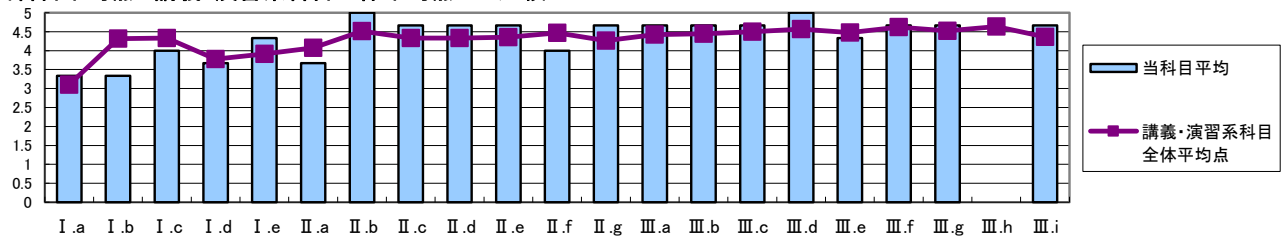
シラバス通りに行かないのはその時の学生の反応を見ながら授業を進めているためで個々の学生が何を学ぶべきかを優先した結果である。あらかじめ決まった内容を押し進めるのは学生の理解度を無視し、前後のつながりがよく分からないまま講義だけが先走りになる恐れがある。しかし、出来得限りの予測を立ててシラバスを作成することを心がけたい。学生にもシラバスをよく見て広い範囲での予習および復習を行うことを喚起したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	楽器の特性と機能(教職実践)	職名	准教授	履修者数	4
教員名	岩間 文正			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.33	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.33	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.67	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.33	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.67	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.67	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.67	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.67	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.67	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.67	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.33	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.67	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.67	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は鍵盤楽器を含む全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は担当教員が一人で全ての楽器について解説するのではなく、毎週、各楽器の専門の講師を招いて、演奏を交えながら講義を行う。学生は毎週教員が代わるので飽きる事なく授業に参加している。将来教員を目指す教職実践専攻の学生が対象なので、学ぶ意識が高く、中身の濃い授業になっている。各教員には、将来吹奏楽部指導を行うことを前提として、楽器解説に加えて、移調楽器、スコアリーダー等も交えながら授業を進めてもらった。実際の吹奏楽コンクールがどのようなものか理解させるため、コンクールの映像を見てもらった。学生のこの授業に対する満足度は高いと思われる。教職実践専攻以外の教職課程履修学生には、将来の吹奏楽部指導のため、単位は取得できないが聴講を勧めている。

● 問題点

アンケート結果を見る限り回答は4と5に集中しているため、学生の評価は良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。15名程の教員が関わるため、アンケート結果は担当教員に対するものではなく、授業全体の評価となる。設問II-aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。今年度休講はなかったが、設問III-h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。担当教員が授業毎に代わるため試験を実施出来ないため、評価はレポート提出となる。全ての楽器についてレポートを提出させるので、レポートの分量が必然的に多くなってしまふ。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。研究員使用の許可を取り、担当講師が授業を出来ない場合は、担当講師から指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。

● 改善の方策

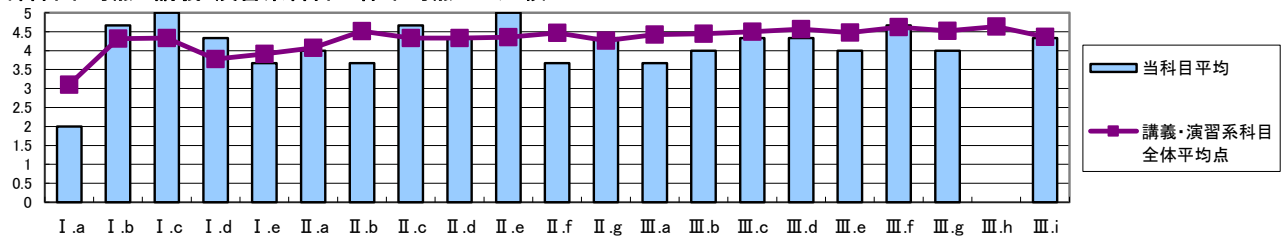
レポートをしっかりと提出させるよう指導を徹底したい。各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅱ[異種楽器]b	職名	准教授	履修者数	3
教員名	岩間 文正			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.33	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.67	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.33	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.67	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.33	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.33	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.67	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

木管楽器を専攻する学生を対象とした異種楽器による室内楽授業である。木管五重奏等、学生側でアンサンブルを編成しての履修も認めている。ファゴットとホルンは履修学生が少なかったため研究員に依頼した。学生は欠席も少なく、楽しく授業に参加していた。専門性が高くなるので、副科の学生の履修はなかった。

● 問題点

グラフを見る限り、学年により受け止め方や授業に対する満足度が異なるようであるが、学生の意識、教員との信頼関係は良好と思われる。履修学生の専攻楽器にばらつきがあるので、グループ分けが困難である。今年度は履修学生が少なかったため、設問Ⅱ-fはやむを得ない結果である。木管楽器は3クラス（サクスの同族楽器アンサンブルを含む）、金管楽器は2クラス及び打楽器アンサンブルと弦楽アンサンブルの6クラスに分かれて授業を行っている関係上、グラフの結果は、本授業（室内楽Ⅰ～ⅡB木管b）だけに対する評価ではないため、アンケート結果の評価判断が難しい。シラバス作成時には履修学生の把握ができないため、必ずしもシラバス通りには授業を進められない。期末に他の室内楽クラスと合同の発表会を学内のホールにて開催した。

● 改善の方策

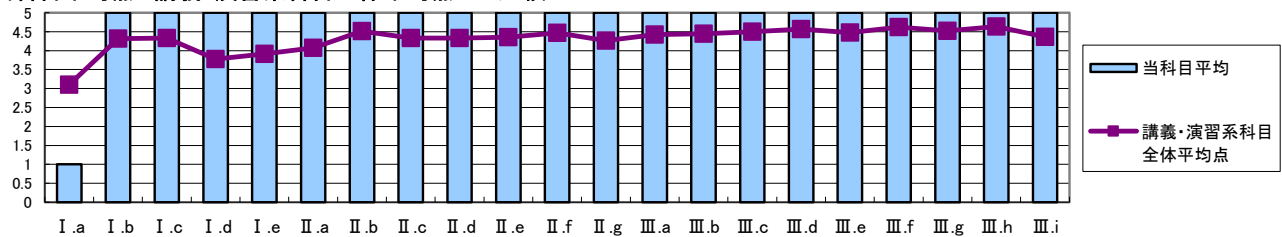
グループ分けに工夫が必要。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕a	職名	准教授	履修者数	1
教員名	岩間 文正			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

木管楽器を専攻する学生を対象とした異種楽器による室内楽授業である。木管五重奏等、学生側でアンサンブルを編成しての履修も認めている。ファゴットとホルンは履修学生が少なかったため研究員に依頼した。学生は欠席も少なく、楽しく授業に参加していた。専門性が高くなるので、副科の学生の履修はなかった。

● 問題点

グラフを見る限り、学年により受け止め方や授業に対する満足度が異なるようであるが、学生の意識、教員との信頼関係は良好と思われる。履修学生の専攻楽器にばらつきがあるので、グループ分けが困難である。今年度は履修学生が少なかったため、設問Ⅱ-fはやむを得ない結果である。木管楽器は3クラス（サクスの同族楽器アンサンブルを含む）、金管楽器は2クラス及び打楽器アンサンブルと弦楽アンサンブルの6クラスに分かれて授業を行っている関係上、グラフの結果は、本授業（室内楽Ⅰ～Ⅱ木管b）だけに対する評価ではないため、アンケート結果の評価判断が難しい。シラバス作成時には履修学生の把握ができないため、必ずしもシラバス通りには授業を進められない。期末に他の室内楽クラスと合同の発表会を学内のホールにて開催した。

● 改善の方策

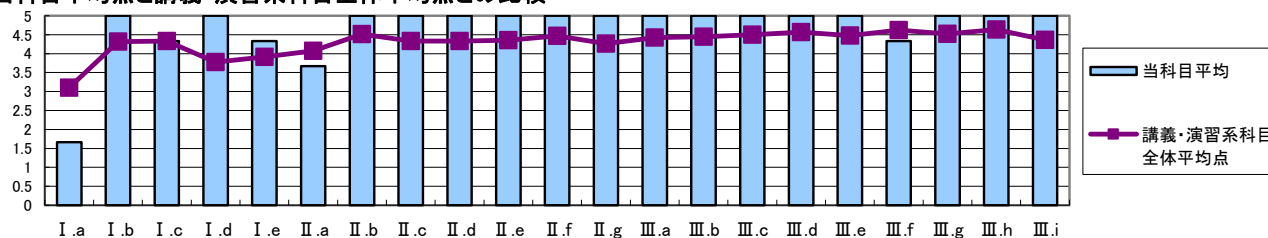
グループ分けに工夫が必要。発表会の時期を再検討する必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅰ〔異種楽器〕f	職名	特任准教授	履修者数	3
教員名	安藤 芳広			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.33	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.33	3.91
Ⅱ	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
Ⅲ	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.33	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

個人レッスンやそれに向けての、あるいはそれらを踏まえての個々の取り組みは、ともすると学生各々の技術向上で完結してしまいがちだが、そこで培われた技術や音楽性を持ち寄って「アンサンブル」を学ぶ本授業が、彼らの学びを「発展させる」貴重な時間となっているという実感は年を重ねるごとに強くなっている。また、複数の人間が共に一つの楽曲やコンサートを作り上げていく過程においては、必然的に人間関係構築や社会性が必要とされるため、このような側面をも重視し、専門技術の指導のみに特化せず、一人ひとりに「社会性」が身につくことも意識しながら、多面的な意義のある授業となるよう心がけ取り組んでいるつもりである。学生に有効な「シラバス」作成については、演奏することを柱に成り立つ本授業において、個々の学生の音楽的成長の度合いも考慮しつつ、全体のバランスもとりながら授業の進行を判断せざるを得ないため、年間の予定を具体的、詳細に計画することが難しく例年のことながら悩みの種である。ゆえに毎年作成には試行錯誤しているが、とはいえ例年そこまで大きな違いは生じていない内容に対し学生の反応がまちまちであることをどう理解すべきなのか…（彼らの理解度の差異によるものかとも思わないでもないが）目指すべきはすべての学生にわかりやすい「シラバス」ということで、より有効な内容たるよう引き続き研究は続けた。休講に対する適切な補講実施についても昨年度については概ね「適切」という評価を得られた。本授業の実施については複数人の予定をすり合わせ開講日を設定しており、そのスケジューリングは基本的に生徒たちに任せている。それはひとつには、生徒の自主性を重んじ、（また非常勤ゆえの不定期な実施ではあるが）その機会を有効に使いきってほしいという想いからであるが、加えて「調整」というある意味非常に面倒な作業を繰り返す行なうことが、社会に通用する適応能力を身につけることにつながると考えるからである。その意図がわずかにでも浸透した結果であるならこんなに嬉しいことはない。

● 問題点

前項に記した通り、例年の問題点であった「シラバス作成」「適切な補講の実施」について、「より活用しやすいシラバス」「全員が適切と感じる開講スケジュール」を目指し、なお一層努力したい。

● 改善の方策

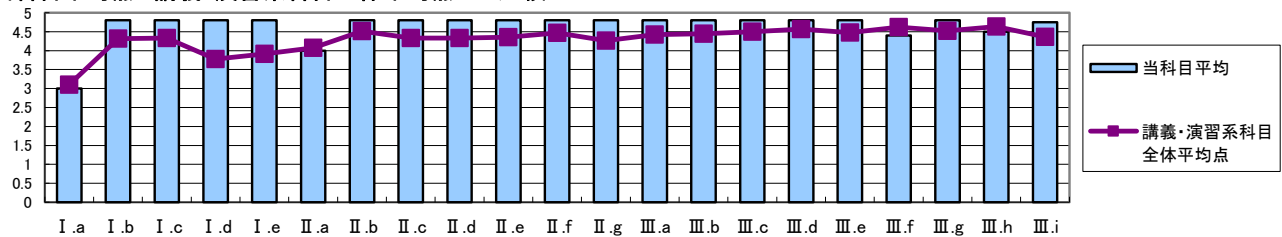
学生たち主導のスケジューリングについての意義、意図については今一度理解を促し、より緻密な連絡、意見交換を心がけたい。シラバスについては、さらに大枠での授業方針が読み取り易い内容になるよう、また具体的な教材等が示し難い特質について必然性をもって理解できる表現など、検討を重ねる所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕f	職名	特任准教授	履修者数	5
教員名	安藤 芳広			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.80	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.80	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.80	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.80	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.80	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.80	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.80	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.80	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.80	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.80	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.80	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.80	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.40	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.80	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.75	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

個人レッスンやそれに向けての、あるいはそれらを踏まえての個々の取り組みは、ともすると学生各々の技術向上で完結してしまいがちだが、そこで培われた技術や音楽性を持ち寄って「アンサンブル」を学ぶ本授業が、彼らの学びを「発展させる」貴重な時間となっているという実感は年を重ねるごとに強くなっている。また、複数の人間が共に一つの楽曲やコンサートを作り上げていく過程においては、必然的に人間関係構築や社会性が必要とされるため、このような側面をも重視し、専門技術の指導のみに特化せず、一人ひとりに「社会性」が身につくことも意識しながら、多面的な意義のある授業となるよう心がけ取り組んでいるつもりである。学生に有効な「シラバス」作成については、演奏することを柱に成り立つ本授業において、個々の学生の音楽的成長の度合いも考慮しつつ、全体のバランスもとりながら授業の進行を判断せざるを得ないため、年間の予定を具体的、詳細に計画することが難しく例年のことながら悩みの種である。ゆえに毎年作成には試行錯誤しているが、とはいえ例年そこまで大きな違いは生じていない内容に対し学生の反応がまちまちであることをどう理解すべきなのか…（彼らの理解度の差異によるものかとも思わないでもないが）目指すべきはすべての学生にわかりやすい「シラバス」ということで、より有効な内容たるよう引き続き研究は続けた。休講に対する適切な補講実施についても昨年度については概ね「適切」という評価を得られた。本授業の実施については複数人の予定をすり合わせ開講日を設定しており、そのスケジューリングは基本的に生徒たちに任せている。それはひとつには、生徒の自主性を重んじ、（また非常勤ゆえの不定期な実施ではあるが）その機会を有効に使いきってほしいという想いからであるが、加えて「調整」というある意味非常に面倒な作業を繰り返し行なうことが、社会に通用する適応能力を身につけることにつながると考えるからである。その意図がわずかにでも浸透した結果であるならこんなに嬉しいことはない。

● 問題点

前項に記した通り、例年の問題点であった「シラバス作成」「適切な補講の実施」について、「より活用しやすいシラバス」「全員が適切と感じる開講スケジュール」を目指し、なお一層努力したい。

● 改善の方策

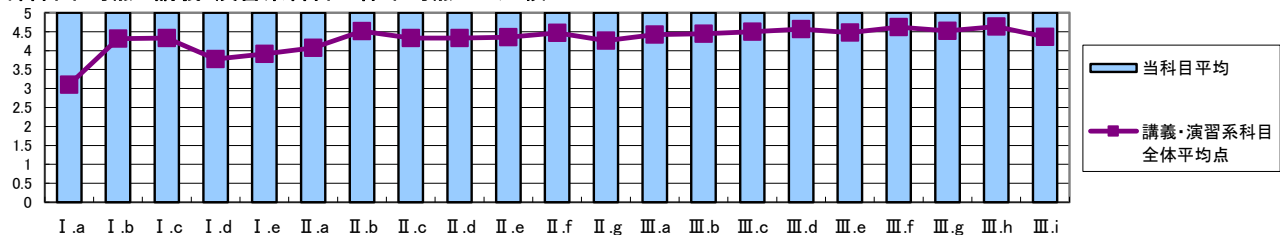
学生たち主導のスケジューリングについての意義、意図については今一度理解を促し、より緻密な連絡、意見交換を心がけたい。シラバスについては、さらに大枠での授業方針が読み取り易い内容になるよう、また具体的な教材等が示し難い特質について必然性をもって理解できる表現など、検討を重ねる所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕f	職名	特任准教授	履修者数	1
教員名	安藤 芳広			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	5.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

個人レッスンやそれに向けての、あるいはそれらを踏まえての個々の取り組みは、ともすると学生各々の技術向上で完結してしまいがちだが、そこで培われた技術や音楽性を持ち寄って「アンサンブル」を学ぶ本授業が、彼らの学びを「発展させる」貴重な時間となっているという実感は年を重ねるごとに強くなっている。また、複数の人間が共に一つの楽曲やコンサートを作り上げていく過程においては、必然的に人間関係構築や社会性が必要とされるため、このような側面をも重視し、専門技術の指導のみに特化せず、一人ひとりに「社会性」が身につくことも意識しながら、多面的な意義のある授業となるよう心がけ取り組んでいるつもりである。学生に有効な「シラバス」作成については、演奏することを柱に成り立つ本授業において、個々の学生の音楽的成長の度合いも考慮しつつ、全体のバランスもとりながら授業の進行を判断せざるを得ないため、年間の予定を具体的、詳細に計画することが難しく例年のことながら悩みの種である。ゆえに毎年作成には試行錯誤しているが、とはいえ例年そこまで大きな違いは生じていない内容に対し学生の反応がまちまちであることをどう理解すべきなのか…（彼らの理解度の差異によるものかとも思わないでもないが）目指すべきはすべての学生にわかりやすい「シラバス」ということで、より有効な内容たるよう引き続き研究は続けた。休講に対する適切な補講実施についても昨年度については概ね「適切」という評価を得られた。本授業の実施については複数人の予定をすり合わせ開講日を設定しており、そのスケジューリングは基本的に生徒たちに任せている。それはひとつには、生徒の自主性を重んじ、（また非常勤ゆえの不定期な実施ではあるが）その機会を有効に使いきってほしいという想いからであるが、加えて「調整」というある意味非常に面倒な作業を繰り返す行なうことが、社会に通用する適応能力を身につけることにつながると考えるからである。その意図がわずかにでも浸透した結果であるならこんなに嬉しいことはない。

● 問題点

前項に記した通り、例年の問題点であった「シラバス作成」「適切な補講の実施」について、「より活用しやすいシラバス」「全員が適切と感じる開講スケジュール」を目指し、なお一層努力したい。

● 改善の方策

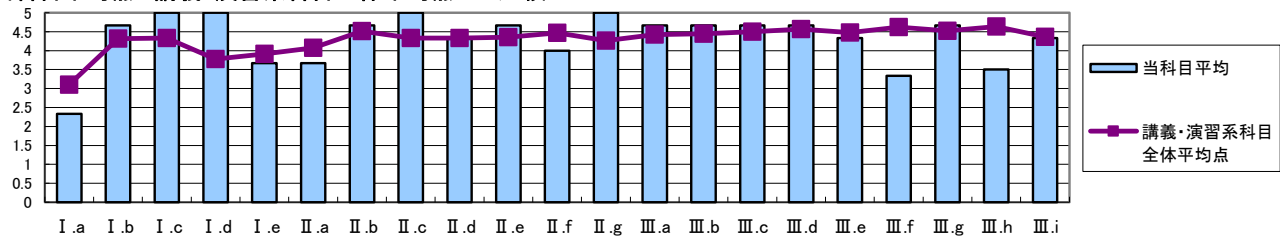
学生たち主導のスケジューリングについての意義、意図については今一度理解を促し、より緻密な連絡、意見交換を心がけたい。シラバスについては、さらに大枠での授業方針が読み取り易い内容になるよう、また具体的な教材等が示し難い特質について必然性をもって理解できる表現など、検討を重ねる所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕f	職名	特任准教授	履修者数	3
教員名	安藤 芳広			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.33	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.67	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.67	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.67	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.67	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.67	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.33	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	3.33	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

個人レッスンやそれに向けての、あるいはそれらを踏まえての個々の取り組みは、ともすると学生各々の技術向上で完結してしまいがちだが、そこで培われた技術や音楽性を持ち寄って「アンサンブル」を学ぶ本授業が、彼らの学びを「発展させる」貴重な時間となっているという実感は年を重ねるごとに強くなっている。また、複数の人間が共に一つの楽曲やコンサートを作り上げていく過程においては、必然的に人間関係構築や社会性が必要とされるため、このような側面をも重視し、専門技術の指導のみに特化せず、一人ひとりに「社会性」が身につくことも意識しながら、多面的な意義のある授業となるよう心がけ取り組んでいるつもりである。学生に有効な「シラバス」作成については、演奏することを柱に成り立つ本授業において、個々の学生の音楽的成長の度合いも考慮しつつ、全体のバランスもとりながら授業の進行を判断せざるを得ないため、年間の予定を具体的、詳細に計画することが難しく例年のことながら悩みの種である。ゆえに毎年作成には試行錯誤しているが、とはいえ例年そこまで大きな違いは生じていない内容に対し学生の反応がまちまちであることをどう理解すべきなのか…（彼らの理解度の差異によるものかとも思わないでもないが）目指すべきはすべての学生にわかりやすい「シラバス」ということで、より有効な内容たるよう引き続き研究は続けた。休講に対する適切な補講実施についても昨年度については概ね「適切」という評価を得られた。本授業の実施については複数人の予定をすり合わせ開講日を設定しており、そのスケジューリングは基本的に生徒たちに任せている。それはひとつには、生徒の自主性を重んじ、（また非常勤ゆえの不定期な実施ではあるが）その機会を有効に使ってほしいという想いからであるが、加えて「調整」というある意味非常に面倒な作業を繰り返す行なうことが、社会に通用する適応能力を身につけることにつながると考えるからである。その意図がわずかにでも浸透した結果であるならこんなに嬉しいことはない。

● 問題点

前項に記した通り、例年の問題点であった「シラバス作成」「適切な補講の実施」について、「より活用しやすいシラバス」「全員が適切と感じる開講スケジュール」を目指し、なお一層努力したい。

● 改善の方策

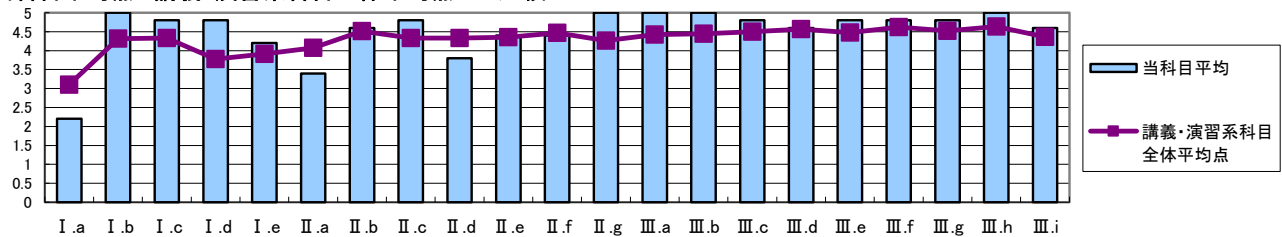
学生たち主導のスケジューリングについての意義、意図については今一度理解を促し、より緻密な連絡、意見交換を心がけたい。シラバスについては、さらに大枠での授業方針が読み取り易い内容になるよう、また具体的な教材等が示し難い特質について必然性をもって理解できる表現など、検討を重ねる所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オーケストラIB	職名	特任准教授	履修者数	5
教員名	上野 正博			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.20	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.80	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.80	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.20	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.40	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.60	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.80	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.80	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.40	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.40	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.80	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.80	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.80	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.80	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.60	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

月曜4限のオーケストラの授業は、グランツザールにて、授業用に取り上げた曲や、公開演奏会のための演目を練習しています。学生数が少ない分、教官や演奏要員を加えて、経験を積んだ奏者との共演を通して、オーケストラ合奏の基礎を身につける訓練をしています。オーケストラの練習は、マニュアル通りにはいきません。曲目、奏者、演奏箇所によって、想定外のような問題をクリアして、一つの音楽をオケ全員で作りに上げていくもので、教科書通りにはいきません。臨機応変にその場に応じた練習が要求されます。一人一人の事前の予習があってこそ、全員が集まらなければ出来ないアンサンブル練習が成立すると思っています。集計結果からは、シラバスの内容と、実際の授業内容の差に戸惑っている学生がいることが見受けられます。

● 問題点

最初は学生の中に、シラバスのみに頼り、プロによる本格的なオーケストラ練習に対応しきれない者もいるのでは、と推察されます。

● 改善の方策

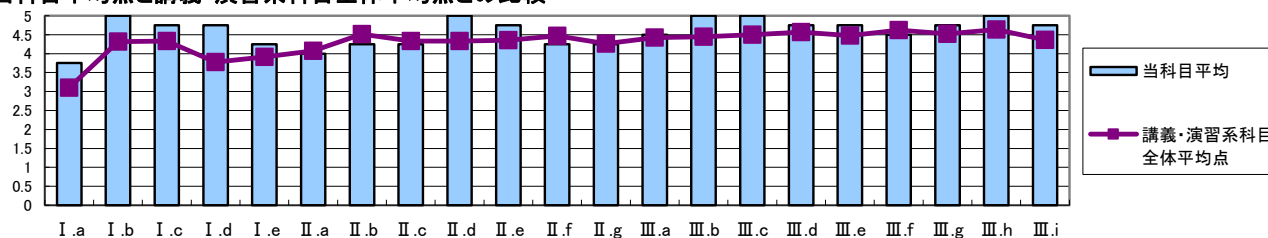
シラバスのみに頼り、マニュアルを思い描くだけではオケの授業、練習に対応出来ない事は言うまでもありません。これはアンケート結果のみならず、普段の授業中にも感じられることで、大概は、本人の準備、練習不足が原因と思われる。またシラバスには、年間に取り上げる曲目全てが記載されてはいませんが、年度始めには練習予定を含めて、演奏センターを通じて事前連絡を徹底しています。オケ合奏の現場では何が起こるか分かりません。経験ある指導陣や演奏要員に助けられながら、実践的に学ぶ場です。そのような中で、様々な技量を持っている学生たちを一人一人見つめ、甘やかすことなく、緊密な人間関係の中からそれぞれに最適な指導方法を模索しながら、丁寧に、より高い次元の音楽に導く事が、我々教官陣に求められる事だと感じています。そのために、休憩中や授業外でも、質問を受けたり、アドバイスをするなどのケアを続けるつもりです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オーケストラⅡB	職名	特任准教授	履修者数	4
教員名	上野 正博			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.75	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.75	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.75	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.25	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.25	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.25	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.75	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.25	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.25	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.75	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.75	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.50	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.75	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.75	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

月曜4限のオーケストラの授業は、グランツァールにて、授業用に取り上げた曲や、公開演奏会のための演目を練習しています。学生数が少ない分、教官や演奏要員を加えて、経験を積んだ奏者との共演を通して、オーケストラ合奏の基礎を身につける訓練をしています。オーケストラの練習は、マニュアル通りにはいきません。曲目、奏者、演奏箇所によって、想定外のような問題をクリアして、一つの音楽をオケ全員で作りに上げていくもので、教科書通りにはいきません。臨機応変にその場に応じた練習が要求されます。一人一人の事前の予習があってこそ、全員が集まらなければ出来ないアンサンブル練習が成立すると思っています。集計結果からは、シラバスの内容と、実際の授業内容の差に戸惑っている学生がいることが見受けられます。

● 問題点

最初は学生の中に、シラバスのみに頼り、プロによる本格的なオーケストラ練習に対応しきれない者もいるのでは、と推察されます。

● 改善の方策

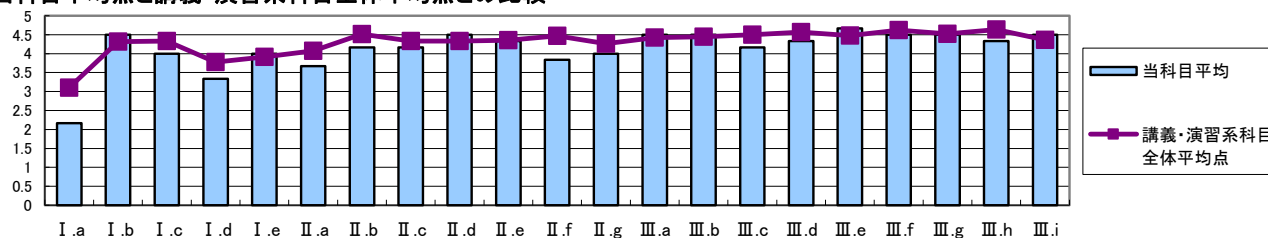
シラバスのみに頼り、マニュアルを思い描くだけではオケの授業、練習に対応出来ない事は言うまでもありません。これはアンケート結果のみならず、普段の授業中にも感じられることで、大概は、本人の準備、練習不足が原因と思われる。またシラバスには、年間に取り上げる曲目全てが記載されてはいませんが、年度始めには練習予定を含めて、演奏センターを通じて事前連絡を徹底しています。オケ合奏の現場では何が起こるか分かりません。経験ある指導陣や演奏要員に助けられながら、実践的に学ぶ場です。そのような中で、様々な技量を持っている学生たちを一人一人見つめ、甘やかすことなく、緊密な人間関係の中からそれぞれに最適な指導方法を模索しながら、丁寧に、より高い次元の音楽に導く事が、我々教官陣に求められる事だと感じています。そのために、休憩中や授業外でも、質問を受けたり、アドバイスをするなどのケアを続けるつもりです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オーケストラⅢB	職名	特任准教授	履修者数	6
教員名	上野 正博			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.17	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.33	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.17	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.17	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.33	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.83	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.17	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.33	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.50	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

月曜4限のオーケストラの授業は、グランツァールにて、授業用に取り上げた曲や、公開演奏会のための演目を練習しています。学生数が少ない分、教官や演奏要員を加えて、経験を積んだ奏者との共演を通して、オーケストラ合奏の基礎を身につける訓練をしています。オーケストラの練習は、マニュアル通りにはいきません。曲目、奏者、演奏箇所によって、想定外のような問題をクリアして、一つの音楽をオケ全員で作りに上げていくもので、教科書通りにはいきません。臨機応変にその場に応じた練習が要求されます。一人一人の事前の予習があってこそ、全員が集まらなければ出来ないアンサンブル練習が成立すると思っています。集計結果からは、シラバスの内容と、実際の授業内容の差に戸惑っている学生がいることが見受けられます。

● 問題点

最初は学生の中に、シラバスのみに頼り、プロによる本格的なオーケストラ練習に対応しきれない者もいるのでは、と推察されます。

● 改善の方策

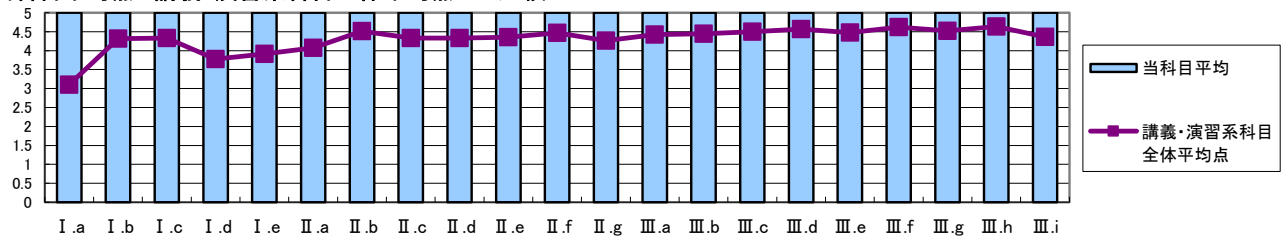
シラバスのみに頼り、マニュアルを思い描くだけではオケの授業、練習に対応出来ない事は言うまでもありません。これはアンケート結果のみならず、普段の授業中にも感じられることで、大概は、本人の準備、練習不足が原因と思われる。またシラバスには、年間に取り上げる曲目全てが記載されてはいませんが、年度始めには練習予定を含めて、演奏センターを通じて事前連絡を徹底しています。オケ合奏の現場では何が起こるか分かりません。経験ある指導陣や演奏要員に助けられながら、実践的に学ぶ場です。そのような中で、様々な技量を持っている学生たちを一人一人見つめ、甘やかすことなく、緊密な人間関係の中からそれぞれに最適な指導方法を模索しながら、丁寧に、より高い次元の音楽に導く事が、我々教官陣に求められる事だと感じています。そのために、休憩中や授業外でも、質問を受けたり、アドバイスをするなどのケアを続けるつもりです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オーケストラⅣB	職名	特任准教授	履修者数	1
教員名	上野 正博			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	5.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

月曜4限のオーケストラの授業は、グランツザールにて、授業用に取上げた曲や、公開演奏会のための演目を練習しています。学生数が少ない分、教官や演奏要員を加えて、経験を積んだ奏者との共演を通して、オーケストラ合奏の基礎を身につける訓練をしています。オーケストラの練習は、マニュアル通りにはいきません。曲目、奏者、演奏箇所によって、想定外のような問題をクリアして、一つの音楽をオケ全員で作りに上げていくもので、教科書通りにはいきません。臨機応変にその場に応じた練習が要求されます。一人一人の事前の予習があってこそ、全員が集まらなければ出来ないアンサンブル練習が成立すると思っています。集計結果からは、シラバスの内容と、実際の授業内容の差に戸惑っている学生がいることが見受けられます。

● 問題点

最初は学生の中に、シラバスのみに頼り、プロによる本格的なオーケストラ練習に対応しきれない者もいるのでは、と推察されます。

● 改善の方策

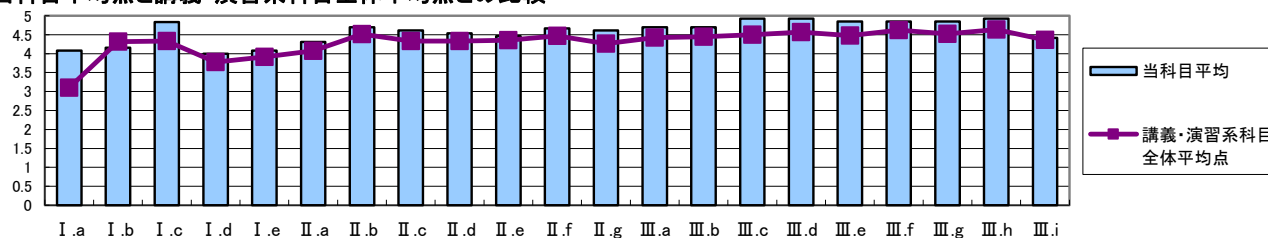
シラバスのみに頼り、マニュアルを思い描くだけではオケの授業、練習に対応出来ない事は言うまでもありません。これはアンケート結果のみならず、普段の授業中にも感じられることで、大概は、本人の準備、練習不足が原因と思われる。またシラバスには、年間に取り上げる曲目全てが記載されてはいませんが、年度始めには練習予定を含めて、演奏センターを通じて事前連絡を徹底しています。オケ合奏の現場では何が起こるか分かりません。経験ある指導陣や演奏要員に助けられながら、実践的に学ぶ場です。そのような中で、様々な技量を持っている学生たちを一人一人見つめ、甘やかすことなく、緊密な人間関係の中からそれぞれに最適な指導方法を模索しながら、丁寧に、より高い次元の音楽に導く事が、我々教官陣に求められる事だと感じています。そのために、休憩中や授業外でも、質問を受けたり、アドバイスをするなどのケアを続けるつもりです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ピアノ指導者を目指すための音楽教育学入門B	職名	専任講師	履修者数	19
教員名	浦川 玲子			回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.08	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.15	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.83	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.08	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.31	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.69	4.52
	c 授業の内容に興味・関心をもてた。	4.62	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.54	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.46	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.62	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.69	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.69	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.92	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.92	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.85	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.85	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.85	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.92	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.42	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度から新設された科目である。ピアノ指導者を目指すにあたり、音楽教育学の視点から思考する力を養うことは必要不可欠であるとの理念のもとに、西洋における音楽教育の歴史の変遷や日本における西洋音楽の導入の歴史、発達心理学、子どものための音楽教育について取り上げ、ピアノ指導者として必要とされる音楽教育の幅広い知識を得ることを目的として講義で行ない、テーマに応じて演習形式も取り入れている。毎回の講義でレジュメおよび詳細な資料を配布し、スライドや音源を活用して講義を進めて行った。毎週火曜日3限時の開講、履修者数は19名（後期は13名）であった。受講者の意欲は高く、熱心な取り組みが見られた。

● 問題点

アンケートの集計結果は概ね非常に良好であり、自由記述も好評価であったが、「2. あまりそう思わない」と回答した率が高かった設問のうち、II-c <授業の内容に興味・関心をもてた>に着目し、次年度の講義内容に工夫を加えていく必要があると思われる。

● 改善の方策

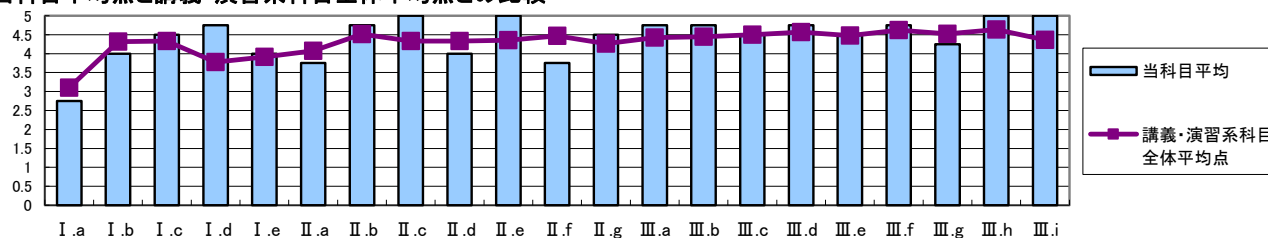
学生にとっては初めて触れる講義内容であるため、難解であるという印象を与えないような講義展開の構成を工夫するとともに、さまざまな形で学生の興味・関心を喚起していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教材伴奏法 I Bb	職名	専任講師	履修者数	4
教員名	平田 紀子			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.75	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.75	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.75	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.75	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.75	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.75	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.75	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.50	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.25	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

教職科目志望の学生による科目。今年度は時間割の関係で受講人数が少なくゼミナール型のレッスンができた。中学校・高校の教科書の伴奏、及びコードネームを見て伴奏を自分で付けていく内容。受講姿勢は大変良好で、各自のピアノに合わせて皆が歌唱するスタイルが保たれている。また、自分で伴奏を付ける授業では、コードネーム初心者が多く、大変興味と関心を持って取り組んでいた。毎回の課題も各自工夫がみられた。

● 問題点

受講姿勢が素晴らしく、技術も高かった。この努力を続ければ教育実習の際にも問題がないと思われる。今年度に関しては授業での問題点はみられなかった。

● 改善の方策

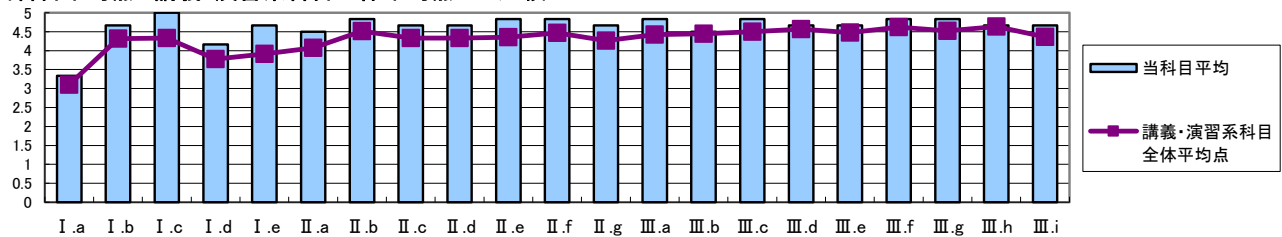
引き続き内容を充実していく。実りのある授業を心がける。コードネームの知識を身につけて自分で考えて伴奏する、という時間は各自の技術にあわせながら次年度も充実させたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽療法的音楽論	職名	専任講師	履修者数	8
教員名	平田 紀子			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.33	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.17	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.83	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.67	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.83	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.83	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.67	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.83	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.83	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.67	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.83	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.83	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.67	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

音楽療法専攻の必修科目(他専攻も受講可)で、今年度は専攻生に加え管弦打から受講があった。各専攻の演奏・創作や介護実習に活かせる内容なので、多くの学生に履修してもらうことは望ましい。音療生にとっては、間もなく始まる施設や病院での実習に必要な楽曲を総体的に学ぶ内容である。よって実際必要にせまれる意味で、自然に意欲も目的意識も高く、集中力の高い授業状況であった。

● 問題点

受講姿勢は問題なく、年度末の試験も優良であった。今年度に関しては問題点はみられなかった。

● 改善の方策

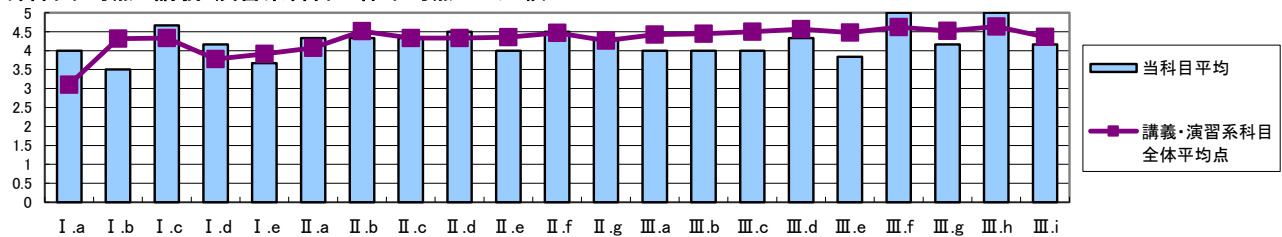
引き続き内容を充実していく。他専攻にも実りのある授業を心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	チェンバロ研究ⅠB	職名	講師	履修者数	12
教員名	梶山 希代			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.67	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.17	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
Ⅱ	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.33	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.33	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.33	4.26
Ⅲ	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.33	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.83	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.17	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.17	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度後期の履修者数は12名でクラスサイズとしては適当である。短大からの編入者も含め意欲的な受講者が多かったと思う。そもそも選択科目であることに加えて、チェンバロという特殊な楽器に興味があるから履修しているはずなので、熱心な受講者が集まるのは毎年のことである。実技演習に関しては、これも例年通りあくまで初歩的アプローチにとどめ、さらに意欲のある受講者にはチェンバロ研究Ⅱの受講を推奨したい。

● 問題点

授業内容および教員の態度に関する設問で、平均を下回った回答について。半数以上が「強くそう思う」または「ある程度そう思う」と回答したのに対し、「どちらとも言えない」という回答があり、どう判断すべきか迷う。教師の側に問題があるのか、あるいは受講者本人が授業に集中していなかったためか？ 自由記述欄にも関連する記述がないため、対策案が立てにくい。

● 改善の方策

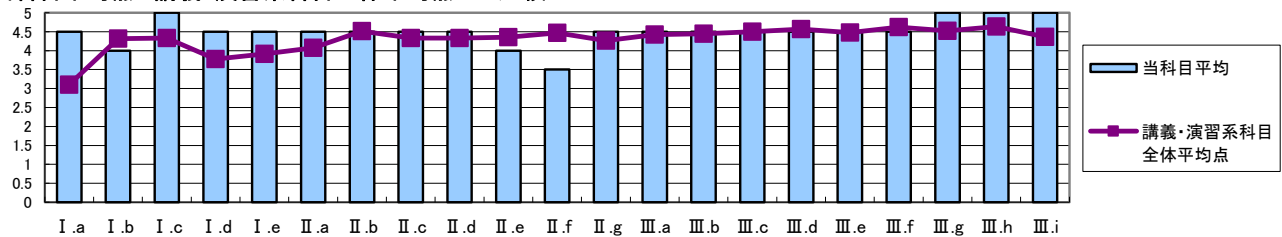
昨今の方針として実力のある学生を伸ばすより、そうではない学生の救済を求められる。少人数のクラスでは非常に難しく、実力が劣る学生のレベルに合わせれば、優秀な学生にとっては当然退屈な授業になる。意識の高い学生の学習意欲を妨げないよう実力不足の学生には演習を強要せず、「良き聴き手」として意見が言いやすい状況を作っていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教材伴奏法ⅡB	職名	講師	履修者数	2
教員名	金井 良次			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.50	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.50	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.50	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.50	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.50	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度に実施された「授業改善のための学生アンケート」の結果を拝読した。平成30年度は受講者が2名（そのうち教職実践専攻者は1名）という最少人数の年度となった。少人数であることは、それなりにレッスンを通して個人の能力に合った指導が可能であり、授業の演習の時間を多くするなど、フレキシブルな対応が可能であった。元来、系統性や持続性が問われる当授業においては、概して学生の知識や理解力に大きな個人差が生じるものだ。欠席すると先に進むのがより困難になる一方で、あっという間に理解してしまう学生にとっては易しすぎるという傾向もある。過去の反省を踏まえ、本年度（平成30年度）はシラバスに改善を加えて、次のように実施した。伴奏能力や伴奏応用能力を向上させるため、教材をもっと系統的に配置し、高い完成度を目指すようにした。そのため伴奏のレッスンをよりたくさん取り入れ、伴奏をする側とされる側の両面から、アンサンブルのあり方を考察させた。当然のことながら中学校の共通教材伴奏だけでは不十分であり、小学校や高校の教材伴奏も学習上主要な教材と位置付けて実施させた。一方では、これまでの授業と同様にコードネームの基礎的な知識や理論に関して、これまで蓄積してきた課題も多数実施させた。無論、今年の2名の学生は向学心旺盛で、より多くの課題や実践に取り組むことで、楽しく有意義に学べたものと確信している。

● 問題点

実践的な伴奏演習の時間を増やしたため、コードネームに関しては取り組む時間が少なくなったのが実情である。深めた知識や理解が、伴奏能力、伴奏応用能力の向上にスムーズに繋がって行かないところに若干のもどかしさを感じないでもない。これは、当授業の2つの大きな柱を結ぶプロセスの系統性と、向上心の高揚を求める教師側の姿勢の問題であり、決して学生の伸び悩みが原因ではない。

● 改善の方策

この授業は、決して受講者の能力を画一的に伸ばして個人差を埋めるのが本来の目的ではなく、個々の持ち得る能力やセンスにいつそう磨きをかけることこそ、意義や喜びを感じて欲しいと思っている。伴奏能力や伴奏応用能力を向上させるため、学生一人一人の必要とする教材をさらに系統的に配置し、高い完成度を目指すようにするべきと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

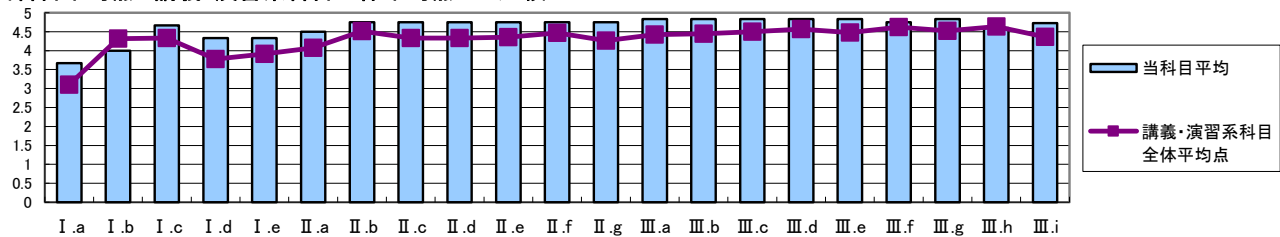
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	加茂下 裕

職名	講師
----	----

履修者数	14
回答者数	12

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.67	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.33	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.33	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.75	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.75	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.75	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.75	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.75	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.83	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.83	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.83	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.83	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.83	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.83	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.60	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.73	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：前年度のソルフェージュ2cクラスの受講生をそのまま持ち上げ、若干の編入生とグレード移動者を加えたクラス。2年間を通じて、音楽を学んで行くために必要なソルフェージュの基礎力を身に付けることを目標として、一貫した計画の下に授業を行った。特に2年間通じて担当した受講生達は、こちらの授業計画や指導法を信頼し、地道に良く努力していたと思う。集計結果にもその辺りのことが良く表れているように思われる。集計結果の分析：このグレードでは、基礎的な内容を充分理解して身に付けさせることと共に、やる気を喚起して音楽を学ぶことに対する興味を失わないようにすること、途中で落伍者を出さないようにすること、等を心掛けて授業に臨むことが大切であると思う。これらの点に関して集計結果を見ると、ほとんどの受講生が、この授業の内容に興味・関心を持ち、内容を理解でき、学習意欲を覚悟して、到達目標に達した、と感じているようであり、成果を実感できる集計結果となっていると思う。

● 問題点

出席状況があまり良くなかった点。後期に1名、出席不良による失格者を出してしまった点が悔やまれる。

● 改善の方策

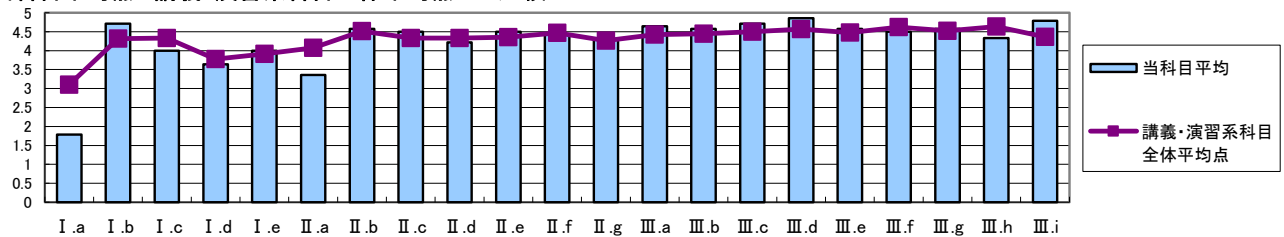
この科目で出席状況が悪くなるのは例年の傾向であり、出席不良者に対しては、早めの対処を心掛けて行くことが大切であると思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ソルフェージュ2a	職名	講師	履修者数	16
教員名	加茂下 裕			回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.79	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.71	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.64	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.36	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.57	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.50	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.21	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.43	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.29	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.64	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.57	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.71	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.86	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.57	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.50	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.57	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.79	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>この数年学生へヒアリングを行うと、身近なコンピュータは「スマートフォン」という学生が大半を占める。インターネットの活用を中心に日常的に利用がある。対して、WindowsやMacintoshといったパーソナルコンピュータを利用する機会については、その頻度は学生によってかなり異なる。本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。この利用方法をコンピュータ上だけではなく、応用して日常生活の中で活用できるよう理解を深める。また情報セキュリティや、近年発達している「IoT」「AI」などの情報技術について基本的な知識を習得する。音楽の発信者としてこれらの情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。履修者の多くが教職課程履修者であることから、教育現場でのPC利用の可能性についても考察する。<内容>

● 問題点

「到達目標に達した」の設問に対し、「どちらとも言えない」という回答が3件あった点。

● 改善の方策

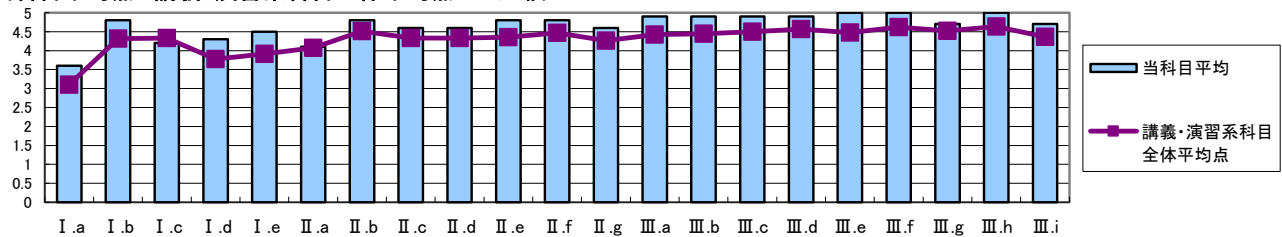
使用した教材・授業内容の理解・学期末試験の結果等に問題はない状況であるので、「到達目標に達したかどうか自信が持てない」という意味での回答だったのではないかと、と思われる。このグレードでは、応用力を高めるために高度な課題を加えることが必要になってくることが多いが、その場合は、到達目標を超えた内容であることを十分に説明し、他人と比べて意気消沈する受講生が出ないように計らっていくことも大切であるように思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽の基礎理論Bb	職名	講師	履修者数	10
教員名	加茂下 裕			回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.60	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.80	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.20	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.30	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.10	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.60	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.80	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.80	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.60	4.26
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.90	4.42
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.90	4.45
	b 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.90	4.50
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.90	4.56
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.70	4.52
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	h あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.70	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：年度初めのグレード分けテストで基礎力が充分でないとされた受講生のクラス。約半数は楽典を学び直す受講生であった。基礎的な内容を分かり易く解説すること、他の音楽科目への広がりを見せながら楽典への興味・関心を高めること、到達目標に達するべく学習意欲を高めるようにサポートすること、等を意識して授業を進めた。楽典のような科目に対し苦手意識の強い受講生達であったと思うが、ほとんどの受講生は、根気強く課題に取り組んでいたと思う。集計結果の分析：ほとんどの受講生が、この科目の内容に興味・関心を持ち、内容を理解でき、学習意欲を持って、到達目標に達した、と回答しており、こちらの意識は良く伝わっていたのではないかとと思われる集計結果である。

● 問題点

授業内容の一部、楽典の知識の応用的な利用（調判定・和音の分析など）に関しての理解が、未だ不十分であると思われる点。

● 改善の方策

ソルフェージュや和声学など、大学2年以降も続く音楽科目の中で、上記の内容について継続して学び続けるよう促して行く必要があると思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

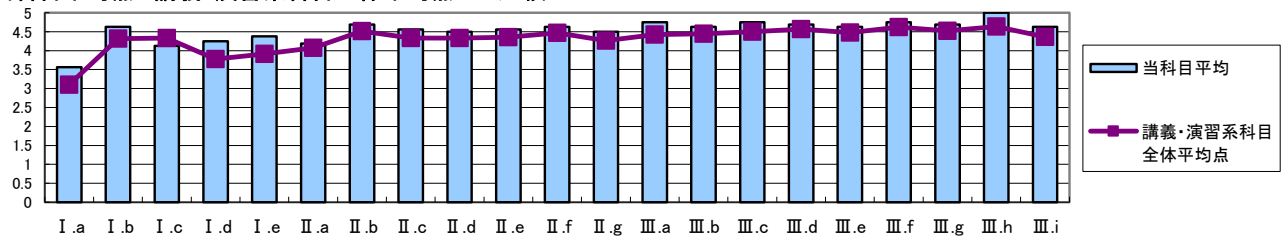
科目名	和声学4a
教員名	加茂下 裕

職名	講師
----	----

履修者数	20
回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.56	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.63	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.13	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.25	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.38	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.19	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.69	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.56	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.56	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.63	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.75	4.42
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.63	4.45
	b 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.75	4.50
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.69	4.56
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.63	4.47
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.69	4.52
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.63	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：前年度の和声学2aクラスの受講生を中心に、2bクラスからの受講生数名を加えたクラス。筆者が担当していたのは2bクラスであったため、当初は多数派の2aクラスからの受講生達に、筆者の指導法の特徴を理解してもらうことにウェイトを置いて授業を進めた。学習意欲があり、学習態度も良く、理解力の高い受講生が多かった。集計結果の分析：ほぼ良好な回答を頂いていると思う。

● 問題点

大きな問題はなかったと思うが、aグレードであったので、学習意欲をもっと刺激する必要があると思う。

● 改善の方策

この科目では、3年次以降の編曲系の科目に向けて、創作することに対する興味・関心を持たせるような工夫を加えることが有効であるように思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

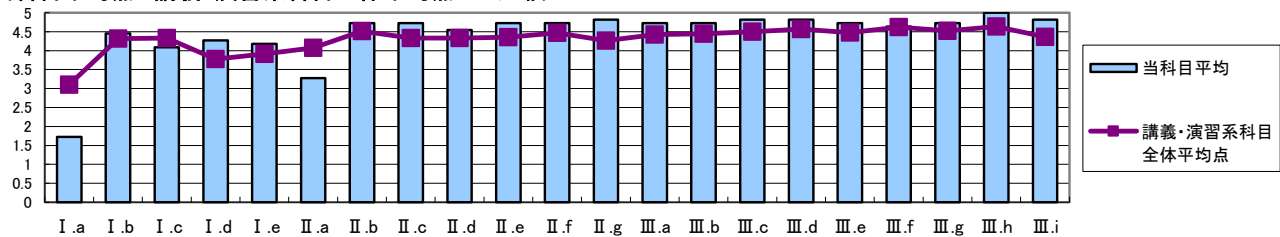
科目名	和声学2a
教員名	加茂下 裕

職名	講師
----	----

履修者数	12
回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点	
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.73	3.10	
	b この授業の出席は良好であった。	4.45	4.32	
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.09	4.33	
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.27	3.77	
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.18	3.91	
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.27	4.07	
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.73	4.52	
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.73	4.33	
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.55	4.33	
	e 授業の内容を理解できた。	4.73	4.36	
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.73	4.47	
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.82	4.26	
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.73	4.42	
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.73	4.45	
	b 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.82	4.50	
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.82	4.56	
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.73	4.47	
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.64	4.62	
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.73	4.52	
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63	
	h			
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.82	4.36	

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：年度初めのクラス分けテストで、点数の高い方からa.bの2クラスに分けた内のaクラス。和声の初学者が半数含まれているクラスであったので、基礎的な内容の解説を充分に行い、理解が進んでいる受講生達には、テキストの中から各自随意に課題を選んで練習することを鼓舞しつつ授業を進めた。学習態度が良く、学習意欲や理解力も高い受講生達であった。集計結果の分析： ほぼ良好な回答を頂けていると思う。

● 問題点

評価の課題点に含めた、提出任意の課題の提出率が、例年のaグレードのクラスに比べて低かったように思う。

● 改善の方策

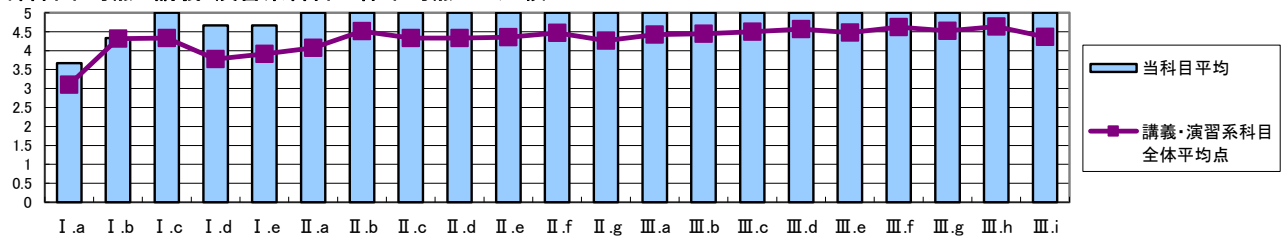
ある程度の評価で満足する受講生が多かったのかもしれないが、更に学習意欲を高める方策を探っていく必要を感じる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	日本の伝統音楽概説	職名	講師	履修者数	4
教員名	黒川 真理恵			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.67	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は、日本の伝統音楽について、実際に楽器を演奏したり、唱歌（しょうが）を歌ったりすることで、理解を深めることを目的とした。具体的には、箏を中心とした和楽器の演習を行った。履修者は4名だったが、そのうち1名は欠席のため、実際の受講者は3名だった。全員が4年生で、内訳は教職実践専攻1名、音楽創造専攻1名（留学生）、声楽専攻1名だった。2名は前期からの継続で、1名は後期からの参加だった。履修者が少なかったのは、水曜日の3時限目で、他の必修科目と重なっていたことが影響したと思われる。この授業は、前期は箏の入門編、後期は応用編という位置づけで、一年間を通して発展的に学習できるようにした。前期では《さくらさくら》と《初夏の小川》の初段を教材とした。箏の基本的な扱い方や調弦法を習得するとともに、右手のオクターヴの手の幅を習得することを目的とした。後期では、地歌《竹生島》の冒頭と最後、《初夏の小川》の二段、《六段の調》の初段を教材とした。地歌《竹生島》では、箏による弾き歌いを行い、伝統的な歌唱の習得を目的とした。《初夏の小川》の二段では、前期に引き続き右手のオクターヴの手の幅を習得した。そして、《六段の調》の初段では、江戸時代初期から伝承されている古典曲の様式を体得し、右手の奏法に加えて、左手の各種奏法を習得することを目的とした。箏に加えて、前期では雅楽と祭囃子、後期では長唄三味線を体験できるようにした。雅楽は、管楽器の旋律を唱歌で歌い、打楽器を代用楽器で演奏した。祭囃子は、締太鼓、当り鉦、篠笛のそれぞれの奏法を習得した。これにより、受講者同士でアンサンブルをすることができ、楽器の準備や後片付けなども協力して行うことができた。アンケートの集計結果は、すべての項目で全体平均点を上回っており、II IIIの回答はすべて5点満点だった。少人数での演習であり、教師の意図や働きかけが上手く学生に伝わったと思われる。自由記述には「琴のことをたくさん学べた。セッションをする楽しさもあった。」という記述があり、アンサンブルなどの学習効果が反映されたと思われる。

● 問題点

①前期で箏の基本的な奏法を習得するため、前期から履修していた学生と、後期からの学生では、箏の奏法の習熟の度合いに差が見られた。回数を重ねることに徐々に差はなくなったが、スムーズな教習のためには、できれば前期から継続して履修することが望ましい。②期末試験は箏の演奏を課しており、試験直前には学生が自主的に練習していた。しかし、普段の授業時は、復習してくるよう指示をしてもなかなか練習してこなかった。

● 改善の方策

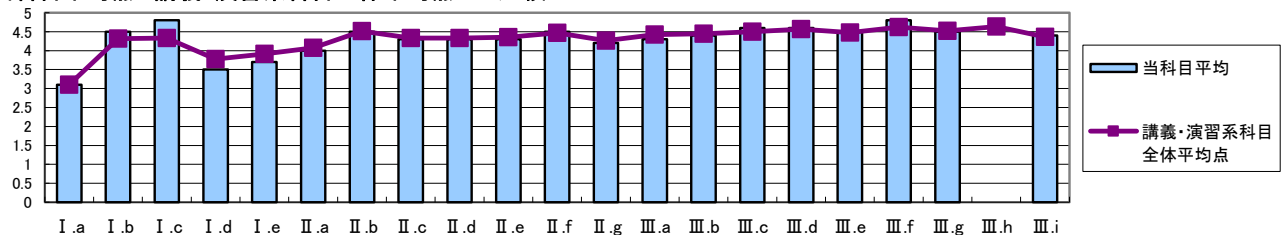
①後期のシラバスに「前期で学んだことをもとに進める」という表記を加えた。初回の授業の際に、前期から継続して履修することが望ましいということを知り、②箏の奏法を習得し、定着させるためには、繰り返し練習することが重要である。普段の授業時から、練習の大切さを説明し、短い時間でもいいので練習してくるよう伝える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	日本音楽史概説B	職名	講師	履修者数	18
教員名	黒川 真理恵			回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.10	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.80	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.70	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.50	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.30	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.30	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.30	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.20	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.30	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.40	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.60	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.50	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.80	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.40	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は、日本の伝統音楽に関する基本的な知識を身に付け、理解を深めることを目的とした。具体的には、伝統音楽の種目ごとに、歴史や重要人物、音楽的な特徴を説明した。授業形態は講義である。履修者数は18名だったが、4名は中止したため、実際の受講者数は14名だった。学年別の内訳は、1年生3名、2年生4名、3年生5名、4年生2名だった。専攻別の内訳は、教職実践専攻2名、演奏専攻3名、ピアノ専攻3名、声楽専攻3名、管楽器専攻1名、音楽療法専攻2名だった。前期から継続して履修した学生が4名おり、学習意欲の高い学生や、日本の伝統音楽に興味を持つ学生が多く見られた。全体的に落ち着いたクラスで、授業中の私語もなく、授業運営がスムーズにできた。クラスサイズも適切だった。アンケート結果のIc「私語を控え学習に集中した」は、4.80と高いポイントであり、教師と学生で同じ認識だったことがうかがえる。この授業は、教職実践専攻は通年で必修だが、それ以外の専攻は前期のみあるいは後期のみの履修が可能である。2017年度までは、半期のみの履修者に向けて、前期と後期でほぼ同じ種目を扱っていた。しかし、アンケートの自由記述に「前期と後期で異なる内容を勉強したい」という意見があったため、2018年度は通年で履修者に向けて、前期と後期で異なる種目を扱った。前期では雅楽、声明、琵琶、能を扱い、後期では三味線音楽を中心に、地歌箏曲、文楽、歌舞伎、近代の音楽を扱った。その結果、それぞれの種目の説明にこれまでよりも多くの時間をかけることができ、丁寧に進めることができた。アンケート結果は、すべての項目で2017年度よりもポイントが上昇しており、なかでもIIIi「総合的な評価」は3.63から4.40に上昇した。アンケートの自由記述には、「知らないことばかりだったので大変勉強になった。教養としても身についた。言葉と映像両方で理解させようとしていた所が分かりやすかった。」という記述があった。学生からの反応もよかったことから、次年度以降も前期と後期で種目を分けて進めることとする。

● 問題点

アンケート結果のI d「予習や復習などをして、授業を理解するように努めた」は、3.50とやや低かった。教科書を読んで予習したり、小テストを課して復習したりするよう伝えたが、毎回の授業で行うことはできなかった。日本の伝統音楽は、学生にとって普段なじみのないことが多いため、予習復習の課題をどのように設定したらいいか戸惑うことがあった。

● 改善の方策

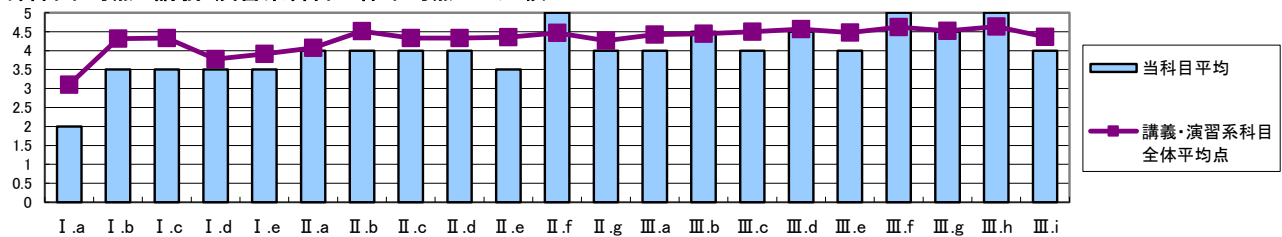
毎回授業の終わりに、次回の授業内容を伝えて、できるだけ教科書を読んで予習してくるよう伝える。小テストやレポートを課して、復習の機会を設けるようにする。予習復習の課題を作成する際は、文化デジタルライブラリーなどのウェブサイトも活用するようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	対位法(Konzertfach)B	職名	講師	履修者数	3
教員名	白石 茂浩			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.50	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	b 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.00	4.50
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.00	4.47
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

対位法Bの授業形態は講義形式を主体としているが、前期の対位法Aよりも課題実習が多い内容のものとなっている。対位法Bの目的とするところは、対位法Aに同じく「対位法に関する知識の習得および既に学んだ機能的和声法と対位法の知識の統合」であるが、対位法Bでは「様々な分析課題を通してAで学んだ知識を確かなものにし、受講生一人一人が『自らの力で楽曲分析・解釈ができるようになる』という目標に歩を進めること」をも目的としている。今年度の受講者数は3名だったが、受講生のほとんどの欠席(公欠含む)日数が多く、学生の学習進度の足並みが乱れた。そこでこれを解消すべく補修授業を行なったが、結果は必ずしも満足のものではなかった。このことはアンケートの設問I e 「この授業を受講して、到達目標に達した」において2名が「どちらとも言えない」と回答している(残る1名は「強くそう思う」に回答)ことに如実に表れていると考える。しかしその一方で設問II e 「授業の内容を理解できた」への回答が「強くそう思う」1名、「ある程度そう思う」が2名となっているのは、受講生が1・2年生時に和声学1～4を受講し、その延長線上で対位法A・Bを受講したためであろうと思われる。

● 問題点

今年度のように受講生のほとんどの欠席日数が多いということはこれまでになく、異例の事態であったと言えるだろう。しかしこのことによって学生に「授業(ことに講義形式の)は段階を踏んで先へ進むものであり、途中の授業を欠席すれば話がわからなくなることがある」「自習をするにしてもそれには限界がある」という意識が希薄であることが明白になった。これには「学生のシラバスの活用が不十分」ということも関わっていると考えられる。

● 改善の方策

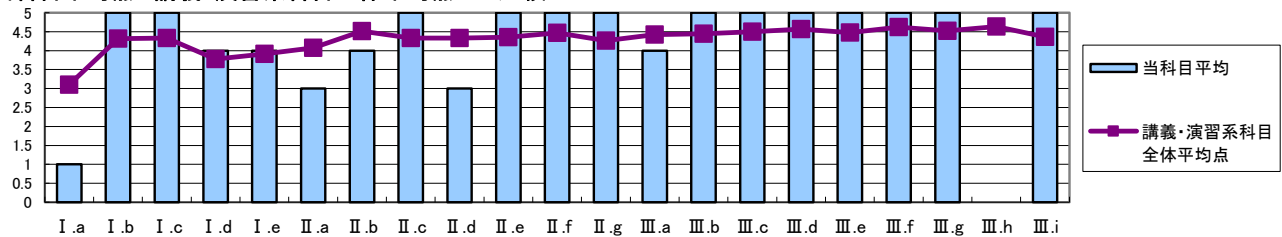
問題点としてあげた事柄および欠席時の自習の仕方について、前期の『授業の進め方の説明』時は言うに及ばず、後期の授業始まり、さらには折に触れて話し、認識させるようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	和声学(Konzertfach)2	職名	講師	履修者数	1
教員名	白石 茂浩			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

和声学（Konzertfach）の授業は1・2年生合同授業になっている。今年度の受講生は1年生1名、2年生3名の合計4名であった。この科目の目的は「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになる」というKonzertfach学生にとっての最終目標に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の知見を得ることである。このため授業は講義形式を主体としながらも学んだ知識を確かなものにするために課題自習を伴うものとなっているが、前期に比べ後期の和声学（Konzertfach）2・4ではこの課題の比率が高くなっている。1・2年生合同授業になっているために学生は同じ内容の和声学（Konzertfach）を二度受講することになっているが、ここには「前期授業終了後にある1年生にとって初めてのウィーン研修までにある程度のところまで授業を進める必要があり授業の進捗が早くなっている」という背景がある。進度の速い授業は学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性を理解しやすくなるが、深く学ぶことに関しては弱くなる。そこで同じ内容の授業を二度受講することになっているのだが、ここでは2年生に、1学年時に学んだ内容をより深く理解できるようになることが期待されている。今年度の2年生はこの期待によく応えてくれたと評価している。そして2年生自身にも理解を深めることができたという実感があつたのだろう。授業中に「去年わからなかったことの意味が、改めて今年学び直してわかるようになってきた」という声を聴くこともできた。2年生のアンケート結果はこのような状況を反映したものであると考える。一方、今年度は1年生もとても努力していた。授業進度の速さからアンケートの設問項目II・IIIにこれだけ「強く思う」と回答する1年生は稀である。このアンケート結果に関しては、これは受講生の努力の反映であると判断する。今年度は受講姿勢の良い学生が集まっていたと考える。

● 問題点

今年度の和声学（Konzertfach）に関しては、十分学生がシラバスを活用していない点がいちばんの問題であると考える。シラバスの授業計画をよく読み、授業内容の流れを把握しておくことは授業内容をより深く理解することにもつながる。学生にはこの認識が希薄であるように思われる。

● 改善の方策

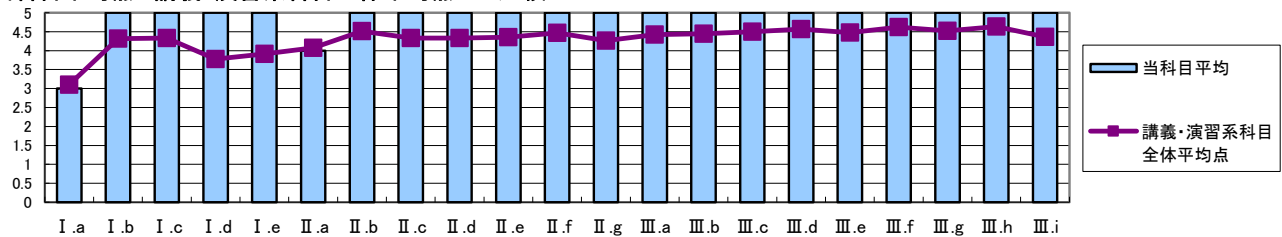
折に触れ、シラバスを活用することを受講生に対して指示する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	和声学(Konzertfach)4	職名	講師	履修者数	3
教員名	白石 茂浩			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

和声学（Konzertfach）の授業は1・2年生合同授業になっている。今年度の受講生は1年生1名、2年生3名の合計4名であった。この科目の目的は「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになる」というKonzertfach学生にとっての最終目標に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の知見を得ることである。このため授業は講義形式を主体としながらも学んだ知識を確かなものにするために課題自習を伴うものとなっているが、前期に比べ後期の和声学（Konzertfach）2・4ではこの課題の比率が高くなっている。1・2年生合同授業になっているために学生は同じ内容の和声学（Konzertfach）を二度受講することになっているが、ここには「前期授業終了後にある1年生にとって初めてのウィーン研修までにある程度のところまで授業を進める必要があり授業の進度が早くなっている」という背景がある。進度の速い授業は学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性を理解しやすくなるが、深く学ぶことに関しては弱くなる。そこで同じ内容の授業を二度受講することになっているのだが、ここでは2年生に、1学年時に学んだ内容をより深く理解できるようになることが期待されている。今年度の2年生はこの期待によく応えてくれたと評価している。そして2年生自身にも理解を深めることができたという実感があつたのだろう。授業中に「去年わからなかったことの意味が、改めて今年学び直してわかるようになってきた」という声を聴くこともできた。2年生のアンケート結果はこのような状況を反映したものであると考える。一方、今年度は1年生もとても努力していた。授業進度の速さからアンケートの設問項目II・IIIにこれだけ「強く思う」と回答する1年生は稀である。このアンケート結果に関しては、これは受講生の努力の反映であると判断する。今年度は受講姿勢の良い学生が集まっていたと考える。

● 問題点

今年度の和声学（Konzertfach）に関しては、十分学生がシラバスを活用していない点がいちばんの問題であると考える。シラバスの授業計画をよく読み、授業内容の流れを把握しておくことは授業内容をより深く理解することにもつながる。学生にはこの認識が希薄であるように思われる。

● 改善の方策

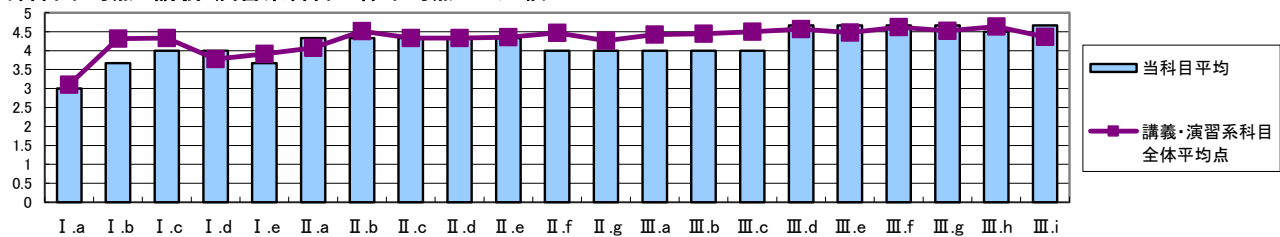
折に触れ、シラバスを活用することを受講生に対して指示する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽の基礎理論B(基礎和声を含む)	職名	講師	履修者数	5
教員名	白石 茂浩			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.33	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.33	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.33	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.67	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.67	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.67	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

基礎理論学習の目的とするところは、近代西洋音楽及びその流れをくむ音楽（以下「近代西洋音楽」と略す）の基礎知識の習得であり、これは近代五線記譜法に関する知識と音階・音程・調・和声学等の知識の二つに大別することができる。前期の音楽の基礎理論Aの主たる目的は近代五線記譜法に関する知識を習得することであった。記譜法だけを取り上げるならばこれは理論と言うべきものではないが、音階・音程・調・和声学等の理論的内容を学ぶためには記譜法について学んでおくことが必要となるため、基礎理論学習はここから始まる。この近代五線記譜法に関する知識の学習を前提として受講される後期の音楽の基礎理論Bの目的は「近代西洋音楽の構成法の基本的理解」である。和声音楽と称される近代西洋音楽において、この構成法を中心となっているものは和声法であるが（そのために科目名にも「基礎和声を含む」とある）、より専門性の高い科目としては対位法・楽式論等があり、基礎理論ではこれらの内容についても触れるところからシラバスには「構成法」とした。ここで受講者についてであるが、人数は4名、うち2名が付属高校から進学してきた学生（高校就学時に基礎理論・和声学を学んでいる）であり、2名は一般高校から進学してきた学生（前期授業開始時にも確認したが、基礎理論・和声学授業未経験者）であった。受講生が少人数であり一人一人に対応することが容易であったこと、授業が講義形式を主体とするものであったことに加え、一般高校からの進学者が熱心に取り組んでいたために大きな問題にはならなかったが、それでも一般高校からの進学者にとっては内容の理解が難しく進み方の早い授業、付属高校からの進学者にとっては多少物足りない授業になっていた可能性は否めない。このような状況がアンケート結果にも反映されていると思われる。

● 問題点

先にも述べたように今回は好条件に恵まれたために大きな問題にはならなかったが（ここでさらに受講生間の良好な人間関係によって一般高校からの進学者が助けられていたことも付言しておく）、受講生の音楽学習履歴の違い。

● 改善の方策

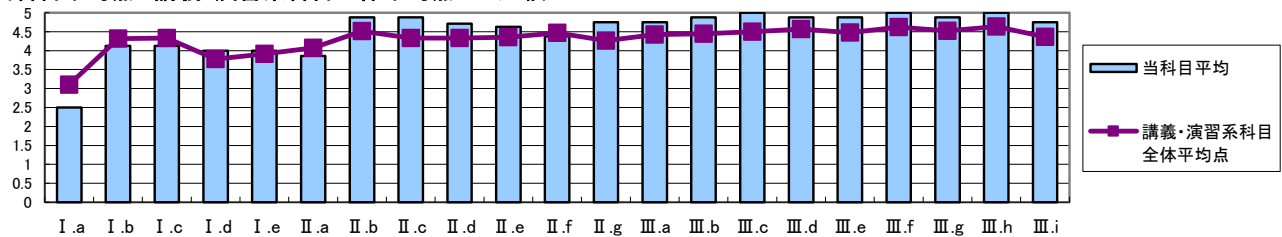
音楽専門用語に不慣れた受講生にとってもわかりやすい言い回しを工夫すること。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	民族音楽学B	職名	講師	履修者数	13
教員名	鈴木 良枝			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.50	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.13	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.13	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.88	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.88	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.63	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.38	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.75	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.75	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.88	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.88	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.88	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.88	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.75	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本講義を受講した学生はシラバスをあまり活用していないということが明らかになった（I.aの結果より）。おそらく学生は本講義に興味があったのではなく、時間が空いていて、単位が取得しやすいといった理由からこの講義を受講したと考えられる。教員としては人数も少なく、さほど興味がないという態度が学生から感じ取られたので、臨機応変にシラバスの内容を変更した。学生の要望に応えるため授業内容を変更した結果、II.aの項目の点数が低くなったという状況に、教員としては複雑な感情を抱いている。一方、それ以外の項目は全体平均を上回っているため問題ないように感じた。

● 問題点

受講者数の問題は教員だけでは変えられない。またシラバスを読むかどうかは、オリエンテーション等での説明にかかっていると思う。

● 改善の方策

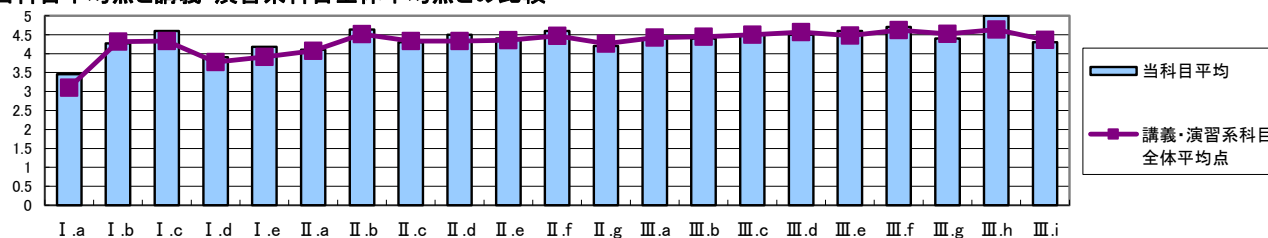
学生へシラバスの重要性を大学運営側に説明して頂くと同時に、魅力あるシラバスを作成する必要を感じた。そのためにも本アンケートの結果通知やシラバスの作成依頼を早目に知らせて欲しい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽心理学B	職名	講師	履修者数	18
教員名	徳富 政樹			回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.45	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.27	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.60	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.91	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.18	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.10	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.64	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.30	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.40	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.60	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.20	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.40	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.40	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行っていた。	4.50	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.60	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.70	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.40	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.30	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業の目的は音楽を実験素材とした心理学実験の解説、及び音楽と自分の性格の関連性を考察することにあつた。履修者は18人で、出席率は70から80%だった。基本的に講義形式ではあったが、心理テストの実習も2回取り入れた。授業改善のための学生アンケートの集計結果を見ると、おおむね全体平均の特典と一致していた。ただし、選択肢において「ある程度そう思う」と回答している学生さんが多いことから、全体として満足しているところまでは言っていないと考えられる。

● 問題点

特に気になったのが「学習意欲を刺激されるものであった」という項目が回答者の半数が「強くそう思う」と回答していないことにある。全15回の90分間の講義を受けるに当たり、この回答内容によってこの時間が有意義なものになっていない可能性が考えられた。

● 改善の方策

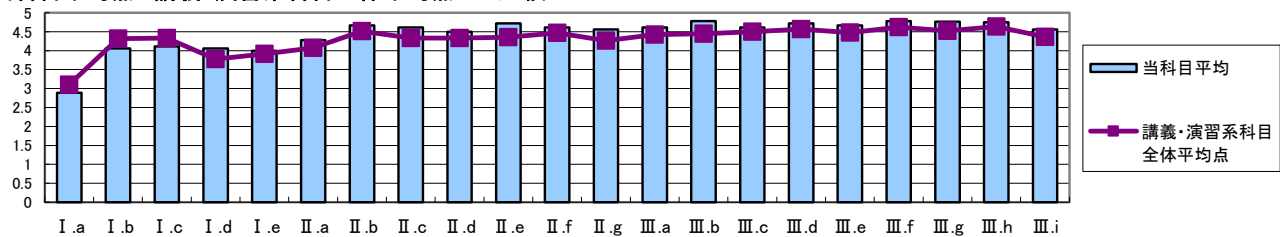
90分という長時間講義を受けるに当たり、学生にとってその時間が役に立ったと感じられるものでなければならぬ。そこで、今後は授業の終わりに、感想や疑問点を毎回紙に書いてもらい、そこから説明が足りない点、学生が興味をもっている点をピックアップできたらと思う。これにより、今現在学生が何を感じているのか、考えているのかを把握することができ、それらを解消することで講義に出席することに意義を感じてもらえるのではないかと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	合唱ⅢBa	職名	講師	履修者数	25
教員名	山崎 正彦			回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.89	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.06	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.11	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.06	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.28	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.61	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.72	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.61	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.56	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.61	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.78	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.61	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.72	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.78	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.76	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.75	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.56	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は、合唱指導場面を想定し、表現の創意工夫に向けた指導方法について、模擬指導としての演習を通して身につけることを到達目標としていた。授業内容としては、合唱指導における集団での声づくり、及び読譜指導の方法を学ぶとともに、合唱指導での創意工夫に向けた具体的な方策について指導演習を通して学ぶことを挙げ、期間を通して重点をおくのは、音楽科教員として身につけておくべき効果的な発問の仕方、音楽の諸要素及び歌詞の意味を視点とする創意工夫の方法、指導者の思い描く曲想づくりを視点とする指導方法についてであった。授業は水曜日第2限 履修者は25名。学生の授業に臨む姿勢や熱意は概して望ましいものであり、個人々に与えられる課題としての合唱指導演習とピアノ伴奏のそれぞれに十分に応えていた。加えて、毎時間、学生に課していた授業記録（ワークシート）への記入状況も素晴らしく、なかには、かなり秀逸なものも見受けられた。そのような現状と学生アンケート結果との乖離はアンケート項目Ⅱ及びⅢについては確認できず、当初掲げていた授業の目的と到達目標は概ね達成することができたものと考えている。とはいえ、シラバス通りに行われていないと感じた者もいることが判明し、この点はウィーン短期留学生への配慮からであったものの、より分かり易い説明が必要であった。いっぽうで、シラバスの活用そのものについての課題もあり、予習や復習への対応等にも改善の余地がある。

● 問題点

アンケート結果には表れてこないが15回授業を通して合唱指導演習を行うため、徐々に演習後に行われる意見交換の場での発言が低調になってきていた。これは、意見が出尽くしたと学生が自覚をしまい重複感を恐れていたためと思われる。また、意見を述べる学生の固定化も見受けられ、司会担当の学生はいるものの、事実上の司会である教員の責任でもある。本授業では、この意見交換が非常に重要であり、その活性化が必須となる。

● 改善の方策

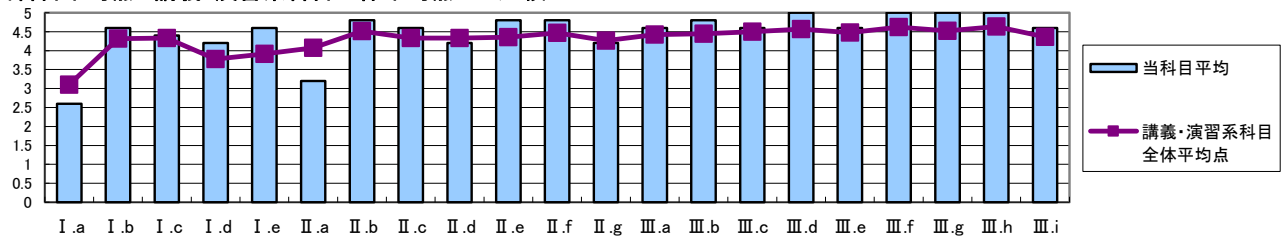
問題点として挙げた意見交換の活性化については、今後、審査役のような役割を設けて、学生が、より自治的に意見交換を行うための方策を適宜交えて、修正すべき点は、すぐにでも修正できるような体制としてゆくことを考えている。予習や復習についても、より具体的な内容や方法を示すことを考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	合唱ⅢBb	職名	講師	履修者数	11
教員名	山崎 正彦			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.60	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.60	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.40	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.20	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.60	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.20	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.60	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.80	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.80	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.20	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.60	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.80	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.60	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.60	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.60	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は、合唱指導場面を想定し、表現の創意工夫に向けた指導方法について、模擬指導としての演習を通して身につけることを到達目標としていた。授業内容としては、合唱指導における集団での声づくり、及び読譜指導の方法を学ぶとともに、合唱指導での創意工夫に向けた具体的な方策について指導演習を通して学ぶことであり、期間を通して重点をおくのは、音楽科教員として身につけておくべき効果的な発問の仕方、音楽の諸要素及び歌詞の意味を視点とする創意工夫の方法、指導者の思い描く曲想づくりを視点とする指導方法についてであった。授業は水曜日第2限 履修者は11名。学生の授業に臨む姿勢や熱意は概して望ましいものであり、個々人に与えられる課題としての合唱指導演習とピアノ伴奏のそれぞれに十分に応えていた。加えて、毎時間、学生に課していた授業記録（ワークシート）への記入状況も素晴らしく、なかには、かなり秀逸なものも見受けられた。そのような現状と学生アンケート結果との乖離は確認できず、当初掲げていた授業の目的と到達目標は概ね達成することができたものと考えている。

● 問題点

アンケート結果には表れてこないが15回授業を通して合唱指導演習を行うため、徐々に演習後に行われる意見交換の場での発言が低調になってきていた。これは、意見が出尽くしたと学生が自覚をしまい重複感を恐れていたためと思われる。また、意見を述べる学生の固定化も見受けられ、司会担当の学生はいるものの、事実上の司会である教員の責任でもある。本授業では、この意見交換が非常に重要でありその活性化が必須となる。

● 改善の方策

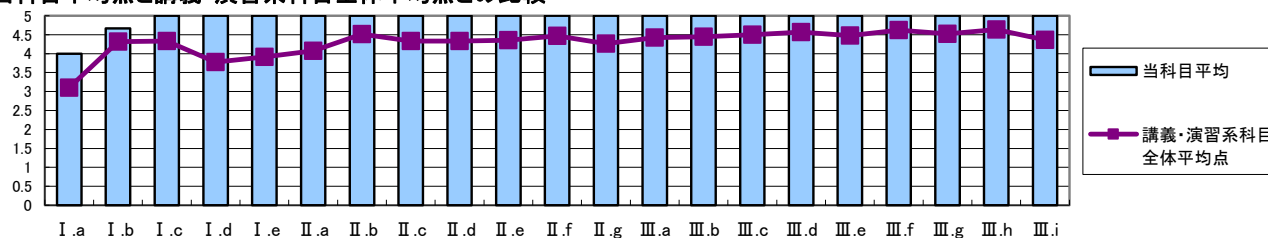
問題点として挙げた意見交換の活性化については、今後、審査役のような役割を設けて、学生が、より自治的に意見交換を行うための方策を適宜交えて、修正すべき点は、すぐにでも修正できるような体制としてゆくことを考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	合唱IVBa	職名	講師	履修者数	5
教員名	山崎 正彦			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は、合唱指導場面を想定し、表現の創意工夫に向けた指導方法について、模擬指導としての演習を通して身につけることを到達目標としていた。授業内容としては、合唱指導における集団での声づくり、及び読譜指導の方法を学ぶとともに、合唱指導での創意工夫に向けた具体的な方策について指導演習を通して学ぶことであり、期間を通して重点をおくのは、音楽科教員として身につけておくべき効果的な発問の仕方、音楽の諸要素及び歌詞の意味を視点とする創意工夫の方法、指導者の思い描く曲想づくりを視点とする指導方法についてであった。授業は水曜日第2限、履修者は5名。授業生5名は教育実習による公欠があり、連続性のなかで知識や技能を獲得する授業性格上、戸惑うことも少なくなかったと思われるが、教育実習経験も生きたという点では、同クラスで学ぶ3年生には生きた手本となっていた。授業態度は5名とも申し分なく、学生アンケートとの乖離は認められない。

● 問題点

3年生との合同であり、着席位置がやはり4年生で固まり年間を通してしまったことが、今となっては悔やまれる点である。これはむしろ、3年生の間に入ることで、彼らによい刺激となりえた。出席率の思わしくない者がおり、最終的にその再確認のために教務課の方にもご迷惑をおかけする結果となってしまった。アンケートには直接現れない深刻な問題であり、今後注意したい。

● 改善の方策

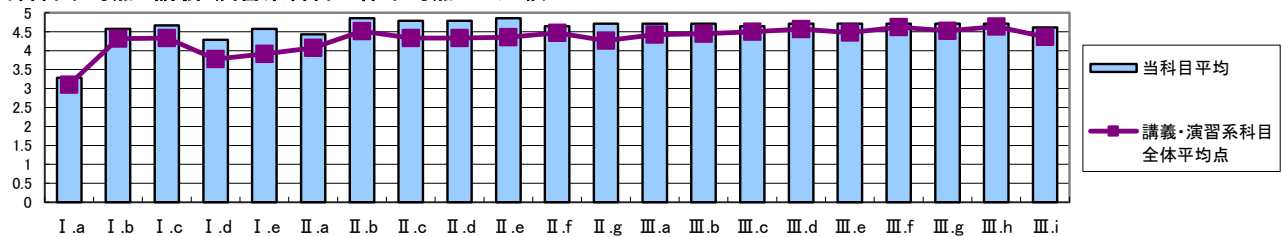
出席状況については、これまで以上にチェックを念入りに行うこととして、授業終了時に欠席者の再チェックと、遅刻者の入室時刻については、特に留意したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	合奏B(和楽器を含む)	職名	講師	履修者数	35
教員名	山崎 正彦			回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.29	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.57	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.67	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.29	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.57	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.86	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.79	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.79	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.86	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.64	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.71	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.71	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.71	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.64	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.71	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.71	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.71	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.71	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.71	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.62	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業の目的は「教育現場で使用されている楽器についての基本的な理解を図ること」「その演奏方法を習得しアンサンブル及び合奏を行う」であり、到達目標を「楽器演奏の習熟」としていた。授業の内容は「教育現場で使用されている打楽器、鍵盤打楽器、リコーダー、鍵盤楽器、ギター等についての使用上の注意点や奏法について理解し、中学校及び高等学校用の教科書掲載の楽曲などを器楽用に編曲して、アンサンブルと合奏を行う」としていた。授業形態はグループ活動を基本とする、学生が主体的に活動を進め、教員が適宜、助言や指導を行う、いわゆるアクティヴ・ラーニングの方法によるものであった。開講曜日と次元は水曜日第5限。履修者数は35名、授業はシラバスに記載されていた内容の通りにとならず、変更の必要が生じてしまった。これはウィーン短期留学による学生の公欠への配慮であった。とはいえ、授業そのものは概ね、その目的に沿うことができ、到達目標としての楽器の習熟に全学生が達成していた。その技能を駆使する合奏表現を3グループで行い、それぞれが楽曲編曲、楽器選択、演奏表現練習、合奏練習、合奏発表という過程を成し遂げていた。仮に、教員として教育現場に赴いた際に、とりわけ楽器経験の少ない、あるいは全くない学生にとっては貴重な学びとなったと考える。問題点としては3グループでの活動の進め方であり、1グループがSAフロアで隊形での合奏練習を行う間、他の2グループがSA楽器庫等で楽器を手にしない活動となったことである。それぞれ、教員側が楽器のない場合の活動例「歌合奏」を指示したり、楽譜の修正等を行っていたが、特定の者に任せきりとなることや、気が緩むことなども生じてしまい、時にオフタスクの状態になっていた。平成31年度、改善の方策がないものか、目下、思案中である。学生の評価について。とりわけ、項目1の予習や復習について、必ずしも満足のか、自己分析として必要であった。2及び3に関しては、先に当方が挙げた成果と課題とに沿うものと受け止めている。

● 問題点

学生アンケートからは浮き彫りにならないが、述べたように学生が時にオフタスクの状態に陥ることが問題であり、合奏では特に個々の担当楽器の違いがある。比較的短時間で自分の担当楽器への習熟が済む者と、そうでないものが混在する活動となり、それらで同時進行することに授業としての難しさがある。楽器庫のあるSAの使用を許され、ギターや備品等も購入して頂いていることに報いるためにも改善の方策を模索しなければならない。

● 改善の方策

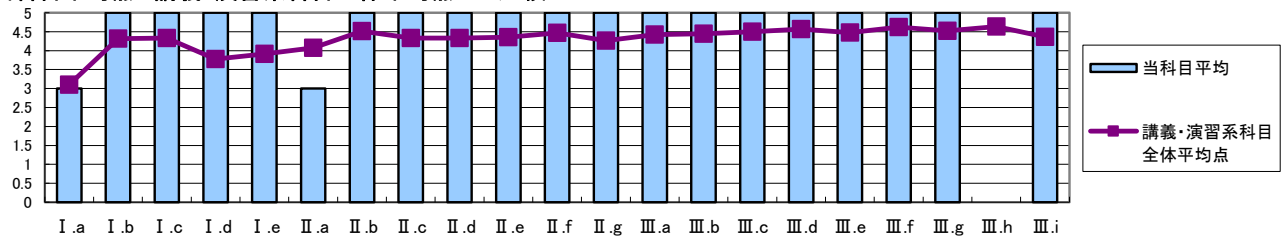
やはり、学生アンケートからは数値的に汲み取ることができないが、グループ活動におけるリーダーシップがポイントであり、それが一定の効果を見せていたことは事実である。それが編曲、楽器奏法、合奏の各局面で大変力となっていた。今後は、そのさらなる工夫(リーダーの交代制等)と、合奏授業では時間との闘いで成し得なかったが、自己分析としての授業カードの活用を考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ソフトウェア演習 I B	職名	講師	履修者数	1
教員名	湯浅 恭子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

＜科目の目的＞本演習では、作編曲を行う者にとって必要な「アイデアを実現するために必要なものは何か」について考え、音楽を制作し伝える際に必要な、実践的なスキルを修得する。コンピュータを利用する・しないに関わらず、アイデアの具現化のさまざまな方法を修得する。講義、課題、発表、実習、これらを通じて総合的な情報統合力と音楽応用力を拡大することを目的とする。＜内容＞楽譜作成に関する基本的な譜面情報・Scoreの書き方についての講義、演習。主に楽譜作成ソフトウェアSibeliusを用いての演習を行う。またMacコンピュータ・音楽制作ソフトウェアの基本操作の習得、コンピュータ内で情報を適切に管理する習慣付け、コンピュータのしくみ・OSなど基本的な構造についての学習。音楽制作ソフトウェアはDigital Performerを使用しMIDIを用いて制作を行う。＜状況説明と分析＞金曜日1時限、履修者数1名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータミュージック演習室にてMac PCを使用。履修者は音楽創造専攻生が対象で、本年は2年生1名の履修であった。そのため、学生の進捗や音楽制作に対する方向性などに合わせて進める部分も多くあった。履修学生は普段からソフトウェアを用いて譜面作成を行っており、Sibeliusを用いて応用的な操作や特殊な入力方法を使うような内容も扱うことができた。音楽制作ソフトウェアではMIDI入力の基本操作を行った後、楽譜作成ソフトウェアで作ったものを汎用的にデータ移行してMIDIデータの作成を行った。再生されるMIDI音源に対して自身の理想の音に近づけるよう、様々な音色を聴き、データの編集方法などにも興味関心をもって取り組んでいた。後半では、自身のアイデアを伝えるための企画書や発表資料などの作成も同時に行った。興味関心のあることに対しては非常に意欲的に取り組むことができたが、苦手なことに対しては意欲が大きく下がってしまう傾向にあった。

● 問題点

- ・履修時のシラバスの活用。・授業はシラバスに沿って行われていたか。

● 改善の方策

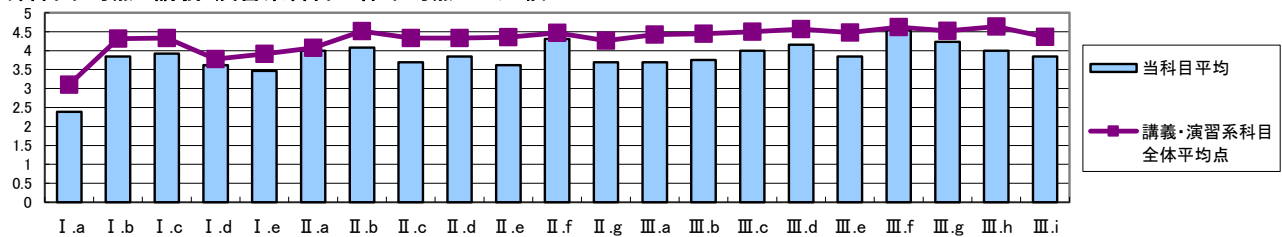
「履修時のシラバス活用」については、第1回目の講義時に全体でシラバスを確認する。各講義時にも内容や進捗を随時確認し、各回でどのようなことを学んでいるかの意識づけができるような進捗をする。学生が苦手なことに対して、もう少しじっくりと取り組むことができるとよかったのではないかと感じる。苦手意識を持つ理由をまず見極めて、それに向き合えるような指導をし、フォローができるような体制を作れるよう努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	和声学4b	職名	講師	履修者数	18
教員名	横山 裕美子			回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.38	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.85	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.92	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.62	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.46	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.08	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.69	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.85	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.62	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.31	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.69	4.26
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.69	4.42
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.75	4.45
	b 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.00	4.50
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.15	4.56
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.85	4.47
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.54	4.62
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.23	4.52
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.63
	h	4.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.85	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年次和声学b・cクラスが合併して、2年次bクラスとなったのが、本クラスである。1クラスだけでも個人差が大きいのに、2クラス分ともなればさらに個人差が大幅に広がり、どのレベルに合わせるか、悩ましいことが多かった。授業内容は、テキストとプリントを使い、講義と個人レッスンを組み合わせている。講義の後、和声課題を全員に順番に当てて板書させ添削し、また、1人ずつピアノのところにきてもらって個別に添削・アドバイスをする時間を設けている。これは、和声は1人1人解答が違っているのが個々の添削が欠かせないためである。和声は前年度から内容が繋がっているため、コツコツやっければ努力が実を結びやすい科目である反面、さぼったり休んだりすると、迷子になりやすい面を持つ科目なので、予習・復習の大事さを毎回説明し、あらかじめ欠席がわかっている学生にはコツコツと課題にとりくみ、授業前に質問、添削のため早くきている学生がいる一方、その流れに乗れなかった学生が数名おり、合併クラスのむずかしさを感じた。

● 問題点

I.aはこの科目が必修科目であるからと思われる。合併クラスなので、どちらのレベルに合わせていくか、悩ましいことが多々あった。

● 改善の方策

わからなくなってしまった学生をどうフォローしていくか、もっと工夫が必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

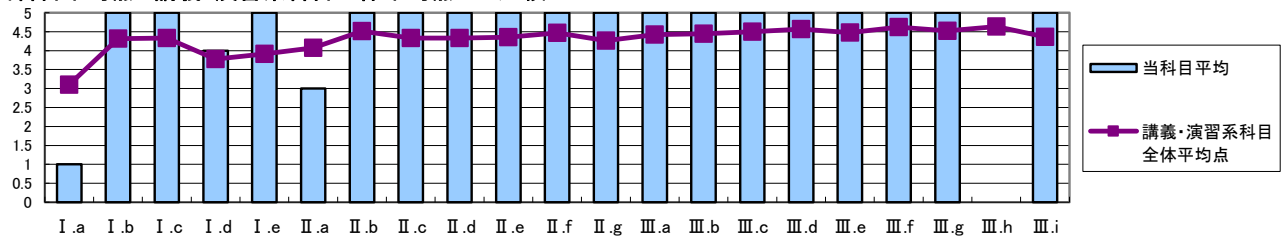
科目名	音楽の基礎理論(Konzertfach)B
教員名	横山 裕美子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

演奏家コースの1年生(打楽器)1名との50分授業である。楽曲の実例から、音楽の基礎理論を学び、後期は作曲家の意図や特性を発見し、より深い演奏河相尺につなげていけるよう、様々な構成の楽曲を取り上げている。

● 問題点

I.aはこの科目が必修のためと思われる。II.aは学生の力や専攻、専攻によって柔軟に変えているからである。密度の濃い授業になるよう工夫を重ねているが、50分間は短い。

● 改善の方策

学生の専攻に合わせ、教材など、なお一層工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽文化論B	職名	教授	履修者数	19
教員名	遠山 菜穂美			回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.77	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.15	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.31	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.69	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.92	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.69	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.62	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.77	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.85	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.69	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.85	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.77	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.69	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.92	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.77	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.85	4.36

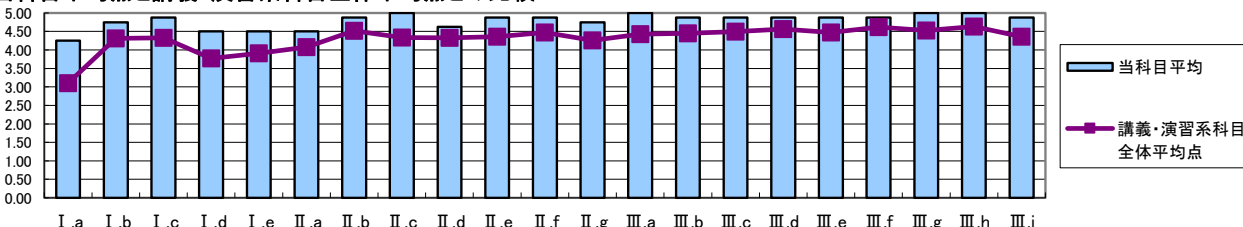
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	作品研究[鍵盤]Bb	職名	教授	履修者数	12
教員名	遠山 菜穂美			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.25	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.75	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.88	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.88	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.88	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.88	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.75	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.88	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.88	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.88	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.88	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.88	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.88	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

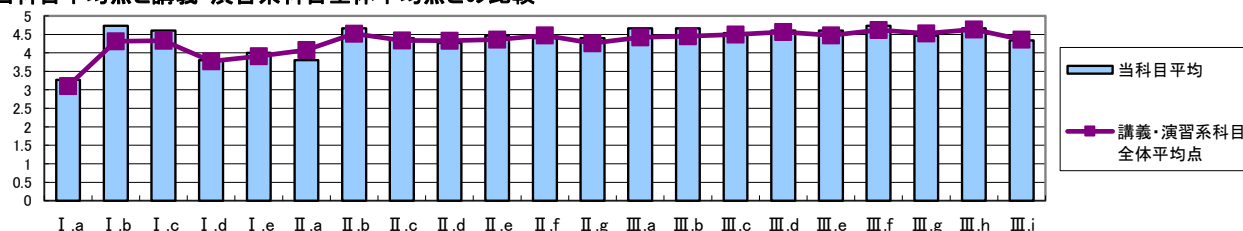


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽史B	職名	教授	履修者数	26
教員名	遠山 菜穂美			回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.27	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.73	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.60	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.80	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.80	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.40	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.47	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.40	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.40	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.67	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.67	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.53	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.60	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.73	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.47	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

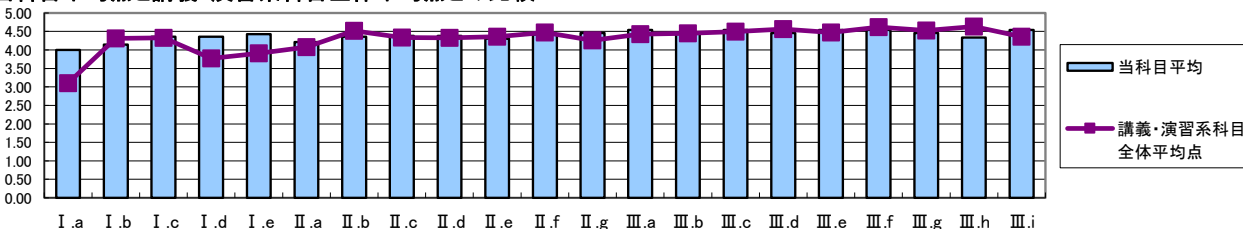
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	作品研究[管弦楽]B	職名	教授	履修者数	26
教員名	遠山 菜穂美			回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.14	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.36	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.36	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.43	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.21	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.36	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.38	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.31	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.42	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.46	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.54	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.46	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.54	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.46	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.54	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.54	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.46	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.54	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

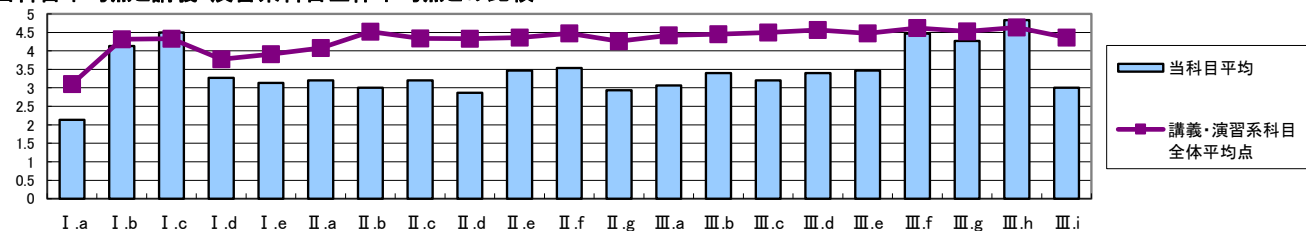


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ベーシックⅠ	職名	特任教授	履修者数	15
教員名	浅野 高瑛			回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.13	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.13	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.27	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.13	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.20	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.20	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.87	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.47	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.53	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	2.93	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.07	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.40	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	3.20	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.40	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.47	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.47	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.27	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.83	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.00	4.36

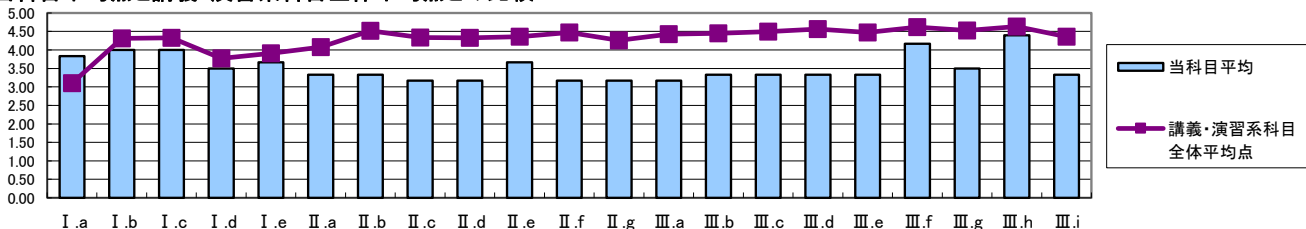
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ベーシックⅡ	職名	特任教授	履修者数	8
教員名	浅野 高瑛			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.83	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.33	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.33	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.17	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.17	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.67	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.17	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.17	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.17	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.33	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	3.33	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.33	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.33	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.17	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.50	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.40	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.33	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

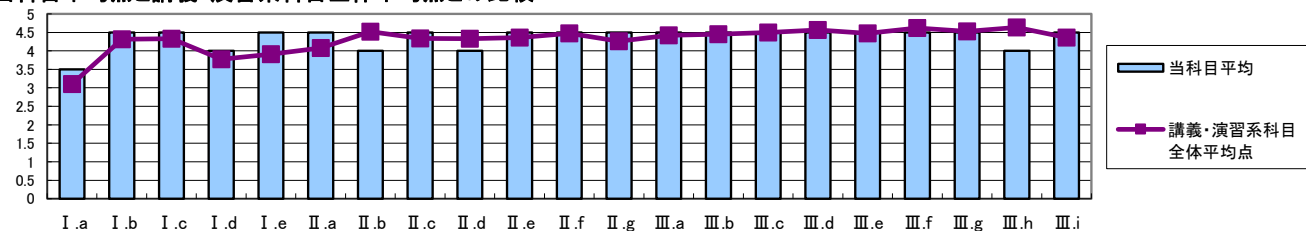


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ペーシックⅢ	職名	特任教授	履修者数	4
教員名	浅野 高瑛			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点	
I	a	この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.50	3.10
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c	授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d	予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e	この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.50	3.91
II	a	授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c	授業の内容に興味・関心を持てた。	4.50	4.33
	d	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e	授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f	クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.50	4.47
	g	授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a	授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b	教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c	授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.50	4.50
	d	教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	e	教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.50	4.47
	f	教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.50	4.62
	g	授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	h	休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.63
	i	あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

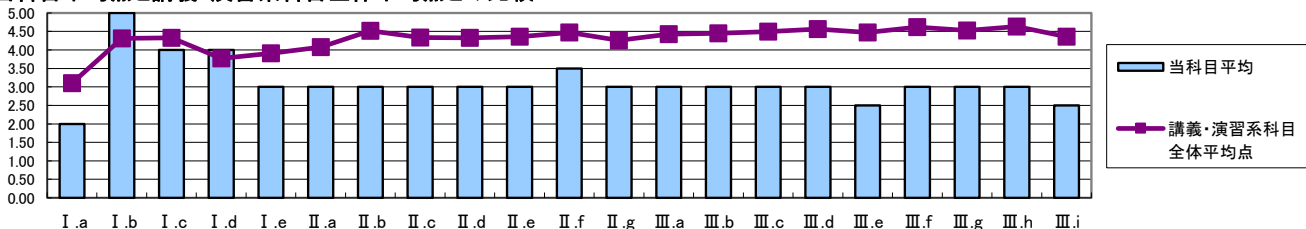
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ペーシックⅣ	職名	特任教授	履修者数	4
教員名	浅野 高瑛			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点	
I	a	この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.00	3.10
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c	授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d	予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e	この授業を受講して、到達目標に達した。	3.00	3.91
II	a	授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	授業のテーマが、はっきりしていた。	3.00	4.52
	c	授業の内容に興味・関心を持てた。	3.00	4.33
	d	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.33
	e	授業の内容を理解できた。	3.00	4.36
	f	クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.50	4.47
	g	授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.00	4.26
III	a	授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.00	4.42
	b	教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.00	4.45
	c	授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	3.00	4.50
	d	教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.00	4.56
	e	教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	2.50	4.47
	f	教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	3.00	4.62
	g	授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.00	4.52
	h	休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.00	4.63
	i	あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	2.50	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

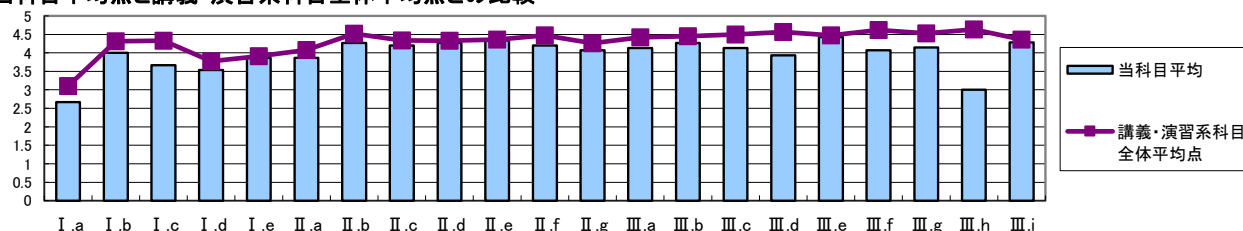


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ホビュラミュージックB〔作曲法・編曲法を含む〕	職名	特任教授	履修者数	31
教員名	荻久保 和明			回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.67	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.53	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.87	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.87	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.27	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.20	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.33	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.20	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.07	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.13	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.27	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.13	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.93	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.43	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.07	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.14	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.29	4.36

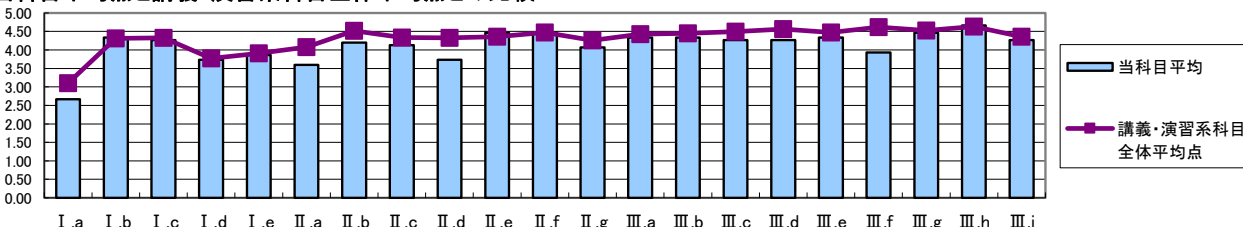
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	合唱 I Ba	職名	特任教授	履修者数	22
教員名	荻久保 和明			回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.27	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.73	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.87	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.60	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.20	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.13	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.73	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.47	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.47	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.07	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.33	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.33	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.27	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.27	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.33	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	3.93	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.47	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.27	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

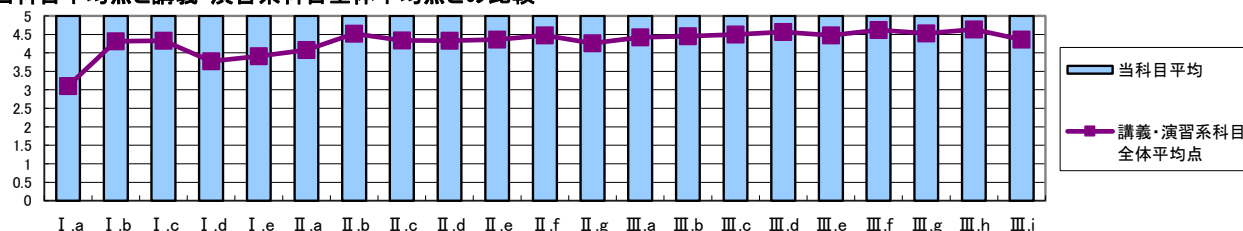


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	合唱 I Bb	職名	特任教授	履修者数	8
教員名	荻久保 和明			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	5.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

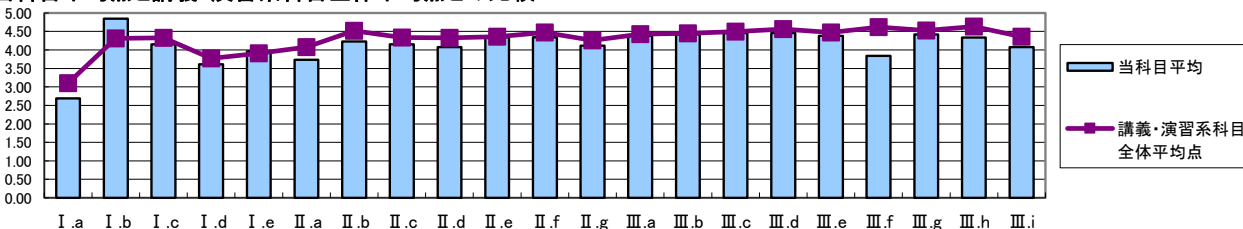
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	合唱 II Ba	職名	特任教授	履修者数	37
教員名	荻久保 和明			回答者数	26

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.69	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.85	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.15	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.62	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.96	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.73	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.23	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.15	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.08	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.35	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.35	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.12	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.38	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.42	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.46	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.46	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.38	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	3.84	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.42	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.08	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	合唱ⅡBb	職名	特任教授	履修者数	13
教員名	荻久保 和明			回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.80	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.80	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.40	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.70	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.70	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.80	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.70	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.90	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.80	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.90	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.90	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.80	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.90	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.90	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.40	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.90	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.90	4.36

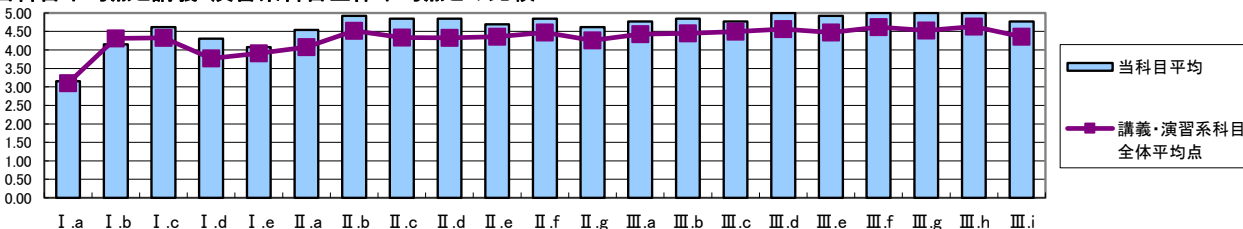
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	指揮法b	職名	特任教授	履修者数	19
教員名	粕谷 宏美			回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.15	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.15	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.62	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.31	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.08	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.54	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.92	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.85	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.85	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.69	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.85	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.62	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.77	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.85	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.77	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.92	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.77	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

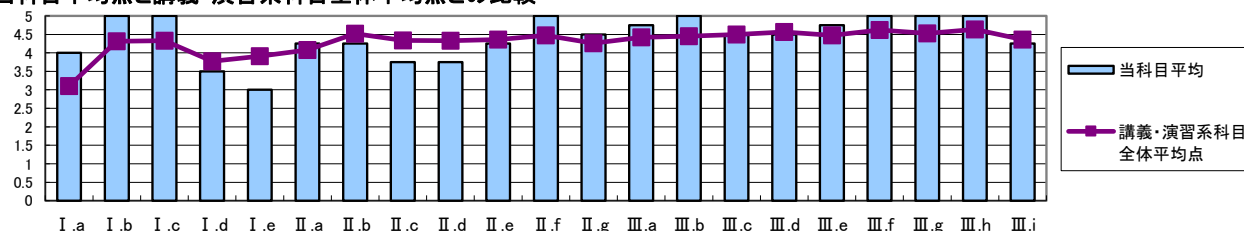


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教職特講(教職実践) I	職名	特任教授	履修者数	4
教員名	粕谷 宏美			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.50	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.25	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.75	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.25	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.75	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.75	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.25	4.36

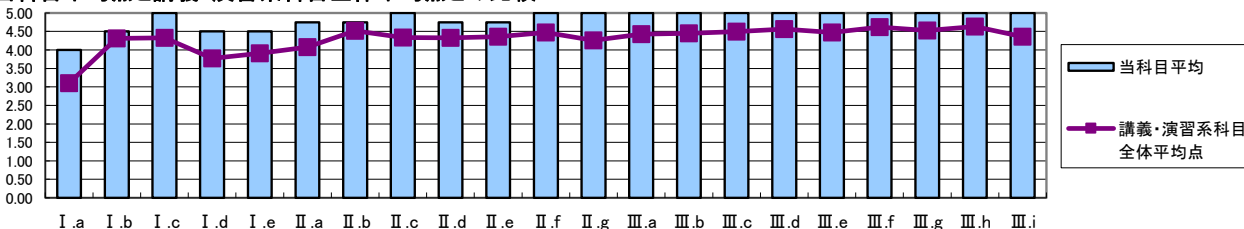
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	教職特講(教職実践) II	職名	特任教授	履修者数	4
教員名	粕谷 宏美			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.75	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.75	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

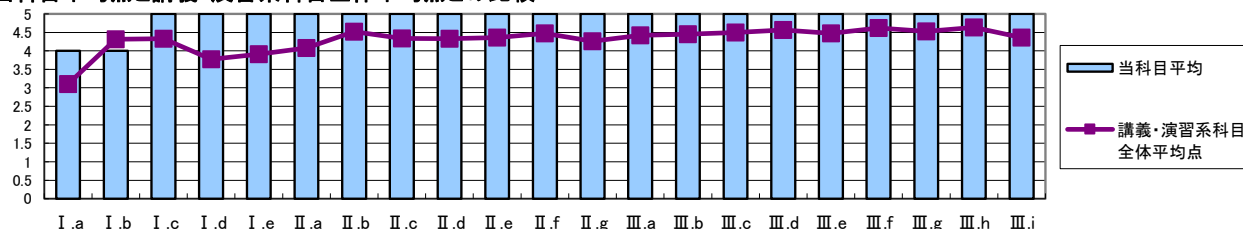


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教職特講(教職実践)Ⅲ	職名	特任教授	履修者数	1
教員名	粕谷 宏美			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	教材伴奏法 I Ba	職名	特任教授	履修者数	26
教員名	久邇 之宜			回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.39	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.44	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.06	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.89	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.44	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.11	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.44	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.44	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.28	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.33	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.94	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.06	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.61	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.28	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.28	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.22	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.28	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.77	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.22	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

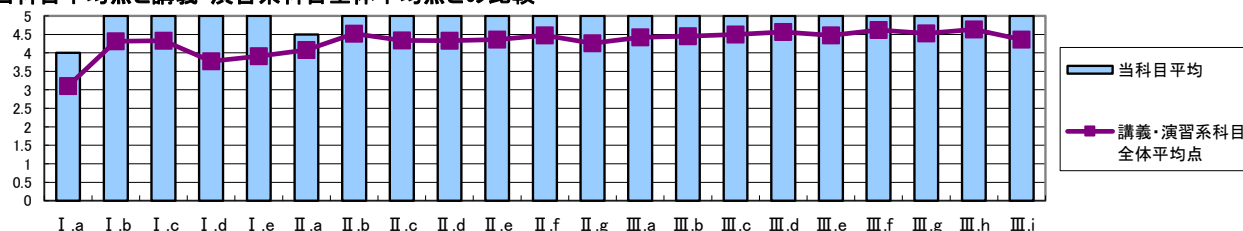


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕c	職名	特任教授	履修者数	2
教員名	佐々木 雄二			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

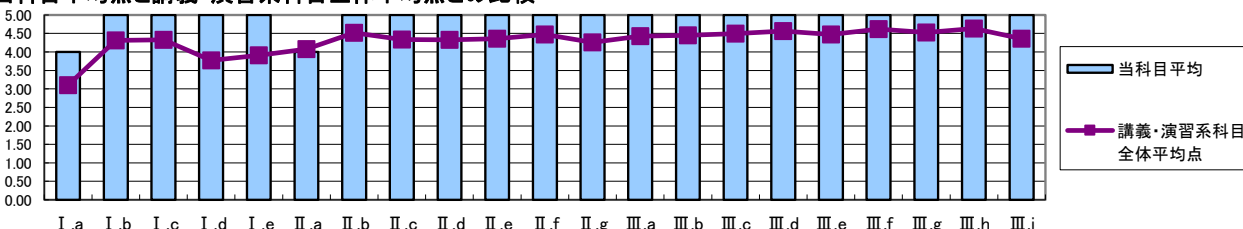
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕c	職名	特任教授	履修者数	3
教員名	佐々木 雄二			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕c	職名	特任教授	履修者数	5
教員名	佐々木 雄二			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.80	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.80	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.40	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.80	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.80	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.80	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.80	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.80	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.20	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.80	4.36

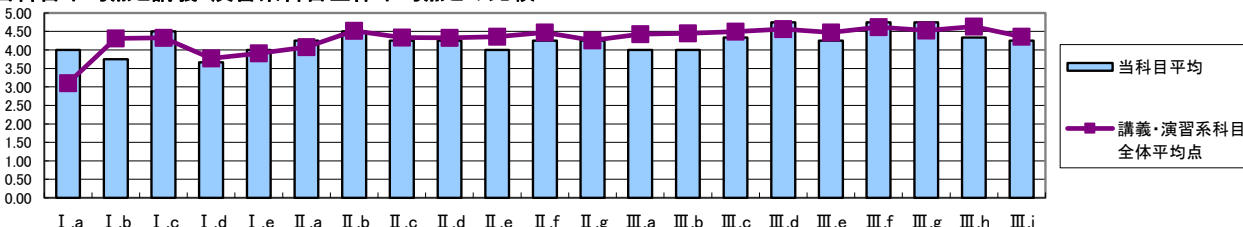
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	P.A.C.S.2	職名	特任教授	履修者数	5
教員名	高橋 幸雄			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.75	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.67	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.50	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.25	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.25	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.25	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.33	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.75	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.25	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.75	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.25	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

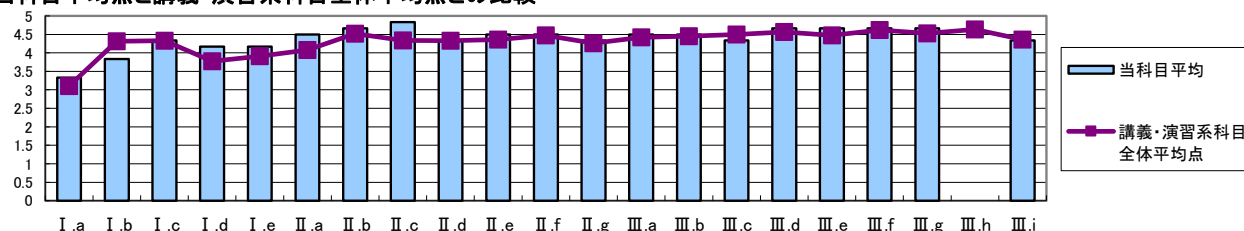


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ソルフェージュ4d	職名	准教授	履修者数	9
教員名	小林 律子			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.33	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.83	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.33	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.17	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.17	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.83	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.33	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.33	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.67	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.67	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

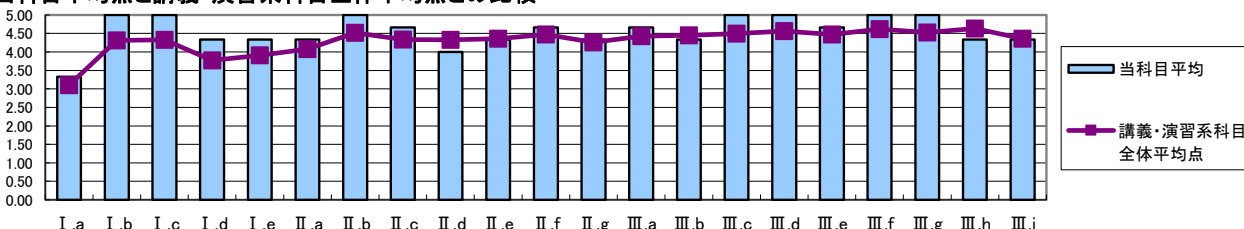
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ソフトウェア演習ⅢB	職名	特任准教授	履修者数	3
教員名	佐倉 繁			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.33	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.33	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.33	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.67	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.33	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.33	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.67	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.33	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

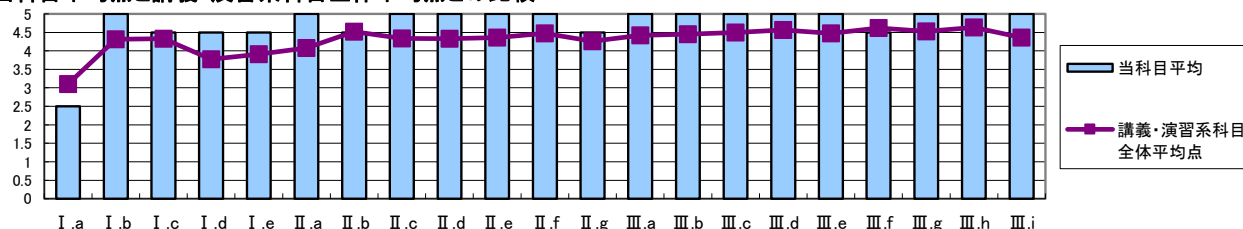


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ソフトウェア演習ⅡB	職名	特任准教授	履修者数	2
教員名	佐倉 繁			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.50	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.50	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.50	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.50	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

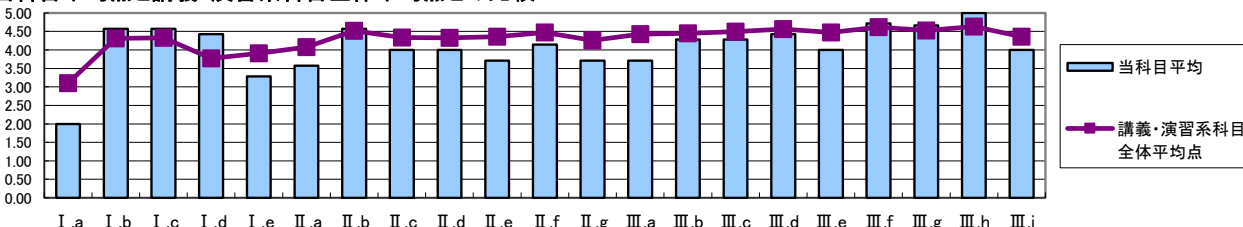
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	メディアデザイン演習8(実習を含む)	職名	特任准教授	履修者数	7
教員名	佐倉 繁			回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.57	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.57	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.43	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.29	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.57	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.57	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.71	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.14	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.71	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.71	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.29	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.29	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.43	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.71	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

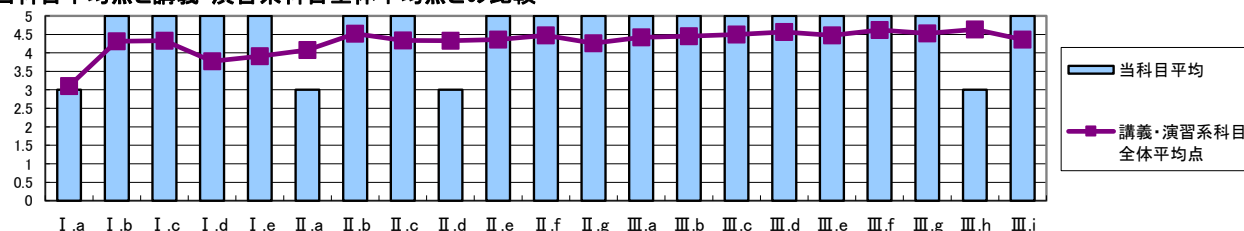


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	メディアデザイン演習6(実習を含む)	職名	特任准教授	履修者数	1
教員名	佐倉 繁	回答者数	1		

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

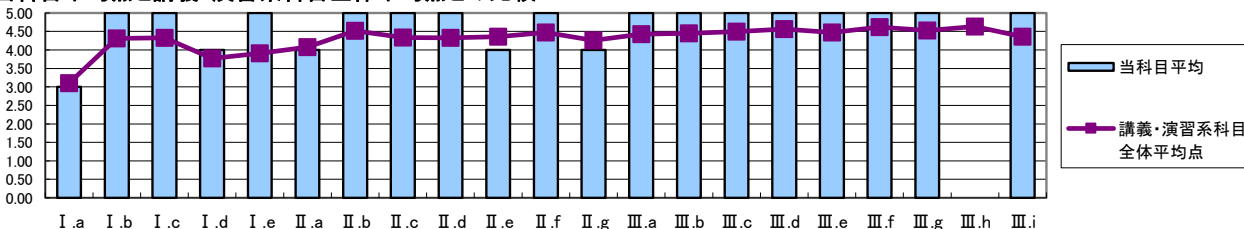
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	メディアデザイン演習4	職名	特任准教授	履修者数	1
教員名	佐倉 繁	回答者数	1		

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ウインドオーケストラⅠB	職名	特任准教授	履修者数	13
教員名	福田 洋介			回答者数	12

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.25	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.92	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.17	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.42	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.75	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.91	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.25	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.17	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.42	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.92	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.92	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.17	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.33	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.08	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.67	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.25	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.50	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.17	4.36

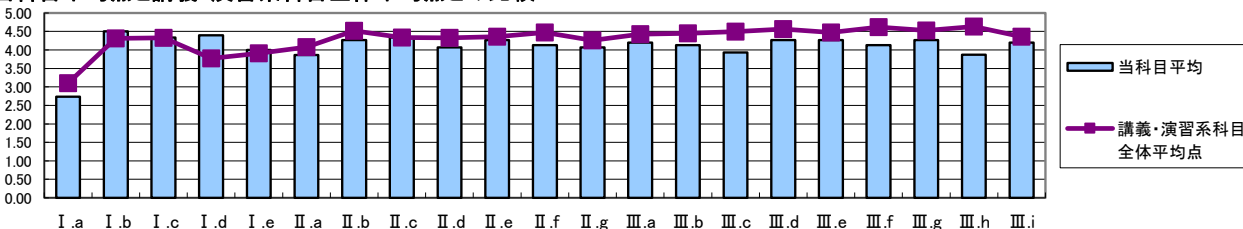
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ウインドオーケストラⅡB	職名	特任准教授	履修者数	16
教員名	福田 洋介			回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.73	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.33	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.40	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.87	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.27	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.33	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.07	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.27	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.13	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.07	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.20	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.13	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	3.93	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.27	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.27	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.13	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.27	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.88	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.20	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

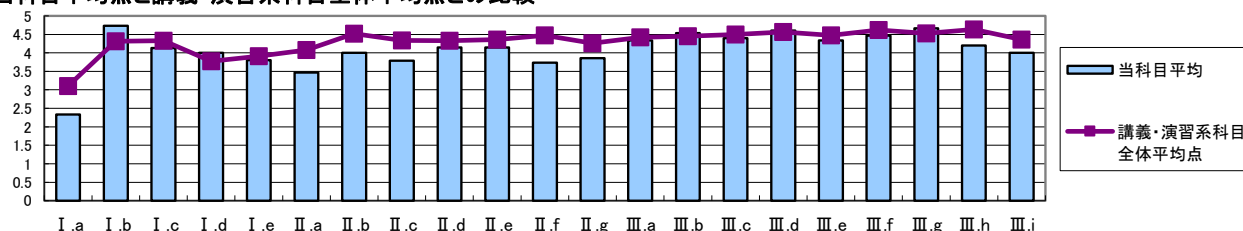


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ウインドオーケストラⅢB	職名	特任准教授	履修者数	16
教員名	福田 洋介			回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.33	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.73	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.13	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.47	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.79	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.14	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.73	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.86	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.33	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.53	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.40	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.33	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.47	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.20	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.00	4.36

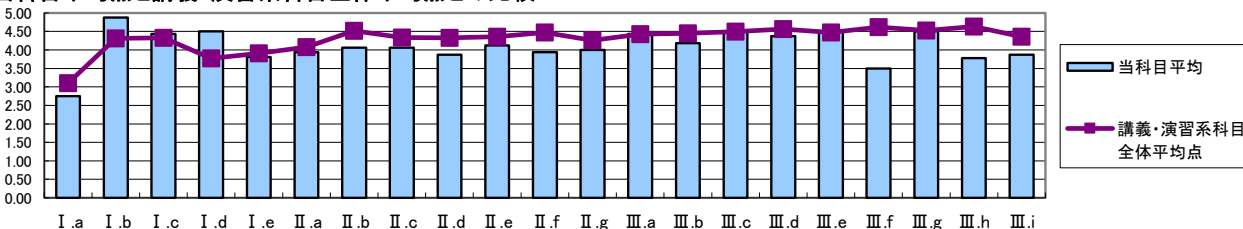
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ウインドオーケストラⅣB	職名	特任准教授	履修者数	17
教員名	福田 洋介			回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.75	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.88	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.44	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.81	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.94	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.06	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.06	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.88	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.13	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.94	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.44	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.19	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.38	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.50	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	3.50	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.78	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.88	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

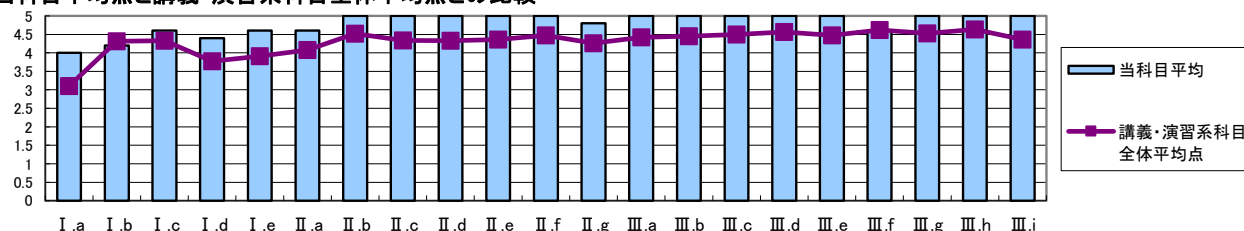


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オペラ研究ⅠB	職名	特任准教授	履修者数	5
教員名	松本 重孝			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.20	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.60	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.40	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.60	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.80	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.60	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

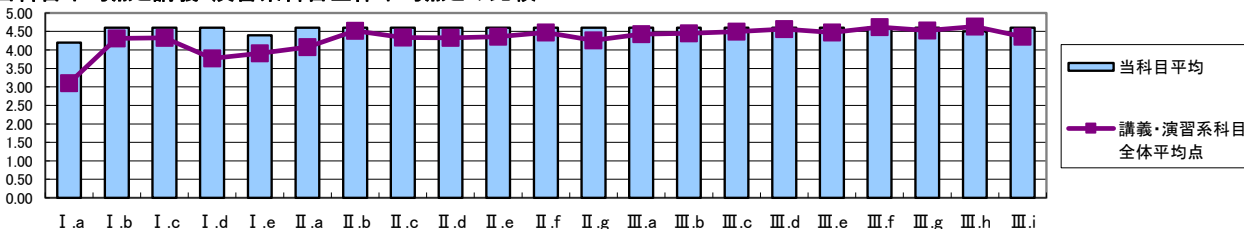
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	オペラ研究ⅡB	職名	特任准教授	履修者数	5
教員名	松本 重孝			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.20	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.60	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.60	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.60	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.40	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.60	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.60	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.60	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.60	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.60	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.60	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.60	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.60	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.60	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.60	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.60	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.60	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

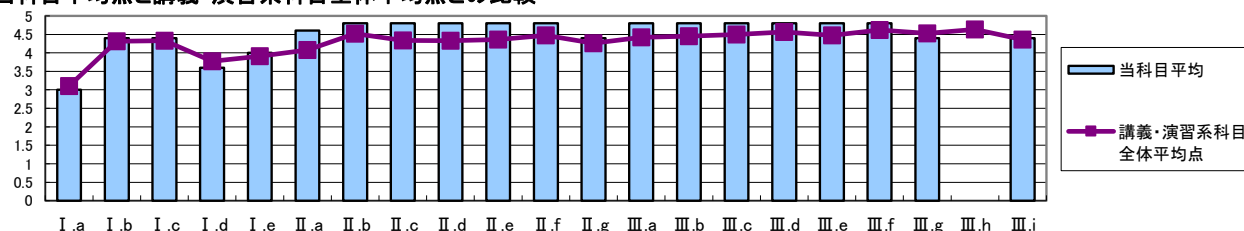


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	日本音楽史B	職名	講師	履修者数	5
教員名	阿部 雅士			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.40	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.60	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.80	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.80	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.80	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.40	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.80	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.80	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.80	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.80	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.80	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.80	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.40	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.40	4.36

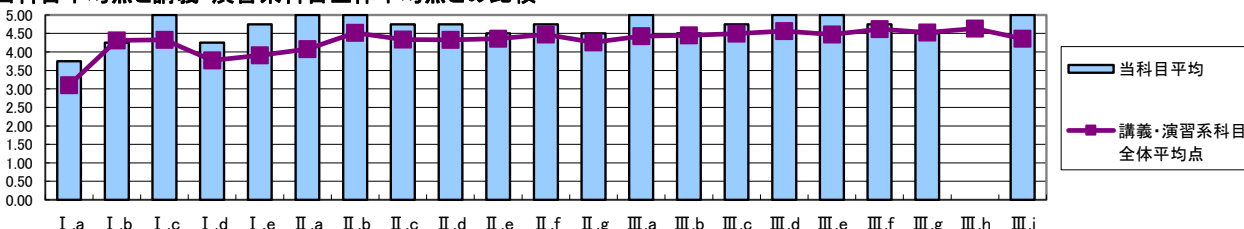
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	キーボードハーモニーB	職名	講師	履修者数	7
教員名	新井 雅之			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.75	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.25	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.25	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.75	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.75	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.75	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.75	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

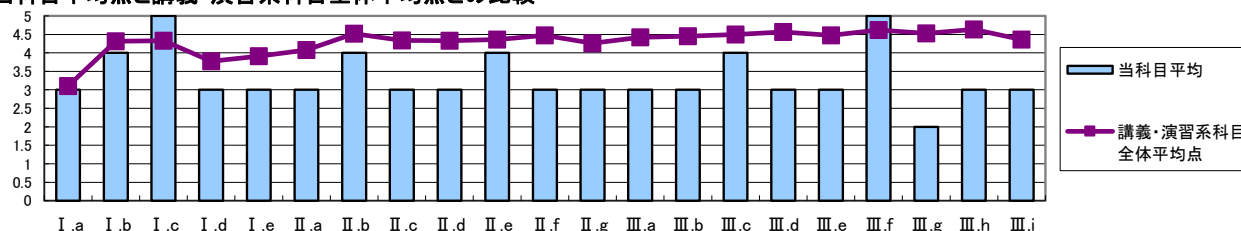


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	対位法B	職名	講師	履修者数	6
教員名	新井 雅之			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	2.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.00	4.36

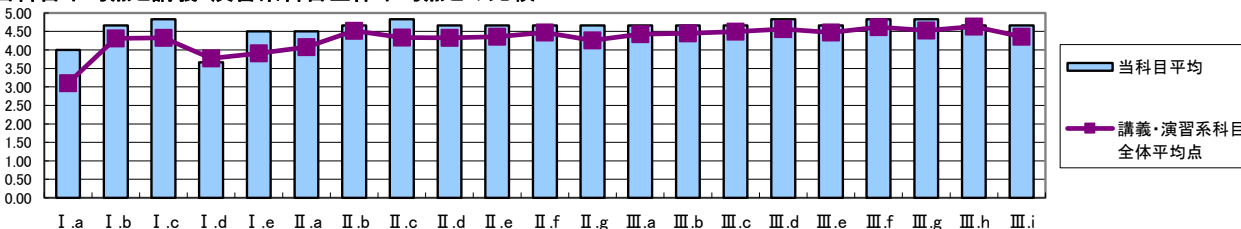
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	作品研究〔歌曲〕B	職名	講師	履修者数	9
教員名	伊藤 制子			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.83	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.67	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.83	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.67	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.67	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.67	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.67	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.67	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.83	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.83	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.83	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.67	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

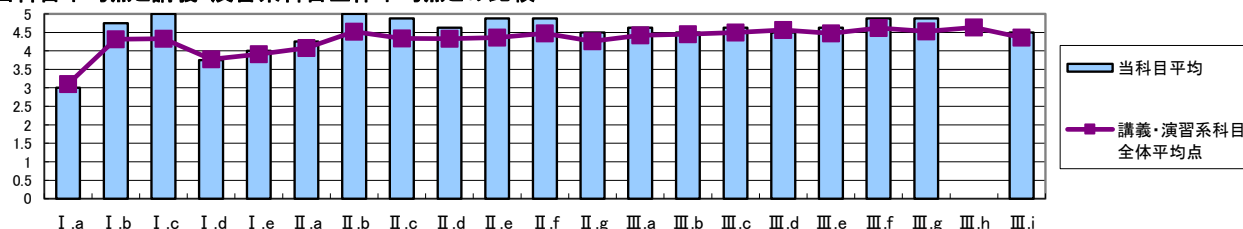


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	作品研究[オペラ]B	職名	講師	履修者数	11
教員名	伊藤 制子			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.75	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.75	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.88	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.88	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.88	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.63	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.63	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.63	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.88	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.88	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

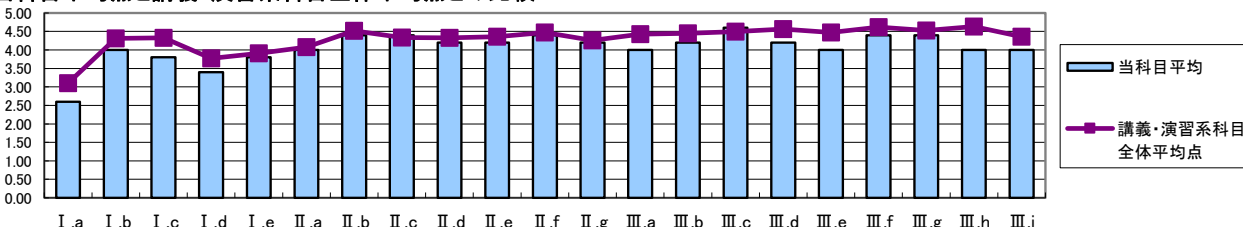
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	楽式論B[作曲法・編曲法を含む]b	職名	講師	履修者数	11
教員名	伊藤 制子			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.60	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.80	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.40	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.40	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.40	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.20	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.40	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.20	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.20	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.60	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.20	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.40	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.40	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

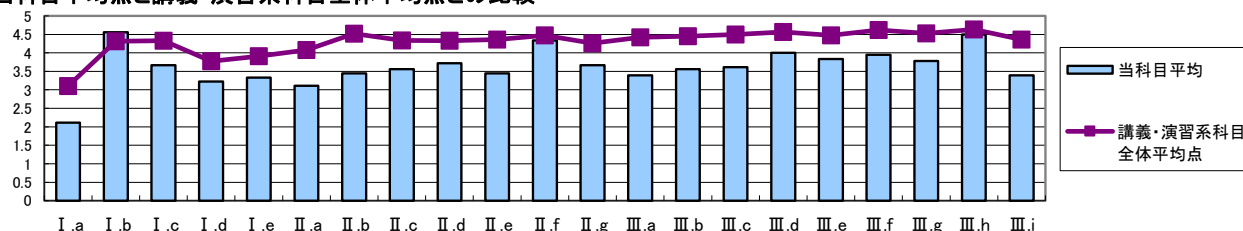


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽の基礎理論Ba	職名	講師	履修者数	19
教員名	田村 治美			回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点	
I	a	この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.11	3.10
	b	この授業の出席は良好であった。	4.56	4.32
	c	授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.67	4.33
	d	予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.22	3.77
	e	この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.33	3.91
II	a	授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.11	4.07
	b	授業のテーマが、はっきりしていた。	3.44	4.52
	c	授業の内容に興味・関心を持てた。	3.56	4.33
	d	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.72	4.33
	e	授業の内容を理解できた。	3.44	4.36
	f	クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.33	4.47
	g	授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.67	4.26
III	a	授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.39	4.42
	b	教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.56	4.45
	c	授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	3.61	4.50
	d	教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.00	4.56
	e	教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.83	4.47
	f	教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	3.94	4.62
	g	授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.78	4.52
	h	休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i	あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.39	4.36

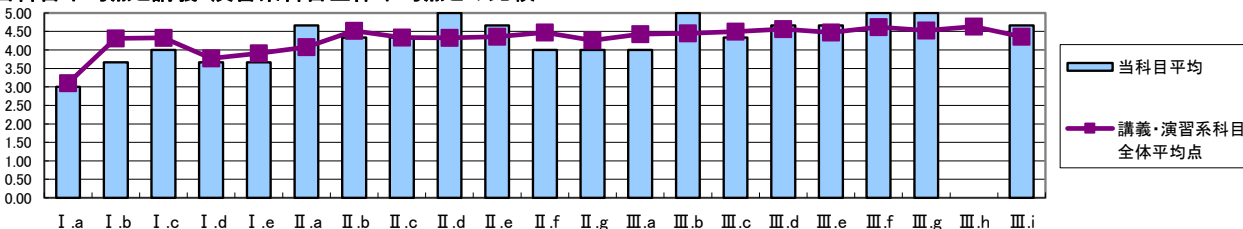
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	楽式論B[作曲法・編曲法を含む]a	職名	講師	履修者数	9
教員名	田村 治美			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点	
I	a	この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b	この授業の出席は良好であった。	3.67	4.32
	c	授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d	予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.67	3.77
	e	この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
II	a	授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.07
	b	授業のテーマが、はっきりしていた。	4.33	4.52
	c	授業の内容に興味・関心を持てた。	4.33	4.33
	d	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e	授業の内容を理解できた。	4.67	4.36
	f	クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.00	4.47
	g	授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
III	a	授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b	教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c	授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.33	4.50
	d	教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.67	4.56
	e	教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f	教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g	授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h	休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i	あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.67	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ポップスボーカルアプローチB	職名	講師	履修者数	5
教員名	仁科 薫理			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.20	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.40	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.80	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.80	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.80	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.80	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.80	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.80	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.80	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.80	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.80	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.80	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.80	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.80	4.36

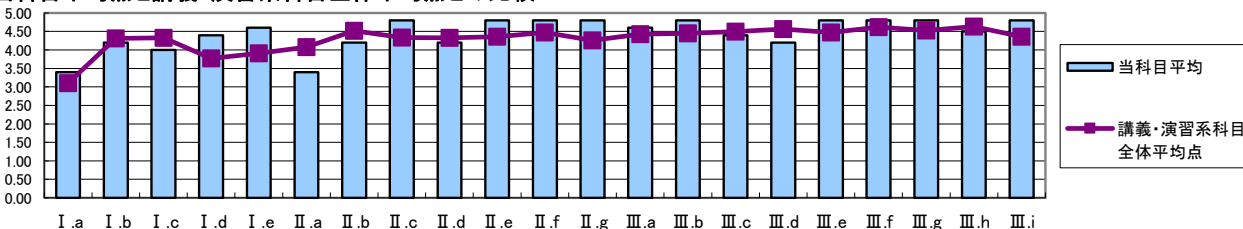
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	西洋音楽史B	職名	講師	履修者数	5
教員名	信田 かずお			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.40	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.20	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.40	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.60	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.40	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.20	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.80	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.80	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.80	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.80	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.60	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.80	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.40	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.20	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.80	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.80	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.80	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.80	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

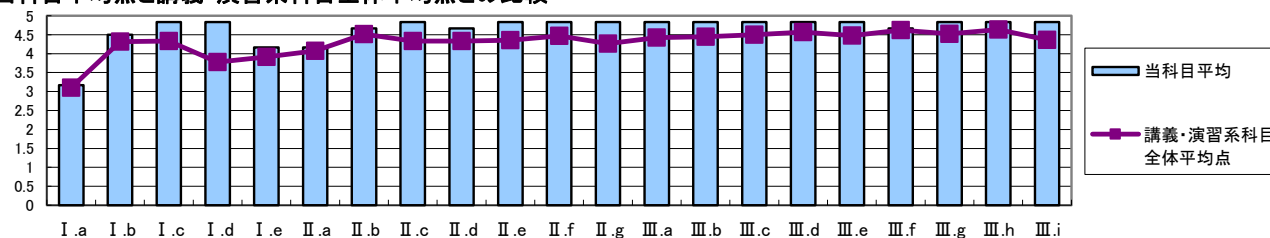


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽療法の理論と技法B	職名	講師	履修者数	8
教員名	二俣 泉			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.17	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.83	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.83	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.17	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.83	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.83	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.83	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.83	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.83	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.83	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.83	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.83	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.83	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.67	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.83	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.83	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.83	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



基礎教育科目

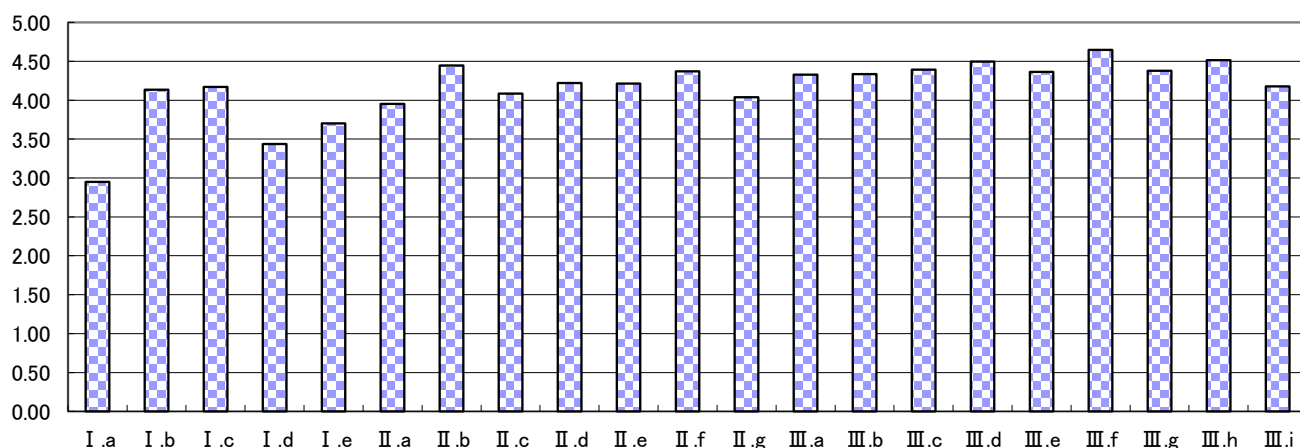
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	基礎教育科目
科目数	45

履修者数	695
回答者数	516

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	2.95	89	103	139	62	122	515	1
			17.3	20.0	27.0	12.0	23.7		
	b	4.14	254	136	76	39	10	515	1
			49.3	26.4	14.8	7.6	1.9		
	c	4.17	237	165	83	24	6	515	1
	46.0		32.0	16.1	4.7	1.2			
d	3.44	126	128	151	65	45	515	1	
		24.5	24.9	29.3	12.6	8.7			
e	3.70	131	175	154	35	20	515	1	
		25.4	34.0	29.9	6.8	3.9			
II	a	3.95	196	118	178	11	7	510	6
			38.4	23.1	34.9	2.2	1.4		
	b	4.44	321	124	54	10	6	515	1
			62.3	24.1	10.5	1.9	1.2		
	c	4.08	246	137	81	34	18	516	0
			47.7	26.6	15.7	6.6	3.5		
	d	4.22	277	120	83	22	12	514	2
	53.9		23.3	16.1	4.3	2.3			
e	4.21	245	164	78	20	6	513	3	
		47.8	32.0	15.2	3.9	1.2			
f	4.37	306	117	75	11	6	515	1	
		59.4	22.7	14.6	2.1	1.2			
g	4.04	236	140	86	29	24	515	1	
		45.8	27.2	16.7	5.6	4.7			
III	a	4.33	286	141	67	16	6	516	0
			55.4	27.3	13.0	3.1	1.2		
	b	4.34	290	134	72	15	5	516	0
			56.2	26.0	14.0	2.9	1.0		
	c	4.39	308	128	60	11	8	515	1
			59.8	24.9	11.7	2.1	1.6		
	d	4.50	339	111	50	12	3	515	1
			65.8	21.6	9.7	2.3	0.6		
	e	4.36	305	122	60	20	6	513	3
	59.5		23.8	11.7	3.9	1.2			
f	4.65	394	70	40	8	2	514	2	
		76.7	13.6	7.8	1.6	0.4			
g	4.38	314	115	57	19	8	513	3	
		61.2	22.4	11.1	3.7	1.6			
h	4.52	156	31	33	1	2	223	293	
		70.0	13.9	14.8	0.4	0.9			
i	4.18	273	130	66	25	22	516	0	
		52.9	25.2	12.8	4.8	4.3			

基礎教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

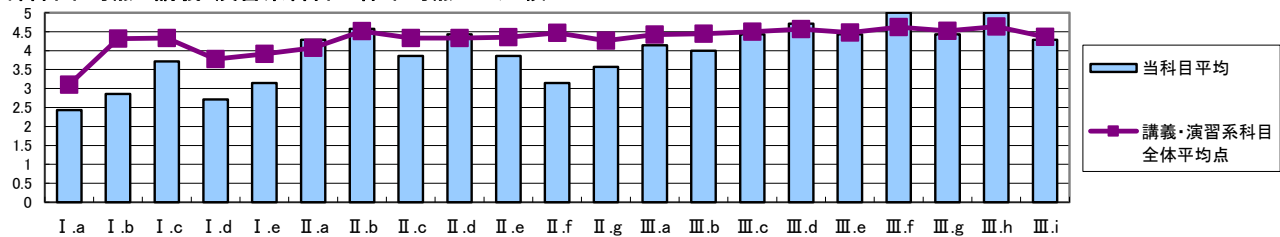
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	川端 敏朗

職名	教授
----	----

履修者数	11
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.43	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	2.86	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.71	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.71	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.14	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.57	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.86	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.86	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.14	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.57	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.14	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.43	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.71	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.43	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.43	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.29	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修をしている学生たちは非常に熱心に受講してくれた。教職課程の必修科目でもあり、できる限り詳細な資料を配布し、また映像等も有効に活用することによって、多くの学生が興味をもつことができ、かつ内容の濃い講義となるように心がけた。講義を始めるにあたって、よく考えることができる内容のものとするように具体的な事例をできる限り採り上げて解説するようにした。履修者の中には講義の度に資料を配布してくれるので、講義内容が理解しやすかったという意見もあり、概ね良好なものであった。

● 問題点

アンケートの結果をみると、学生個人が予習および復習にかかる時間がやや不十分であったように見られるところが残念なところである。

● 改善の方策

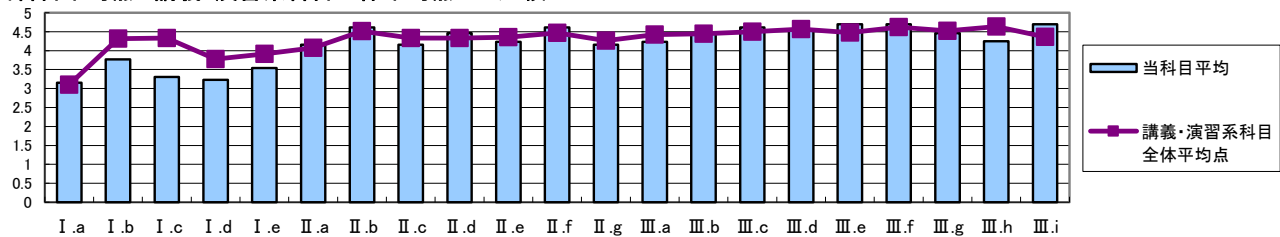
講義内容について十分に理解をするためにも、予習・復習が重要であるということについて、履修者に更に指摘していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	国際理解と交流B	職名	教授	履修者数	21
教員名	川端 敏朗			回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.15	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.77	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.31	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.23	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.54	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.15	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.62	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.15	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.46	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.23	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.62	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.15	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.23	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.46	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.62	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.54	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.69	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.69	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.46	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.25	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.69	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者は22名であって、うち4年生が4名、3年生9名、2年生5名、1年が3名である。本科目は、国際交流のため、多様な考え方や文化、生活様式の違いを踏まえ、相手の立場について理解するために、文化、民族、生活様式のみならず、知的財産権や環境問題、人口問題について考察し、理解するものである。講義内容が多岐にわたり、その切り口も多様なものであったが、学生たちは興味をもって授業に臨んでくれた。多くの配布資料や映像に触れながらの授業であったことや、多様な内容について取り扱い、積極的に考えることができるようなものであったために、学生たちが興味をもつことができたようである。

● 問題点

アンケートの結果から、学生個人が予習および復習にかかる時間がやや不十分であったように見られるところが惜しいところである。

● 改善の方策

予習、復習によって、理解が容易になるだけではなく、今後の学生自身の生活にも有用なものとなることでもあるため、更にその重要性について指摘していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

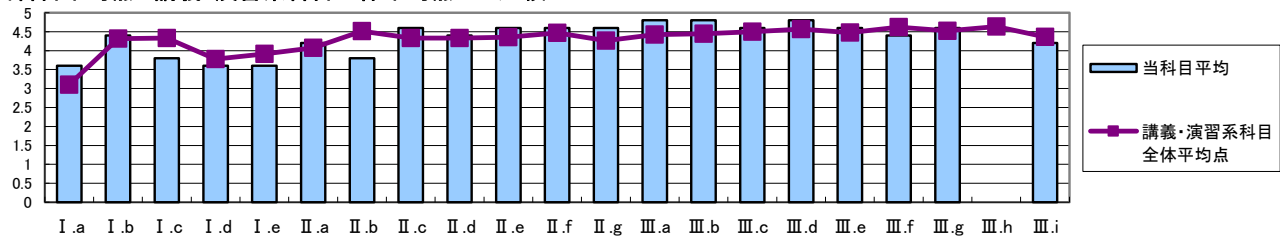
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	川端 敏朗

職名	教授
----	----

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.60	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.80	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.60	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.60	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.60	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.60	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.60	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.60	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.80	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.80	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.60	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.80	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.60	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.40	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.60	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.20	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者は、5名であり、各学生の反応を見ながら授業をすすめることができた。講義の内容については学生の中には、学生たちは非常に熱心に受講してくれた。講義内容についてもできる限り資料を配布し、また映像等も活用して、興味をもつことができるように心がけた。講義を進めていくなかでは、よく考えることができる内容のものとするために、事例問題や国際的な問題にもできる限り触れるものとした。履修者の中には、講義のなかで身近な事柄も交えて進められるので興味をもつことができたという意見や、今まで知らなかった憲法や法律の問題の分かりやすい説明があり、理解しやすい授業であったという意見があった。また、全員が発言しやすい授業で、教員との距離がよい意味で近く楽しい授業であったという意見もあり、非常に好評なものであった。

● 問題点

アンケートの結果から、学生個人が予習および復習にかかる時間が少し不十分であったように見られるところがやや問題である。

● 改善の方策

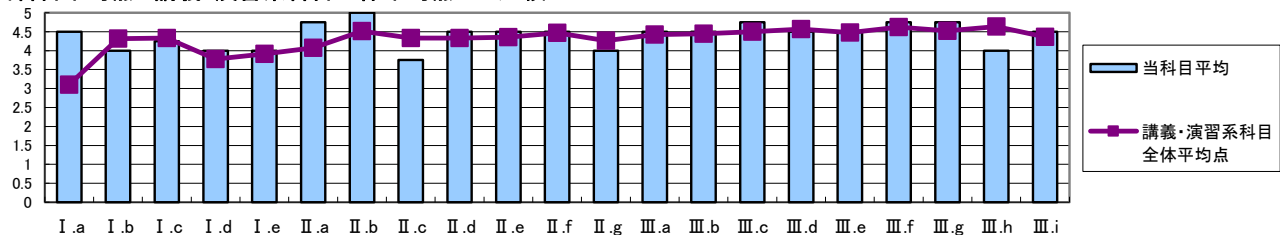
予習、復習によって、理解が容易になるだけでなく、今後の学生自身の生活にも有用なものとなることでもあるため、更にその重要性の指摘を心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	東邦スタンダードB	職名	教授	履修者数	4
教員名	中島 裕紀			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.50	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.25	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.75	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.75	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.50	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.75	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度1期生を迎えた新専攻、パフォーマンス総合芸術専攻の東邦スタンダードの担当をした。前期は、5名、後期は（1名履修済みの学生がいたため）4名の履修者という授業の規模であった。対象となる学生が従来と方向性が違うため、どのような展開になるか不安もある中での出発であったが、小規模ながら、1年間大変和やかにスムーズな授業運営ができた。新設の専攻であることに加え、専攻の特徴から東邦スタンダードの履修が1年間のみという、従来のものとは異なるカリキュラムの中での授業であるため、授業内容の選別、テキストの作成など、独自の方法で行った。また、学生たちの実態や学習意欲を鑑み、シラバスの変更を行い、外部企業等における実習も取り入れた。これらは、生きた形で学生の将来に向けてプラスに働くであろうと期待される。学生からのアンケートや、コメントにおいても、概ね良好な反応があった。

● 問題点

アンケート結果は、4名という少人数のデータであるため、傾向データというよりも、学生個々の考え方と捉えることになる。数字の面においては、マイナスとなる2・1・の段階ほどの項目においてもなため、大きな問題は見られない。また、学内業務による休講はあったが、他の時間帯での振替などを行い授業回数は、守られていた。

● 改善の方策

これまで、7年間にわたり、東邦スタンダードの授業を担当してきたが、このパフォーマンス総合芸術専攻の東邦スタンダードの受け持ちとしては、初であり1年限定の担当となった。来年度は、また別の業務の関わりで他の専攻の東邦スタンダードを担当するが、今年度の経験をそちらでも生かすことができるようにしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

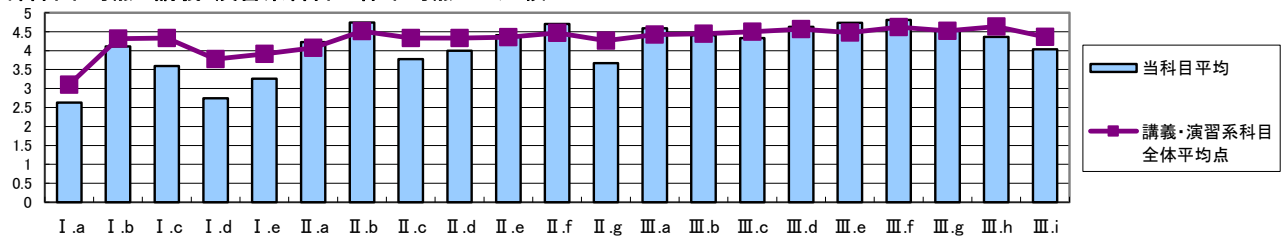
科目名	東邦スタンダードIB
教員名	伊藤 和広

職名	准教授
----	-----

履修者数	30
回答者数	27

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.63	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.11	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.59	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.74	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.26	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.22	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.74	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.78	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.41	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.70	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.67	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.59	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.41	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.33	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.63	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.73	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.81	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.52	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.36	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.04	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、私にとって初めてとなる1年生を担当しました。30名の履修者のうち、27名がアンケートに回答しました。今年度の1年生は、全体として明るく意欲的な学生が多く、また初年度ということもあり、皆、良い意味での緊張感を持って受講していたように感じます。アンケートの集計結果を見ますと、やはり個人差が大きいです。音楽科目ではない講義としては、特に大きな問題はないと考察します。中でも設問IIIの教員に関する部分で高い平均点を得られたことは、私自身の達成感にも大きく影響しました。以上、全体としてシラバスに提示されている科目の目的・内容は、ある程度達成できたということが、今年度の状況です。

● 問題点

初年度という中で、シラバスの活用、予習復習が難しかったようです。

● 改善の方策

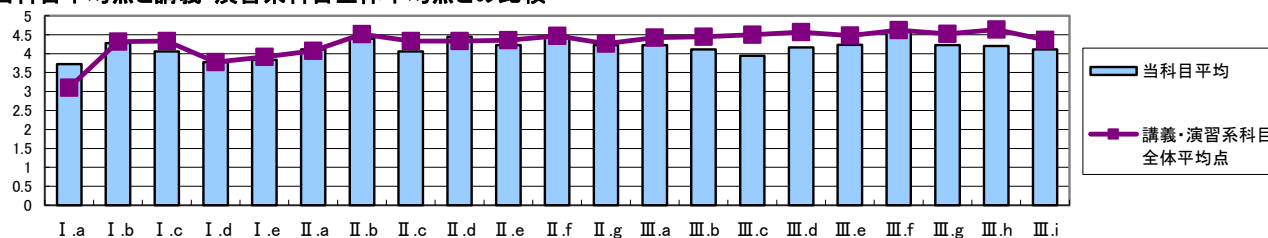
シラバスの活用法、予習復習の具体例を示す等、改善します。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅡBa	職名	准教授	履修者数	24
教員名	井上 淳司			回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.72	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.28	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.06	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.78	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.83	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.11	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.39	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.06	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.44	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.22	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.44	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.22	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.22	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.11	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	3.94	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.17	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.24	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.61	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.22	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.20	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.11	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年次より担任持ち上がりで24名が履修し、中7回は外部講師による講義が組まれた。遅刻・欠席の学生は毎回数名いたが大半の学生は比較的各自がやるべきことは何かを理解しており、滞りなくこなすことで授業は進められていた。

● 問題点

全体の平均からは当科目の平均は低いものもあるかもしれないが、多くの学生が全ての項目に高評価を付けており、低評価を付けているのはごく一部である。シラバス関連（I a, b, d, e）、授業に対する学習意欲（II c, g, III a, b, c, g, e）が主な問題点である。

● 改善の方策

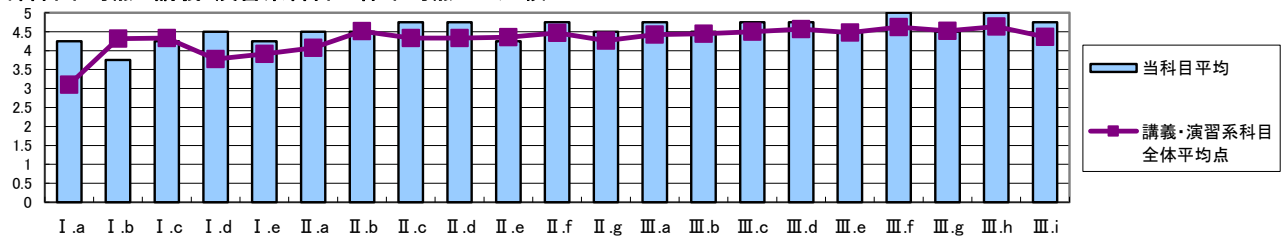
大概では学生の授業に対する態度は真面目であり、講義内容から何らかを得ようとしているように前向きに見受けられた。当科目は必修であるためシラバスを活用するに至らないと感じた学生もいたようであるが、事前にシラバスには目を通すよう促したい。また、学習意欲を向上させるため本人が身近に感じるように関連するエピソードなどを多く提供し、さらに有意義な授業展開を行う協力を仰ぐことを喚起したいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	Basic English 2	職名	准教授	履修者数	4
教員名	粕谷 麻里乃			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.25	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.75	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.25	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.25	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.50	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.75	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.25	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.75	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.75	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.75	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.75	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.50	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.75	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的に向上させることである。到達目標は、①ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができるようにすること、②やさしい英文を読んだり、簡単な文を書けるようにすることである。開講曜日・時限は、毎週木曜日の2時限目であり、受講生は上記専攻の1年生全4名（アンケート実施の平成31年12月時点）であった。彼らは、パフォーマンス総合芸術文化専攻の第1期生であり、将来の目標として据える仕事とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。学生間の英語の習熟度に差はあるが、英語に対して、自分の実力以上に苦手意識を持つ学生が多数を占めていた。しかし、現状を打破したいという学習への意欲も強く感じ、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。近年学生たちの英語への興味・関心は、会話重視の「コミュニケーション」に集中している。一方、文法を否定的に捉える傾向があり、本科目受講生も苦手意識を持っていた。しかし、英語で円滑なコミュニケーションを図るために文法への理解は欠かせない。そこで、音楽に関心が高い者が、楽しく英語学習を進められるよう教材の選定にも努めた。2018年度は、文法への苦手意識を軽減させながら、冒頭の4領域を体系的に向上させるため、金星堂より出版された「Learn English through Jazz and Pops」を採用した。歌を聞いて歌詞の書き取り、歌詞を日英訳する作業もあり、シンガーソングライター志望の学生も多い中で有用であったと考える。英語は自発的な学習が肝要であるため、講義だけでなく、演習との混合形式で実施し、英語を総合的に運用するための基礎を完成させた。集計結果より、当科目平均は「講義・演習系科目全体平均」を下回るものは少ないものの、平均水準と同等のものとして以下4点に着眼した。一つ目は「II.e. 授業の内容を理解できた。」、二つ目は「III.b. 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。」、三つ目は「III.e. 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であったか。」、四つ目は「III.g. 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられたか。」である。問題点と改善の方策について以下で考察する。

● 問題点

Basic English では、通年で、英語を総合的に運用するための基礎づくりのため文法や発音練習にも取り組んだが、学生の英語習熟度差をはじめ、潜在的に文法への苦手意識があるため、より理解を深められるような工夫が必要だったと考える（設問II.e、III.e、III.b）。また、講師自身の改善点として、教室という大きな空間の中で、明瞭で、学生が聞き取りやすい声についてももう少し検討する必要があると考える（設問III.g）。

● 改善の方策

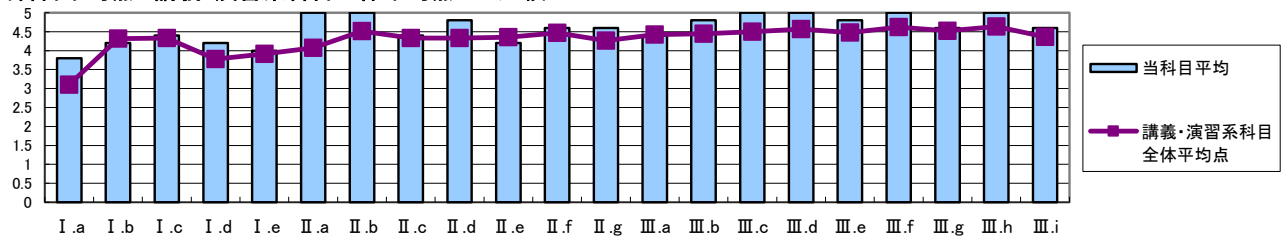
設問II.e、III.e、III.bの改善策としては、例えば、授業中に学んだ文法が実際の会話でどのように生きてくるのか理解を促すための参考資料を配布し、説明を加える。また、設問III.gの改善策としては、講師自身が声を大きく、活舌良く話すことを心がける。2018年度は、風邪により喉が不調の期間が続いたため、そのような際には、外のノイズに遮られないよう予め窓を閉めておくなどの工夫や、マイク等を用意することで改善を試みる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	Communication Skills I B	職名	准教授	履修者数	5
教員名	粕谷 麻里乃			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.80	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.20	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.40	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.20	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.40	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.20	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.60	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.60	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.40	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.80	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.80	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.60	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.60	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、日常における様々な状況を想定し、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎を作ることである。到達目標は、①コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現（文法、語彙、発音など）を運用できること、②簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにすることである。日本国内における外国人旅行者や居住者の数は年々増加の一途であるにもかかわらず、日本国内における外国人旅行者や居住者の数は年々増加の一途であるにもかかわらず、いざというときのひとことが出ない現状を改善するために、「おもてなし」をキーワードに授業内容を検討した。開講曜日・時限は、毎週木曜日の3 時限目であり、受講生は上記専攻の1 年生全5 名（アンケート実施の平成31 年12 月時点）であった。彼らは、パフォーマンス総合芸術文化専攻の第1 期生であり、将来の目標として見据える仕事と英語とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。当初より、学生間の英語の習熟度に差はあるが、英語に対して、自分の実力以上に苦手意識を感じる学生が多数を占めていた。しかし、現状を打破したいという学習への意欲も強く感じ、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。当科目が担う「コミュニケーションのための英語」というキーワードを意識し、授業は、講義と演習（ロールプレイやペアワーク活動など）の混合形式で実施し、年間を通して、円滑なコミュニケーションのための学修を行った。集計結果によると、当科目平均は、全体的として「講義・演習系科目全体平均」を下回るものは少ないものの、平均と同等かやや下回るものとして以下の2 点が挙げられる。一つ目は「II.e. 授業の内容を理解できた。」、二つ目は「III.a. 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。」である。また、「講義・演習系科目全体平均」と比較して当科目平均は上回るものの、気になった点として1 つ挙げる。それは、5 段階評価における学生の回答数/回答率（%）において、「この授業を受講して、到達目標に達した。」と感じた学生が、5 人中3 人である一方で、残り2 名は「どちらともいえない」と感じており、全員を十分に満足できる水準へと導くことができなかったことである。この回答は、科目担当者としても大きな心残りであり、結果を真摯に受け止め、次年度で改善されるよう取り組む所存である。

● 問題点

学生の英語習熟度に差はあったが、受講生数も少なく、可能な限り個別対応策をとることで個々のニーズや不安を解消できるよう努めた。しかし、学生の意欲を感じる一方、英語に自信が持てない学生にとっては、十分理解し、自信へと繋げるためには、課題量がやや多く、消化不良となってしまったことも考えられる。これにより、授業内容の理解不足へとつながり、当科目の目標到達意識を必ずしも持たせてあげられなかったものとする。

● 改善の方策

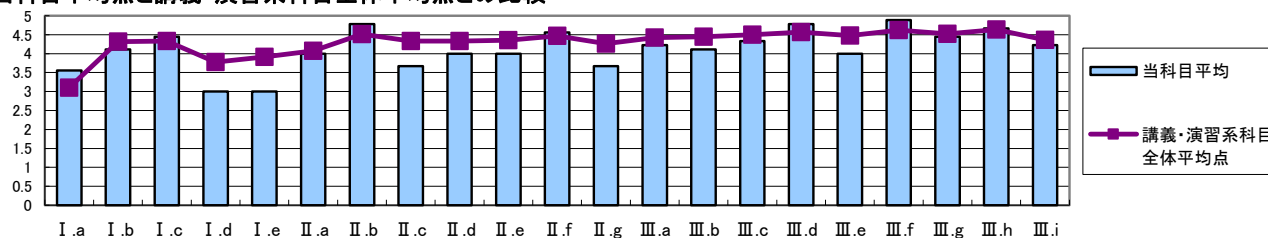
当科目は、平成31 年度には受講生の数が大幅に増加することが予想される。そのため、授業内での個別対応には十分に対応できないことが予想され、以下の対策を検討している。まず、受講生には年度初めにプレイメントテストを受けてもらい、英語の習熟度毎にクラス編成を行う。これにより、クラス内で受講生間の習熟度の差が減少し、各習熟度に適したテキストを選定し、授業内でも理解に無理のない範囲の課題と課題量を心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ひとを読み解く科学B	職名	准教授	履修者数	13
教員名	三室戸 元光			回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.56	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.11	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.44	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.78	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.67	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.56	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.67	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.22	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.11	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.33	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.78	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.89	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.44	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.22	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

①科目の目的：心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、「ひと」の内面的な理解を深め、「ひとをサポートできるようにする」のが、この科目の目的です。他者の内面に触れ理解を深めることによって、「ひと」がどんなパーソナリティなのか、どんな心理的課題があるのか、どんな援助の方針が考えられるかについて、「制作物・作品によって行う方法」を活用できるようにしていきます。最終的には、皆さんが「ひと」を心理学的な視点で「サポート」できるようにすることを目標とします。②授業の内容：ひとの内面を読み解く研究方法を「アセスメント」といい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品又は教示物への反応等によって行う方法などが代表的です。前半では、制作物や作品を通してアセスメントを行う「描画法」をもとに、描画作者（子ども～学生）の心象世界に触れつつ、後半でひとの内面を深く読み解くための分析方法を、個人内、グループ内検討、グループ発表で総合的に身につけます。特に、後半は実際の描画事例をもとに、描画アセスメントによるカウンセリングとその人物への援助の方針の立案を実践的にを行います。③授業形態：授業は、後期前半に描画体験と描画法の解説、後期後半に事例検討と事例についてのグループ演習、を行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。④受講者数：13名。うち回答は9名。⑤受講者の状況：1年生が2名受講するほかは、3年生・4年生が占める。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、「1ポイント以上低い値」の項目は、「予習や復習などをして授業を理解するようにした」「授業を受講して到達目標に達した」「授業の内容に興味関心を持てた」「教員の話し方は明瞭で聞きやすく板書は適切であった」の4項目である。このうち特に低いのは、「予習や復習などをして授業を理解するようにした」「授業を受講して到達目標に達した」の2項目である。

● 問題点

教員と学生の意識のズレ：本学の学生の傾向として、音楽技術系の科目以外は（試験前を含めて）予習復習をしないのが通常であり、それに合わせて当該科目も（心理学的な意味でも）予習は不要と考えており、試験前の復習をしていれば、特にズレているとは考えていない。後半に行った実際の描画事例をもとにした援助の方針の立案は、音楽を学ぶ学生にとっては「学びのベクトルが正反対」となるため、到達目標は「学生の向上心や自身の設定した目標に比べて低い」ということであって、教員から見た場合に「身につけたその能力」が著しく低いとは思われない。

● 改善の方策

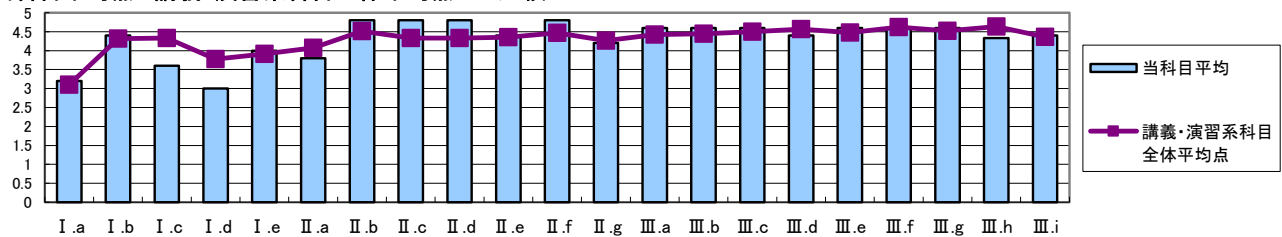
自己表現を音楽でしか表現しない学生にとって、「描かれた作品から心理を読み解く」ことは難易度が高いと思われるが、過半数の学生は出席状況やアセスメントの能力に関して非常に熱心に受講し学んでいたと考える。アンケートに回答することで数値化されるアセスメントとは違い、描画法は熟練度が必要となるが、他者の描画の理解を通じて自分自身の心のアセスメントをしている学生に出会うことが多く、結果的に学生のメンタルヘルスに役に立つ場合もあると考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ひとを読み解く科学B	職名	准教授	履修者数	5
教員名	三戸 元光			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.20	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.60	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.80	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.80	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.40	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.80	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.20	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.60	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.60	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.60	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.40	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.60	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.60	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.60	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.40	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

①科目の目的：心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目的です。『ひと』を分かるようになるためには、その内面を正面から受け止めて、心理的事実やそれに対する感情、願望への理解を深めることによって、『ひと』がどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか、それを多面的に認識できるようにしていきます。なお、「心理学そのもの」については、「現代の心理学A・B」を先に履修することをおすすめします。最終的には、皆さんが「自分自身」を心理学的な視点で「サポート」できるようになることを目標とします。②授業の内容：『ひと』とは何か、『ひとの性格（キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとするものであり、「ひとを理解しようとする願い・ねらい・思い」は心理学を学ぶ人間にとって切実な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なる以上、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに自分自身を多面的に理解し、ひとを多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。Bの授業は、『人間関係のクセやパターンを深く理解すること』を取り上げます。③授業形態：授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。④受講者数：5名在籍。回答者数も同じ。⑤受講者の状況：PACS専攻1年生の5名授業であり、学生に問いかけをひんぱんに行っても積極的な態度で授業に臨む状況が見られた。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、「1ポイント以上低い値」の項目は、「授業中は私語をひかえて学習に集中した」「予習や復習などをして授業を理解するようにした」「授業はシラバスにそって適切に行われた」の3項目である。このうち特に低いのは、「授業中は私語をひかえて学習に集中した」「予習や復習などをして授業を理解するようにした」の2項目である。

● 問題点

教員と学生の意識のズレ：前述の通りゼミ形式に近い受講人数であるが、講義形式（50分）に加えて実践体験演習（40分）を伴って行ったため、私語が目立っても学生自身は参加意識が高くそれほど困っていない状況であった。ただ、PACSの学生のニーズがつかみにくく、学生の様子を見ながら、予定とは異なる内容を随時組み込んだため、シラバス通りではないという指摘があってもやむを得ない。

● 改善の方策

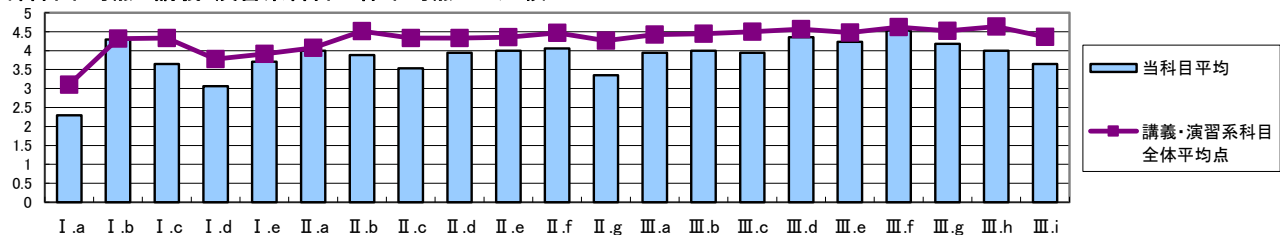
今年度はイレギュラーな形式となったが、次年度は人数も増えて、一般的な講義形式で授業が行えるのではないかと考えている。また、学生の状況やニーズが他専攻とかなり異なる（出席状況や学力レベルなど）ため、シラバスを作っても、学生の状況を勘案してフレキシブルな変更を行うことが求められると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅡBb	職名	専任講師	履修者数	24
教員名	岩見 真佐子			回答者数	17

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.29	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.29	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.65	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.06	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.71	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.88	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.53	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.94	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.06	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.35	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.94	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	3.94	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.35	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.24	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.53	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.18	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.65	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本年度のシラバスに基づき、大学二年生の【東邦スタンダード】授業を、前後期授業開講期間の水曜日第一時限に実施。前期Ⅱaでは「外部講師によるキャリア教育導入」、後期Ⅱbでは「次年度ウィーン研修にむけた準備」を中心に学生が違和感なく授業展開できるように配慮し、前後期各15回、大学二年生全専攻の学生必修の授業として24名のクラス授業の形態で開講された。当アンケートの実施にあたっては、「学生アンケート調査時間期間」に学年ABクラス合同授業内で履修学生に同じ条件で実施されたことを報告致します。

● 問題点

担当学年は昨年度、4年次までの授業共通意識の定着に深く留意した授業内容を修了している。引き続き2年次では学生自身の積極的な授業への取り組みができるように留意し、「解りやすい授業展開」に向け学生が参加しやすいテーマを設定した。その成果として「出席・クラス全体への意識」が定着している（アンケート設問Ⅰb、Ⅱb、Ⅱe、Ⅱf、Ⅲd、Ⅲe、Ⅲf、Ⅲg）。授業履修にあたってのシラバス活用、成績評価の提示については、初回授業で「シラバス」を配布し確認をしているが、積極的な活用に至らない点が見られる（アンケート設問Ⅰa、Ⅰd、Ⅱd）。また設問Ⅱgにみられる「東邦スタンダード」授業が学生の刺激になっているかについては、キャリア導入と音楽大学ならではの専門性のバランスにも留意したい。

● 改善の方策

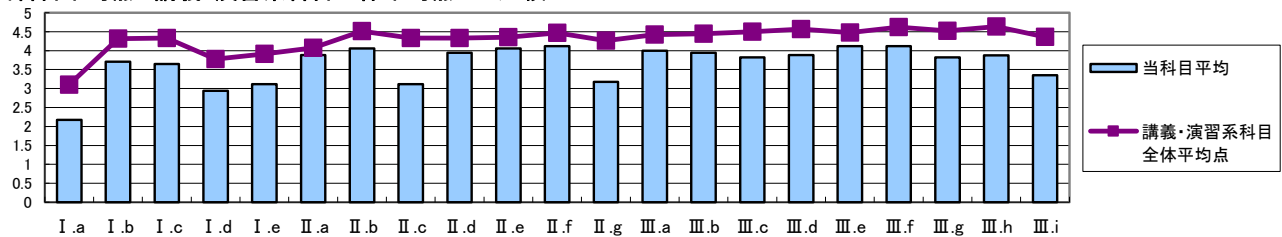
2年次生前期「キャリア教育の導入」については大変スムーズに実施され、学生の積極的な姿勢が見られた。各ポートフォリオ、レポートにも1年次に比べると、充実した内容が書き込まれ、この一年間の授業を通じて、それぞれの学生の意識変化や大きな成長が伺える。後期「ウィーン研修への準備」としては、他の関連授業との関連事項だけではなく、実際の 現地での生活・レッスンイメージを持てるよう具体的な内容を実施した。通年基本的に2クラス合同授業を実施。4年間の必修科目として長期的な取り組みとなる授業であるだけに、各回の振り返りから次の内容への展開に留意し、学生の興味が薄れないよう専門音楽に関するテーマ、長期的な視野をもてるように3、4年次の内容も加えて実施。目標設定に時間を要する学生も多く、学生の多様性、コミュニケーション能力、基礎的な学習能力も、個性として引き出す授業として、当授業の可能性は大きい。今後の更なる改善に向けこのアンケートを次年度に生かしてゆきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	東邦スタンダードIVBb	職名	専任講師	履修者数	28
教員名	平田 紀子			回答者数	17

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.18	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.71	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.65	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.94	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.12	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.88	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.06	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.12	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.94	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.06	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.12	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.18	4.26
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.94	4.45
	b 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	3.82	4.50
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.88	4.56
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.12	4.47
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.12	4.62
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.82	4.52
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.88	4.63
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.88	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.35	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

前期・後期とも主軸となるテーマが「研究レポート・プレゼンテーション実習」である。大学で専門的に学んだことを専門外の人にわかりやすく簡潔に説明することを目的とする。卒業し社会に出ると周囲の人たちは「音楽の専門家ではない人」が多くなるので、そういった人に「自分の企画や考えを伝えられる」力を身につける。この課題は4年生にとってリアリティがあったと思われる。他学年の授業以上に意識を高く持って取り組む姿勢がみられた。専門領域に関わる研究ということで、各自個性を生かした興味深いテーマが多く、実りのある研究発表となった。また卒業試験や就職や新生活を控えて「ストレスに対処する」というテーマで、授業を行った。ストレス反応やその対処について、臨床心理学を引用しながら進めたが、興味や関心、取り組み方に手応えがあった。

● 問題点

遅刻・欠席に関しては3年次より改善がみられ、特に前期では全員が評価を満たしていたが、いまだ個人差がある。出席はしているが「内職」をする学生も少なくない。アンケートで「授業時間が90分は長い」という意見があった。

● 改善の方策

この授業の意図するところを、毎回くり返し明確にわかりやすく伝える。授業内容を充実させ、長く感じさせないようなバージョンアップが必要。自主性を引き出すワークの分量を増やすことを検討している。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

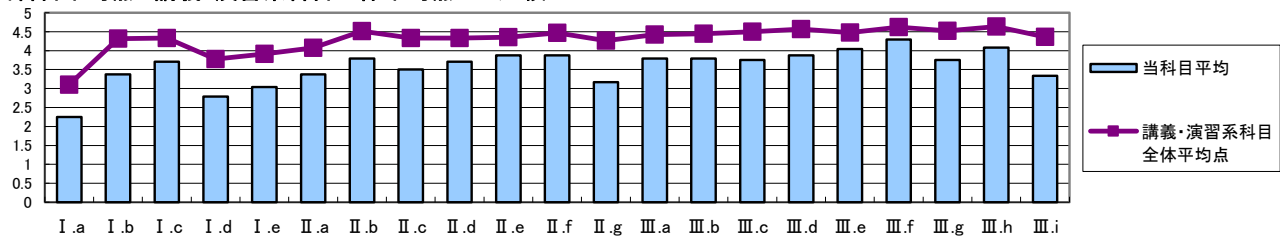
科目名	東邦スタンダードⅢBa
教員名	武藤 直美

職名	専任講師
----	------

履修者数	29
回答者数	24

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.25	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.38	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.71	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.79	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.04	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.38	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.79	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.50	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.71	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.88	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.88	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.17	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.79	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.79	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	3.75	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.88	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.04	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.29	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.75	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.08	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.33	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今回は29名の履修者の内24名がアンケートに回答してくれました。設問I-aに対する回答で「1」が10名と半数近く、履修にあたりほとんどの学生がシラバスを利用していないことがわかりました。また外部講師によるキャリアの授業が主であったため、設問I-dに対する回答数は「3」「2」「1」「4」「5」の順となりました。昨年はII-a~g、III-a~iに対する回答が「5」「4」「3」に集中しておりました。

● 問題点

授業の履修にあたり、シラバスを全く活用していない学生が半数以上、また、予習や復習を行っている学生は半数以下という結果でありました。

● 改善の方策

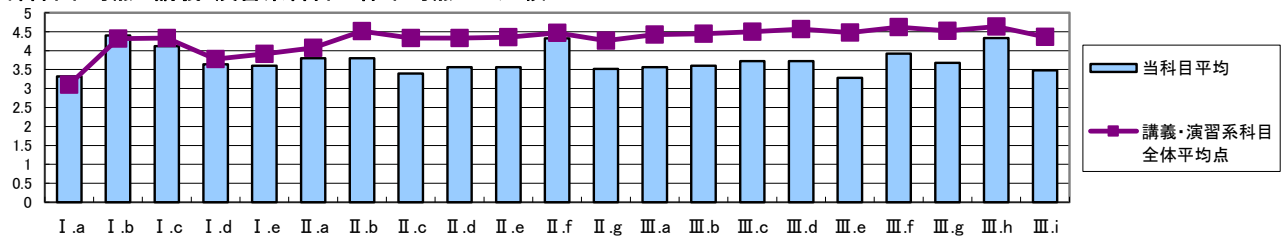
すべての履修者が積極的に、興味や関心を持って授業に臨んでくれるよう、創意工夫しながら、新たな発想法をもって取り組んでいきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ウィーンの社会と文化Ba	職名	講師	履修者数	35
教員名	荒木 洋育			回答者数	25

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.32	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.12	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.64	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.60	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.80	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.40	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.56	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.56	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.32	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.52	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.56	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.60	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	3.72	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.72	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.28	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	3.92	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.68	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.33	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.48	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の午後の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。昨年度はプロジェクター（Power Point）を利用し、評価に際して口頭発表・期末レポートに加えて新たに小レポートを課するという形で、授業方式に大きな変更を加えた。そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であったが、私語をする学生が少数であったが見受けられた。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であった。次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するIグループではdの数値が低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の内容に関係するIIグループに関しては、c、e、gの数値がやや低かった。これは授業の内容に対する受講者側の関心、理解が講師側が期待するほどではなく、かつ年間の授業を通して十分に高まらなかったことが理由として考えられる。授業の進行に関係するIIIグループに関しては、昨年度低かった、講師側の創意工夫の程度を示すeについては数値面で向上がみられたものの、授業進行の手際の良さなどを示すgについては大きく低下した。このことはその他の指標にも大きく影響を与えたと思われ、後述するように自由記述欄の内容もそのことを示している。上述アンケート結果の分析に基づいて、以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行うこととした。

● 問題点

前述のような昨年度の授業方式の変更の目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにあったが、アンケートの結果をみると昨年度に関しては成果が十分に出来たとは言いがたい。原因としては、小レポートの実施方法について留学生への対応のためシラバス内容とのずれが生じたこと、講師側の機器取り扱いの不慣れが考えられる。自由記述欄においても、後者の事情により授業がスムーズに進まなかったことを厳しく指摘する意見がみられた。

● 改善の方策

昨年度の授業の改善に対しては、自由記述欄において、前述のような意見と同時に好意的な意見もみられた。変更初年度における様々な模索はあったが、教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価をより多角的に行うことは今後も追求すべき目標と考えられる。今年度は、上記問題点への反省を踏まえて、プロジェクター用内容の充実、小レポートの内容の学生への周知と評価の明確化などの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

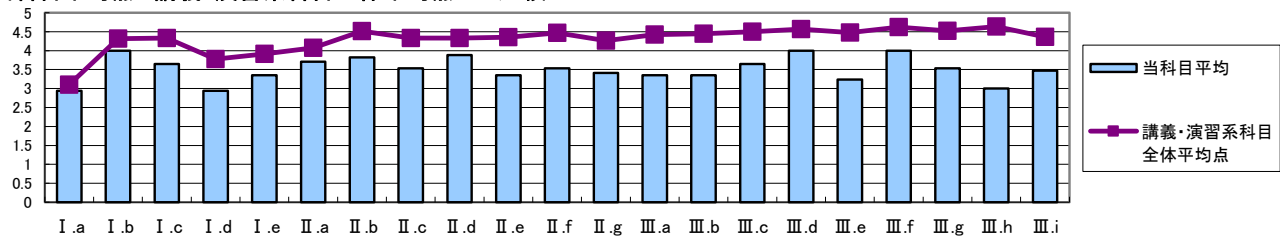
科目名	ウィーンの社会と文化Bb
教員名	荒木 洋育

職名	講師
----	----

履修者数	28
回答者数	17

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.94	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.65	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.94	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.35	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.71	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.82	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.53	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.88	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.35	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.53	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.41	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.35	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.35	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	3.65	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.24	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.53	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.47	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の午後の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。昨年度は、プロジェクター（Power Point）を利用し、評価に際し口頭発表・期末レポートに加えて新たに小レポートを課するという形で、授業方式に大きな変更を加えた。そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であったが、私語をする学生が少数であったが見受けられた。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であった。次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するIグループではdの数値が低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の内容に関係するIIグループに関しては、c、gの数値がやや低かった。これは授業の内容に対する受講者側の関心、理解が講師側が期待するほどではなく、かつ年間の授業を通して十分に高まらなかったことが理由として挙げられるのではないかと考えられる。授業の進行に関係するIIIグループに関しては、昨年度低かった、講師側の創意工夫の程度を示すeについては数値面で向上がみられたものの、授業進行の手際の良さなどを示すgについては大きく低下した。このことはその他の指標にも大きく影響を与えたと考えられ、後述するように自由記述欄の内容もそのことを示している。このアンケート結果の分析に基づいて、以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行うこととしたい。

● 問題点

前述のような昨年度の授業方式の変更の目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにあったが、アンケートの結果をみると昨年度に関しては成果が十分に出来たとは言えない。原因としては、小レポートの実施方法についてのシラバス内容とのずれ、プロジェクター用内容と板書内容との混同が生じたことが考えられる。自由記述欄においても、後者の事情により授業がスムーズに進まなかったことを厳しく指摘する意見がみられた。

● 改善の方策

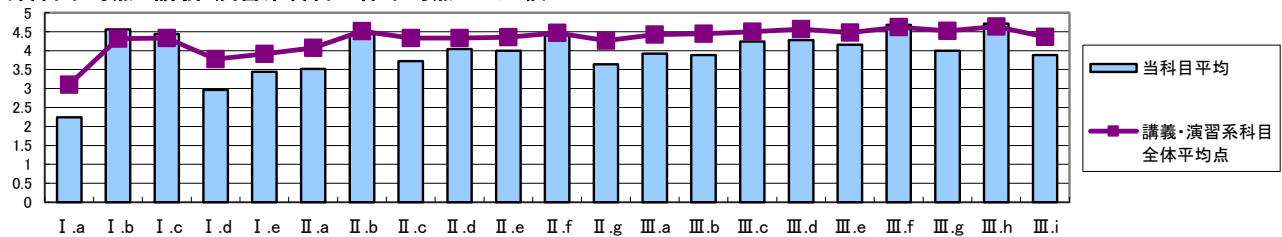
昨年度の授業の改善に対しては、自由記述欄において、前述のような意見と同時に好意的な意見もみられた。変更初年度における様々な模索はあったが、教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価をより多角的に行うことは今後も追求すべき目標と考えられる。今年度は、上記問題点への反省を踏まえて、プロジェクター用内容の充実、小レポートの内容の学生への周知と評価の明確化などの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	スポーツ文化論	職名	講師	履修者数	30
教員名	江向 真理子			回答者数	25

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.24	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.56	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.44	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.96	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.44	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.52	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.44	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.72	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.04	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.40	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.64	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.92	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.88	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.24	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.28	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.16	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.68	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.71	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.88	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業の目的：スポーツの歴史と発展を学ぶことにより、スポーツが社会とどのように関わり、影響を受けてきたのかを考える。また2020東京オリンピックパラリンピック開催に向けてオリンピック種目をはじめとした各種スポーツへの関心を持ち、オリンピックムーブメントやオリンピックレガシーに対誓いを深める。I-d、II-cが低い結果となっている。特に予習や復習を必須とするインフォメーションをしたわけではないので学生には意識付けされていないと思われる。II-cについては、授業前半の数回は社会学的な説明が多くなり、理解が難しかった学生が多いのではないかと推測される。また、スポーツに関する専門用語や出来事についての解説にも同様のことが考えられる。また、学生からの要望で作業の時間を望む声がある。学生への注意に関して声を荒げないようにとの要望も挙がっているが、授業開始前から一度も顔を上げることなく机に伏して寝る学生への対応にはこちらも苦慮するところであり、今後は対応の方法を考えていきたい。

● 問題点

授業内容のボリュームが多すぎる。学生の授業態度への対応方法。

● 改善の方策

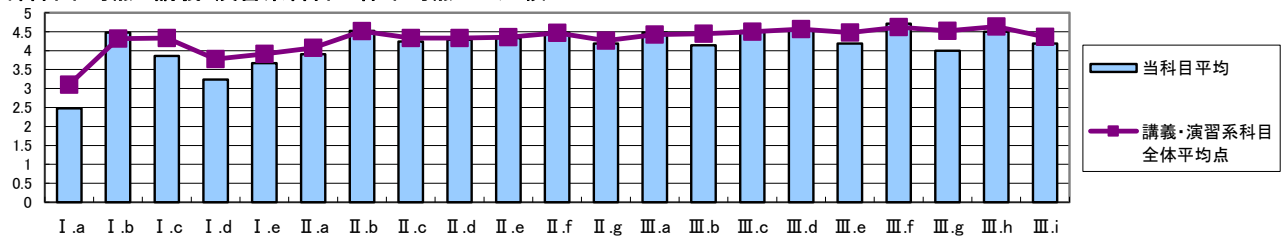
映像や写真を活用し、内容を簡潔に、また全体の量を減らす。パワーポイントの資料はすべて配布されており、その活用方法を説明する必要がある。ほとんどが1年生のため、講義を受ける姿勢や、話を聞きながらメモを取るように指導する。1枚のスライドの中のポイントはどこなのかを明確に示す。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教育心理学	職名	講師	履修者数	25
教員名	川久保 博			回答者数	21

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.48	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.48	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.86	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.24	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.90	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.52	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.24	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.29	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.33	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.48	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.19	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.48	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.14	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.52	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行っていた。	4.52	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.19	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.71	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.19	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本講義は教職課程の一環として、子どもの発達と学習を中心とした心理学的知識について講義するものであった。そのため人の発達には何が重要か、どのような教育が効果的かについて取り上げた。心理学を初めて学ぶ学生が多かったこともあり、講義においては出来る限り学生自身の身近な問題を講義のテーマと結び付けた。同時に、映像資料を多く活用した。また、毎回の授業終了時に受講者にコメントを記載してもらい、その内容を次回の授業時に紹介するという取り組みを行った。全体の出席率については、概ね良好であった。本講義のアンケート結果は、講義・演習科目全体との比較においては、ほぼ平均通りであった。しかしながら、「授業中は、私語を控え学習に集中した。」、「予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。」、「この授業を受講して、到達目標に達した。」や「授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。」などの項目が全体平均より低かった。教室内の私語については、講義内の活発な議論を促したいとの目的から、教員が厳格に注意していなかった。このことが学生からの私語が多かったという評価につながったと考えられる。また、授業の内容に関する予習や復習を行った学生があまりいなかったことから、講義外課題について工夫する必要がある。授業の到達目標については、シラバスへの記載はあるが、そのシラバス自体を活用していないという結果も出ている。そのため、本講義の到達目標が何かという点が学生に周知されていなかったと思われる。学生の自由記述には、授業に対する好意的な意見が多かった。ただし、自由記述の中に、「毎回プリントを配ってくれるのが、ノートを取らなくても大丈夫なので集中できる。」というものがあつた。講義資料を授業毎に配布していた点が評価されている反面、学生の自主的なノート作成を妨げていた可能性がある。

● 問題点

「教育心理学」の到達目標が何かという点を学生自身があまり意識していなかったこと、教室内の静粛性が保たれていなかったことが挙げられる。出席率は良好であった反面、講義内容に関する予習や復習を促す取り組みが不足していた。配布資料については、授業内容のどの程度の部分までを資料として配布するかについて検討する必要がある。

● 改善の方策

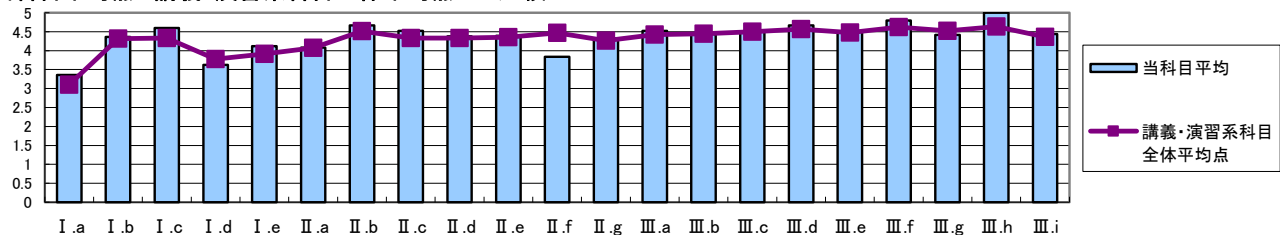
次年度の講義では以下の3点を改善したい。まず、初回授業時などに講義全体の狙いや目標について、丁寧に説明したい。2点目として、試験時以外にも、自主的かつ発展的な学びに繋がるような課題を出すなどの工夫を考えたい。また3点目として、できるだけ多くの学生が学びやすい環境を整えるために、適宜私語に対する注意を促したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	現代の心理学B(発達心理を含む)	職名	講師	履修者数	36
教員名	徳富 政樹			回答者数	25

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.36	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.36	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.60	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.63	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.12	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.08	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.52	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.39	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.83	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.32	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.52	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.44	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.67	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.50	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.79	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.42	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.44	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業の目的は心理学の様々な研究領域について基礎的なお話をすることにあつた。臨床心理学、発達心理学、生理心理学、教育心理学という分野を外観して、自分自身のこれまでの行動を心理学の観点から考察してもらうのが最終的な目標だった。履修者は36人で、出席率はおおむね80%だった。アンケート結果を見てみると、講義科目の平均点あたりを示していた。ただ、履修者の人数が教室の大きさに比して多く感じられたため、その点への不満をもっている学生が見られるようだった。授業内容は平均的な評価ということから、受講者にとってそこまで有意義なものとはとられていない可能性がある。

● 問題点

平均的な評価というのは必ずしも好意的なものではなく、悪くとれば印象的でないということもあるのではないだろうか。興味関心をもって授業に望み、そこから新しい知見を得て自分のこととして考える。この流れがあつてこそ、ためになると感じてもらえる授業になると思う。

● 改善の方策

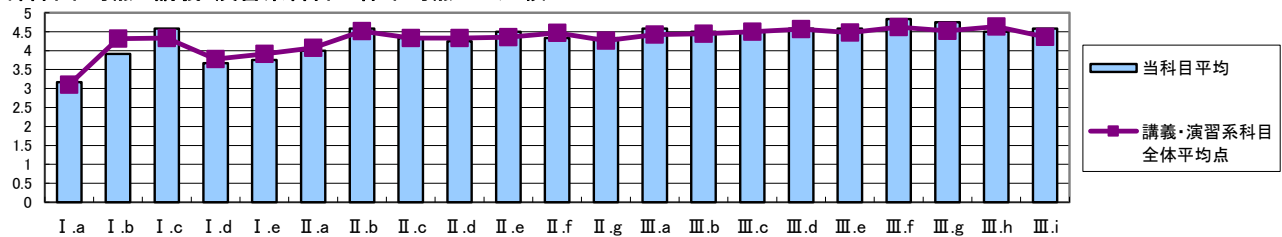
心理学という自分自身について考察することが可能な講義なので、授業内容と自分自身の関連性をより深く考えてもらえるような工夫が必要である。自分とは関係がないことなのではなく、すべての事象に繋がりがあつて、そこに自らが関与しているのだということを感じてもらえるような授業展開が必要である。そこで、毎回授業の終わりに感想や疑問点を書いて提出してもらい、次の授業でそれらの内容を発展させてより深く、わかりやすく解説を入れていこうと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	英語2a	職名	講師	履修者数	13
教員名	増淵 千幸			回答者数	12

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.17	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.92	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.58	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.67	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.75	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.58	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.33	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.33	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.33	4.26
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.58	4.42
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	b 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.50	4.50
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.58	4.56
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.58	4.47
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.83	4.62
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.75	4.52
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	h	4.58	4.36
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.58	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行ってきた。履修人数は多くなく、スムーズに授業を進められた。学生間の力の差は多少あった。一限ということもあり、遅刻してしまう学生や欠席の多い学生も見られたが、反応の良い、明るい雰囲気のあるクラスでありがたかった。アンケート I b の出席に関する回答は、一限であることや学生の健康状態によるところが大きい。I d の予習復習の部分に関しては、この授業では予習の必要はないとあらかじめ伝えてはいるものの、復習もあまりしていないのであれば残念だ。定着のために復習はきちんとしてほしい。語学専門ではないゆえに、勉強の仕方も今一歩わからない学生もいるため、例えば復習には少なくとも音読を試みようなどと、声掛けの必要性も強く感じている。授業中も含め、語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。そうすれば、I の回答部分での自己評価も高まるのではないかと思う。

● 問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見られない。

● 改善の方策

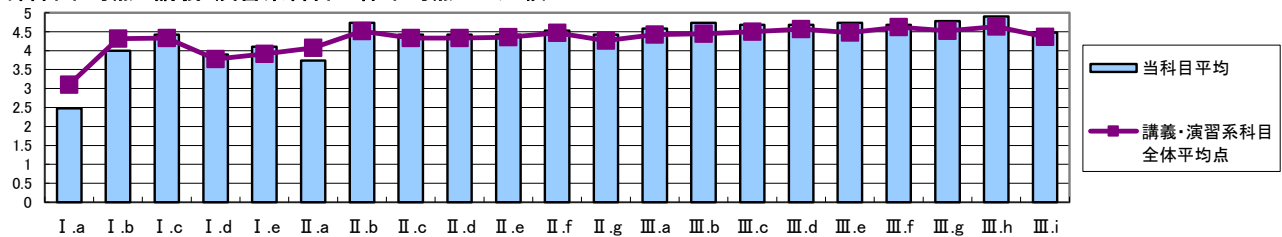
学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。ここ数年、英語の構造を理解していない学生が増えてきていて、それも自己評価の低さにつながっていると感じている。大学生とはいえ、文法をもう一度やり直す機会を与えてゆきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	英語2b	職名	講師	履修者数	21
教員名	増淵 千幸			回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.47	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.42	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.89	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.11	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.74	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.74	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.42	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.42	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.42	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.53	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.42	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.58	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.74	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.68	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.68	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.74	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.68	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.78	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.90	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.47	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行ってきた。初めは英語 I a のクラスと力の差があり、同じ内容でも理解度が低く、内容についてくるのが難しい学生も数人見られ工夫が必要であった。けれども、後期に入るとそれぞれがそれぞれの形で学ぶ方法を見つけ、その差は縮まるどころか、かえって良くなり感心させられた。アンケート I の自己評価が低い、謙遜ゆえと感じている。I d の予習復習に関しては、この授業では予習の必要はないが、復習もあまりしていないのであれば残念である。定着のために復習はきちんとしてほしい。語学専門ではないゆえに、勉強の仕方も今一歩わからない学生もいるため、例えば復習には少なくとも音読を試みようなどと、声掛けの必要性も強く感じている。授業中も含め、語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

● 問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんどない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

● 改善の方策

学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。基礎力のない学生が目立って来ているので、その対策が急務であると痛感している。大学生とはいえ、基礎文法の学び直しをしてゆこうと思っている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

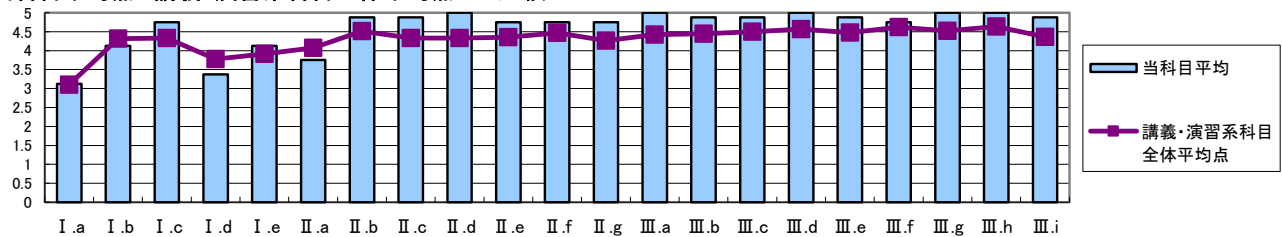
科目名	英語4
教員名	増淵 千幸

職名	講師
----	----

履修者数	13
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.13	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.13	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.75	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.38	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.13	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.88	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.88	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.75	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.75	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.75	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.88	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.88	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.88	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.88	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたこと、英語1・2で学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行ってきた。履修人数は多くはなかったため少し寂しい感じもあったが、学生は真面目に取り組んでいた。学生間の力は英語1・2の時につかんでいたため授業で困ることはなかった。一限ということもあり遅刻や欠席が目立つ学生も見られたが、それぞれが良く学んでくれていた。アンケートの中のIの自己評価が低い、謙遜ゆえと感じている。I.dの予習復習の設問であるが、この授業では予習の必要はない。しかし復習もあまりしていないのであれば残念だ。定着のために復習はきちんとしてほしい。語学専門ではないゆえに、勉強の仕方今一歩わからない学生もいるため、例えば復習には少なくとも音読を試みようなどと、声掛けの必要性も強く感じている。授業中も含め、語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

● 問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見られない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

● 改善の方策

学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。近年英語の基礎力のない学生が増えてきているため、基礎力強化は必須である。大学生とはいえ、基本文法の学び直しをこれから行ってゆこうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

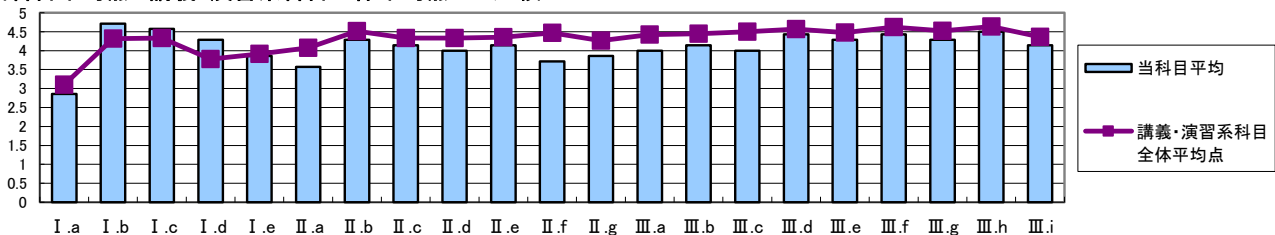
科目名	スポーツ演習b
教員名	南 明恵美

職名	講師
----	----

履修者数	10
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.86	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.71	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.57	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.29	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.86	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.57	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.29	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.14	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.14	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.71	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.86	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.14	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.43	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.29	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.43	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.29	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.14	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■ アンケートの結果

● 現状の説明

発達がピークを越えていく中、運動の必要性を再認識し、苦手な運動や身体の調整法を段階的に可能な実施方法で進める。そこでは体力作り、運動量の増大に心掛ける意欲が必要である。授業では、相手に勝利するだけの目的を捨て、他社と身体を通して関わる事で、スポーツ特有の楽しさを味わう内容とする。定期的な運動刺激は日常生活の活動量を増やしたり、精神的な安定をも導く可能性が期待出来る。慣れるまでは、厳しく感じるだろう。内容は以下の段階を経て、実施する。

- 1) 楽しく運動する為の予備知識を得る。ルールや試合の仕方を理解する。
- 2) 楽しく運動する為に基本的な動作、最低限必要な技術を実施、繰り返し、運動しやすい身体に近づく、つまり、体力をつけ、スキルを身につけ始める。試合が出来る様になるまでは多様な遊びやレクリエーションをする。
- 3) 慣れてくると、勝負することも楽しみに変わり、失敗を覚悟で臨むことや勝者を讃える等の共通の目的や相互の絆が深まる事への充足感が芽生え、思いやりのある個人に近づく事も期待出来る。

● 問題点

慣れるまでの辛さ、目的意識が授業の目的と一致するまでに至らない等で意欲がわかない学生がいる。受講者数の少ない学期は、集団で得られる楽しさが得られず個人個人に負担も増える。

● 改善の方策

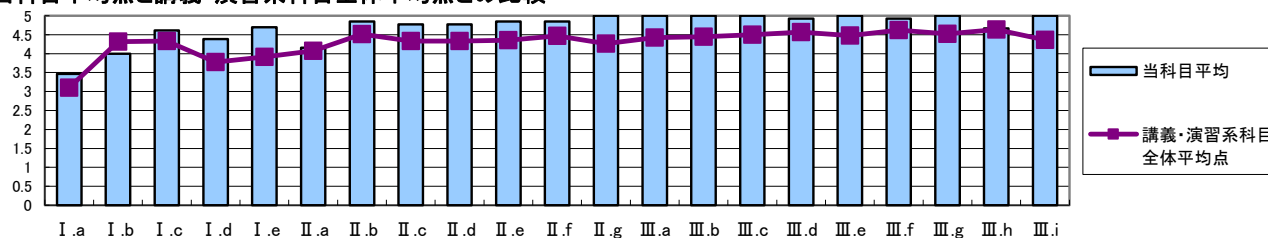
個人指導を増やす事や個人スポーツの内容を増やす事も考慮し、社会人となった際にも実施しやすい内容を増やす。日常的に実施しやすいトレーニング法や運動方法をさらに重視する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	コンピューター演習Ba	職名	講師	履修者数	20
教員名	湯浅 恭子			回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.46	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.62	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.38	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.69	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.15	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.85	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.77	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.77	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.85	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.85	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.92	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.92	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>この数年学生へヒアリングを行うと、身近なコンピュータは「スマートフォン」という学生が大半を占める。インターネットの活用を中心に日常的に利用がある。対して、WindowsやMacintoshといったパーソナルコンピュータを利用する機会については、その頻度は学生によってかなり異なる。本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。この利用方法をコンピュータ上だけではなく、応用して日常生活の中で活用できるよう理解を深める。また情報セキュリティや、近年発達している「IoT」「AI」などの情報技術について基本的な知識を習得する。音楽の発信者としてこれらの情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。履修者の多くが教職課程履修者であることから、教育現場でのPC利用の可能性についても考察する。<内容>コンピュータの基本的な構造、OSなどのソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現状の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウェアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。<状況説明と分析>月曜日1時限、履修者数20名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。プレゼンテーションの際は2～4人のグループ演習とした。履修者は全学年が対象、当クラスは1～4年生までの混合クラスであった。WordやPowerPointは自身のPCで予習復習ができることもあり進度の差は比較的少ないが、楽譜作成・音楽制作ソフトウェアは自身で所持していない学生がほとんどのため、欠席・遅刻により進度に大きく差が見られた。

● 問題点

- ・授業はシラバスに沿って行われていたか。 演習進度の遅れから、シラバスの内容が全体的に後ろ倒しとなった。
- ・出席が良好であったか。・課題が遅れてしまう学生への対応。

● 改善の方策

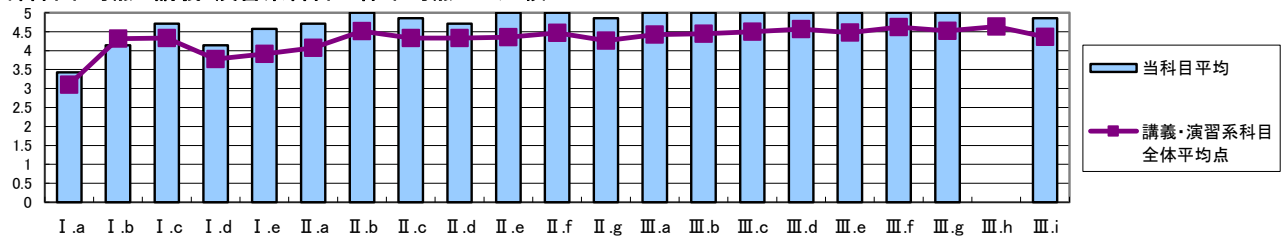
演習進度の遅れの度合いは、遅刻や欠席の数に比例して大きく見られるように思う。個々の学生の進度の差を全体でどのように調整していくか、毎年の課題となっている。可能な限り、毎回の授業で完結または区切りがつけられるような課題を提示し、前の授業を休んだとしても次の授業で全体を揃えることができるような進め方を考えたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	コンピューター演習Bb	職名	講師	履修者数	11
教員名	湯浅 恭子			回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.43	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.14	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.71	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.14	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.57	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.71	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.86	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.86	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.86	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>この数年学生へヒアリングを行うと、身近なコンピュータは「スマートフォン」という学生が大半を占める。インターネットの活用を中心に日常的に利用がある。対して、WindowsやMacintoshといったパーソナルコンピュータを利用する機会については、その頻度は学生によってかなり異なる。本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。この利用方法をコンピュータ上だけでなく、応用して日常生活の中で活用できるよう理解を深める。また情報セキュリティや、近年発達している「IoT」「AI」などの情報技術について基本的な知識を習得する。音楽の発信者としてこれらの情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。履修者の多くが教職課程履修者であることから、教育現場でのPC利用の可能性についても考察する。<内容>コンピュータの基本的な構造、OSなどのソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現状の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウェアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。<状況説明と分析>金曜日4時限、履修者数11名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。プレゼンテーションの際は2～4人のグループ演習とした。履修者は2年生・科目履修生の混合クラスであった。楽譜作成・音楽制作ソフトウェアは初めて使う学生も多かったが、興味を持ち個々に工夫をして課題を進めていた。後半の回で、各自理解を深めたいソフトウェアを選び、自ら制作課題を考えて演習を行ったが、これに対しても意欲的に取り組む姿勢が見られた。

● 問題点

・この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか。・出席が良好であったか。・予習、復習をして授業を理解するように努めたか。

● 改善の方策

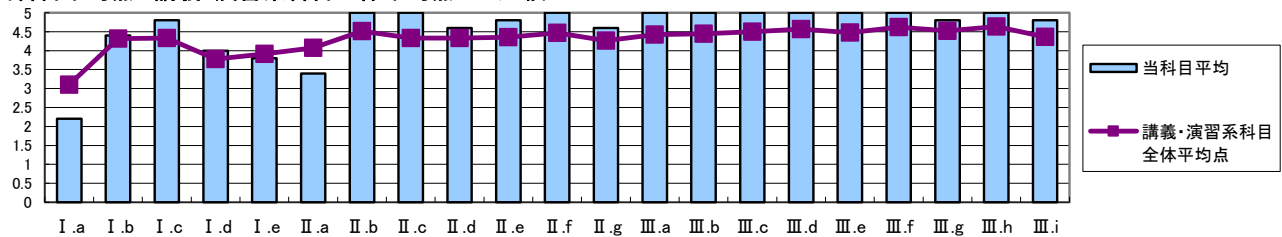
予習、復習については各回の終わりに明確に提示する。また、各回の目標を授業開始時と終了時に伝え、その時間にもどのようなことを学ぶのか、学んだのかを学生自身が意識できるように進める。「履修の際のシラバス活用」については、ほとんどが教職課程履修者のため、確認をすることなく履修をしているようである。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	コンピューター演習Bc	職名	講師	履修者数	15
教員名	湯浅 恭子			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.20	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.80	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.40	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.80	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.60	4.26
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	b 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.80	4.52
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.80	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>この数年学生へヒアリングを行うと、身近なコンピュータは「スマートフォン」という学生が大半を占める。インターネットの活用を中心に日常的に利用がある。対して、WindowsやMacintoshといったパーソナルコンピュータを利用する機会については、その頻度は学生によってかなり異なる。本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。この利用方法をコンピュータ上だけでなく、応用して日常生活の中で活用できるよう理解を深める。また情報セキュリティや、近年発達している「IoT」「AI」などの情報技術について基本的な知識を習得する。音楽の発信者としてこれらの情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。履修者の多くが教職課程履修者であることから、教育現場でのPC利用の可能性についても考察する。<内容>コンピュータの基本的な構造、OSなどのソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現状の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウェアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。<状況説明と分析>土曜日1時限、履修者数15名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。プレゼンテーションの際は2~4人のグループ演習とした。履修者は全学年が対象、当クラスは1~4年生の混合クラスであった。学年による理解度・習得度の差はあまりなく、積極的に演習に取り組む様子が多く見られた。作成した課題をお互いに見て参考にしたり教え合うような姿勢も見られた。公欠による課題進度の遅れが多くあり、全体的にシラバスの内容が後ろ倒しになってしまった。

● 問題点

・授業はシラバスに沿って行われていたか。・この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか。・この授業を受講して、到達目標に達した。

● 改善の方策

土曜日に行われる演奏会が多く、公欠者が多く出る状況となった。可能な限り、毎回の授業で完結または区切りがつくような課題を提示し、全体を揃えられるような進め方を考えたい。また各回の目標を授業開始時と終了時に伝え、その時間にどのようなことを学ぶのか、学んだのかを意識できるように進める。「履修の際のシラバス活用」については、ほとんどが教職課程履修者のため、確認をすることなく履修をしているようである。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ドイツ語2a	職名	特任教授	履修者数	13
教員名	高橋 幸雄			回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.80	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.36	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.55	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.73	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.82	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.73	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.27	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.45	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.18	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.45	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.18	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.18	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.82	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.73	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.27	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.73	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.64	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.38	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.55	4.36

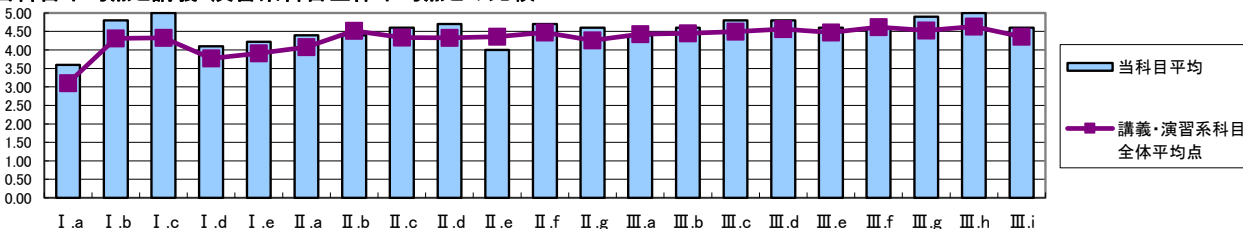
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ドイツ語4	職名	特任教授	履修者数	14
教員名	高橋 幸雄			回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.60	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.80	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.10	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.22	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.40	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.60	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.70	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.70	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.60	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.40	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.60	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.80	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.80	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.60	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.60	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.90	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.60	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

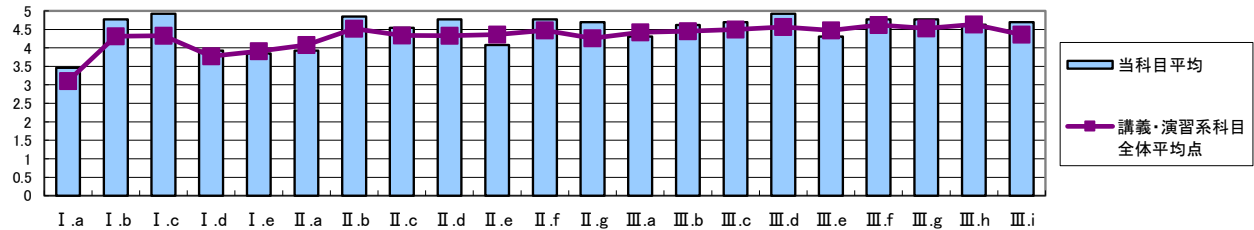


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ドイツ語2b	職名	特任教授	履修者数	14
教員名	高橋 幸雄			回答者数	13

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.46	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.77	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.92	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.92	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.85	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.92	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.85	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.54	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.77	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.08	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.77	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.69	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.31	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.62	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.69	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.92	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.31	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.77	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.77	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.63	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.69	4.36

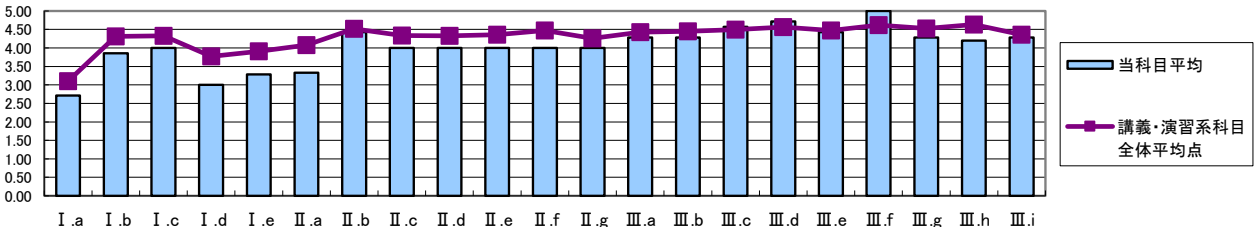
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2a	職名	准教授	履修者数	7
教員名	レンツ I. K.			回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.71	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.86	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.29	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.33	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.43	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.29	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.29	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.57	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.71	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.43	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.29	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.20	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.29	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

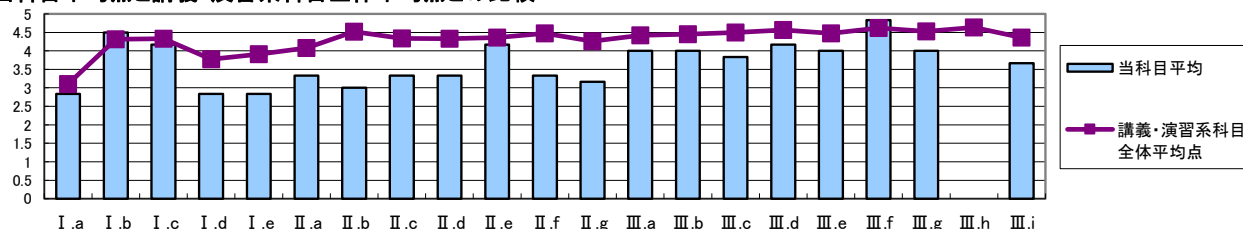


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2b	職名	准教授	履修者数	6
教員名	レンツ I. K.			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.83	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.17	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.83	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	2.83	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.33	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.33	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.33	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.17	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.33	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.17	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	3.83	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.17	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.83	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.67	4.36

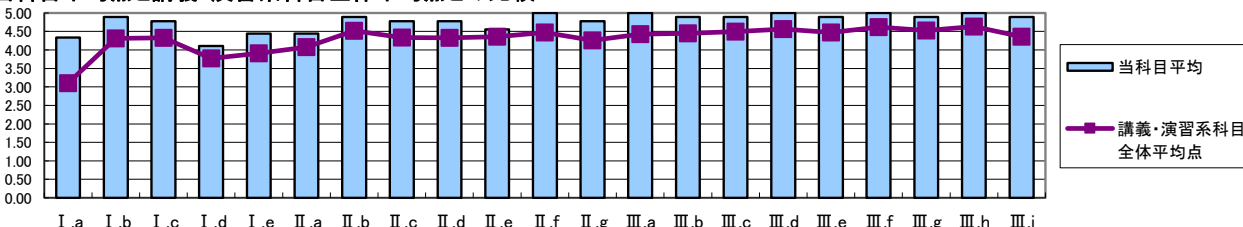
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション4	職名	准教授	履修者数	13
教員名	レンツ I. K.			回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.33	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.89	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.78	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.11	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.44	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.44	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.89	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.78	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.78	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.56	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.78	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.89	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.89	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.89	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.89	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.89	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ドイツ語(Konzertfach)6	職名	准教授	履修者数	3
教員名	レンツ I. K.			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.67	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.33	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.33	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.33	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

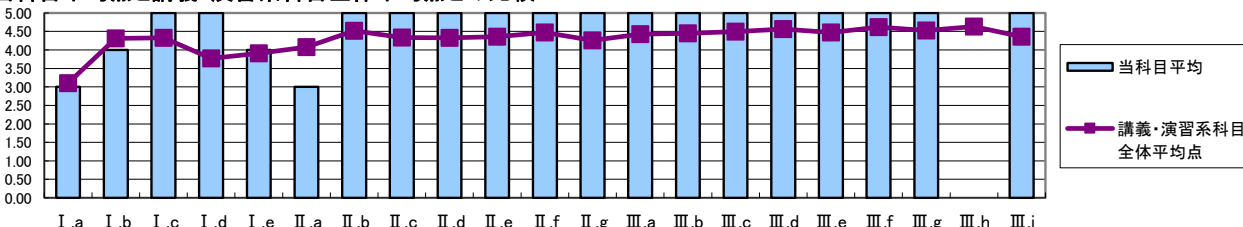
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ドイツ語(Konzertfach)8	職名	准教授	履修者数	2
教員名	レンツ I. K.			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

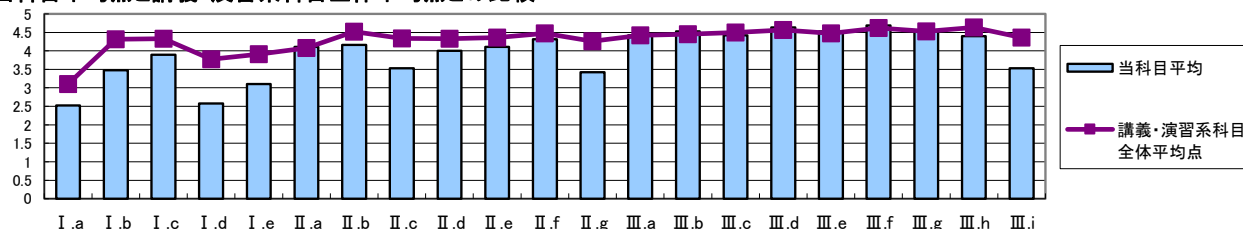


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	東邦スタンダードIVBa	職名	特任准教授	履修者数	28
教員名	澤 敦			回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.53	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.47	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.89	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.58	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.11	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.11	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.16	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.53	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.11	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.32	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.42	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.42	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.53	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.42	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.63	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.53	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.68	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.53	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.40	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.53	4.36

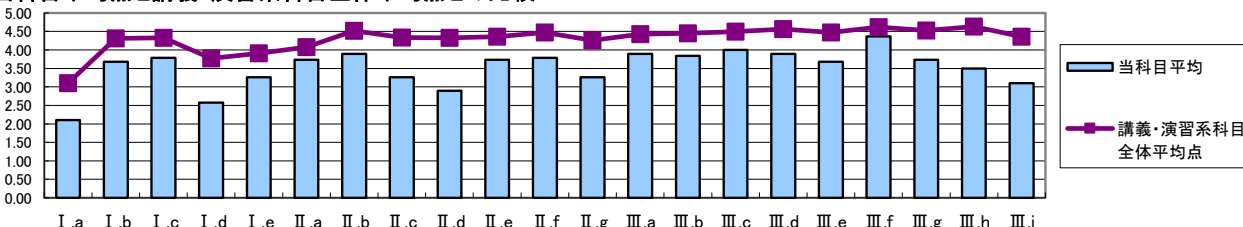
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	東邦スタンダードIII Bb	職名	専任講師	履修者数	28
教員名	浦川 玲子			回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.11	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.68	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.79	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.58	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.26	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.74	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.89	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.26	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.89	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.74	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.79	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.26	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.89	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.84	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.89	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.68	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.37	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.74	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.11	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

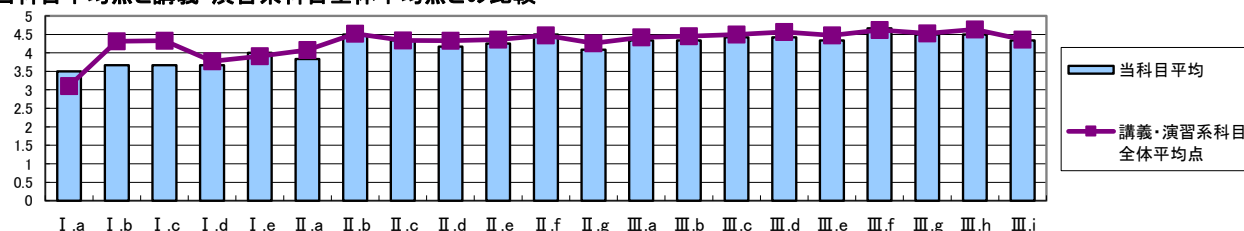


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	英語圏異文化コミュニケーション2a	職名	講師	履修者数	13
教員名	J.ダン			回答者数	12

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.50	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.67	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.67	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.50	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.33	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.25	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.08	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.33	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.33	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.42	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.42	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.33	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.67	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

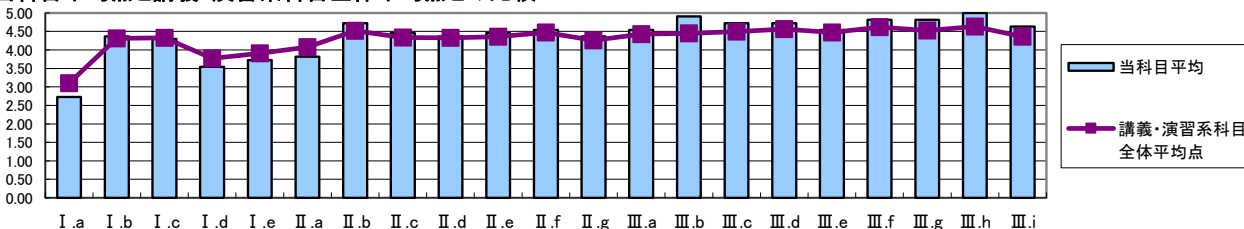
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	英語圏異文化コミュニケーション2b	職名	講師	履修者数	18
教員名	J.ダン			回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.73	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.36	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.30	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.55	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.73	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.82	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.73	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.45	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.45	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.55	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.36	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.55	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.91	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.73	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.73	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.55	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.82	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.82	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.64	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

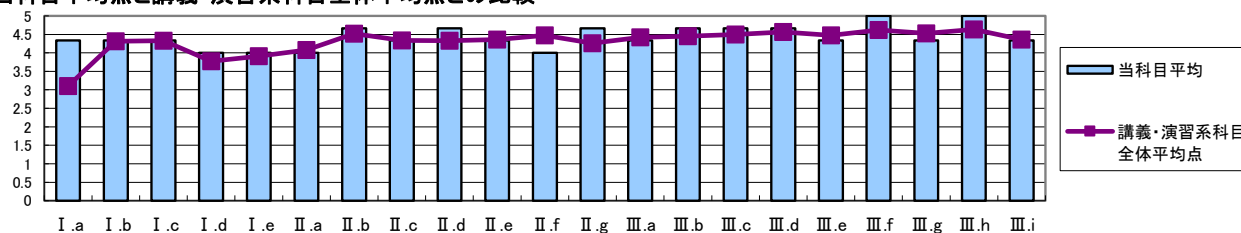


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	英語圏異文化コミュニケーション4a	職名	講師	履修者数	9
教員名	J.ダン			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.33	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.33	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.33	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.33	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.67	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.33	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.67	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.67	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.67	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.33	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.33	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

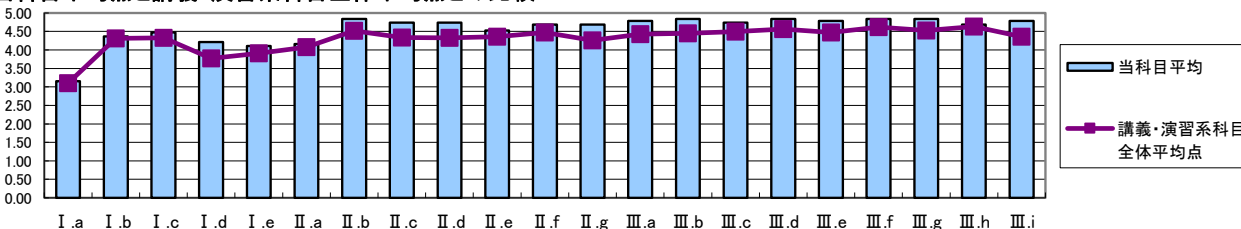
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	イタリア語2	職名	講師	履修者数	21
教員名	コルナーゴ マルコ			回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.16	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.37	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.47	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.21	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.11	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.16	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.84	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.74	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.74	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.53	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.68	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.68	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.79	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.84	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.74	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.84	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.79	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.84	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.84	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.68	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.79	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

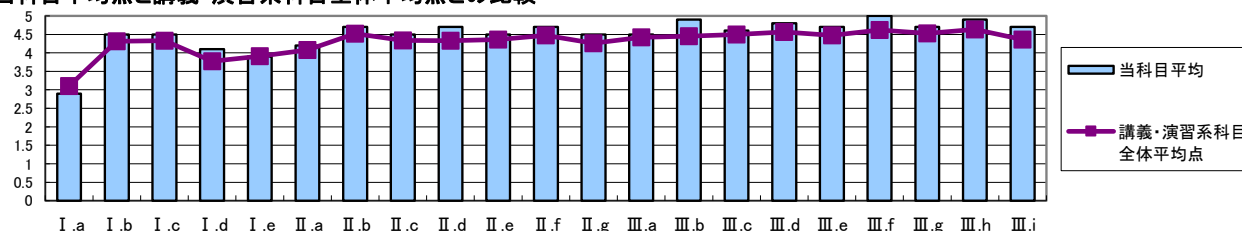


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション2	職名	講師	履修者数	13
教員名	コルナーゴ マルコ			回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.90	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.10	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.90	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.70	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.50	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.70	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.70	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.90	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.60	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.80	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.70	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.70	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.90	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.70	4.36

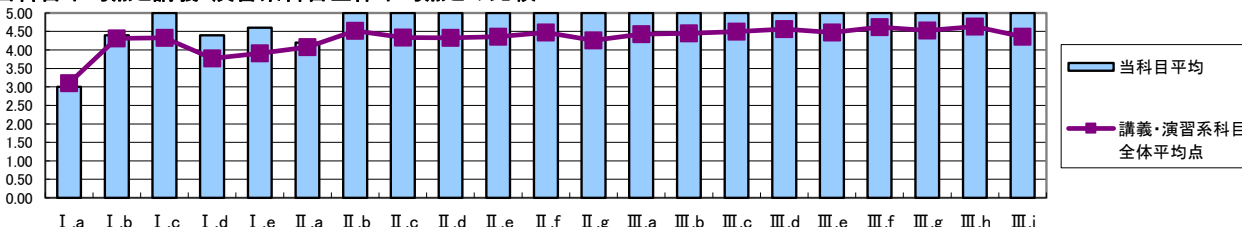
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション4	職名	講師	履修者数	6
教員名	コルナーゴ マルコ			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.40	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.40	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.60	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

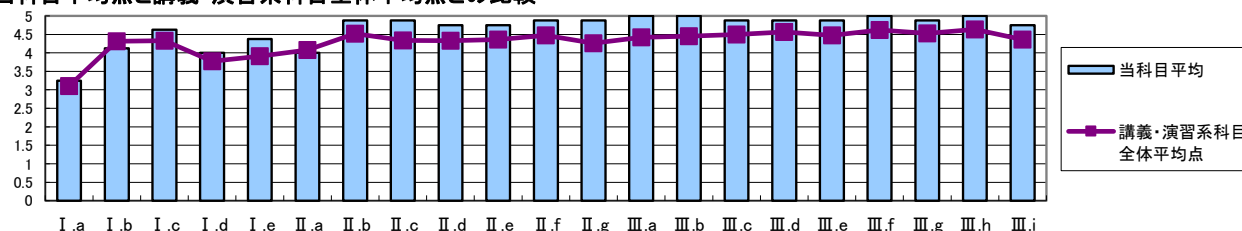


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	イタリア語4	職名	講師	履修者数	10
教員名	コルナーゴ マルコ			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点	
I	a	この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.25	3.10
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13	4.32
	c	授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.63	4.33
	d	予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e	この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.38	3.91
II	a	授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	授業のテーマが、はっきりしていた。	4.88	4.52
	c	授業の内容に興味・関心を持てた。	4.88	4.33
	d	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.33
	e	授業の内容を理解できた。	4.75	4.36
	f	クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.88	4.47
	g	授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.88	4.26
III	a	授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b	教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c	授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.88	4.50
	d	教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.88	4.56
	e	教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.88	4.47
	f	教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g	授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.88	4.52
	h	休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i	あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.75	4.36

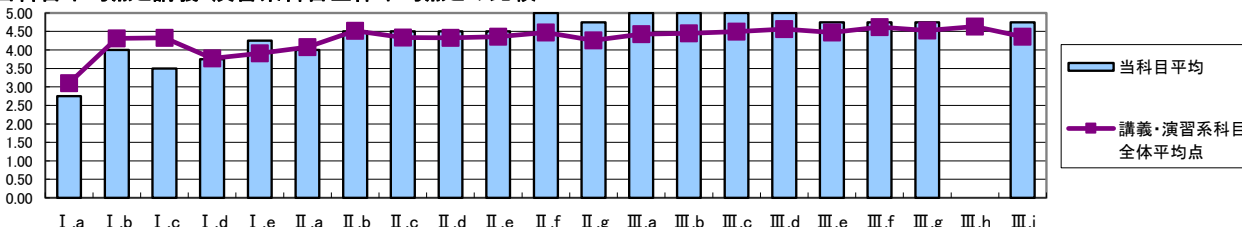
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	情報スキルB	職名	講師	履修者数	5
教員名	佐久間 誠			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点	
I	a	この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.75	3.10
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c	授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.50	4.33
	d	予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.75	3.77
	e	この授業を受講して、到達目標に達した。	4.25	3.91
II	a	授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	授業のテーマが、はっきりしていた。	4.50	4.52
	c	授業の内容に興味・関心を持てた。	4.50	4.33
	d	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e	授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f	クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g	授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.75	4.26
III	a	授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b	教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c	授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d	教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e	教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.75	4.47
	f	教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g	授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.75	4.52
	h	休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i	あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.75	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

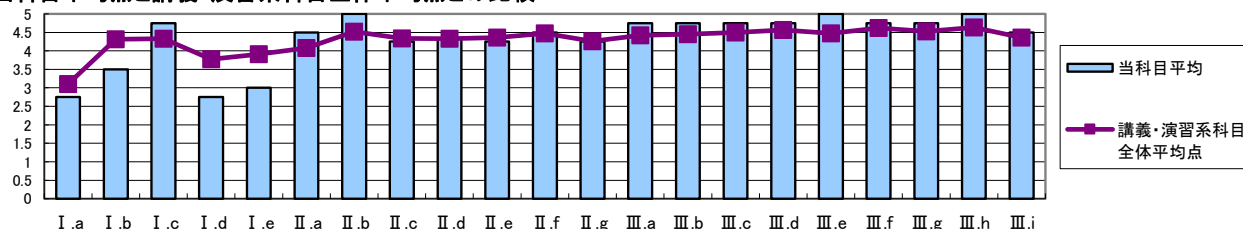


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B	職名	講師	履修者数	6
教員名	高畑 敦子			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.75	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.75	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.75	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.25	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.25	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.25	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.75	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.75	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.75	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.75	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.75	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

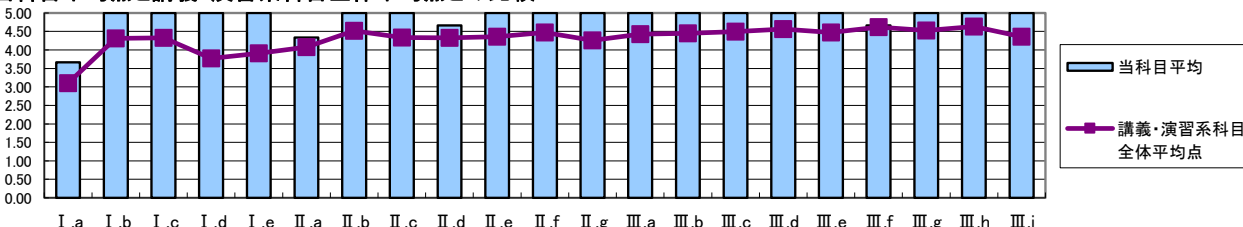
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	文化芸術論B	職名	講師	履修者数	6
教員名	山下 暁子			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.67	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



教職に関する専門科目

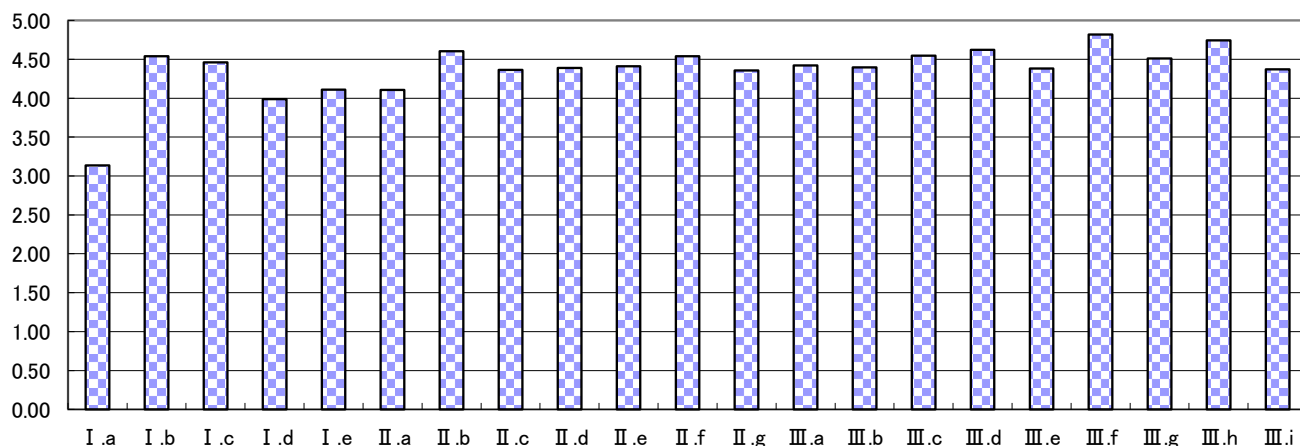
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	教職に関する専門科目
科目数	11

履修者数	217
回答者数	162

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.14	34	33	46	19	30	162	0
			21.0	20.4	28.4	11.7	18.5		
	b	4.54	109	33	16	3	0	161	1
			67.7	20.5	9.9	1.9	0.0		
	c	4.46	97	45	15	4	0	161	1
	60.2		28.0	9.3	2.5	0.0			
d	3.99	61	50	42	6	3	162	0	
		37.7	30.9	25.9	3.7	1.9			
e	4.11	66	57	33	3	3	162	0	
		40.7	35.2	20.4	1.9	1.9			
II	a	4.11	69	42	48	2	0	161	1
			42.9	26.1	29.8	1.2	0.0		
	b	4.60	115	31	13	1	1	161	1
			71.4	19.3	8.1	0.6	0.6		
	c	4.36	94	40	23	3	2	162	0
			58.0	24.7	14.2	1.9	1.2		
	d	4.39	97	41	17	4	3	162	0
	59.9		25.3	10.5	2.5	1.9			
e	4.41	95	40	20	2	2	159	3	
		59.7	25.2	12.6	1.3	1.3			
f	4.54	109	30	22	0	0	161	1	
		67.7	18.6	13.7	0.0	0.0			
g	4.36	98	31	27	5	1	162	0	
		60.5	19.1	16.7	3.1	0.6			
III	a	4.42	98	39	20	2	2	161	1
			60.9	24.2	12.4	1.2	1.2		
	b	4.40	93	45	19	2	2	161	1
			57.8	28.0	11.8	1.2	1.2		
	c	4.55	107	39	13	0	2	161	1
			66.5	24.2	8.1	0.0	1.2		
	d	4.62	117	32	11	1	1	162	0
			72.2	19.8	6.8	0.6	0.6		
	e	4.38	92	43	20	4	1	160	2
	57.5		26.9	12.5	2.5	0.6			
f	4.82	140	13	8	0	0	161	1	
		87.0	8.1	5.0	0.0	0.0			
g	4.51	105	36	16	2	1	160	2	
		65.6	22.5	10.0	1.3	0.6			
h	4.74	76	6	7	1	0	90	72	
		84.4	6.7	7.8	1.1	0.0			
i	4.37	95	38	23	3	2	161	1	
		59.0	23.6	14.3	1.9	1.2			

教職に関する専門科目 全体平均点

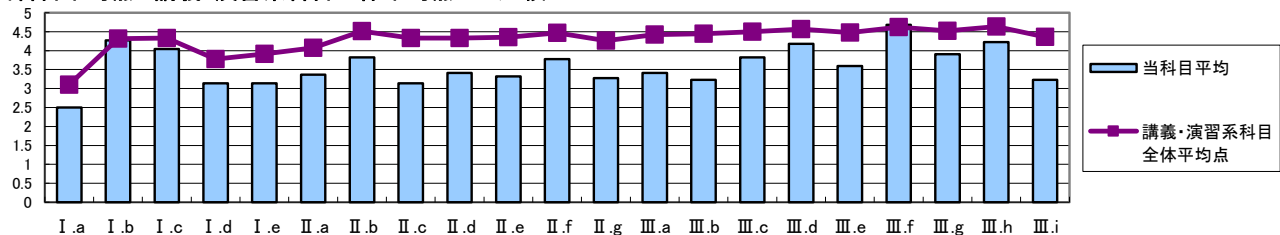


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教育相談・進路指導②	職名	准教授	履修者数	24
教員名	三室戸 元光			回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.50	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.27	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.05	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.14	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.14	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.36	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	3.82	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.14	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.41	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.32	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	3.77	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.27	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.41	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.23	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	3.82	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.18	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.59	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.68	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.91	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.22	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.23	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

①科目の目的：青年期を中心とした生涯発達理論、進路指導、及びキャリア教育に関する心理学的理論を学ぶ。生徒の進路に関する具体的問題について説明できる。②授業の内容：、「進路指導」は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する活動である。学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的とする。③授業形態：第8回後半～第15回前半の授業では、進路指導・キャリア教育の定義とその目標、学習指導計画、育成すべき能力等を解説する。「進路指導」の最終試験は、第15回の授業後半に行う。学び得た知識や情報への理解度、学んだ内容に対する自分の考え方を求める。④受講者数：24名在籍のうち回答は22名。⑤受講者の状況：編入学生と科目履修生が各1名在籍しているほかは、現役1年生が多数である。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、「1ポイント以上低い値」の項目は、ほとんどすべての項目に該当し、特に2ポイント以上低い項目は、「授業を受講して到達目標に達した」「授業内容に興味関心を持てた」「授業内容を理解できた」「授業は学習意欲を刺激されるものであった」「授業の進め方は丁寧で分かりやすかった」「学生の理解を促進する創意工夫をしていた」「教員の話し方は明瞭で聞きやすく板書は適切であった」「あなたにとって、授業の総合評価は良いか」の8項目であった。

● 問題点

教員と学生の意識のズレ：授業を行う中で、意識のズレは当初想定したよりも大きいことが理解できたが、試験時間込みで7.5時間では修正が間に合わず、ニーズの収集と改善に結びつけられなかった。出席状況が良くても教室内あちこちで私語がいつまでも続き、高校生向けの授業を見ているような印象である。最大の難関は、生徒に「教育課程とは何か」という認識がまったくなかったことで、教員が授業の進行に手間取り、受講してくれた学生に大きな爪痕を残してしまったと言わざるを得ない。

● 改善の方策

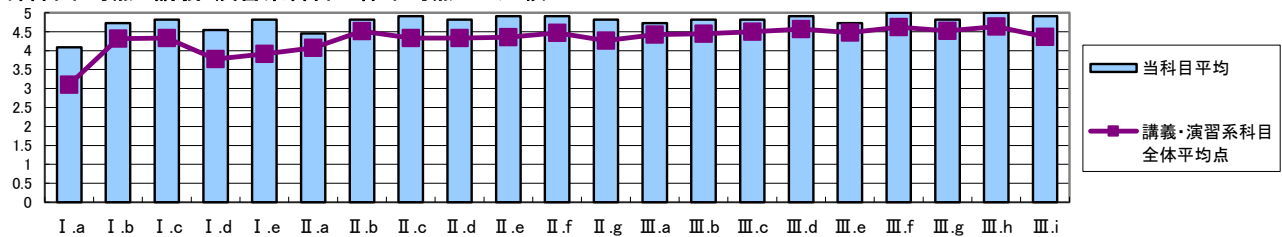
文科省の定めた教職課程のコアカリキュラムで求められる内容を、この短時間で、しかも教育課程の認識がない1年生に指導するのは難関である。現状で改善できる方法としては、教科書中心を捨てても「最低限度の内容を記したプリント」を軸足にした学習にして、毎回の授業テーマに即したワークショップ形式の自己演習（グループ演習は少ない時間数では毎回できない）ができるのではないかと考えている。外部講師を招いて行ったマネコネ・ライコネ授業で「高校生と同じ反応が出る」ということは、そのスタイルならば受け入れられる可能性が高い、ということである。その分知識学習が大幅に減少してしまうが、現状の学生の学力・能力レベルで理解可能な内容で展開する方がベターである、と考えられる。中高生向けのキャリア教育ワークシートなどはすでに教員がもっており、その中から選択して、実際のキャリア学習を「追体験」してもらうことで進路指導の内容を理解することを目標としたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教育行政b	職名	特任准教授	履修者数	13
教員名	石橋 裕			回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.09	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.73	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.82	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.55	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.82	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.45	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.82	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.91	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.82	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.91	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.91	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.82	4.26
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.73	4.42
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.82	4.45
	b 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.82	4.50
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.91	4.56
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.73	4.47
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.82	4.52
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	h	4.91	4.36
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.91	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

各授業とも、講義式、協調学習、マイクリディベート等の協働的な学修織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。授業の合間には、各学習内容と音楽との関連に触れ、実際に合唱等をする時間をとった。アクティブ・ラーニングでは学生同士で活発な意見交換等が行われ、思考力や判断力、発表力を高め、知識の概念化が図られてきた。主体的・対話的で深い学びを行う上で、本授業は13名という理想的なクラスサイズであり、クリティカル・シンキングにより自分の考えを見直し、メタ認知能力を高めることができた。授業内容は文部科学省、地方教育行政、学校教育行政、社会教育行政、家庭教育行政、安全教育等と広い分野に及び、これらを短期間で講義をしていくため、教育行政の概要を考察し理解することが主眼となる。この分野の知識がほとんどない学生が多くいることから、教育行政の概要を考察して体系的に理解する意義は大きいと考えている。留意したことは次の3点である。①教育行政と学校運営との関係を具体的な事例に基づいて理解する。②教育行政の変遷について概要をつかむ。③現在の教育行政の現状と課題を整理する。この3点は授業全体で意識して取り組んできたところである。その中で特に教職課程の授業であることから、学校教育行政の変遷および新学習指導要領の方向性及び家庭、地域との協働については、具体的に踏み込んだ授業展開を試みた。今後の教育は産官学民が協働で歩調を合わせて進めていくことが求められている。この点については、特に強調したところである。

● 問題点

I a 「履修するにあたって、シラバスを活用した。」という項目で「あまりそう思わない」に1人「全くそう思わない」に1人が回答している。授業は大方においてシラバスの項目に沿って進めてきたが、シラバスの活用について学生に周知する点において課題を残した。

● 改善の方策

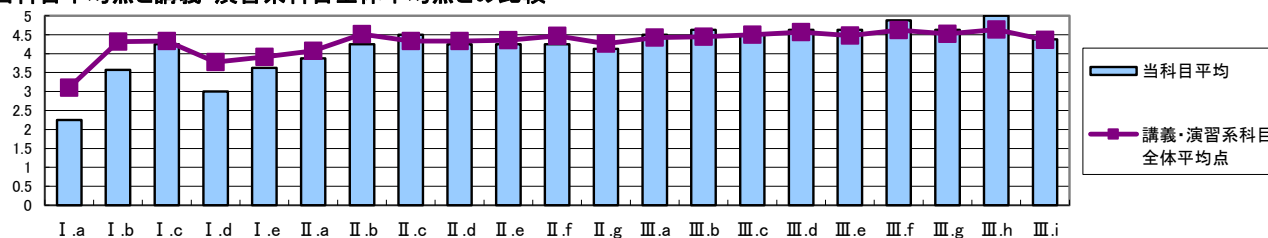
シラバスについて、第1回目の授業で印刷して配布し、15回の講義の見通しを持たせたい。さらに、毎時間の授業で学習内容とシラバスとの関連を説明する。学生がシラバスをあまり確認していない状況があるため、講義の中で丁寧なガイダンスを行う必要性を痛感した。また、予習、復習が計画的に行われるよう各時間に授業を振り返り、次の授業の内容を示す時間を確保して、予習、復習が習慣化するようにしていく。今後とも、主体的に学ぶ学生の育成に努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教育方法b	職名	特任准教授	履修者数	15
教員名	石橋 裕			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.25	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.57	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.25	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.63	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.88	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.25	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.50	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.25	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.25	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.13	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.63	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.63	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.63	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.88	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.63	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.38	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



アンケートの結果

● 現状の説明

実際の教育現場で行われている多様な指導方法や学習形態を体験的にシュミレーションする授業を中心とした。特に協働による学びを重視し、協調学習、マイクロディベート、ブレinstrooming、ランキング手法、グループ討議等について体験的に学修した。各授業とも、講義式、アクティブ・ラーニングを織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りリカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。音楽大学という特質から、音楽教育と結びつけて実践的な内容としたため、学生間では活発な意見交換等が行われ一定の成果をあげたと考えている。主体的・対話的で深い学びを行う上で、本授業は15名という理想的なクラスサイズであり、これからの教育に必要なイノベーション能力、コラボレーション能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシーを含めた資質・能力の育成について体験的に理解していった。3年生という特質から、各種演奏会出演、ウィーン短期留学、各週体験活動等から公欠が多く、継続的な学習という点で課題がある。出席が半数に満たない授業もあり、学生の学修に極端な差がつかないよう復習に力点を置き、シラバスどおりに進まない現状があった。留意したことは ①ねらいを明確にして見通しを示し、学習の内容、成果や課題について振り返りのある授業をめざすこと ②協調学習（ジグソー学習）等主体的・対話的で深い学びの指導方法、学習方法を理解すること ③資質・能力の3つの柱を理念とした新学習指導要領の趣旨や概要を理解することである。この3点は授業全体で意識して取り組んできたところである。また、家庭や地域社会との連携、協働、産官学民の協働の現状や求められる取組やICT教育の意義と今後の課題についても取り上げた。

● 問題点

I a 「この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した」という設問に対して5 「強くそう思う」と回答した学生が1人となっている。履修するにあたってシラバスを読み込んでいる学生はすくない現状がある。また、I d 「予習や復習などをして、授業を理解するように努めた」で「強くそう思う」と答えた学生は1人とどまり、予習や復習の習慣化に課題がある。

● 改善の方策

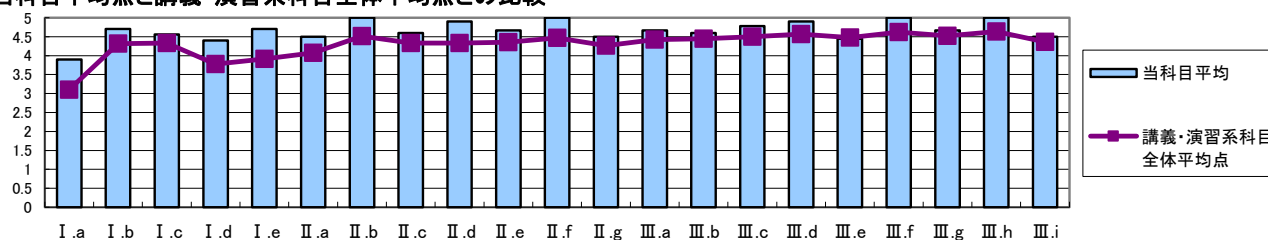
シラバスについて、第1回目の授業で印刷して配布し、きめ細かく説明し15回の講義及び予習、復習の見通しを持たせたい。しかし公欠等での欠席者が多く、シラバスどおりに授業を進行できなかった面があり、その点からシラバスの活用について課題を残したと考えられる。今後は、基本的にシラバスの計画どおりに授業を進め、公欠等の学生にはプリント資料で補うなどの工夫をしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	特別活動の研究b	職名	講師	履修者数	14
教員名	五十嵐 由和			回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.90	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.70	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.56	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.40	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.70	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.60	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.90	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.67	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.67	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.60	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.78	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.90	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.44	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

特別活動に関する基本的事項についての理解や理論を深め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図る「実践知教育」により理論と実践性の両面からテーマを設定し、授業を進めてきたがアンケート結果から概ね良好であった。中学校・高校の学校現場の身近な事例・現代的な課題、新学習指導要領、中教審の答申を踏まえた理論研究、事例研究、実践研究（模擬学級活動、学級通信づくり）の教材も概ね良好であった。シラバスを活用方法について説明したが、シラバスの活用や予習・復習に不十分な点が見られた。

● 問題点

シラバスを活用した授業、予習・復習の充実。

● 改善の方策

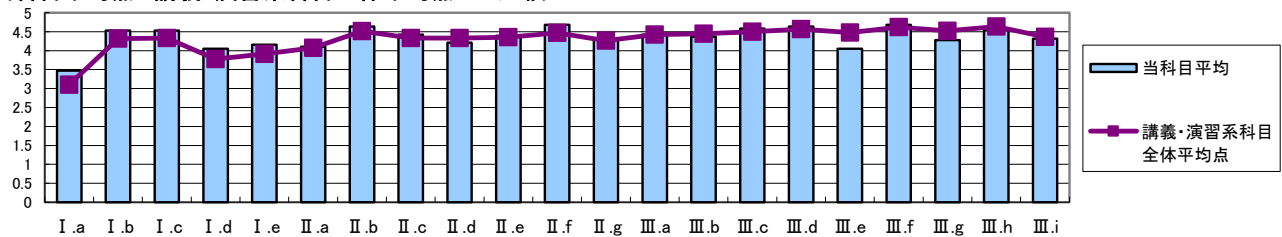
シラバスを活用し、授業の充実及び予習・復習を充実するために、毎回の授業でシラバス・学習内容を意識させるとともに予習・復習の課題を示すなど工夫していく。新学習指導要領解説をテキストにし、理論研究、実践研究を基本に、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を積極的に取り入れ、学生が主体的に学んでいける授業をさらに進めていく。特に、中学校・高校の学校現場に身近な事例・課題、新学習指導要領、現代的課題を積極的に取り入れ、授業テーマ、教材、授業の進め方、グループ討議、発表学習、評価等をさらに工夫していく。今後も、実践的に学ぶために、論作文、学級通信づくりなど行い、さらに充実していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	生徒指導の研究a	職名	講師	履修者数	25
教員名	五十嵐 由和			回答者数	19

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.47	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.53	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.53	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.05	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.16	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.11	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.63	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.42	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.21	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.39	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.68	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.32	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.42	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.37	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.58	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.63	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.05	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.68	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.28	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.54	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.32	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

生徒指導に関する基本的事項・理論の理解を深め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得をし、生徒指導の課題と展望を明確にする「実践知教育」を目指し、テーマを設定してきた。アンケートの結果からテーマ・進め方には概ね良好な受け止め方をしている。全体的に、中学校・高校の学校現場の身近な事例の教材・現代的な課題をもとに、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、事例研究を基本に講義、グループ討議を進めてきたが、概ね良好な受け止め方をしている。シラバスを活用方法について説明したが、シラバスの活用や予習・復習に不十分な点が見られた。

● 問題点

シラバスを活用した授業、予習・復習の充実。

● 改善の方策

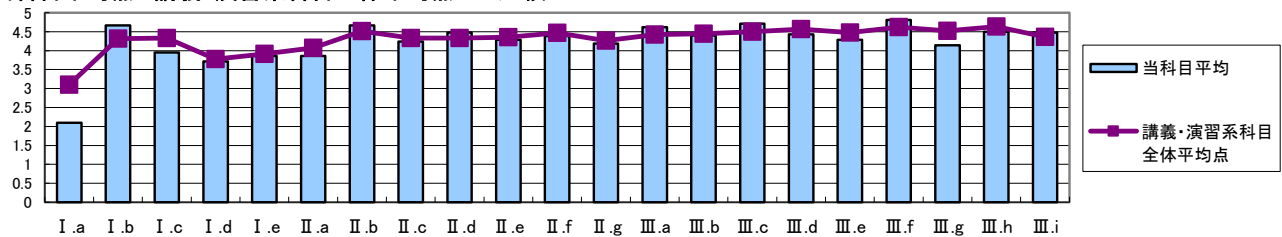
シラバスを活用し、授業の充実及び予習・復習を充実するために、毎回の授業でシラバス・学習内容を意識させるとともに予習・復習の課題を示すなど工夫していく。新学習指導要領を踏まえ、中学校・高校の学校現場に身近な事例・現代的な課題、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、実践研究、事例研究を基本に、主体的・対話的な学び(アクティブ・ラーニング)になるようにグループ討議など、学生が主体的に学んでいける授業をさらに進めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教育相談・進路指導①	職名	講師	履修者数	24
教員名	川久保 博			回答者数	21

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.10	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.95	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.71	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.86	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.24	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.48	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.29	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.38	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.19	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.62	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.40	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.71	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.43	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.29	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.81	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.14	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.48	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本講義は、全15回の講義を2人の教員が交代で担当する形式で行われた。前半の「教育相談」の目標は、人の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を学ぶことと、生徒を支援するために必要な基礎的知識を身に付けることであった。講義は、思春期の児童や生徒が抱えやすい問題を講義内で具体例として紹介しながら展開した。全体の出席率は良好であり、全体のおよそ75%の学生が「この授業の出席は良好であった。」という設問に対して「強く思う」と回答していた。他方、本講義のアンケートの平均点が全体より下回っていた回答は、「授業中は、私語を控え学習に集中した。」、「授業は、シラバスに沿って行われていた。」や「授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。」であった。授業中に生じるすべての私語を注意した場合、授業にゆとりや幅がなくなり、かえって授業の活性化を妨げることになる可能性がある。また、授業内容に関連した疑問点を教員、もしくは友人に確認することは授業内容を理解する上で重要である。一方で、教室内の静粛性を保つことも講義内容に集中するためには重要であることから、私語の取り扱いについては改善の余地がある。また、「教育相談」の内容を7回の講義で行う必要があったために、当初の授業予定から若干変更した部分もあった。スマートフォンを使用したクイズ形式の復習課題や映像資料の視聴は、概ね学生には好評だった。今後も学生の関心を高めるための教材の提示を続けたい。また、講義内容については、取り上げる具体例に身近な例を増やしたことが理解につながっていると考えられるため、その方向を継続したいと考えている。

● 問題点

「授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。」が全体平均を下回っていたことから、授業運営に対する一層の取り組みが求められる。また、教室内の静粛性を保つための工夫も必要である。

● 改善の方策

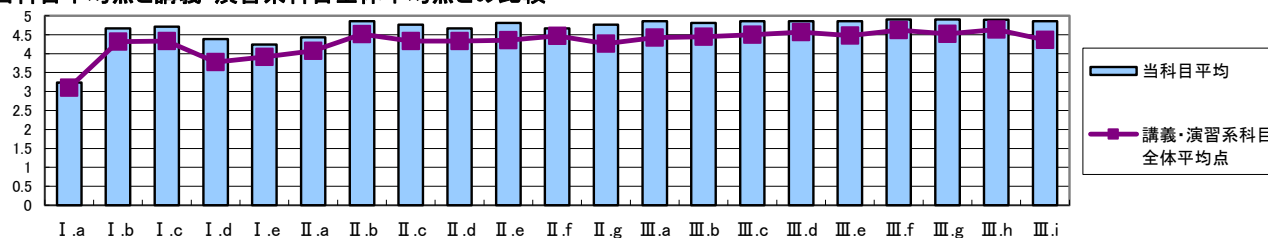
講義形式に拘らずに、演習やグループワークを積極的に取り入れるなどして、学生の授業への関わりを深めたい。同時に、多くの学生が学びやすい環境を整えるために、私語に対する注意を増やす。授業で扱った内容自体には一定の興味を持ってもらえたようなので、そこから自主的な学ぶにつなげるための講義外課題の導入を検討する。また、各回の講義内容を改めて精査し、1回の講義がそれぞれの時間内に収まるような改善をしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽科教材研究B	職名	講師	履修者数	32
教員名	山崎 正彦			回答者数	21

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.24	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.71	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.38	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.24	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.86	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.76	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.81	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.76	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.86	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.81	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.86	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.86	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.86	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.90	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.90	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.89	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.86	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は、学習指導要領の教育目標、学習内容の理解に基づいて音楽科教育を通して身につく学力を理解し、そのうえで、表現及び鑑賞のそれぞれの指導事例を実践的、かつ理論的な見地から構成して模擬授業を行うことを到達目標としていた。授業内容は次の4点である。①音楽科教育における学習内容とそれを達成するための学習活動、その結果、生徒の身につく学力の3者の関係性について学習指導要領を通して学修する。②音楽の発達、音楽心理の知見を援用した授業設計を試み、模擬授業実践を行い、模擬授業後に授業内容・方法等の省察を実施する。③その過程において教育実践現場における最新の動向を参考にし、学力獲得に迫る現実的かつ、生徒の興味関心を引き出す実践的な指導方法、情報機器を活用した効果的な指導方法について検討する。④模擬授業では学習指導案を作成し基本的な作成方法を身につける。授業は水曜日の第4限であり、受講生は32名である。ここに挙げた内容については概ね良好な結果がえられていた。とりわけ、模擬授業実践については質の高い指導力が見受けられ、それが他の受講生にも波及して相乗効果となり、総じて高次元の模擬授業となっていた。アンケート結果から判明することとして、項目Iにおけるシラバスの活用という点で課題が生じている。項目II・IIIについては、シラバスとの整合性に関する課題が潜在している。ウィーン短期留学生への配慮から生じた変更であるが、より丁寧な説明が必要と考える。それ以外では、学生の意識が概して当方がここに記している現状と合致していることが窺える。ただし、授業時に成績評価の基準が示されていないという思いを抱いていた者1名は注目に値する。また、「どちらともいえない」という評価については、項目II「授業への興味・関心」「クラスサイズ」に、項目III「学生の理解に向けての教員の創意工夫」に、それぞれ1名がチェックを入れており、これはそのまま反省点となる。

● 問題点

すでに挙げた項目IIとIIIにおける「どちらともいえない」は、その意味以上に深刻にとらえる必要のある評価と受け止めている。クラスサイズは自らがコメントすることではないので差し控えるが、授業に関心をもたせること、学生の理解に向けての創意工夫については、さらに学生に寄り添い、その疑問に応えることが必須であると考えている。

● 改善の方策

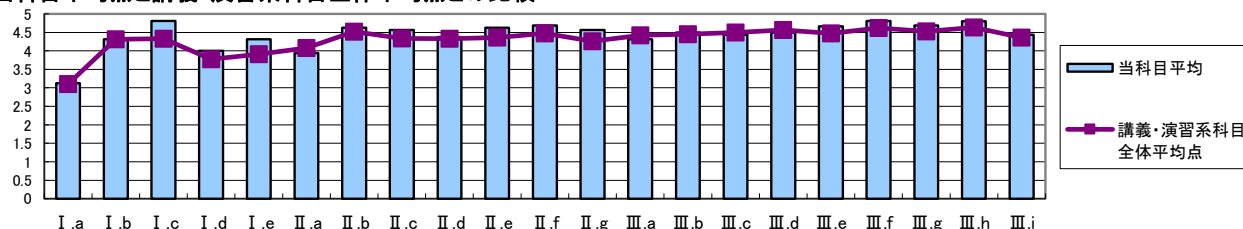
授業内容への興味・関心であるが、教育実習という対外的な営みであることにより意識をおき、自らの興味・関心をこえた責任というものの自覚をより意識させることが必要と考える。学生の理解に向けての創意工夫については不明な点、疑問点等をワークシートに記入することで、当方が明確にそれをまず受け止めることとし、そのうえで、教員からの回答については履修者全員に向けてのものとして、問題点の整理とすることを考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教職実践演習a	職名	特任教授	履修者数	24
教員名	粕谷 宏美			回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.13	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.31	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.81	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.31	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.94	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.63	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.56	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.63	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.69	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.56	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.31	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.44	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.81	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.69	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.80	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.44	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	音楽科教育法Ba	職名	特任教授	履修者数	19
教員名	西田 康子			回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.47	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.33	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.13	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.27	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.27	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.60	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.40	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.47	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.53	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.53	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.27	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.40	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.40	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.27	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.73	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.27	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

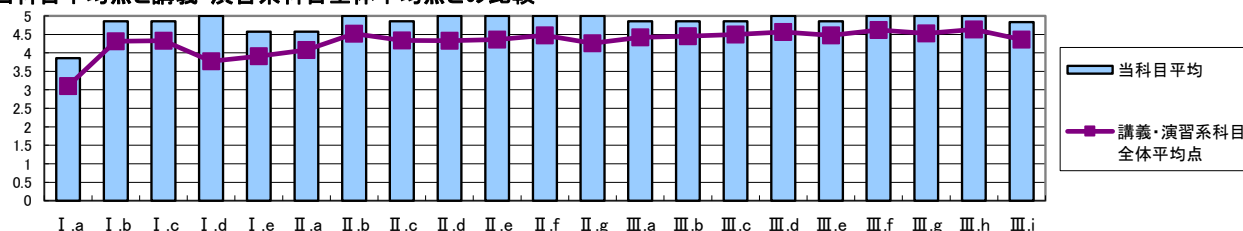


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽科教育法Bb	職名	特任教授	履修者数	14
教員名	西田 康子			回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.86	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.86	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.86	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.57	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.57	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.86	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.86	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.86	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.86	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.86	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.83	4.36

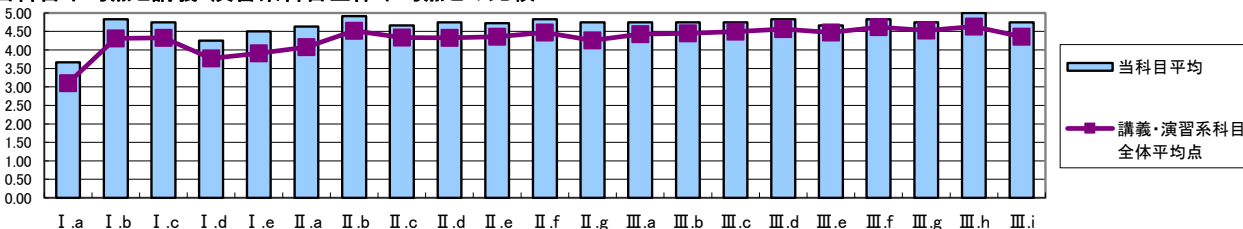
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	生徒指導の研究b	職名	講師	履修者数	13
教員名	五十嵐 由和			回答者数	12

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.83	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.75	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.25	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.64	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.92	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.67	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.73	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.83	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.75	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.75	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.75	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.75	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.83	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.67	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.83	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.75	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.75	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



音楽療法に関する科目

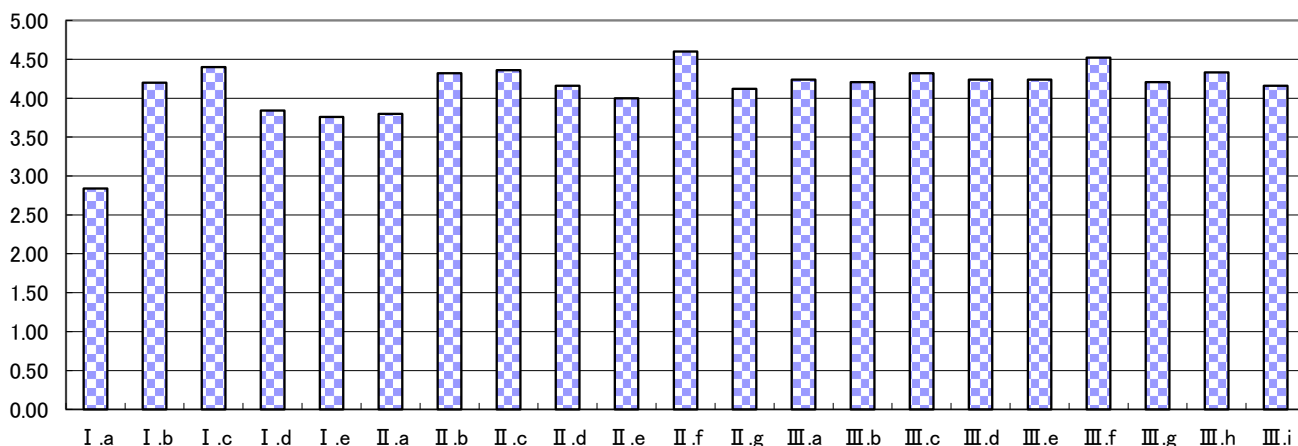
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	音楽療法に関する科目
科目数	4

履修者数	32
回答者数	25

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	2.84	2	10	2	4	7	25	0
			8.0	40.0	8.0	16.0	28.0		
	b	4.20	11	10	2	2	0	25	0
			44.0	40.0	8.0	8.0	0.0		
	c	4.40	12	11	2	0	0	25	0
	48.0		44.0	8.0	0.0	0.0			
d	3.84	5	11	9	0	0	25	0	
		20.0	44.0	36.0	0.0	0.0			
e	3.76	4	14	4	3	0	25	0	
		16.0	56.0	16.0	12.0	0.0			
II	a	3.80	6	10	8	0	1	25	0
			24.0	40.0	32.0	0.0	4.0		
	b	4.32	10	13	2	0	0	25	0
			40.0	52.0	8.0	0.0	0.0		
	c	4.36	11	12	2	0	0	25	0
			44.0	48.0	8.0	0.0	0.0		
	d	4.16	10	10	4	1	0	25	0
	40.0		40.0	16.0	4.0	0.0			
e	4.00	8	10	6	1	0	25	0	
		32.0	40.0	24.0	4.0	0.0			
f	4.60	17	6	2	0	0	25	0	
		68.0	24.0	8.0	0.0	0.0			
g	4.12	9	11	4	1	0	25	0	
		36.0	44.0	16.0	4.0	0.0			
III	a	4.24	10	11	4	0	0	25	0
			40.0	44.0	16.0	0.0	0.0		
	b	4.21	10	10	3	1	0	24	1
			41.7	41.7	12.5	4.2	0.0		
	c	4.32	13	7	5	0	0	25	0
			52.0	28.0	20.0	0.0	0.0		
	d	4.24	14	6	2	3	0	25	0
			56.0	24.0	8.0	12.0	0.0		
	e	4.24	10	12	2	1	0	25	0
	40.0		48.0	8.0	4.0	0.0			
f	4.52	16	7	1	1	0	25	0	
		64.0	28.0	4.0	4.0	0.0			
g	4.21	9	12	2	1	0	24	1	
		37.5	50.0	8.3	4.2	0.0			
h	4.33	13	8	1	2	0	24	1	
		54.2	33.3	4.2	8.3	0.0			
i	4.16	11	9	3	2	0	25	0	
		44.0	36.0	12.0	8.0	0.0			

音楽療法に関する科目 全体平均点

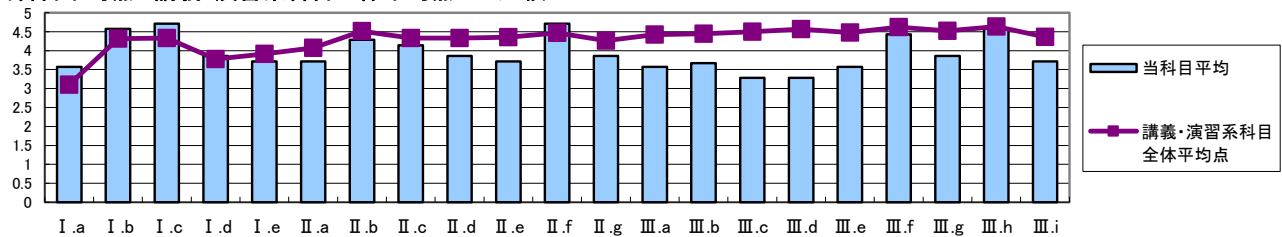


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	人間と医療 I B	職名	特任教授	履修者数	8
教員名	馬場 存			回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.57	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.57	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.71	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.86	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.71	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.71	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.29	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.14	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.71	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.71	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.86	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.57	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.67	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	3.29	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.29	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.57	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.43	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.86	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.57	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.71	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

火曜日3時限に開講された当科目の目的は、音楽療法を行う者にとって必要な精神医学の知識を習得し、心理療法的・精神医学的側面を持つ音楽療法を行う人間に必要なスキルを伸ばすと同時に、病理までも視野に入れた人間理解と、温かみや共感性を持った人間を育てる一助とすることである。受講生は2年生と編入生を含む8名である。内容は、いくつかキーワードを列挙すると「脳のしくみ」「こころのしくみ」「精神医学の歴史」「精神症状とは」「器質性・症候性精神障害」等であった。これらは、前述の通り精神医学と関連した音楽療法を実施する場合の必須な知識であると同時に、自分自身への洞察を高める目的も一部に持つ。アンケート結果は、今年度は平均を下回る項目が例年より多い。自由記述では「使用される教科書の内容や説明の仕方が専門的で難しかった」「先生は補助資料等を用意していた」とある。ここ数年の傾向として授業への参加態度が熱心である。そのこともあり、解説も例年より高度になっていた面は自覚しており、それが返ってわかりにくくしてしまった可能性があるように思われる。

● 問題点

上記のように、今年度は学生が意欲的で、教える側としても寄りレベルの高い専門的な内容に重点を置いたが、それが返ってわかりにくさに繋がってしまったように思われる。学生の求める要求水準が更に上がってきていることも、反映されているかもしれない。

● 改善の方策

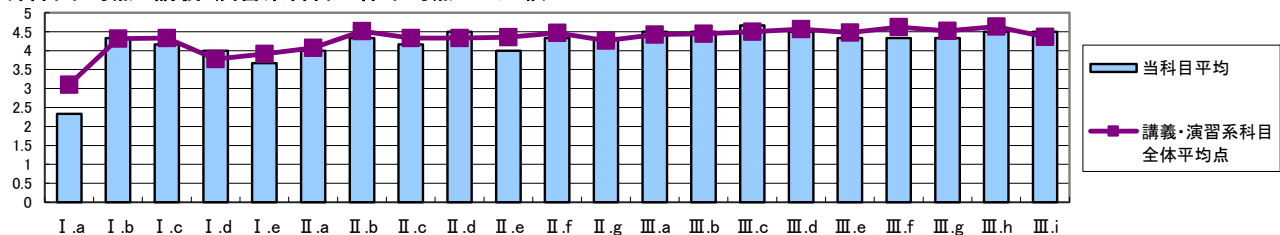
来年度は本講座を担当しないため、改善の方策として特記すべきことは無い。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	人間と医療ⅡB	職名	特任教授	履修者数	8
教員名	馬場 存			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.33	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.33	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.17	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.33	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.17	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.33	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.33	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.67	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.33	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.33	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.33	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.50	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

火曜日5時限に開講された当科目の目的は、音楽療法を行う者にとって必要な医学や医療の知識を習得し、さらには疾病や障害を抱えて生きている方々への共感を育て、音楽療法を行う人間として温かみと共感性を持った人間を育てる一助とすることである。受講生は3年生と編入生を含む8名である。内容は実質的には通年で学ぶ内容であることを踏まえると、概論に始まり、医学の歴史、健康と病気についての概説、神経生理学入門（ニューロンから脳まで、ミクロからマクロに至る解説）、神経内科学入門（代表的な神経疾患の症状や治療法などの理解）、緩和ケア等と、総論から各論まで幅広い。これは、実際に音楽療法士として病院で働くこととなった場合でも、他の医療職種者と遜色のない知識の獲得を目指しているため（実際にはそのためにはやや時間数が少なく困難な面もあるが）、内容的にも比較的高度である。さらには、医療人としての心構えや態度、人としてどう生きるかについても折に触れ言及したつもりである。例年この授業では、多くの項目について全体平均を上回る傾向があったが、本年度は概ね平均か、やや下まわる項目が多い。

● 問題点

アンケート結果を見る限りでは大きな問題は無いように思われるが、平均よりは少し低い評価という点では、さらなるわかりやすさ、ニーズに応えた内容、興味の引き方等に工夫の余地があるかもしれない。

● 改善の方策

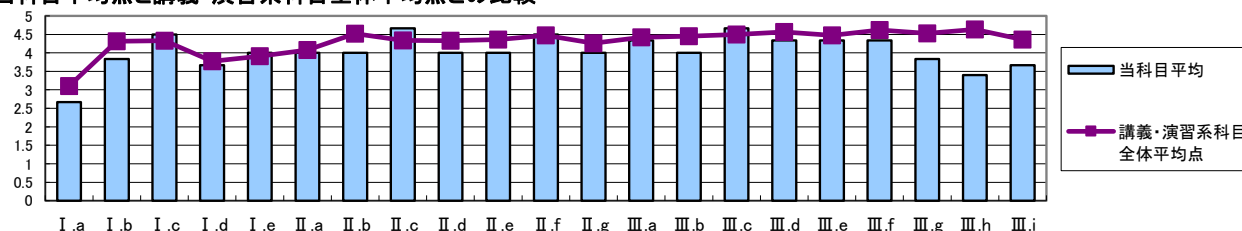
来年度は本講座を担当しないため、改善の方策として特記すべきことは無い。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	臨床心理学ⅠB	職名	講師	履修者数	8
教員名	植松 芳信			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.83	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.67	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.67	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.33	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.67	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.33	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.33	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.33	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.83	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.40	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.67	4.36

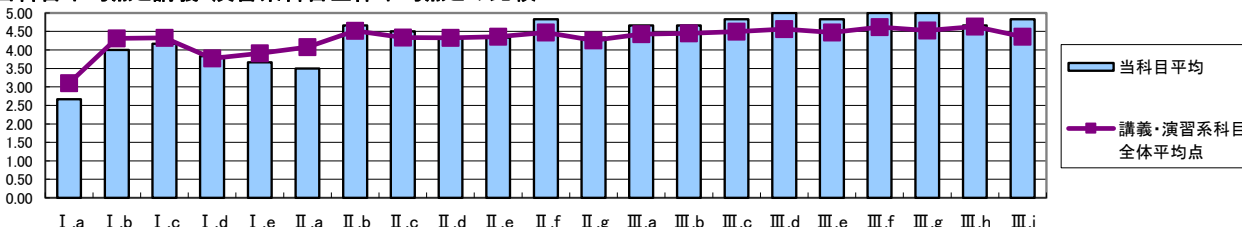
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	障害学B	職名	講師	履修者数	8
教員名	高畑 敦子			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.17	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.83	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.67	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.50	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.33	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.83	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.33	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.67	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.67	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.83	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.83	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.83	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



外国人留学生に関する科目

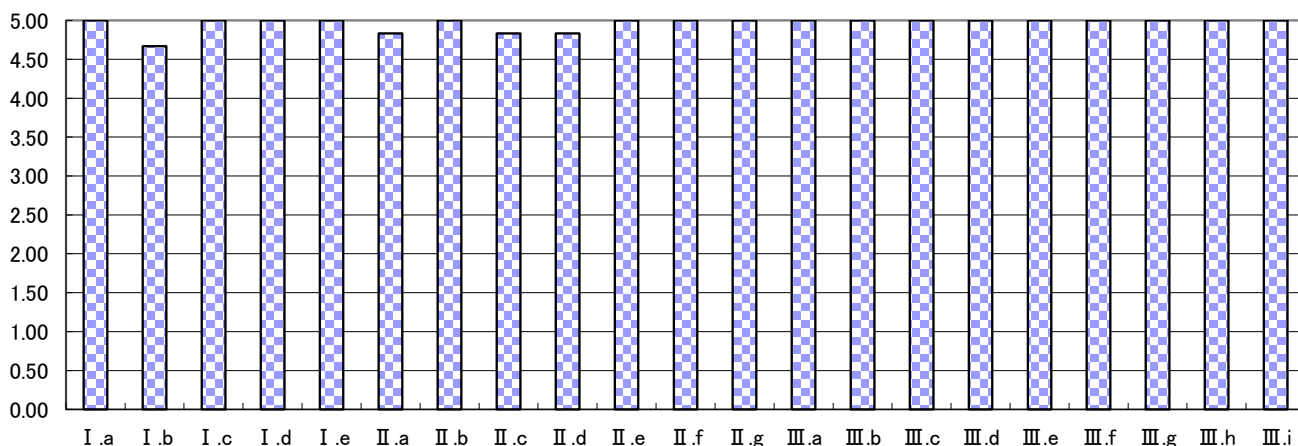
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	外国人留学生に関する科目
科目数	3

履修者数	6
回答者数	6

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数	
			5	4	3	2	1			
I	a	この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	c	授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	d	予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	e	この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
II	a	授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.83	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	b	授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	c	授業の内容に興味・関心を持たた。	4.83	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	d	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.83	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	e	授業の内容を理解できた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	f	クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	g	授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
III	a	授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	b	教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	c	授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	d	教員は、授業の準備を十分に行っていた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	e	教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	f	教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	g	授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	h	休講に対する補講は、適切に行なわれていた。(当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	i	あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	1

外国人留学生に関する科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

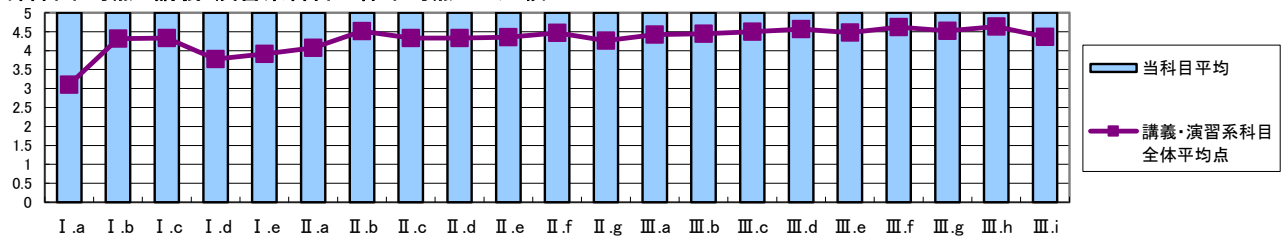
科目名	日本語4
教員名	一林 久美子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	5.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

このクラスは、金曜日の4時限目に川越キャンパスの図書館3階で行なわれた。受講者は、中国からの留学生2年生2名である。日本語能力のレベルは、国際交流基金と財団法人日本国際教育支援協会が行う認定試験のN4レベル程度で、文法・語彙の使用範囲は限られている。読み書きよりも、聞いて話すことが少し得意のように見受けられる。この授業の目的は、日本社会で使われている日本語が十分に理解でき、使えるようになることである。そのために実社会で使われている基本語彙を学習することを中心にした。単に単語での意味を理解するというだけでなく、文章の中での使い方を重視して学習を進めた。背景知識として日本の文化や慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していくことを目指した。

● 問題点

アンケートに意見が反映されていなかったが、設問の説明も必要だったかもしれない。このクラスの学生は初級文法、語彙が不十分であるので、大学の授業を理解しているのか心配である。大学生として受け入れる場合は、せめてN3程度は修了した学生を受け入れてほしい。このクラスは4限目であるのに遅刻や休みが多かった。金曜日は他の授業がないのでお休みモードに入っているのかもしれないが、十分に授業が行われたと言う実感がなく、予定していた項目も終わっていない。

● 改善の方策

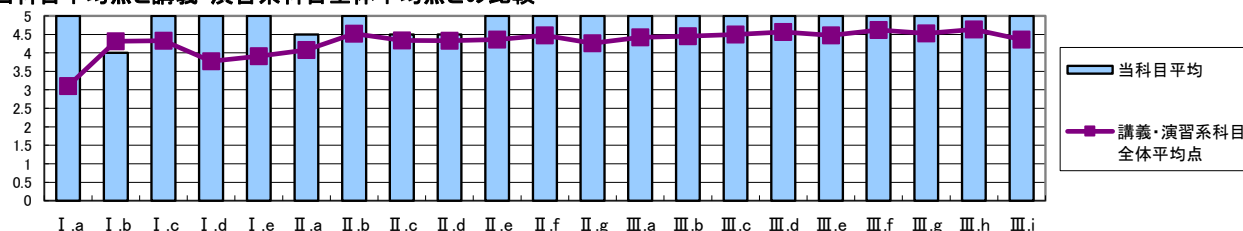
来年度は、曜日を変えて授業に出やすくしたい。日常生活で使われている文法・語彙を理解し、自分でも使えるような授業を考えていきたい。復習をして、語彙や文法の定着を図ることを勧めるとともに、小テストや発表の機会を増やしていきたい。授業の内容については、興味を持てる話題を提供するように心がける。自分で語彙を探すような活動も組み入れていこうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	日本事情 I B	職名	講師	履修者数	2
教員名	高岸 美代子			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	5.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.50	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

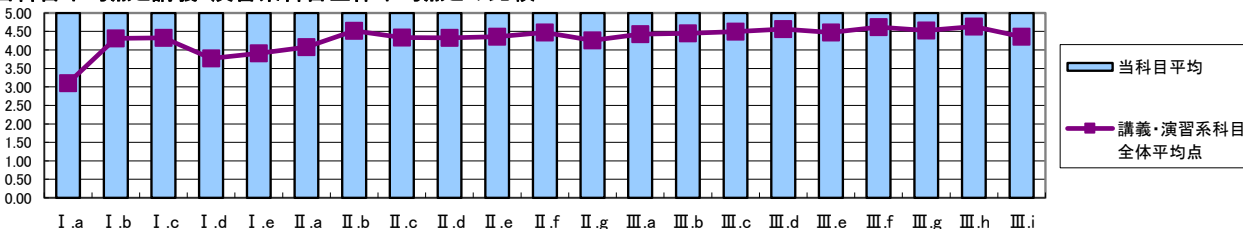
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	日本事情 II B	職名	講師	履修者数	2
教員名	高岸 美代子			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	5.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



東邦音樂短期大學

ピアノ

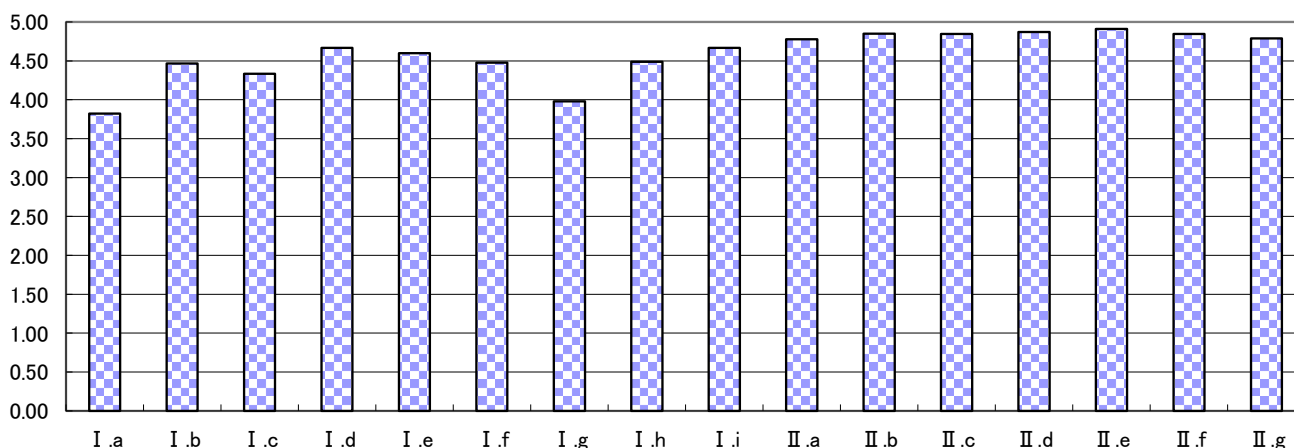
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	ピアノ
科目数	17

履修者数	51
回答者数	47

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.82	10	21	11	2	1	45	2
			22.2	46.7	24.4	4.4	2.2		
	b レッスンには、遅刻をしないで行ってた。	4.47	29	11	3	1	1	45	2
			64.4	24.4	6.7	2.2	2.2		
	c 出席は良好であった。	4.33	27	9	6	3	0	45	2
			60.0	20.0	13.3	6.7	0.0		
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.67	33	10	1	1	0	45	2
			73.3	22.2	2.2	2.2	0.0		
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.60	28	16	1	0	0	45	2
62.2			35.6	2.2	0.0	0.0			
f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.48	27	14	5	0	0	46	1	
		58.7	30.4	10.9	0.0	0.0			
g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.98	17	15	9	3	1	45	2	
		37.8	33.3	20.0	6.7	2.2			
h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.49	27	14	3	1	0	45	2	
		60.0	31.1	6.7	2.2	0.0			
i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.67	33	10	1	1	0	45	2	
		73.3	22.2	2.2	2.2	0.0			
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.78	38	5	1	1	0	45	2
			84.4	11.1	2.2	2.2	0.0		
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.85	40	5	1	0	0	46	1
			87.0	10.9	2.2	0.0	0.0		
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.84	41	2	1	1	0	45	2
			91.1	4.4	2.2	2.2	0.0		
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.87	42	3	0	1	0	46	1
91.3			6.5	0.0	2.2	0.0			
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.91	42	2	1	0	0	45	2	
		93.3	4.4	2.2	0.0	0.0			
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.84	38	7	0	0	0	45	2	
		84.4	15.6	0.0	0.0	0.0			
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。(当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.79	28	3	2	0	0	33	14	
		84.8	9.1	6.1	0.0	0.0			

ピアノ 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

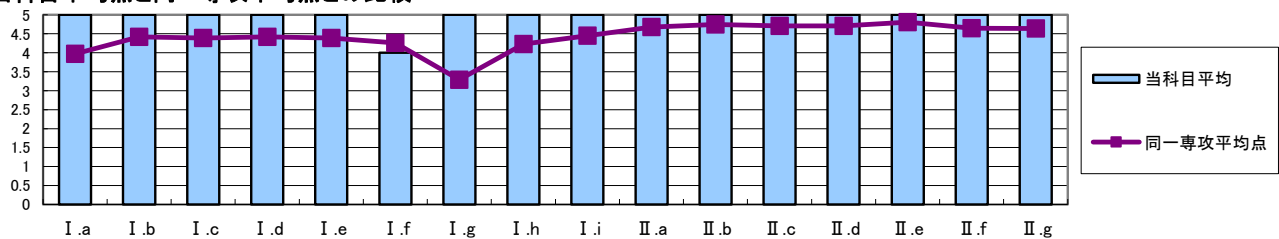
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	中島 裕紀

職名	教授
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.42
	c 出席は良好であった。	5.00	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度の短期大学器楽専攻ピアノコースの担当は、1名で、その1名から回答を得ることができた。1名ということで、個人が特定されてしまうため、個人に関することには触れないように説明をする。アンケートの数値を見ると、大変高評価となっており、受講者の満足度を示していると読み取れる。また、この評価は、レッスンそのものの評価のみならず、教員に対する信頼度を示していると思われる。

● 問題点

数値の点からもまた、年間を通じて担当してきた中でも特に問題はない。

● 改善の方策

今後も、私自身の専門であるピアノの指導より豊かにしていくために、自己の研鑽を積み、より良い指導ができるように心がけていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

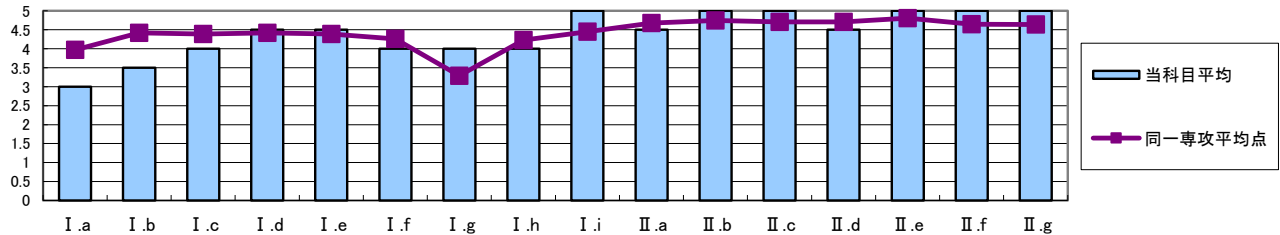
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	太田 幸子

職名	特任教授
----	------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.00	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	3.50	4.42
	c 出席は良好であった。	4.00	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.50	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年は、留学生と日本人の学生2名を担当。担当した学生の練習量が少ないと思っていたが、設問 I a~hの8項目の中にしっかりと表れており、問題である。音大生としての自覚と意欲が欲しい。音楽歴として浅いため、仕方ない事もあるが、親切に、細かく、指導し、意欲向上につながるように工夫をしていきたい。

● 問題点

設問 I gの値が低いので、今後更に課題を与えていきたい。

● 改善の方策

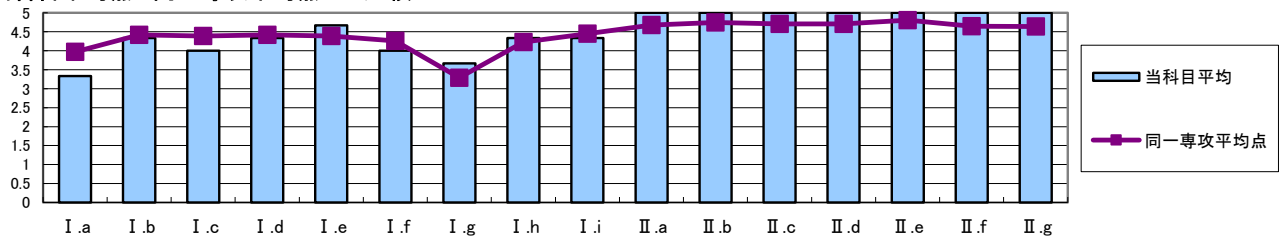
留学生は自分の意見を押し通すところが、見られる。コミュニケーションを大切に、練習方法等きめ細かく指導し、学ぶ喜び、楽しさが感じられるような指導を心掛けていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	器楽専攻ピアノコース	職名	特任教授	履修者数	3
教員名	大場 文恵			回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.33	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.33	4.42
	c 出席は良好であった。	4.00	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.33	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.67	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.67	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.33	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.33	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年生1名、2年生2名の計3名より回答を得ました。3名中2名は無遅刻無欠席で申し分のない学習態度でした。残る1名は、芸能活動との両立が難しく欠席が多い上に、学習態度にも問題がありました。その学生と思われる自由記述に「改善すべき点がたくさんある」「練習を沢山すること」「きちんと出席すること」「指摘されたところはなおすこと」「迷惑をかけないこと」など、改善点が多く書かれていました。他の学生の記述欄には、「優しく丁寧にわかり易く教えていただき、よかった」「レッスンが毎回楽しかった」「音色にこだわりを持って練習をするようになった」と書かれていました。

● 問題点

欠席が多くピアノに本気で取り組めなかった学生に対しての声のかけ方など、向き合い方を考える必要があります。

● 改善の方策

本人がかなり反省していますので来年度は改善されるものと考えていますが、レッスンだけでなく会話の時間をさらに多く持つことで、より緊密にコミュニケーションをとり、意思疎通を図りたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

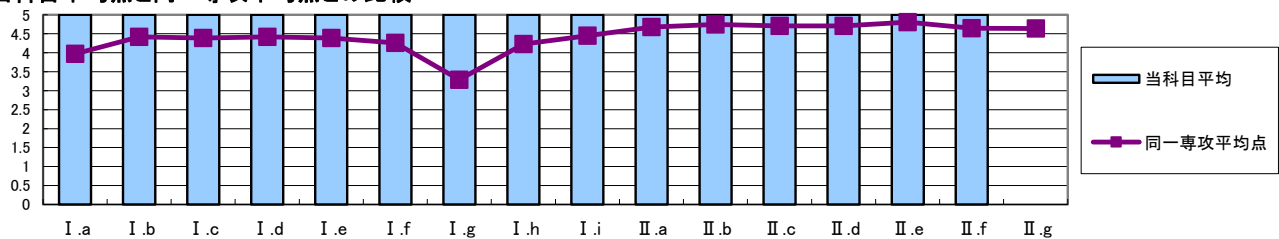
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	野田 説子

職名	専任講師
----	------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.42
	c 出席は良好であった。	5.00	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度の受け持ちの学生の内訳は、短大が専門が2年2名、副科は3年目の社会人が1名。大学は専門が2年2名、3年2名、4年2名。副科は1年1名、2年2名、3年4名、4年1名。短大・大学1～3年の専門生は、非常に真面目で真剣に取り組んだ。4年の1名は就職活動で精神的に不安定な時もあったが、何とか乗り切った。もう1名は生活習慣の乱れが慢性化していたが、年が変わって時間が守れるようになってきたことは大きな変化である。副科生は短大・大学共に（或る管楽器の2名以外は）出席も良好で真面目に取り組んだ。

● 問題点

不規則な生活習慣・時間の観念が弱い学生の指導。学習能力が弱い学生への指導。

● 改善の方策

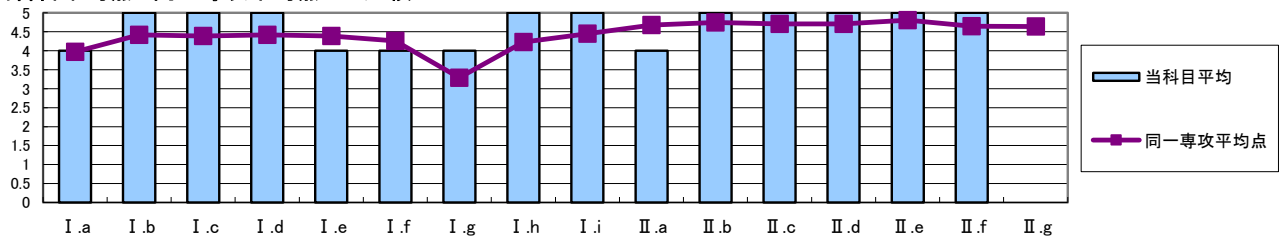
コミュニケーションを密に取りながら、理解、修得が出来るまで根気よく指導することを心掛ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	器楽専攻ピアノコース	職名	講師	履修者数	1
教員名	中島 剛			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.42
	c 出席は良好であった。	5.00	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.00	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.00	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2018年度、短期大学専門ピアノ一名、副科ピアノ七名を担当しました。専門ピアノ科一名も加わりとても充実した一年になりました。レッスンに臨む姿勢、向上欲も積極的に感じられました。特に社会人の方は大変熱心にレッスンに臨んでおられました。後期では何名かモチベーションが下がり遅刻や欠席も多く感じました。レッスンだけに限らず他の授業でもそのような傾向があったと聞いています。

● 問題点

総合的に見ると少しコミュニケーションが不足しているように感じました。

● 改善の方策

今後は積極的に寄り添ってレッスンを進めていきたいと思っています。また図書館の利用も促していきたいと思っています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

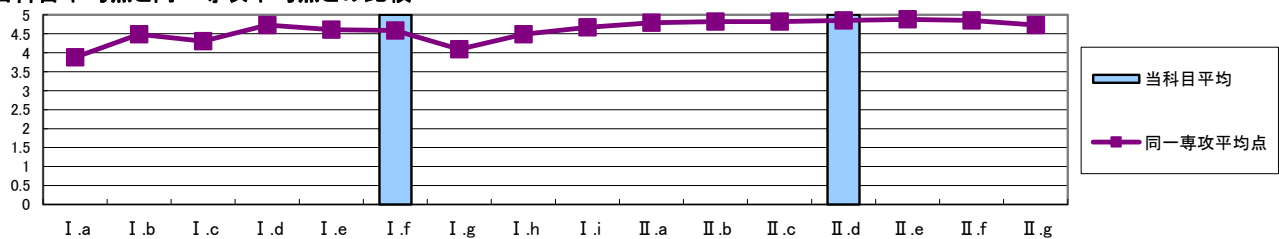
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	中島 裕紀

職名	教授
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	-	3.88
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	-	4.48
	c 出席は良好であった。	-	4.30
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	-	4.73
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	-	4.61
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.59
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	-	4.09
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	-	4.48
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	-	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	-	4.79
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	-	4.82
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	-	4.82
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.85
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	-	4.88
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	-	4.85
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.73

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、短期大学において1名の副科ピアノを担当し、1名から回答を得た。1名の回答ということで、個人的が特定されてしまうため、個人に関わると思われる点には触れることができないが、メッセージからも受講生自身熱心に取り組み、満足度の高いものであったことは、読み取れる。また、アンケート結果に回答なしの項目があることは、受講生自身が、指導してくれた教員を学生が評価するというというスタンスに対し、抵抗を感じていたためである。

● 問題点

年間を通じて担当をしてきた中では、問題となるような場面はなかった。また、アンケート結果をみても、少ない回答の中にもそれが表れている。

● 改善の方策

今後もピアノのレッスンを通じて、音楽の素晴らしさを伝え、学生の力を十分に伸ばすことができるように、研鑽を積んでいきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

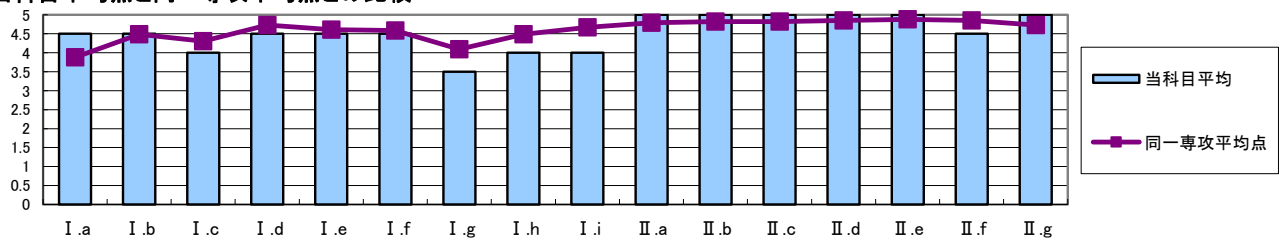
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	太田 幸子

職名	特任教授
----	------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.50	3.88
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.50	4.48
	c 出席は良好であった。	4.00	4.30
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.73
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.61
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.59
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.50	4.09
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.48
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.00	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.79
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.82
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.82
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.85
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.88
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.50	4.85
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.73

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度、3名を担当。音楽教養（声楽）、短大（声楽）、短大（トランペット）の3人であり、その中の短大生（声楽）の方は、単位取得出来ているため、アンケートの回答はなかった。社会人、音楽教養の方々には、音楽レベルは別として、皆熱心に取り組んでいます。自由記述の方は、自分で思う様に弾けない時は、「又練習して来ます」とイスから立ち上がってしまう時が、時々あった様に思います。今後は時間の確保に努めていきたい。

● 問題点

設問 II.f は、上の記述の事もあり、副科20分の時間確保する事を、心掛けて行くつもりです。

● 改善の方策

選曲に心掛け意欲が向上するようなレッスンを今後も続けていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

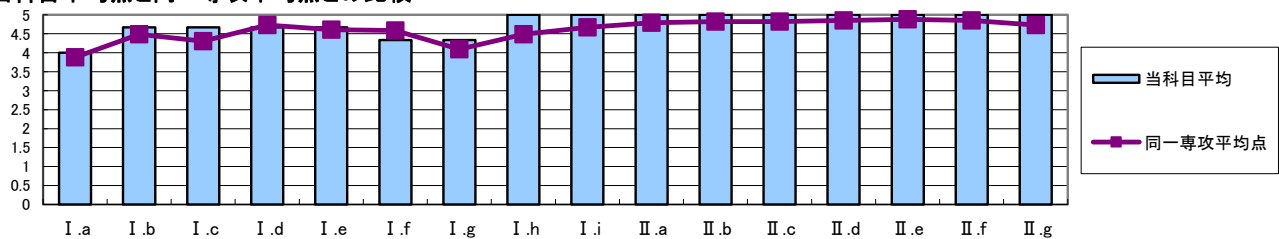
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	大場 文恵

職名	特任教授
----	------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	3.88
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.67	4.48
	c 出席は良好であった。	4.67	4.30
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.67	4.73
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.67	4.61
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.33	4.59
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	4.09
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.48
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.79
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.82
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.82
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.85
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.88
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.85
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.73

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年生1名、2年生2名、計3名より回答を得ました。3名とも専攻は声楽で、その内の1名は社会人です。3名ともたいへん熱心で向上心も強く期待以上に成長しました。自由記述欄には「このレッスンを受けてからピアノ曲に対するイメージが変わり、意欲的に練習に取り組むようになった」「毎回丁寧に何度でも教えてください、多くのことを学ぶことができた」「基礎やテクニックから表現まで幅広い視点からいつも教えてください、ピアノがより好きになった」と書かれていました。

● 問題点

すべての設問に対して得点が高く、特にありません。

● 改善の方策

自由記述欄に書かれたようにこれからも学生達を客観的に見ながら、丁寧なレッスンを心掛けていきたいと思えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

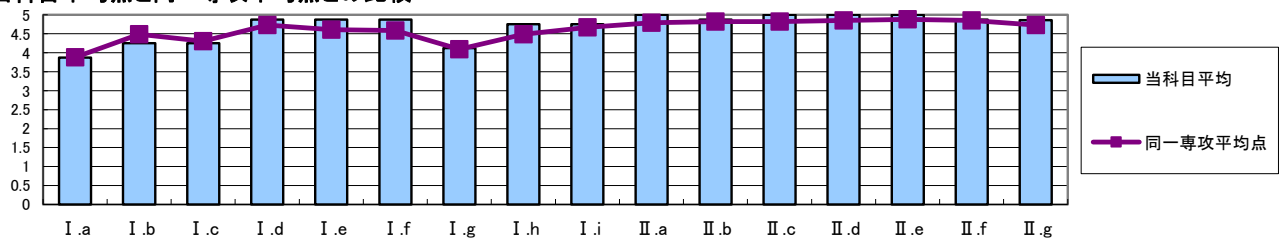
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	岡本 明子

職名	准教授
----	-----

履修者数	10
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.88	3.88
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.25	4.48
	c 出席は良好であった。	4.25	4.30
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.88	4.73
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.88	4.61
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.88	4.59
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.13	4.09
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.75	4.48
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.75	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.79
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.88	4.82
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.82
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.85
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.88
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.88	4.85
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.86	4.73

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2018年度は、ピアノコース2名・指導者コース1名・音楽教養2名・副科10名計15名の学生を担当し、うち12名より解答を得た。現役学生から75才迄と年齢もレベルもかなりバラエティに富んでいるが、各自それぞれの能力に応じて真面目に取り込んでいる。

● 問題点

副科 I a・b: タレント活動をしていた学生が遅刻、欠席が多めだった為で、他の学生には問題は無いと考えている。
I g: 毎回問題になり、私の担当学生に止まらない問題のように思われるが善処したい。

● 改善の方策

I g: 楽譜に関しても「独語」「伊語」等の辞書で本来の意味を調べるよう指示したり、楽曲についても都度課題を与える等しているが、ネット検索で済ませる学生が多い。今年度は専門生が皆2年生なので、作曲ノートを視野に入れしっかりと指導したい。信頼関係も概ね良好のように感じられるので、2019年度も引き続き前向きにレッスンしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

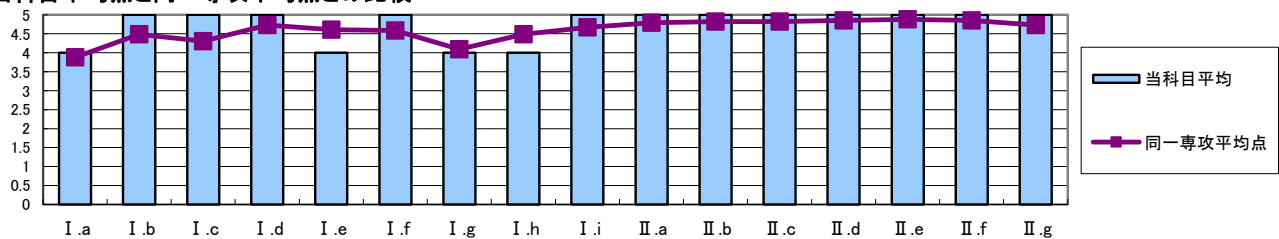
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	野田 説子

職名	専任講師
----	------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	3.88
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.48
	c 出席は良好であった。	5.00	4.30
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.73
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.00	4.61
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.59
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.09
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.48
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.79
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.82
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.82
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.85
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.88
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.85
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.73

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度の受け持ちの学生の内訳は、短大が専門が2年2名、副科は3年目の社会人が1名。大学は専門が2年2名、3年2名、4年2名。副科は1年1名、2年2名、3年4名、4年1名。短大・大学1～3年の専門生は、非常に真面目で真剣に取り組んだ。4年の1名は就職活動で精神的に不安定な時もあったが、何とか乗り切った。もう1名は生活習慣の乱れが慢性化していたが、年が変わって時間が守れるようになってきたことは大きな変化である。副科生は短大・大学共に（或る管楽器の2名以外は）出席も良好で真面目に取り組んだ。

● 問題点

不規則な生活習慣・時間の観念が弱い学生の指導。学習能力が弱い学生への指導。

● 改善の方策

コミュニケーションを密に取りながら、理解、修得が出来るまで根気よく指導することを心掛ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

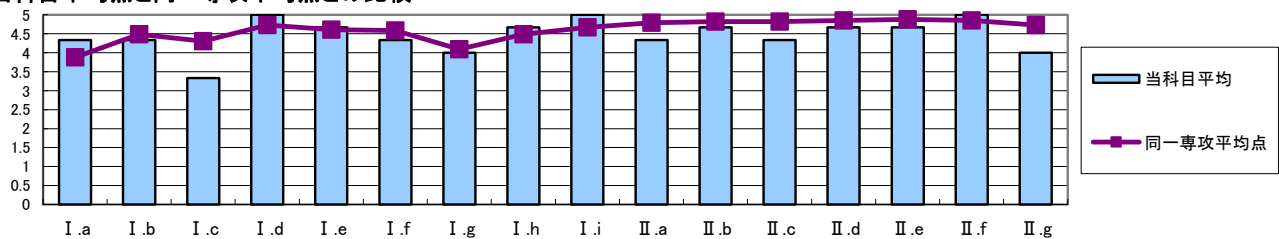
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	浅野 和子

職名	講師
----	----

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.33	3.88
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	4.33	4.48
	c 出席は良好であった。	3.33	4.30
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.73
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.67	4.61
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.33	4.59
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.09
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.67	4.48
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.33	4.79
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.67	4.82
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.33	4.82
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.85
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.67	4.88
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.85
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.73

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者は3名、そのうち1名はきちんとレッスンに向けて準備していてレッスン中の態度もきちんとしていました。もう1名は若干休みがちでしたがきちんと練習していました。もう1名は休みがちで時間の変更も何度かありレッスンの準備もあまりしていない状況でした。

● 問題点

II.aとII.cのどちらともいえないの回答があったこと。

● 改善の方策

それぞれに合ったレッスンの進め方をするように、なるべくその都度学生に理解しているのか確認したいと思います。又、話し方や態度もある程度の距離を保って、きちんと伝えるように心掛けたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

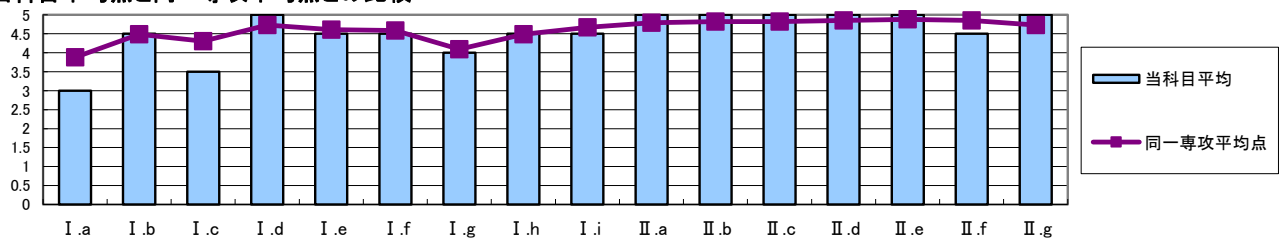
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	亀山 久美子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.00	3.88
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.50	4.48
	c 出席は良好であった。	3.50	4.30
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.73
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.61
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.59
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.09
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.50	4.48
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.50	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.79
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.82
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.82
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.85
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.88
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.50	4.85
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.73

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度は履修2名のうち、2名から回答を得た。(2名とも2年次)1名は出席良好で、芸能活動を平行しながら学習していた。もう1名はやや体調やメンタルが不安定ではあったものの、出席回数なども調整しながら最後まで履修を頑張っていた。設問Iに関してはバラつきは見られるものの、概ね2名の現状からは納得のいくものであり、信頼関係が2名とも5であったことは良かったと感じている。設問II-fに関しては、なぜ4の回答があるのか不明だが、回数・時間ともに規定以上を設けているので問題ありません。

● 問題点

特になし。

● 改善の方策

特になし。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

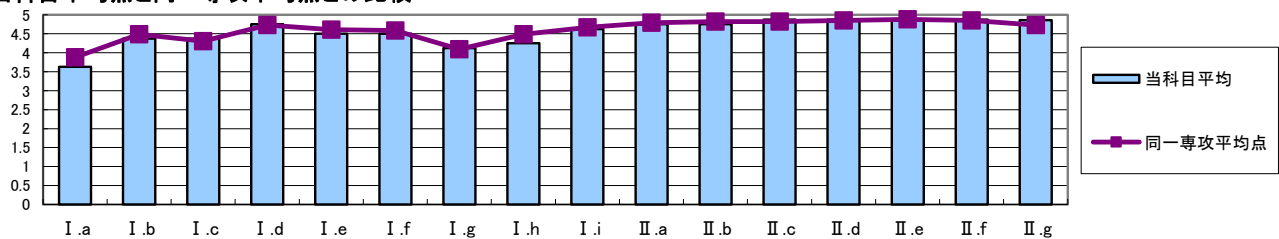
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	中島 剛

職名	講師
----	----

履修者数	8
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.63	3.88
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.38	4.48
	c 出席は良好であった。	4.38	4.30
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.75	4.73
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.61
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.59
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.13	4.09
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.25	4.48
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.63	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.75	4.79
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.75	4.82
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.88	4.82
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.88	4.85
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.88	4.88
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.88	4.85
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.86	4.73

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2019年度、短期大学専門ピアノ一名、副科ピアノ七名を担当しました。専門ピアノ科一名も加わりとても充実した一年になりました。レッスンに臨む姿勢、向上欲も積極的に感じられました。特に社会人の方は大変熱心にレッスンに臨んでおられました。後期では何名かモチベーションが下がり遅刻や欠席も多く感じました。レッスンだけに限らず他の授業でもそのような傾向があったと聞いています。

● 問題点

生徒にあった曲目を選曲するようもう一度考えてみたいと思います。また欠席も少し多く感じました。

● 改善の方策

生徒との意思疎通をしっかりとしていきたいと思います。こちらも図書館の利用を積極的に促していきたいと思ひます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

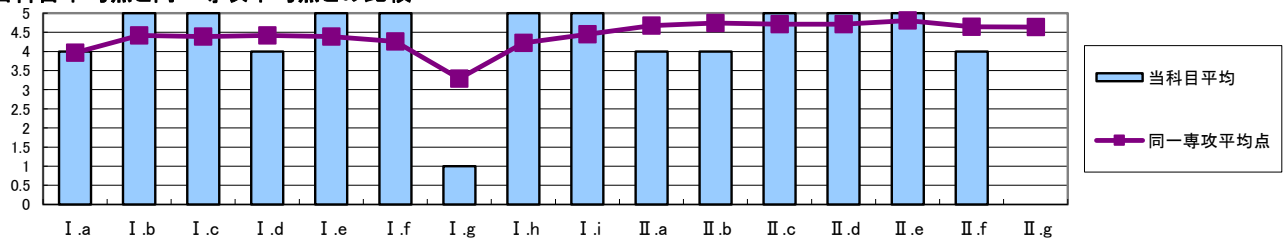
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	久邇 之宣

職名	特任教授
----	------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.42
	c 出席は良好であった。	5.00	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.00	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	1.00	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.00	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.00	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



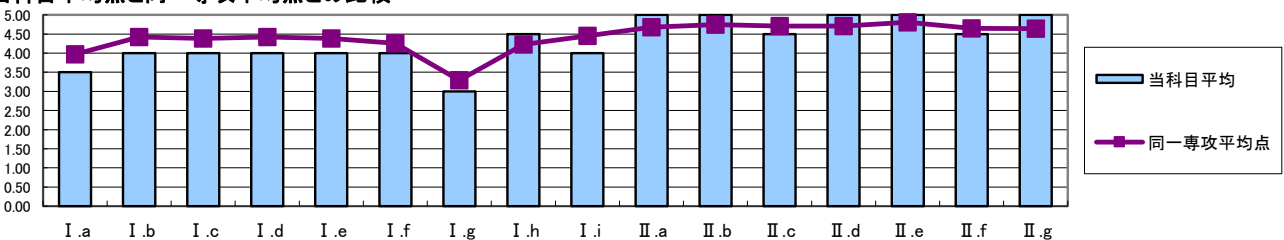
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	岡本 明子

職名	准教授
----	-----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.50	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.42
	c 出席は良好であった。	4.00	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.00	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.00	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.00	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.50	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.00	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.50	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.50	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

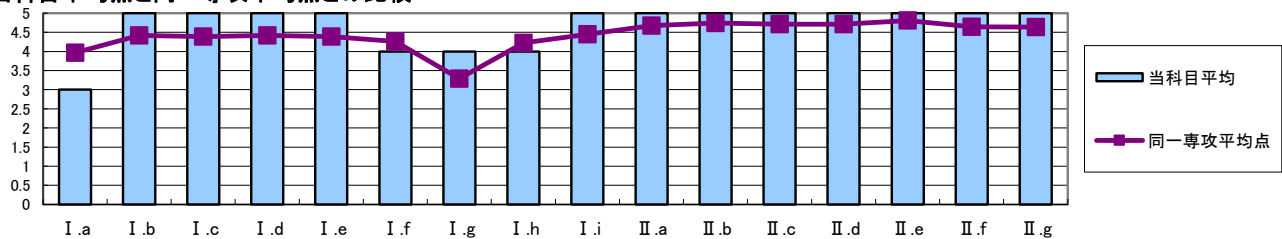
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	浦川 玲子

職名	専任講師
----	------

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.00	3.97
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.42
	c 出席は良好であった。	5.00	4.39
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.42
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.39
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.26
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.29
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.23
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.45
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.68
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.74
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.71
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.71
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.81
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.65
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



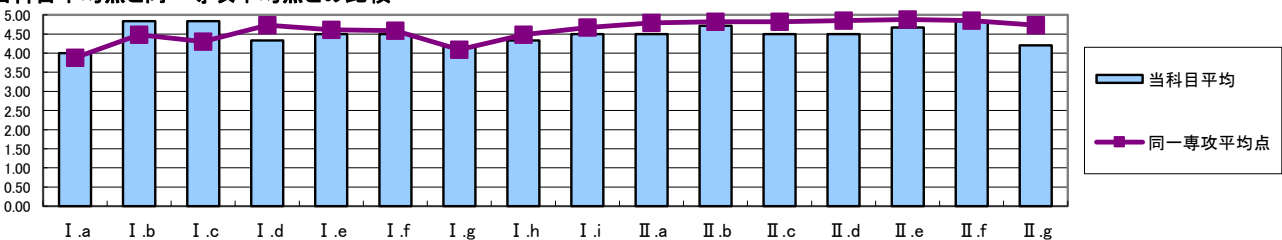
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	久邇 之宜

職名	特任教授
----	------

履修者数	7
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	3.88
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.83	4.48
	c 出席は良好であった。	4.83	4.30
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.33	4.73
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.61
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.59
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.17	4.09
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.33	4.48
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.50	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.79
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.71	4.82
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.50	4.82
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.50	4.85
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.67	4.88
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.83	4.85
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.20	4.73

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



声 楽

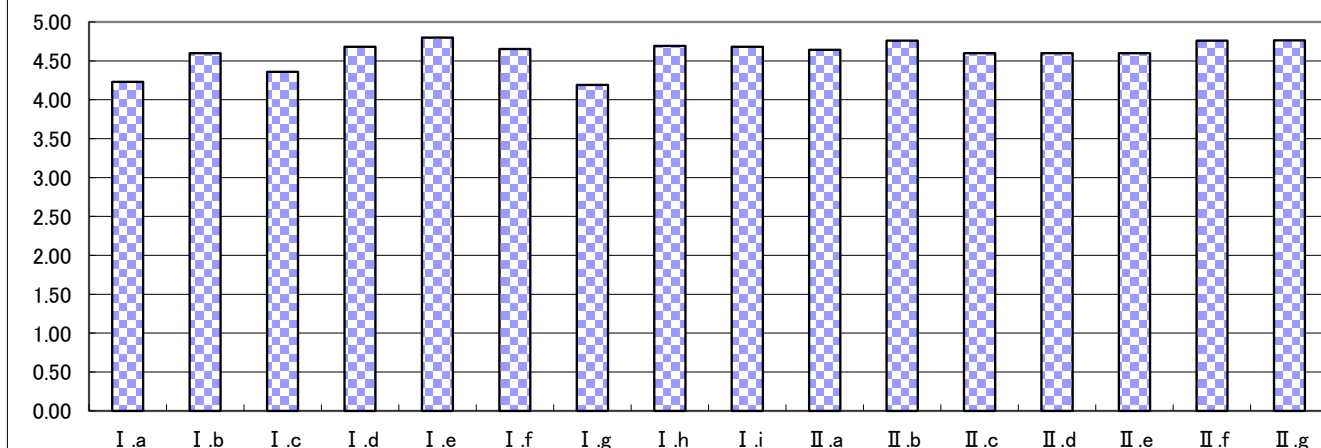
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	声楽
科目数	9

履修者数	36
回答者数	26

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.23	10	13	2	1	0	26	0
			38.5	50.0	7.7	3.8	0.0		
	b	4.60	15	10	0	0	0	25	1
			60.0	40.0	0.0	0.0	0.0		
	c	4.36	15	6	2	2	0	25	1
			60.0	24.0	8.0	8.0	0.0		
	d	4.68	20	3	1	1	0	25	1
			80.0	12.0	4.0	4.0	0.0		
	e	4.80	22	1	2	0	0	25	1
	88.0		4.0	8.0	0.0	0.0			
f	4.65	18	7	1	0	0	26	0	
		69.2	26.9	3.8	0.0	0.0			
g	4.19	13	7	4	2	0	26	0	
		50.0	26.9	15.4	7.7	0.0			
h	4.69	19	6	1	0	0	26	0	
		73.1	23.1	3.8	0.0	0.0			
i	4.68	20	2	3	0	0	25	1	
		80.0	8.0	12.0	0.0	0.0			
II	a	4.64	19	3	3	0	0	25	1
			76.0	12.0	12.0	0.0	0.0		
	b	4.76	21	2	2	0	0	25	1
			84.0	8.0	8.0	0.0	0.0		
	c	4.60	20	2	2	0	1	25	1
			80.0	8.0	8.0	0.0	4.0		
	d	4.60	19	3	2	1	0	25	1
	76.0		12.0	8.0	4.0	0.0			
e	4.60	19	4	1	0	1	25	1	
		76.0	16.0	4.0	0.0	4.0			
f	4.76	22	2	0	0	1	25	1	
		88.0	8.0	0.0	0.0	4.0			
g	4.76	17	3	1	0	0	21	5	
		81.0	14.3	4.8	0.0	0.0			

声楽 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

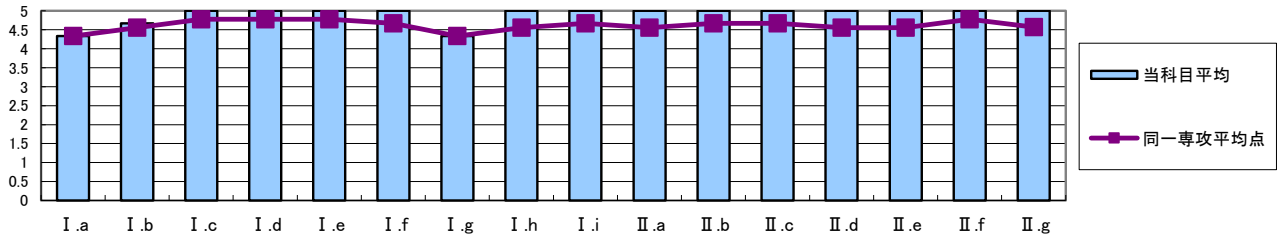
科目名	声楽
教員名	伊藤 和広

職名	准教授
----	-----

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.33	4.33
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.67	4.56
	c 出席は良好であった。	5.00	4.78
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	4.33
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.56
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.56
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.67
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.67
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.56
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.56
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.78
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.57

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、1年生を1名、2年生を2名（内一名は社会人）の計3名を担当しました。アンケートには、3名全員が回答しました。今年度の3名は全員が大変意欲的で、問題のある欠席もなく、一年を通じ、総じて大きな学習成果を得られたと考察します。アンケートの集計結果を見ても、ほとんど5.00と高く、大変良好です。以上、全体として、シラバスに提示されている科目の目的・内容は達成できたということが、今年度の状況です。

● 問題点

譜読みに関しては、厳しく指導している為、学生の自己肯定感が低下しています。

● 改善の方策

将来的に悪いことではないと考えますが、フォローをしていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

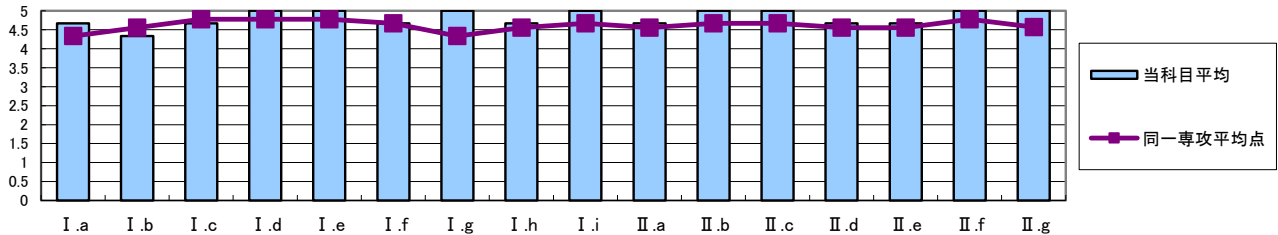
科目名	声楽
教員名	武藤 直美

職名	専任講師
----	------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.67	4.33
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.33	4.56
	c 出席は良好であった。	4.67	4.78
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.67	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.33
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.67	4.56
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.67	4.56
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.67
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.67
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.56
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.67	4.56
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.78
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.57

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

主専攻声楽4名の受講者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。当初は身体の使い方が十分理解できていない受講生もおりました。しかし、呼吸法や発声法を学ぶにつれ、身体の使い方が少しずつ分かってきたようで、それからは、質問も積極的になり、曲の意味を音楽として表現しようとする意欲が出てきたと史料いたします。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題点はないと思われます。

● 改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、学生のレベルにあわせた指導を心がける所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

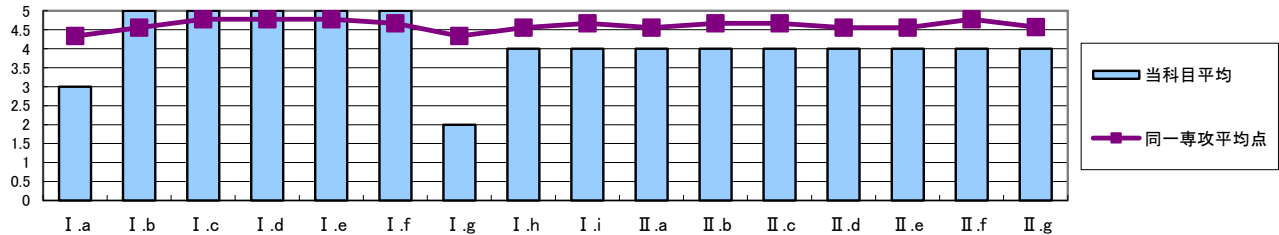
科目名	声楽
教員名	大島 洋子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.00	4.33
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.56
	c 出席は良好であった。	5.00	4.78
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	2.00	4.33
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.56
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.00	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.00	4.56
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.00	4.67
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.00	4.67
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.00	4.56
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.00	4.56
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.00	4.78
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.57

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度は短大生2名。内訳は1年生1名、長期履修生1名です。今回長期履修生に授業改善アンケートを渡せ無かったので、結果として短大は回答1名となりました。短大は水曜日に文京校舎でのレッスンを行います。短大1年生は小さい頃から自分の進む道を決めておりクラシックではなくポピュラーの方に進む希望が有ります。東邦の短大も卒業後の仕事でポピュラーなジャンルに所属する人が比較的多いので、本人にとって音楽大学短大での学習が違うジャンルであっても表現者と言う立場で考えて行くと同じ筋道に繋がる事を感じている様です。ただ現実には、歌うと言う行為において声の使い方はクラシックの頭声発声とそこまで頭声発声を使わず胸の響きで上から下まで繋げて行くポピュラーの歌い方は学生にとっては必ずしも受け入れられるとは言えません。マイクを使う、使わないと言う事も歌い方に大きな違いが有り、このあたりを今後どの様に埋めて行くかも課題です。また、おおよそ30歳あたりを目処にデビュー出来るクラシックからすればポピュラーは若さこそ魅力の所もあり、学生にとっては今出来なければならない焦りも有ります。この辺りでレッスンの進捗と自分の置かれたポジションとに開きを感じる様にも思えます。

● 問題点

● 改善の方策

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

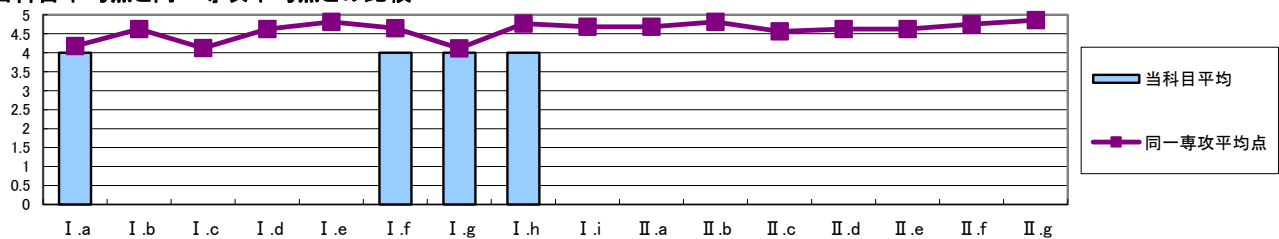
科目名	副科実技(声楽)
教員名	伊藤 和広

職名	准教授
----	-----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.18
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	-	4.63
	c 出席は良好であった。	-	4.13
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	-	4.63
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	-	4.81
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.65
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.12
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.76
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	-	4.69
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	-
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		-	4.81
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		-	4.56
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		-	4.63
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		-	4.63
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		-	4.75
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		-	4.86

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、2名を担当しました。2名とも社会人でしたが、アンケートには、1名が回答しました。アンケートには無記入箇所が多く、考察が難しいですが、出席も良好、学習成果も得られたことから、概ね良好と考察します。

● 問題点

アンケートにも現れるような高い満足感が得られていないように感じます。

● 改善の方策

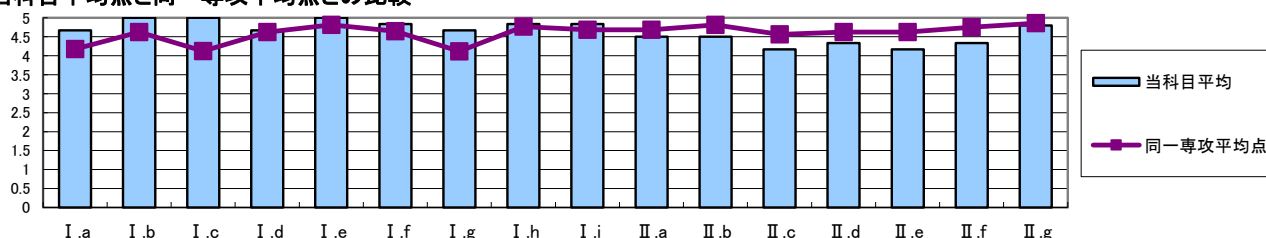
説明等も含め、20分では難しいことも多いですが、可能な限り丁寧にレッスンをします。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科実技(声楽)	職名	専任講師	履修者数	6
教員名	岩見 真佐子			回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.67	4.18
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.63
	c 出席は良好であった。	5.00	4.13
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.67	4.63
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.81
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.83	4.65
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.67	4.12
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.83	4.76
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.83	4.69
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.69
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.50	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.17	4.56
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.33	4.63
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.17	4.63
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.33	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.80	4.86

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本年度のシラバスに基づき各学年の専攻実技を実施。前後期のレッスン開講期間の担当曜日に、学生に応じて、オフィスアワー・休休み・補講を最大限活用した。個々の履修状況、生活事情に応じてレッスン回数を配慮。各回学生の自修状況・理解度を確認しながら専攻、副科共に普く開講。音楽教養、副科声楽の実技10名の声楽レッスンを実施。アンケート実施にあたっては、調査期間に履修学生に同じ条件で実施されたことを報告いたします。

● 問題点

昨年度からの改善点、学生自身の図書館利用値が上がるように留意。事前レッスン準備と復習の時間の充実化がGPAに反映することをふまえて指導のポイントにした。学生自身の「習熟達成度と目標設定」に大きな差がみられ、自分の意欲と必要な学修に対して楽観的な傾向があるので、作品へのアプローチの深さ、演奏完成度の意識を高める演奏実践(研究公開発表会)を前後期に開催。自らの気づきで意欲的な図書館利用となるように促して指導を進めた。専門的な発声指導では、自然にリラックスして体得できるよう基礎教材の反復を中心に実施。副科履修生については、個々の学生に時間的な条件の制限がある中で、グループレッスンの形態を取らずにアカデミックスケールに準じて、個人レッスンで開講することができたが、時間的な不足分は回数で補充して実施した。積極的な補講希望については、時間的に前後学生の授業も考慮して本年度は対応を控えた。

● 改善の方策

それぞれの専攻実技に反映できるように、声楽の視点から総合的なアドバイスを実施しているが、声楽的な潜在能力を引き出し育ててゆく教育と、履修進級に関わる諸条件を満たす「専攻力」の育成、この両論がアンケート数値に表れていることに留意したい。心身共に健全な学生生活の基盤に留意し、教務学生担当をはじめ、学生相談室との連携をはかり、細やかな個人対応を継続。レッスンの再現に留まらず自らの力で理想の声、響きを実現してゆく長期的な学びで聞き分ける耳を育て、目標達成の共感共有を発展的な学びへの意欲に繋げてゆく必要がある。個々に合った有効な教材を作り上げ「作品に対する総合的な気づき」を共有し尊重してゆくことが大切と思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

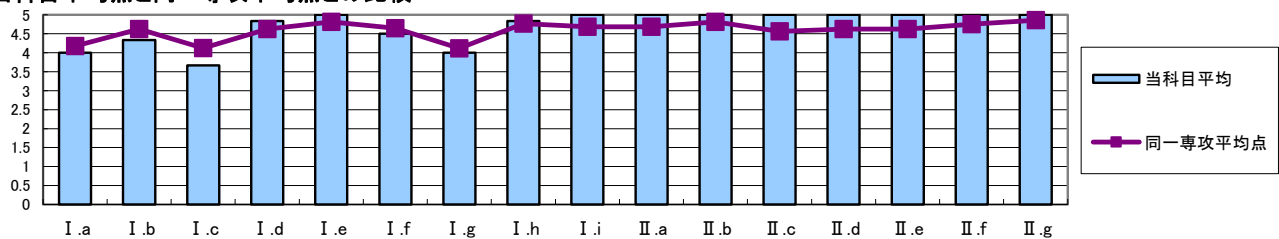
科目名	副科実技(声楽)
教員名	武藤 直美

職名	専任講師
----	------

履修者数	9
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.18
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.33	4.63
	c 出席は良好であった。	3.67	4.13
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.83	4.63
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.81
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.65
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.12
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.83	4.76
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.69
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.69
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.56
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.63
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.63
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.86

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

副科声楽受講者はコンポーザングアーティスト専攻7名、ピアノ専攻1名、バイオリン専攻1名で一人20分の個人レッスンを行いました。声楽は身体が楽器であるという認識のもとに、個々が専攻で必要とする教材を用いてレッスンを行いました。どの受講者もレッスンを受けるごとに成果が上がってきたものと思料します。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題点はないと思われます。

● 改善の方策

すべての受講者が積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでくれていたことから、今後も受講者個々のレベルや目標に沿ったレッスンを行っていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

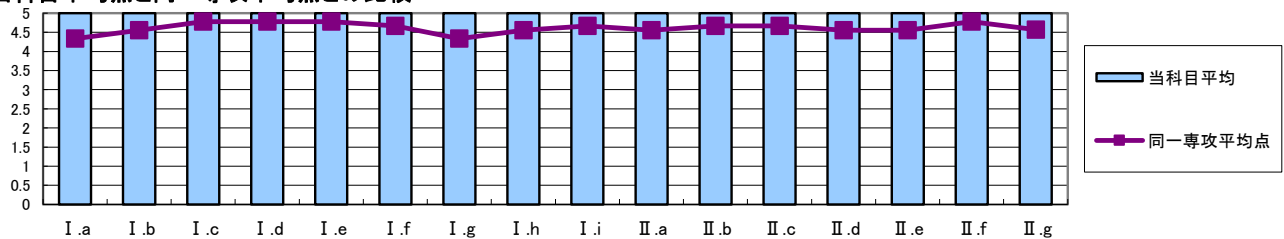
科目名	声楽
教員名	佐藤 泰弘

職名	教授
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.33
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.56
	c 出席は良好であった。	5.00	4.78
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.33
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.56
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.56
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.67
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.67
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.56
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.56
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.78
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.57

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



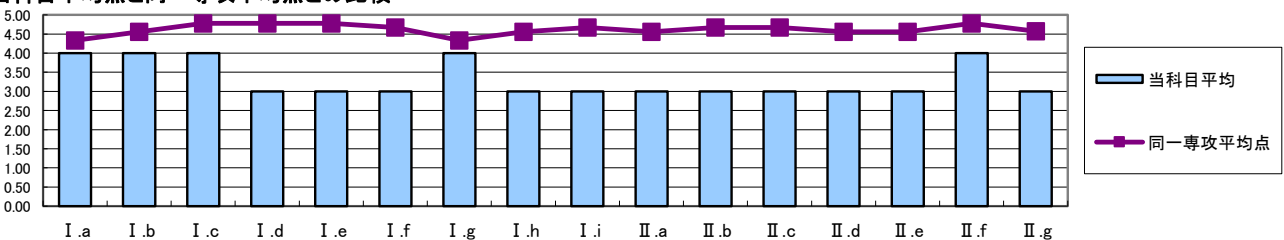
科目名	声楽
教員名	片岡 啓子

職名	特任教授
----	------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.33
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.56
	c 出席は良好であった。	4.00	4.78
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	3.00	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	3.00	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	3.00	4.67
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.33
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	3.00	4.56
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	3.00	4.67
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	3.00	4.56
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	3.00	4.67
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	3.00	4.67
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	3.00	4.56
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	3.00	4.56
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.00	4.78
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	3.00	4.57

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

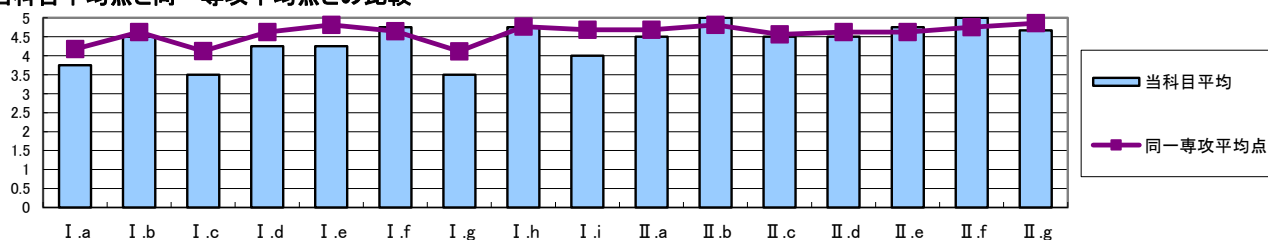


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科実技(声楽)	職名	教授	履修者数	8
教員名	佐藤 泰弘			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.75	4.18
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	4.50	4.63
	c 出席は良好であった。	3.50	4.13
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.25	4.63
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.25	4.81
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.75	4.65
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.50	4.12
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.75	4.76
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.00	4.69
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.50	4.69
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.50	4.56
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.50	4.63
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.75	4.63
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.86

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



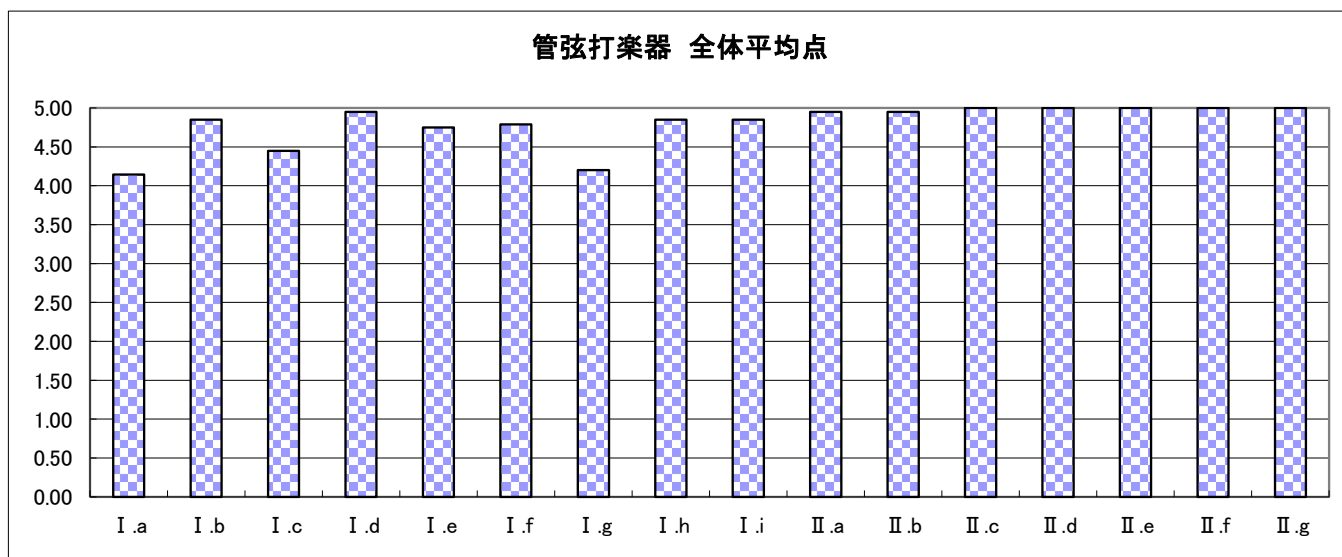
管弦打樂器

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	管弦打楽器
科目数	13

履修者数	28
回答者数	21

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.14	10	7	2	1	1	21	0
			47.6	33.3	9.5	4.8	4.8		
	b	4.85	17	3	0	0	0	20	1
			85.0	15.0	0.0	0.0	0.0		
	c	4.45	12	6	1	1	0	20	1
			60.0	30.0	5.0	5.0	0.0		
	d	4.95	19	1	0	0	0	20	1
			95.0	5.0	0.0	0.0	0.0		
	e	4.75	16	3	1	0	0	20	1
	80.0		15.0	5.0	0.0	0.0			
f	4.79	15	4	0	0	0	19	2	
		78.9	21.1	0.0	0.0	0.0			
g	4.20	10	5	4	1	0	20	1	
		50.0	25.0	20.0	5.0	0.0			
h	4.85	17	3	0	0	0	20	1	
		85.0	15.0	0.0	0.0	0.0			
i	4.85	18	1	1	0	0	20	1	
		90.0	5.0	5.0	0.0	0.0			
II	a	4.95	19	1	0	0	0	20	1
			95.0	5.0	0.0	0.0	0.0		
	b	4.95	19	1	0	0	0	20	1
			95.0	5.0	0.0	0.0	0.0		
	c	5.00	20	0	0	0	0	20	1
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	5.00	20	0	0	0	0	20	1
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
e	5.00	20	0	0	0	0	20	1	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
f	5.00	20	0	0	0	0	20	1	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
g	5.00	15	0	0	0	0	15	6	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

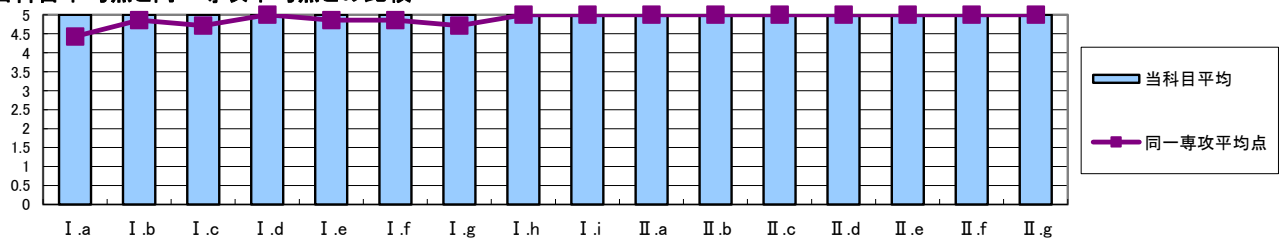
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	天満 敦子

職名	教授
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.86
	c 出席は良好であった。	5.00	4.71
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.86
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.86
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.71
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	5.00
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		5.00	5.00
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		5.00	5.00
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		5.00	5.00
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		5.00	5.00
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		5.00	5.00
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学院生、学部生、短大生、皆努力が顕著で頼もしいです。在学中に多くのことを学んでもらい、卒業後、演奏家として自立を目指します。

● 問題点

教員と学生と集中関係を目指します。

● 改善の方策

今まで通り、努力していきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

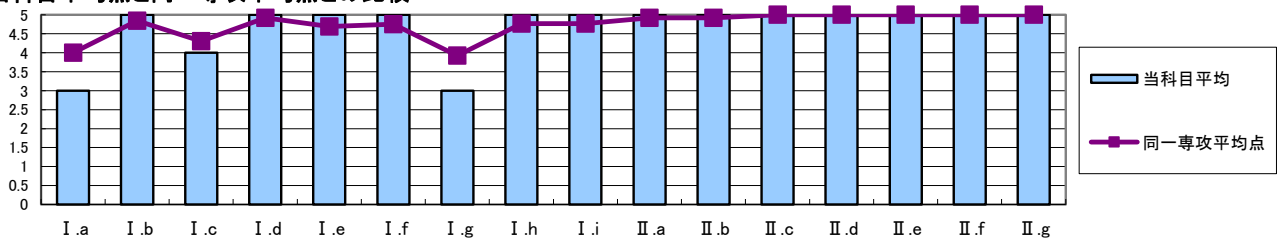
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	小原 裕樹

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.00	4.00
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.85
	c 出席は良好であった。	4.00	4.31
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.92
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.69
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.75
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.00	3.92
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.77
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.77
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.92
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.92
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業の目的は基礎奏法、応用技術の習得を中心にレッスンを行い、幅広い音楽表現を出来るように導くことである。授業形態は個人レッスンで1年次1名、レッスン時間は20分、開講曜日は毎週金曜日である。集計結果を見るとI aとI bでやや低い結果だが他は特筆すべき事項は見当たらない。

● 問題点

この集計結果からは教員と学生間の意識のズレはあまり感じられないが、実際にレッスンの成果が出ているかは常に注意深く見ていかなければならないであろう。副科トランペットという性格上20分のレッスンでは基礎的な内容が中心となるため、I aとI bの結果が他より低いのは妥当だと考える。

● 改善の方策

副科の場合専攻にも増して一人一人の実力の差が大きいので、教材を含めそれぞれに合った適切な指導を行っていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

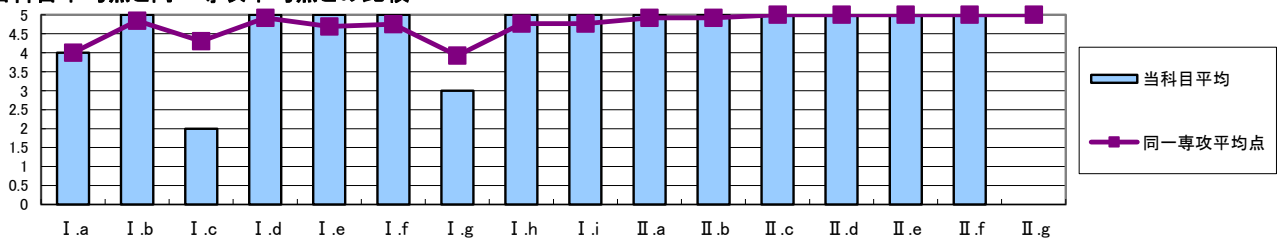
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	中村 明子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.00
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.85
	c 出席は良好であった。	2.00	4.31
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.92
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.69
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.75
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.00	3.92
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.77
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.77
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		5.00	4.92
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		5.00	5.00
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		5.00	5.00
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		5.00	5.00
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		5.00	5.00
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		-	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は2名の学生を担当。1名は子育ての傍ら、人生を豊かにしたい！と頑張る主婦。もう1名が一昨年の前期は出席が足りず試験まで至らなかったメンタル面で問題ありの学生。アンケートはこちらの学生のものと思われま

● 問題点

詳しいことは存じ上げませんが、心と体のバランスを崩しやすく、今年度もまた出席状況がギリギリでした。

● 改善の方策

本人は辛い状況の中、よく努力していると思います。その演奏に素直な優しさと芯の強さが伺えるので、広い気持ちで来年度もまた見守って行けたらと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

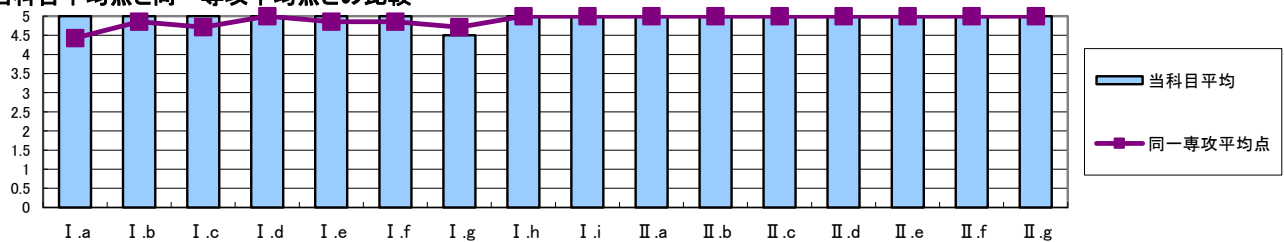
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	宮野 陽子

職名	教授
----	----

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.86
	c 出席は良好であった。	5.00	4.71
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.86
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.86
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.50	4.71
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	5.00
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	5.00
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



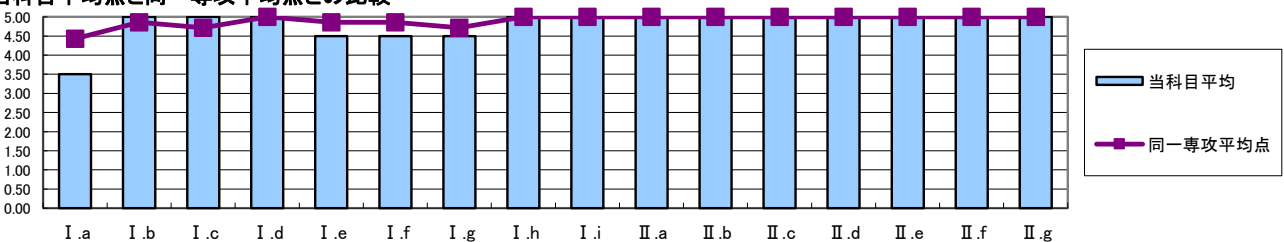
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	佐々木 雄二

職名	特任教授
----	------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.50	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.86
	c 出席は良好であった。	5.00	4.71
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.86
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.86
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.50	4.71
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	5.00
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	5.00
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

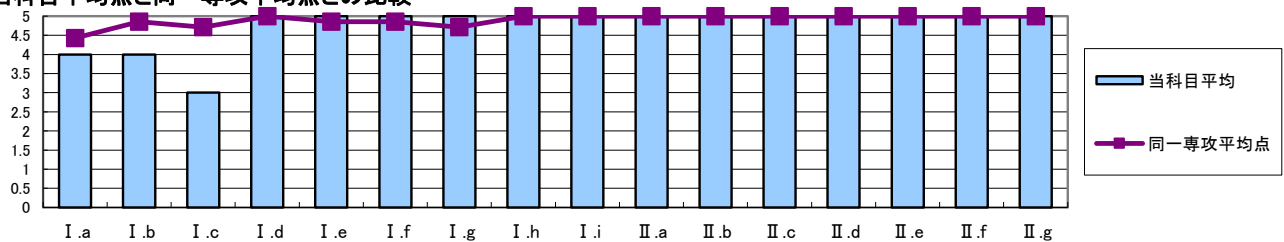
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	岩間 丈正

職名	准教授
----	-----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.86
	c 出席は良好であった。	3.00	4.71
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.86
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.86
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.71
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	5.00
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	5.00
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



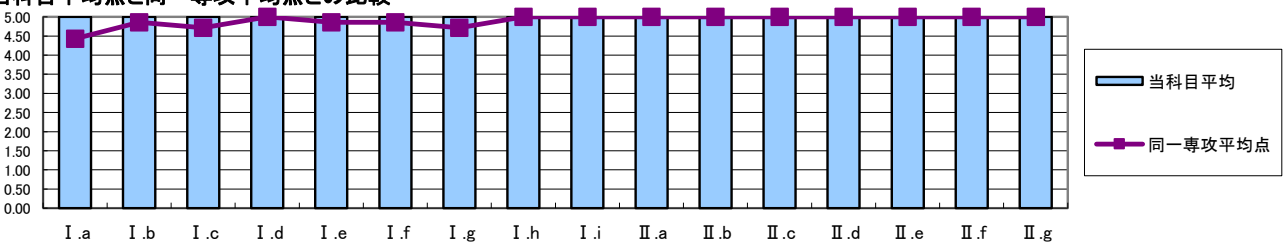
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	松尾 賢一郎

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.43
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.86
	c 出席は良好であった。	5.00	4.71
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	5.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.86
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.86
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.71
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	5.00
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	5.00
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	5.00
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

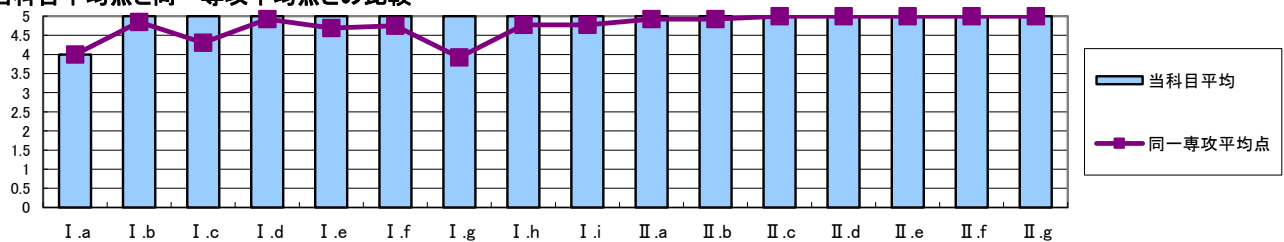
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	宮野 陽子

職名	教授
----	----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.00
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.85
	c 出席は良好であった。	5.00	4.31
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.92
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.69
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.75
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	3.92
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.77
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.77
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.92
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.92
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



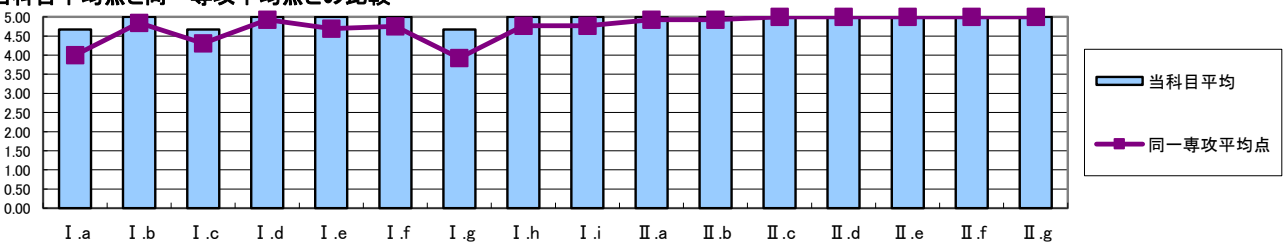
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	白井 英治

職名	特任教授
----	------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.67	4.00
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.85
	c 出席は良好であった。	4.67	4.31
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.92
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.69
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.75
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.67	3.92
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.77
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.77
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.92
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.92
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

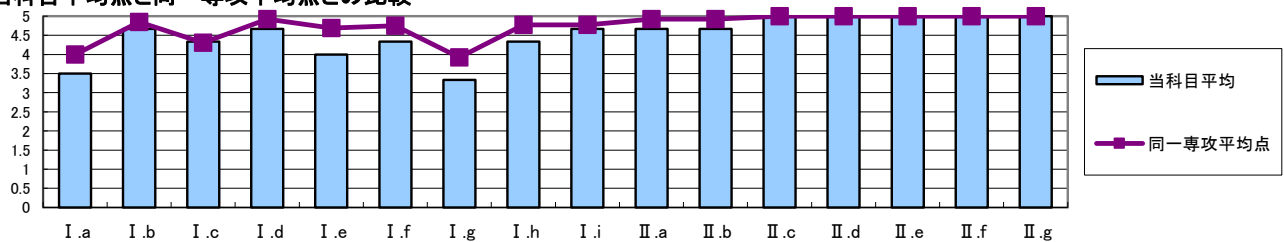
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	岩間 丈正

職名	准教授
----	-----

履修者数	4
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.50	4.00
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.67	4.85
	c 出席は良好であった。	4.33	4.31
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.67	4.92
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.00	4.69
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.33	4.75
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.33	3.92
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.33	4.77
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.67	4.77
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.67	4.92
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.67	4.92
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



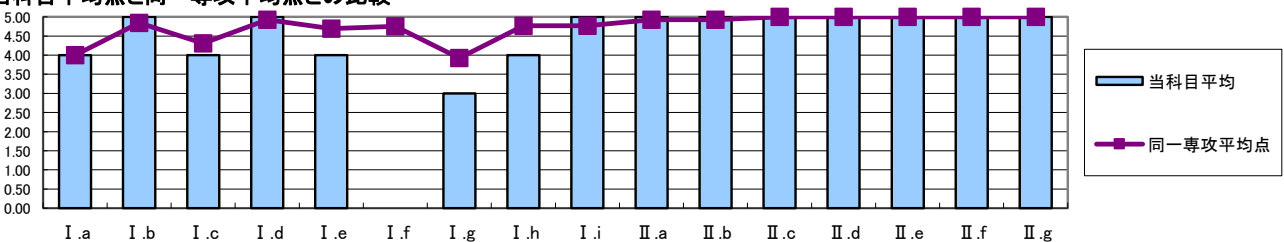
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	田中 洪至

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.00
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.85
	c 出席は良好であった。	4.00	4.31
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.92
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.00	4.69
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	-	4.75
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.00	3.92
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.77
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.77
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.92
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.92
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

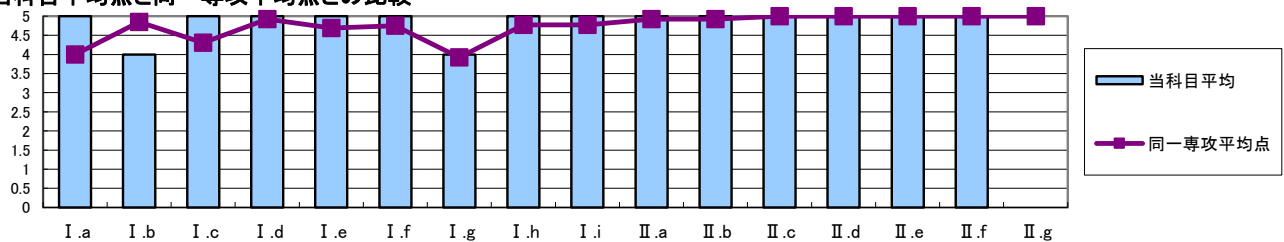
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	松尾 賢一郎

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.00
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.85
	c 出席は良好であった。	5.00	4.31
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.92
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.69
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.75
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	3.92
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.77
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.77
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.92
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.92
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



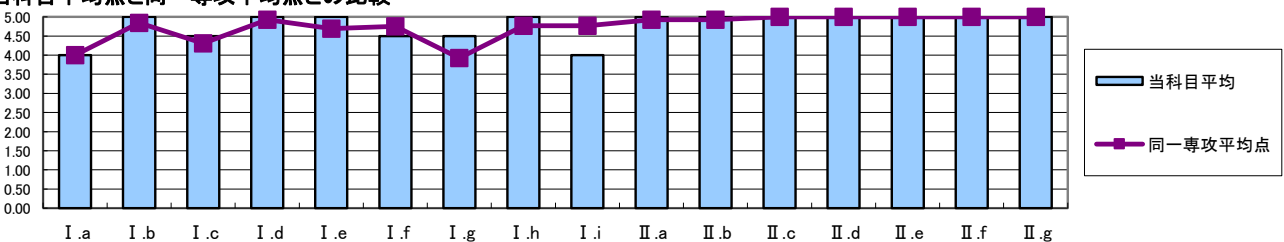
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	村越 麻希子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.00
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.85
	c 出席は良好であった。	4.50	4.31
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.92
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.69
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.50	4.75
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.50	3.92
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.77
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.00	4.77
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.92
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.92
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



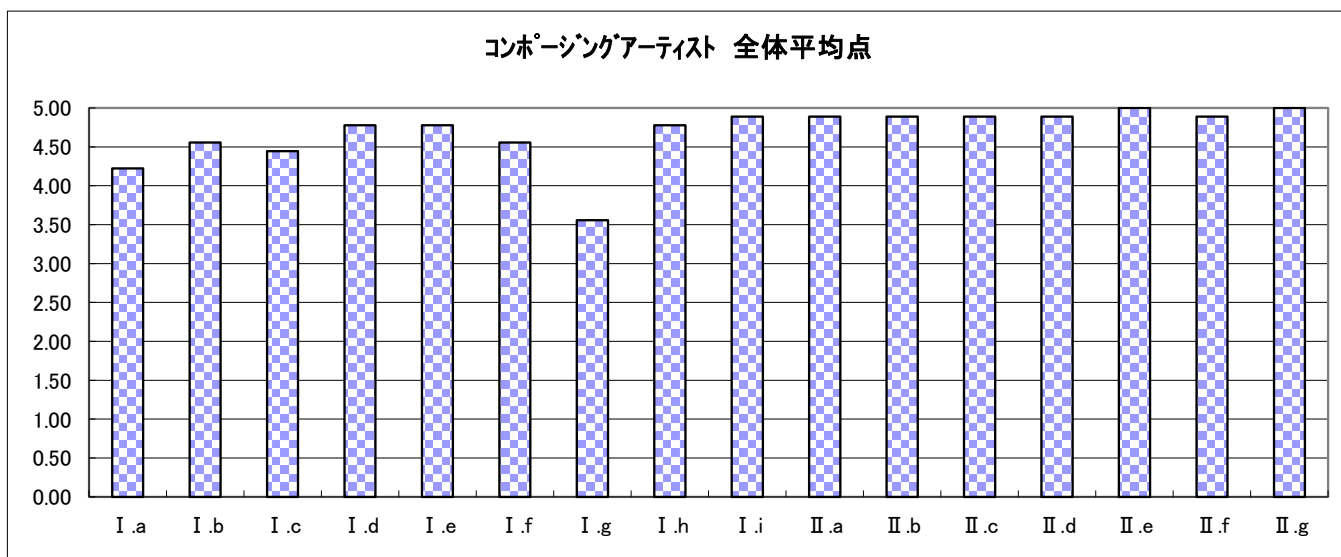
コンポーザングアーティスト

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	コンポーザングアーティスト
科目数	1

履修者数	16
回答者数	9

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.22	2	7	0	0	0	9	0
			22.2	77.8	0.0	0.0	0.0		
	b レッスンには、遅刻をしないで行ってた。	4.56	6	2	1	0	0	9	0
			66.7	22.2	11.1	0.0	0.0		
	c 出席は良好であった。	4.44	4	5	0	0	0	9	0
			44.4	55.6	0.0	0.0	0.0		
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.78	7	2	0	0	0	9	0
			77.8	22.2	0.0	0.0	0.0		
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.78	7	2	0	0	0	9	0
77.8			22.2	0.0	0.0	0.0			
f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.56	5	4	0	0	0	9	0	
		55.6	44.4	0.0	0.0	0.0			
g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.56	1	5	2	0	1	9	0	
		11.1	55.6	22.2	0.0	11.1			
h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.78	7	2	0	0	0	9	0	
		77.8	22.2	0.0	0.0	0.0			
i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.89	8	1	0	0	0	9	0	
		88.9	11.1	0.0	0.0	0.0			
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.89	8	1	0	0	0	9	0
			88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.89	8	1	0	0	0	9	0
			88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.89	8	1	0	0	0	9	0
			88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.89	8	1	0	0	0	9	0
			88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
100.0			0.0	0.0	0.0	0.0			
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.89	8	1	0	0	0	9	0	
		88.9	11.1	0.0	0.0	0.0			
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。(当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5	0	0	0	0	5	4	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

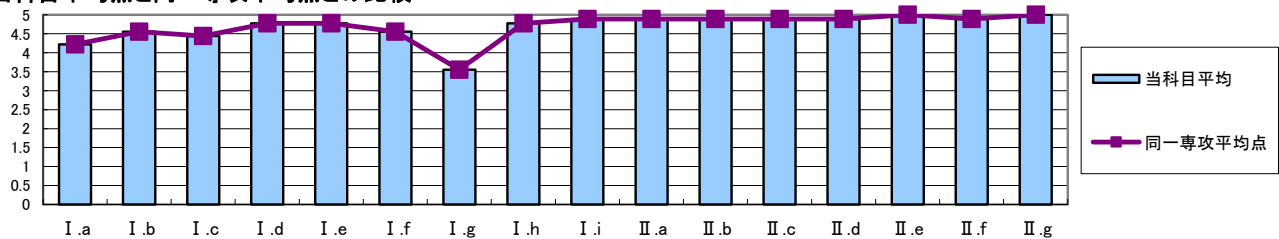
科目名	コンポーザングアーティスト
教員名	城之内 ミサ

職名	特任教授
----	------

履修者数	16
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.22	4.22
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.56	4.56
	c 出席は良好であった。	4.44	4.44
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.78	4.78
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.78	4.78
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.56	4.56
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.56	3.56
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.78	4.78
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.89	4.89
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.89	4.89
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.89	4.89
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.89	4.89
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.89	4.89
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	4.89	4.89
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



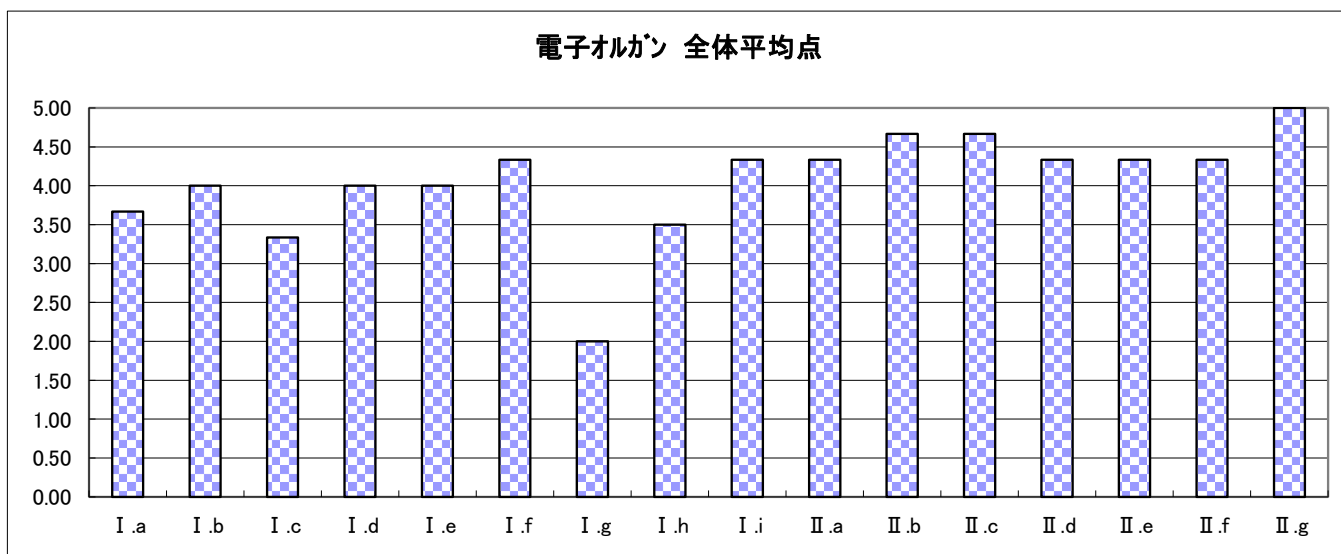
電子オルガン

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	電子オルガン
科目数	2

履修者数	3
回答者数	3

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.67	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	3	0
	b	4.00	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3	0
	c	3.33	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	3	0
	d	4.00	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3	0
	e	4.00	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3	0
	f	4.33	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3	0
	g	2.00	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	3	0
	h	3.50	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2	1
	i	4.33	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3	0
II	a	4.33	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3	0
	b	4.67	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	c	4.67	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	0
	d	4.33	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3	0
	e	4.33	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3	0
	f	4.33	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3	0
	g	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	1



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

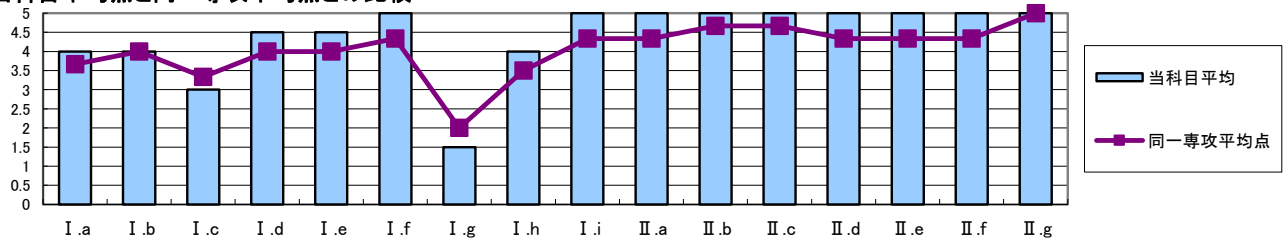
科目名	電子オルガン
教員名	長野 洋二

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	3.67
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.00
	c 出席は良好であった。	3.00	3.33
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.50	4.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.50	4.00
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.33
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	1.50	2.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	3.50
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.33
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.33
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.67
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.67
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.33
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.33
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.33
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



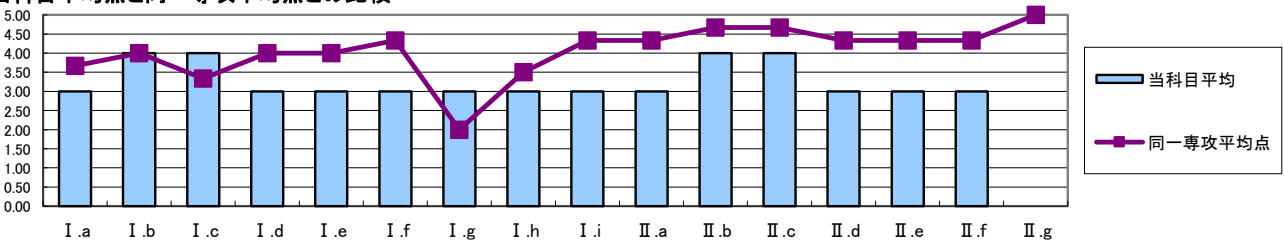
科目名	電子オルガン
教員名	峰村 知子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	3.00	3.67
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.00
	c 出席は良好であった。	4.00	3.33
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	3.00	4.00
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	3.00	4.00
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	3.00	4.33
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.00	2.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	3.00	3.50
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	3.00	4.33
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	3.00	4.33
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.00	4.67
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.00	4.67
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	3.00	4.33
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	3.00	4.33
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	3.00	4.33
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



器楽専攻ピアノレスナーコース

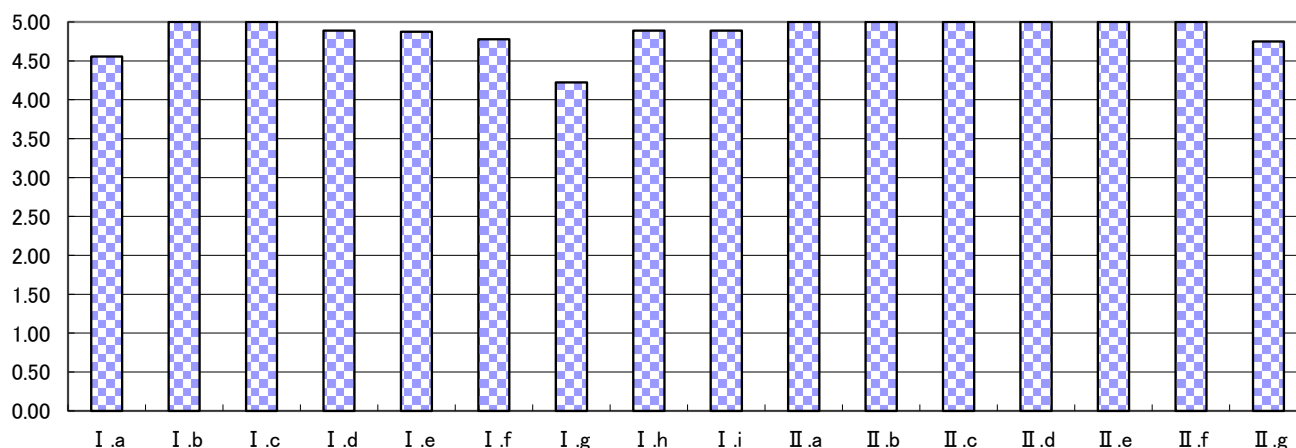
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	器楽専攻ピアノスナーコース
科目数	4

履修者数	10
回答者数	9

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.56	5	4	0	0	0	9	0
			55.6	44.4	0.0	0.0	0.0		
	b	5.00	9	0	0	0	0	9	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	5.00	9	0	0	0	0	9	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	4.89	8	1	0	0	0	9	0
			88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
	e	4.88	7	1	0	0	0	8	1
	87.5		12.5	0.0	0.0	0.0			
f	4.78	7	2	0	0	0	9	0	
		77.8	22.2	0.0	0.0	0.0			
g	4.22	6	0	2	1	0	9	0	
		66.7	0.0	22.2	11.1	0.0			
h	4.89	8	1	0	0	0	9	0	
		88.9	11.1	0.0	0.0	0.0			
i	4.89	8	1	0	0	0	9	0	
		88.9	11.1	0.0	0.0	0.0			
II	a	5.00	9	0	0	0	0	9	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	5.00	9	0	0	0	0	9	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	5.00	9	0	0	0	0	9	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	5.00	9	0	0	0	0	9	0
	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
e	5.00	9	0	0	0	0	9	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
f	5.00	9	0	0	0	0	9	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
g	4.75	6	2	0	0	0	8	1	
		75.0	25.0	0.0	0.0	0.0			

器楽専攻ピアノスナーコース 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

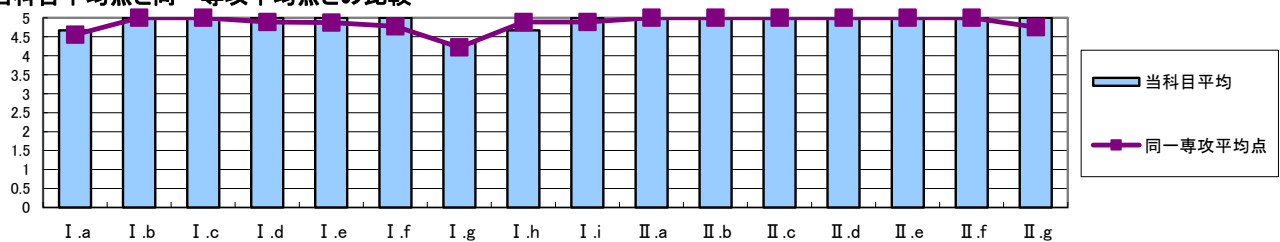
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	國谷 尊之

職名	教授
----	----

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.67	4.56
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	5.00
	c 出席は良好であった。	5.00	5.00
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.89
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.88
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.78
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	4.22
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.67	4.89
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.89
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	5.00
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.75

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2018年度の器楽専攻ピアノ指導者コースは、1年次生1名、2年次社会人学生1名、長期履修社会人学生1名のピアノ実技レッスンを担当した。それぞれ状況の異なる3名であるが、ピアノ指導法を学ぶことに対する興味と関心の高さは共通しており、順調に知識と技能を向上させることができた。

● 問題点

今年度については、特に大きな問題は見られない。

● 改善の方策

引き続き、多様な学生へのきめ細かな対応を心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

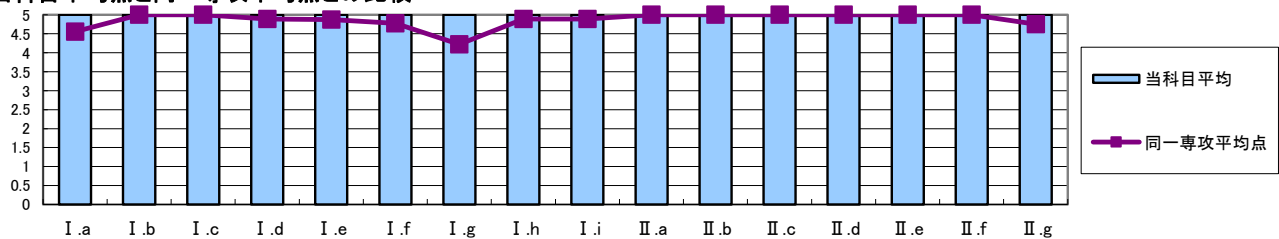
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	中島 裕紀

職名	教授
----	----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.56
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	5.00
	c 出席は良好であった。	5.00	5.00
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.89
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.88
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.78
	g 図書館の利用等の学習を積極的行っていた。	5.00	4.22
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.89
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.89
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		5.00	5.00
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		5.00	5.00
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		5.00	5.00
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		5.00	5.00
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		5.00	5.00
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		5.00	4.75

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度のピアノ指導者コースの担当は、1名で（アンケート表示に2名となっているのは誤り）、その1名から回答を得ることができた。1名ということで、個人が特定されてしまうため、個人に関することには触れないように説明をする。アンケートの数値を見ると、大変高評価となっており、受講者の満足度を示していると読み取れる。また、この評価は、レッスンそのものの評価のみならず、教員に対する信頼度を示していると思われる。コメントに「・・・自分もそのような指導者を目指したいと強く思います。」という一文があり、教員として嬉しい言葉であった。

● 問題点

数値の点からもまた、年間を通じて担当してきた中でも特に問題はない。

● 改善の方策

今後も、ピアノ指導者コースの学生の目指す像に近づくために自己の研鑽を積み、より良い指導ができるように心がけていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

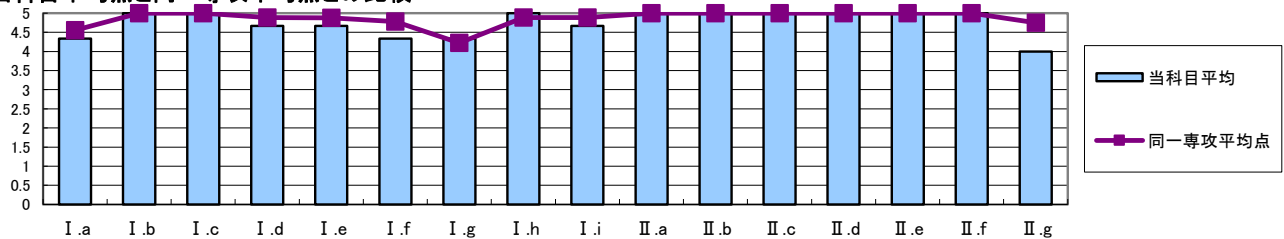
科目名	器楽専攻ピアノ/指導者コース
教員名	久邇 之宜

職名	特任教授
----	------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.33	4.56
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	5.00
	c 出席は良好であった。	5.00	5.00
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.67	4.89
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.67	4.88
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.33	4.78
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	4.22
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.89
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.67	4.89
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	5.00
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.75

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



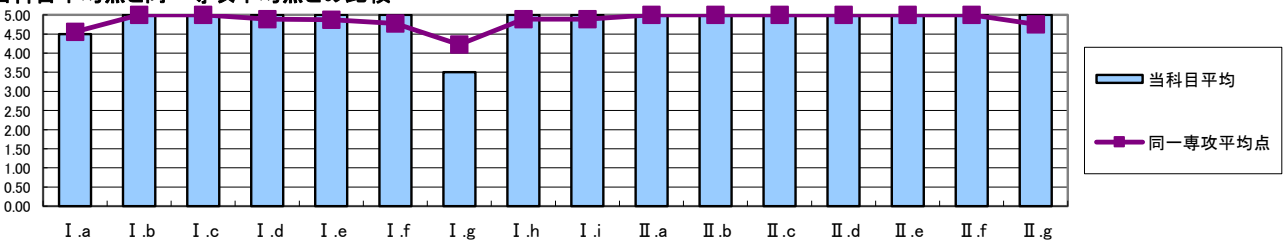
科目名	器楽専攻ピアノ/指導者コース
教員名	小林 律子

職名	准教授
----	-----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.50	4.56
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	5.00
	c 出席は良好であった。	5.00	5.00
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.89
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.88
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.78
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.50	4.22
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.89
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.89
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	5.00
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	5.00
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	5.00
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	5.00
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	5.00
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	5.00
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.75	

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



音樂教養實技

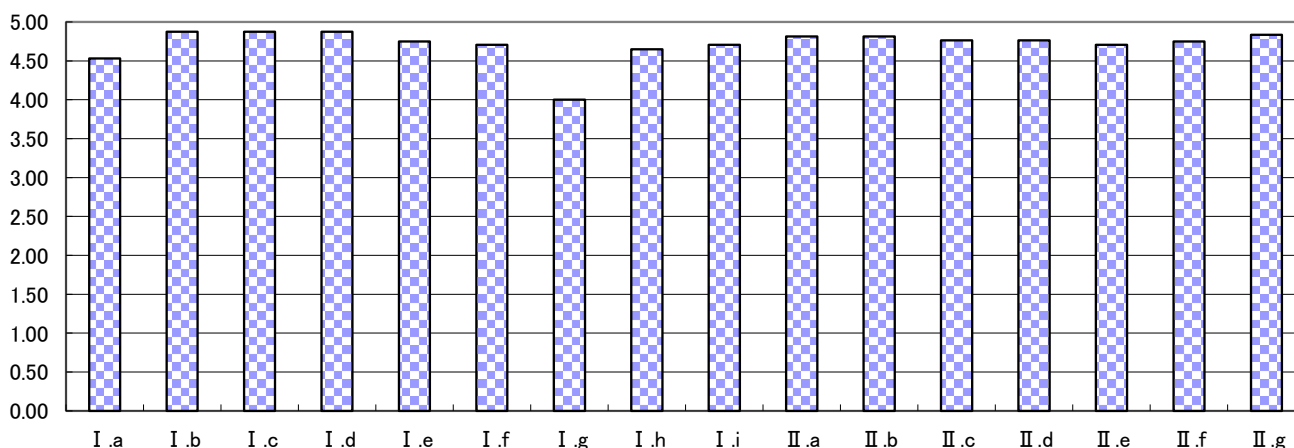
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	音楽教養実技
科目数	12

履修者数	18
回答者数	17

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.53	10	6	1	0	0	17	0
			58.8	35.3	5.9	0.0	0.0		
	b	4.88	14	2	0	0	0	16	1
			87.5	12.5	0.0	0.0	0.0		
	c	4.88	15	0	1	0	0	16	1
			93.8	0.0	6.3	0.0	0.0		
	d	4.88	15	0	1	0	0	16	1
			93.8	0.0	6.3	0.0	0.0		
	e	4.75	13	2	1	0	0	16	1
	81.3		12.5	6.3	0.0	0.0			
f	4.71	13	3	1	0	0	17	0	
		76.5	17.6	5.9	0.0	0.0			
g	4.00	6	6	2	2	0	16	1	
		37.5	37.5	12.5	12.5	0.0			
h	4.65	12	4	1	0	0	17	0	
		70.6	23.5	5.9	0.0	0.0			
i	4.71	14	2	0	1	0	17	0	
		82.4	11.8	0.0	5.9	0.0			
II	a	4.81	14	1	1	0	0	16	1
			87.5	6.3	6.3	0.0	0.0		
	b	4.81	14	1	1	0	0	16	1
			87.5	6.3	6.3	0.0	0.0		
	c	4.76	15	1	0	1	0	17	0
			88.2	5.9	0.0	5.9	0.0		
	d	4.76	15	1	0	1	0	17	0
	88.2		5.9	0.0	5.9	0.0			
e	4.71	14	2	0	1	0	17	0	
		82.4	11.8	0.0	5.9	0.0			
f	4.75	15	0	0	0	1	16	1	
		93.8	0.0	0.0	0.0	6.3			
g	4.83	11	0	1	0	0	12	5	
		91.7	0.0	8.3	0.0	0.0			

音楽教養実技 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

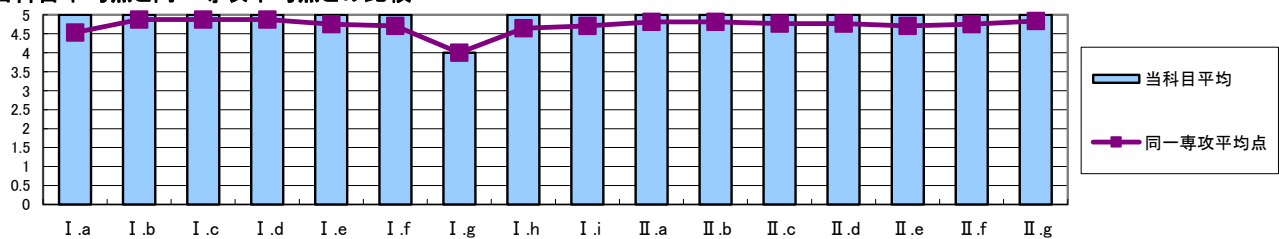
科目名	音楽教養実技
教員名	太田 幸子

職名	特任教授
----	------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.71
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		5.00	4.81
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		5.00	4.76
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		5.00	4.76
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		5.00	4.71
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		5.00	4.75
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度留学生1名を担当。中国の大学を卒業されているが、音楽歴が浅く、短期大学ではなく、音楽教養の受験になった次第です。2年目には大分力もつき、大三編入を致しました。大学卒業後は、大学院進学も考え始めています。

● 問題点

特になし。

● 改善の方策

特に何の問題もない学生です。今後も楽しさが感じられる指導を心がけていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

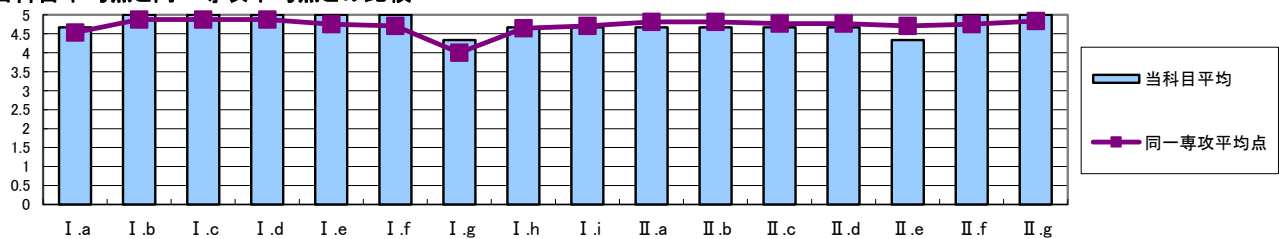
科目名	音楽教養実技
教員名	伊藤 和広

職名	准教授
----	-----

履修者数	3
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.67	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.67	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.67	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.67	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行っていた。	4.67	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.67	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.67	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.33	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、長期履修の3名を担当しました。アンケートには3名全員が回答しました。集計結果を見ますと、現役の学生に比べ、自己肯定感が高いように感じますが、大きな問題はないと考察します。以上、全体としてシラバスに提示されている科目の目的・内容は、ある程度達成できたということが、今年度の状況です。

● 問題点

社会人に対しての短大という枠組みの中でのレッスンは、30分では互いに満足されないことも多々あります。

● 改善の方策

時間配分及びフォローをしていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

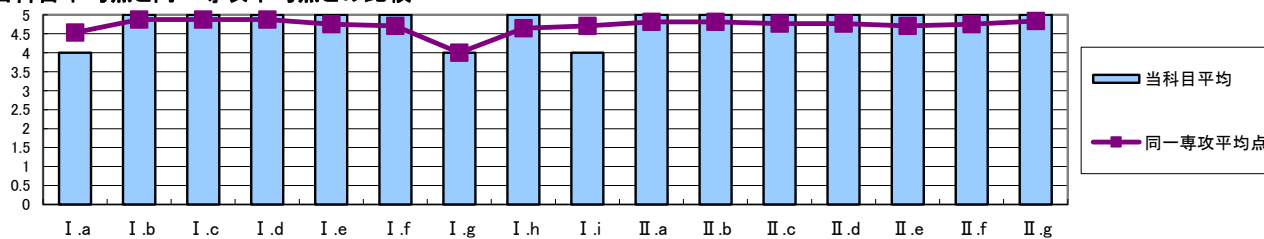
科目名	音楽教養実技
教員名	岩間 文正

職名	准教授
----	-----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.00	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は社会人が1名。アンケート結果を見る限りでは、回答は4~5に集中していて担当学生との関係、レッスンに対する理解度は概ね良好と思われる。今年度の学生は初心者で、なかなか音が出せず苦勞したが、やる気はかなり高い。

● 問題点

フルートの基本をしっかり教えているが、進みが遅く、なかなか上達しない。

● 改善の方策

地道に基本を教え続ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

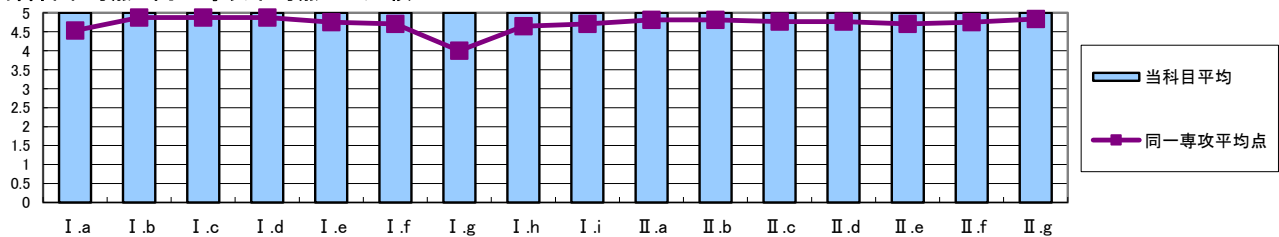
科目名	音楽教養実技
教員名	岡本 明子

職名	准教授
----	-----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないうで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2018年度は、ピアノコース2名・指導者コース1名・音楽教養2名・副科10名計15名の学生を担当し、うち12名より解答を得た。現役学生から75才迄と年齢もレベルもかなりバラエティに富んでいるが、各自それぞれの能力に応じて真面目に取り込んでいる。

● 問題点

副科 I a・b: タレント活動をしていた学生が遅刻、欠席が多めだった為で、他の学生には問題は無いと考えている。
I g: 毎回問題になり、私の担当学生に止まらない問題のように思われるが善処したい。

● 改善の方策

I g: 楽譜に関しても「独語」「伊語」等の辞書で本来の意味を調べるよう指示したり、楽曲についても都度課題を与える等しているが、ネット検索で済ませる学生が多い。今年度は専門生が皆2年生なので、作曲ノートを視野に入れしっかりと指導したい。信頼関係も概ね良好のように感じられるので、2019年度も引き続き前向きにレッスンしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

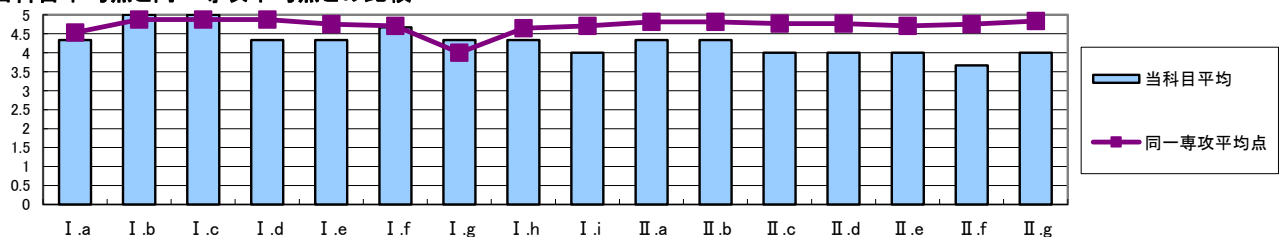
科目名	音楽教養実技
教員名	岩見 真佐子

職名	専任講師
----	------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.33	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	4.33	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.33	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.67	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.33	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.33	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	4.00	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	4.33	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	4.33	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	4.00	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	4.00	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	4.00	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	3.67	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本年度のシラバスに基づき各学年の専攻実技レッスンを実施。前後期のレッスン開講期間の担当曜日に、各学年の希望に応じて、オフィスアワー・休休み・補講を最大限活用した。個々の履修状況、生活事情に応じてレッスンの回数を配慮。各回学生の自修状況・理解度を確認しながら専攻、副科共に普く開講。音楽教養、副科声楽の実技10名の声楽レッスンを実施。アンケート実施にあたっては、調査期間に履修学生に同じ条件で実施されたことを報告いたします。

● 問題点

昨年度のアンケートをふまえて、学生自身の図書館利用値が上がるように留意。事前レッスン準備と復習の時間の充実化がGPAに反映することをふまえて指導のポイントにした。学生自身の「習熟達成度と目標設定」に大きな差がみられ、自分の意欲と必要な学修に対して楽観的な傾向があるので、作品へのアプローチの深さ、演奏完成度の意識を高める「研究公開發表会」を前後期に開催。自らの気づきで意欲的な図書館利用となるように促して指導を進めた。専門的な発声指導では、自然にリラックスして体得できるよう基礎教材の反復を中心に実施。学生の補講希望については時間的には前後学生の授業も考慮したため、回数で確保して実施。音楽教養専攻学生4名は、それぞれの目標や意識に差があるため、本年度はレッスンだけではなく、個人面接の時間を設定し、シラバスの内容とGPAの確保を第一に両面からの指導を試みた。「知識教養を深めるための実技」「読譜と基礎を重視した実技」「発声練習と響きの実現」「演奏実施」と、4名それぞれに応じた指導目標を設定することとなった。

● 改善の方策

声楽実技の学びの意識の差があるため、前期1回、後期2回の面接を実施した上で、「個人指導」と「全体指導」を実施。専攻実技試験に際しては、発表会で実際に演奏した上で「公開審査」「内部審査」を個々に選択したが、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーに基づいた授業参加の意識がない事例がみられる。特に社会人の場合には「意欲」と「実践」に大きな差があることから、その差を共有しながらディプロマポリシーへ向けた認識のある実技レッスンをすすめることが有効と思われる。声楽的な潜在能力を引き出して育ててゆく教育と、履修進級に関わる諸条件を満たす「専攻力」の育成、この両論がアンケート数値に表れていく事に留意したい。心身共に健全な学生生活の基盤に留意し、教務学生担当はじめ、学生相談室との連携をはかり、細やかな個人対応を引き続き継続。レッスンの再現に留まらず自らの力で理想の声、響きを実現してゆく長期的な学びで聴く耳、目標達成の共感共有を発展的な学びへの意欲に繋げてゆく必要がある。個々にあった有効な教材を取り上げ「作品に対する総合的な気づき」を共有し尊重してゆくことが大切と思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

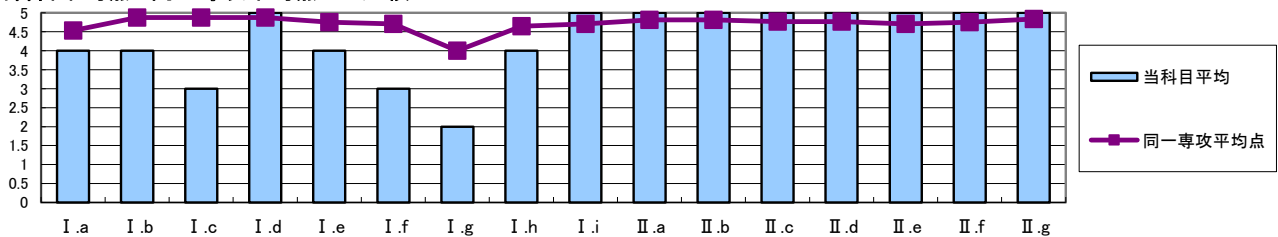
科目名	音楽教養実技
教員名	浅野 和子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.88
	c 出席は良好であった。	3.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	3.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	2.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

担当した学生はこれまできちんとしたピアノの基礎をやっていなかった為、初めはお互いにペースが掴めず模索していた感じでしたが、きちんと練習して来ました。ピアノ科作成のテキストも毎週こなしていたし、難しい曲にもトライしました。後期の試験も意欲を持って準備していました。性格も朗らかでレッスンも和やかで反応もよかったです。途中休みがちになったこともありましたが、何ら心配のない学生でした。

● 問題点

図書館利用の学習を積極的に行っていなかった点。

● 改善の方策

図書館で調べるような宿題を出す、一緒に行って調べるなどを心掛けたいです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

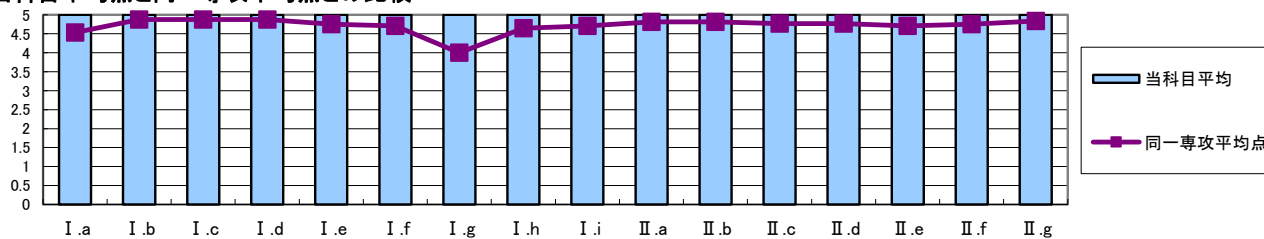
科目名	音楽教養実技
教員名	亀山 久美子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

平成30年度は前年度に引き続き、同1名を担当した。昨年と同様仕事をしながら、家庭環境により前年よりも学習時間が狭まった状態での履修となってしまった。にも関わらず、目標を高く持ち、常に熱意を維持して学習していた。最終学習の年となり、学生自身が強く望んだ試験曲に見合うよう、譜読みやテクニックは大きく向上し、学生自身がそれを実感しながら学ぶことで確実にモチベーションに繋がっていると感じた。また、学生はいつも自発的に計画をたてながら、自らのレベルに見合ったペースで最大限努力していた。不安要素やテクニックでの助言も折り込みながら、コミュニケーションも細やかに取っていったことで最終的な目標が遂げられたと実感している。

● 問題点

特になし。

● 改善の方策

学生からの信頼に見合ったアドバイスと指導を常に模索すること。学生の現状から考えてレベルの高い楽曲に挑戦する場合の、学生に合わせたサポートを心掛けること。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

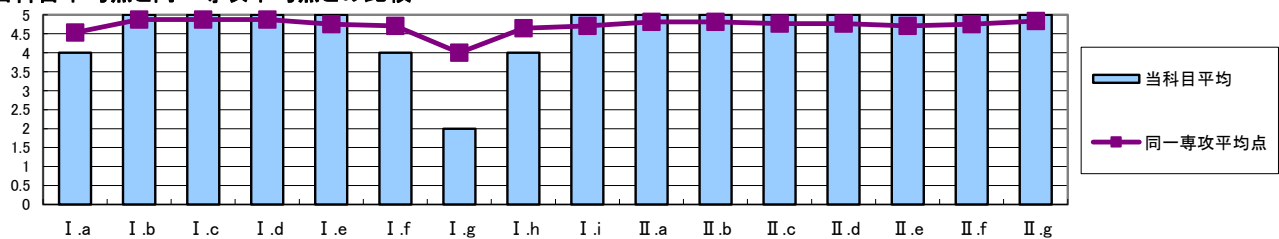
科目名	音楽教養実技
教員名	中村 明子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	2.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.71
	II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00
b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。		5.00	4.81
c 教員の話し方や態度は、適切であった。		5.00	4.76
d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。		5.00	4.76
e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。		5.00	4.71
f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。		5.00	4.75
g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)		5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

60代前半の女性1名を担当しました。仕事をしながら、お孫さん達の面倒も見る多忙な方です。

● 問題点

アンケートには自分に対する厳しい評価が出ています。

● 改善の方策

上記の問題は、本人の前向きな姿勢ゆえの結果と捉えられます。学生との信頼関係は保持しているので、来年度もこのまま共に努力したいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

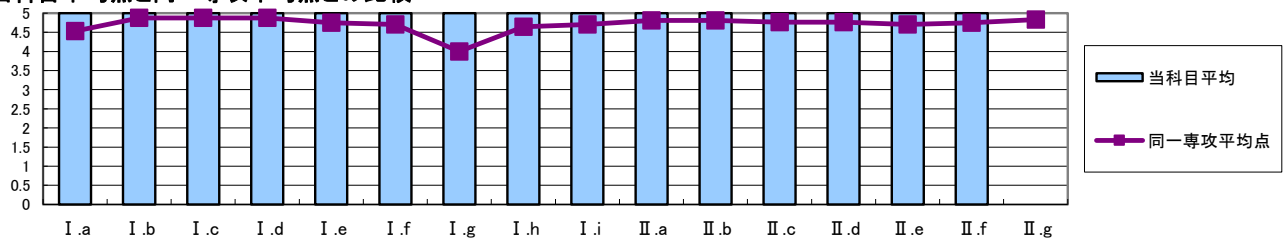
科目名	音楽教養実技
教員名	佐藤 泰弘

職名	教授
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	5.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



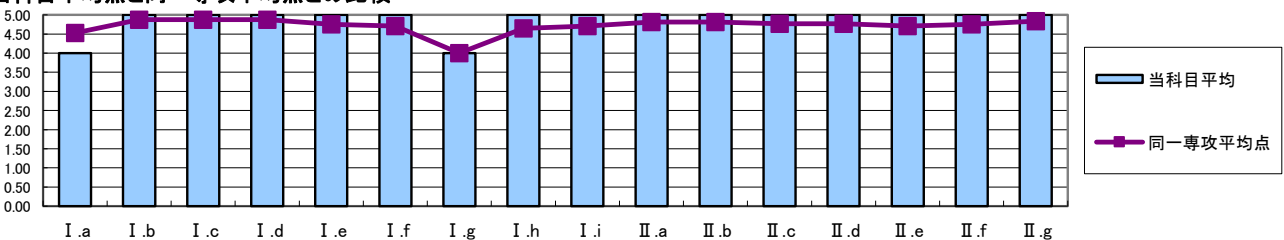
科目名	音楽教養実技
教員名	武藤 直美

職名	専任講師
----	------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

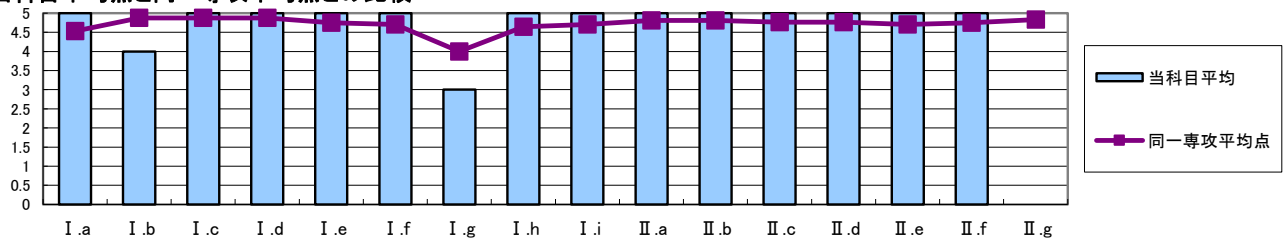
科目名	音楽教養実技
教員名	加古 勉

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	5.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	4.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	5.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	5.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	3.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	5.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



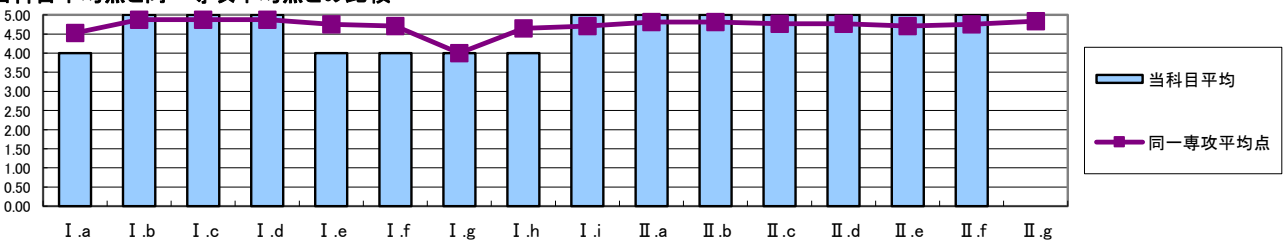
科目名	音楽教養実技
教員名	村越 麻希子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 譜読みや練習を十分してレッスンに臨んでいた。	4.00	4.53
	b レッスンには、遅刻をしないで行っていた。	5.00	4.88
	c 出席は良好であった。	5.00	4.88
	d 教員との信頼関係は、良好であった。	5.00	4.88
	e 積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでいた。	4.00	4.75
	f レッスン時の受講態度は、良かったと思う。	4.00	4.71
	g 図書館の利用等の学習を積極的に行っていた。	4.00	4.00
	h このレッスンによって、技術や意欲が向上した。	4.00	4.65
	i このレッスンの総合的評価は良いですか。	5.00	4.71
II	a 教員のレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせて適切に行なわれていた。	5.00	4.81
	b 教員は、意欲的で熱意を持ってレッスンを行なっていた。	5.00	4.81
	c 教員の話し方や態度は、適切であった。	5.00	4.76
	d 学生の質問や相談への対応は、適切であった。	5.00	4.76
	e 教員は、必要に応じて演奏等の具体例を示してくれた。	5.00	4.71
	f レッスンの回数や時間は、きちんと守られていた。	5.00	4.75
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



音樂專門教育科目

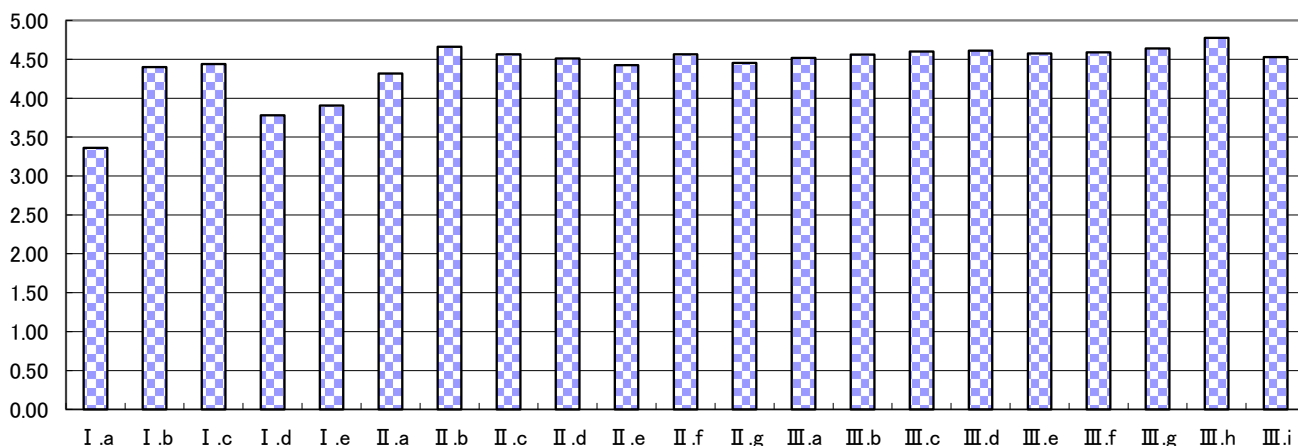
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	音楽専門教育科目
科目数	28

履修者数	405
回答者数	306

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.36	65	101	61	24	49	300	6
			21.7	33.7	20.3	8.0	16.3		
	b	4.40	193	60	27	14	6	300	6
			64.3	20.0	9.0	4.7	2.0		
	c	4.44	183	84	26	6	4	303	3
	60.4		27.7	8.6	2.0	1.3			
d	3.78	84	106	85	19	9	303	3	
		27.7	35.0	28.1	6.3	3.0			
e	3.91	81	139	61	15	6	302	4	
		26.8	46.0	20.2	5.0	2.0			
II	a	4.32	165	75	59	2	2	303	3
			54.5	24.8	19.5	0.7	0.7		
	b	4.66	231	50	13	6	2	302	4
			76.5	16.6	4.3	2.0	0.7		
	c	4.57	215	54	23	9	1	302	4
			71.2	17.9	7.6	3.0	0.3		
	d	4.51	204	60	30	4	4	302	4
	67.5		19.9	9.9	1.3	1.3			
e	4.43	176	93	18	12	2	301	5	
		58.5	30.9	6.0	4.0	0.7			
f	4.57	208	64	24	5	1	302	4	
		68.9	21.2	7.9	1.7	0.3			
g	4.45	195	68	25	12	3	303	3	
		64.4	22.4	8.3	4.0	1.0			
III	a	4.52	205	61	29	5	3	303	3
			67.7	20.1	9.6	1.7	1.0		
	b	4.56	211	63	23	4	3	304	2
			69.4	20.7	7.6	1.3	1.0		
	c	4.60	222	52	24	3	3	304	2
			73.0	17.1	7.9	1.0	1.0		
	d	4.61	220	55	24	1	3	303	3
			72.6	18.2	7.9	0.3	1.0		
	e	4.57	213	61	23	2	4	303	3
	70.3		20.1	7.6	0.7	1.3			
f	4.59	220	50	26	6	1	303	3	
		72.6	16.5	8.6	2.0	0.3			
g	4.64	225	55	19	0	4	303	3	
		74.3	18.2	6.3	0.0	1.3			
h	4.78	212	26	11	0	2	251	55	
		84.5	10.4	4.4	0.0	0.8			
i	4.53	203	70	20	7	3	303	3	
		67.0	23.1	6.6	2.3	1.0			

音楽専門教育科目 全体平均点

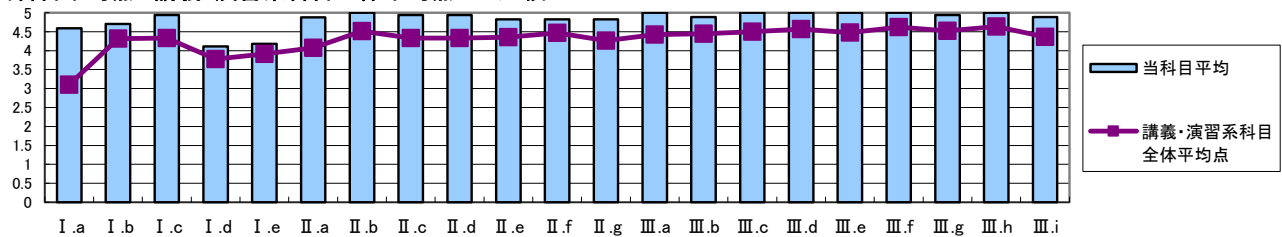


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ピアノ指導者教材研究B	職名	教授	履修者数	21
教員名	國谷 尊之			回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.59	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.71	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.94	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.11	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.18	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.88	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.94	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.94	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.82	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.82	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.82	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.88	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.94	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.89	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目となっており、おもにピアノ指導者をめざす学生を対象としているが、専攻にかかわらず音楽を通じた社会貢献に関心のある学生にもシラバスにて履修を呼びかけている。2018年度は2年次配当科目であり21名が履修した。今年度の特徴としては、社会人学生が半数以上であったことがあげられる。主に卒業後にピアノ指導者をめざすための技能と知識を身に付けるための授業であるが、今年度はシラバスに基づく授業内容は堅守しつつ幅広い年齢と専攻に受け入れやすい授業運営を心掛けた。全体に高い評価結果となり手ごたえを感じている。試験においても講義内容を十分に咀嚼した高得点の解答が多かった。

● 問題点

前回アンケートで予習・復習の項目が比較的低評価であったことから、次回講義までに考えてくることについて講義内で指示する等の工夫をした。数値は改善傾向にあるが、他項目と比較すると低めの評価である。

● 改善の方策

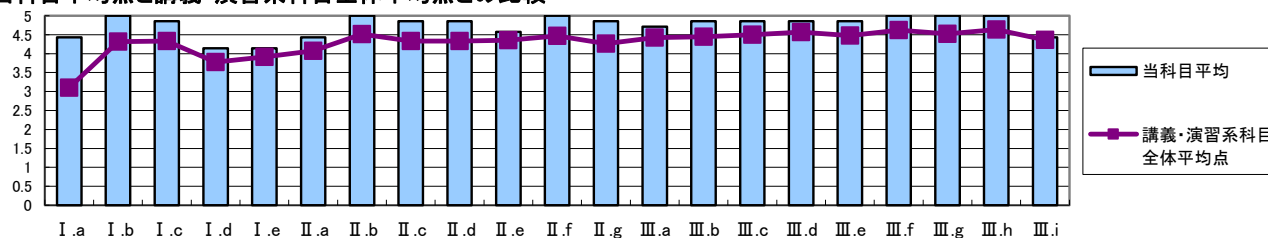
すべての回にシラバスにて予習・復習の項目を明示している。学生が講義に対してさらに能動的に取り組めるよう、予習や復習の課題をより具体的に提示し、その達成度を平常点にも反映させる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ピアノ指導法2	職名	教授	履修者数	7
教員名	國谷 尊之			回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.43	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.86	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.14	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.14	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.86	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.86	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.57	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.86	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.71	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.86	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.86	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.86	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.86	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.43	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2018年度の履修者は7名。ピアノ指導者を目指すための科目であり、一方的な座学ではなく実践やディスカッションを積極的に取り入れた。アンケートの結果からは、この授業形態を学生たちが肯定的にとらえていると考えてよいと思う。年度末のレポートにおいても、全ての履修者が講義内容を十分に理解していることを確認できた。

● 問題点

アンケートの数値からは見えないが、社会人の学生が増え数年前とは授業の雰囲気が全く変わってしまっている。これはもちろん問題点ということではないが、社会人以外の学生たちが実践的なピアノ指導の知識・技能を学ぶ場としては、授業を担当するものとしてさらなる工夫が求められる。今年度は授業終了後に質問を受け付ける時間を設け、併せてオフィスアワーの積極的利用を今まで以上に呼びかけた。

● 改善の方策

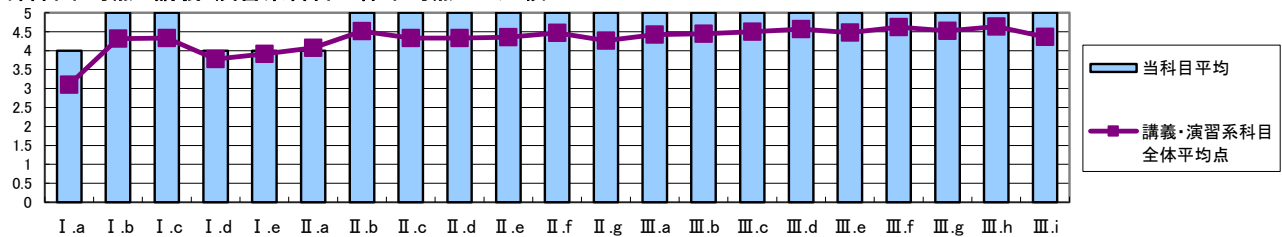
幅広い年齢層、様々な授業に対するニーズの把握をより丁寧に行い、授業内容に反映させていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ピアノ指導法4	職名	教授	履修者数	1
教員名	國谷 尊之			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2018年度履修者は1名。ピアノ指導者を目指すための科目であり、一方的な座学ではなく実践やディスカッションを取り入れ、ピアノ指導法4においては、幼児～小学生のモデル生徒に対して2回のレッスン実習を行っている。ピアノ指導法4の履修者は、こうした講義形式の意義を十分に理解し授業に取り組んでいた。アンケートの結果からも、この授業形態を学生が生かしてくれたと感じている。

● 問題点

アンケート結果からは、特に問題点はみられない。

● 改善の方策

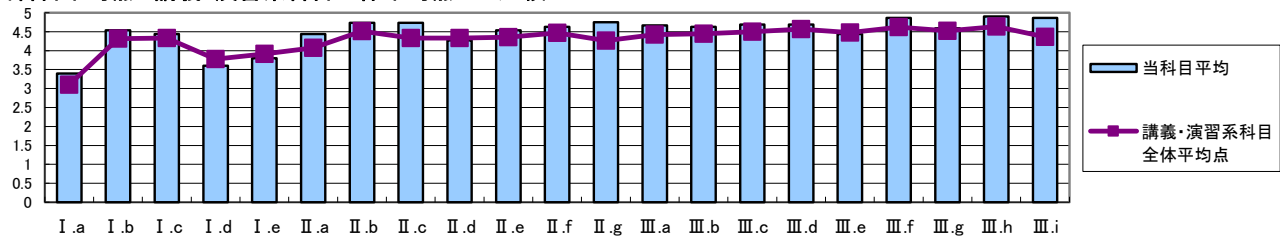
近年社会人学生の割合が大きくなっている。幅広い年齢層、様々な授業に対するニーズの把握をより丁寧に行い、授業内容に反映させていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	楽器の特性と機能B	職名	准教授	履修者数	23
教員名	岩間 丈正			回答者数	17

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.40	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.53	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.44	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.60	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.44	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.73	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.73	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.53	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.63	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.75	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.67	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.63	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.69	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.69	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.44	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.87	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.59	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.90	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.87	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は鍵盤楽器を含む、全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は担当教員が一人で全ての楽器について解説するのではなく、毎週、各楽器の講師を招いて演奏を交えながら講義を行う。学生は毎週教員が代わるので飽きる事なく授業に参加している。

● 問題点

アンケート結果を見る限り学生の評価は良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。今期は11名程の教員が関わっているため、アンケート結果は授業全体の評価となる。設問II-aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。にもかかわらず、62.5%が5と回答している。今年度休講はなかったが、設問III-h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。担当教員が授業毎に代わるため試験を実施出来ないため、評価はレポート提出となる。全ての楽器についてレポートを提出させるためレポートの分量が多く、毎年、提出期限に間に合わない学生や、提出出来ない学生も出てしまう。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。各教員のスケジュール調整が困難である。非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。演奏研究員使用の許可を取り、担当講師が授業が出来ない場合は、担当講師に指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。自由記述欄を見る限りは、学生の満足度は高いと思われる。

● 改善の方策

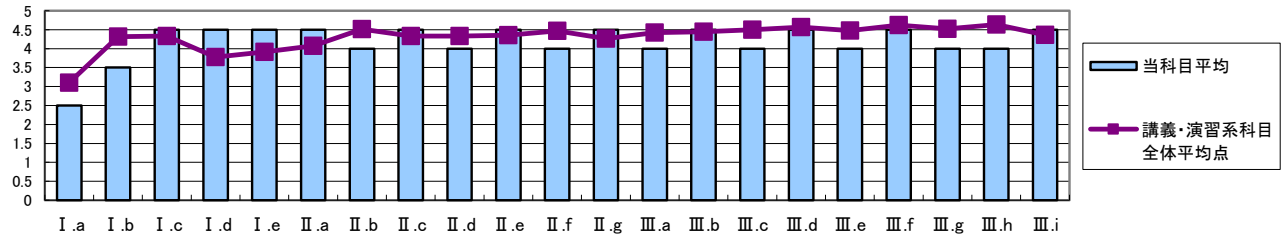
レポートをしっかりと提出させるよう指導を徹底したい。各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オーケストラIB	職名	特任准教授	履修者数	2
教員名	上野 正博			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.50	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.50	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.50	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

月曜4限のオーケストラの授業は、グランツザールにて、授業用に取り上げた曲や、公開演奏会のための演目を練習しています。学生数が少ない分、教官や演奏要員を加えて、経験を積んだ奏者との共演を通して、オーケストラ合奏の基礎を身につける訓練をしています。オーケストラの練習は、マニュアル通りにはいきません。曲目、奏者、演奏箇所によって、想定外のような問題をクリアして、一つの音楽をオケ全員で作りに上げていくもので、教科書通りにはいきません。臨機応変にその場に応じた練習が要求されます。一人一人の事前の予習があってこそ、全員が集まらなければ出来ないアンサンブル練習が成立すると思っています。集計結果からは、シラバスの内容と、実際の授業内容の差に戸惑っている学生がいることが見受けられます。

● 問題点

最初は学生の中に、シラバスだけに頼り、プロによる本格的なオーケストラ練習に対応しきれない者もいるのでは、と推察されます。

● 改善の方策

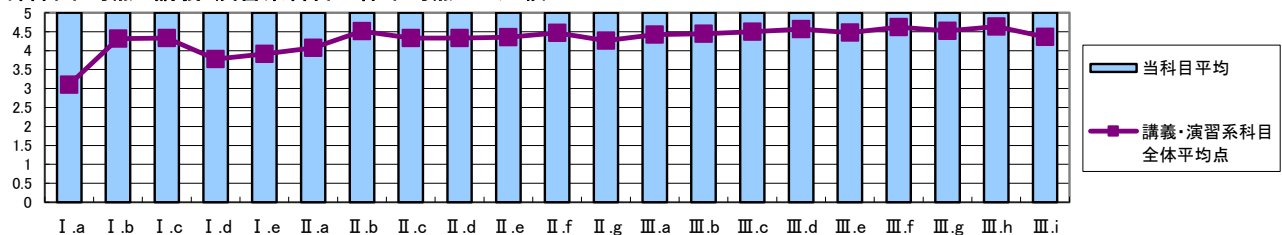
シラバスだけに頼り、マニュアルを思い描くだけではオケの授業、練習に対応出来ない事は言うまでもありません。これはアンケート結果のみならず、普段の授業中にも感じられることで、大概は、本人の準備、練習不足が原因と思われる。またシラバスには、年間に取り上げる曲目全てが記載されてはいませんが、年度始めには練習予定を含めて、演奏センターを通じて事前連絡を徹底しています。オケ合奏の現場では何が起こるか分かりません。経験ある指導陣や演奏要員に助けられながら、実践的に学ぶ場です。そのような中で、様々な技量を持っている学生たちを一人一人見つめ、甘やかすことなく、緊密な人間関係の中からそれぞれに最適な指導方法を模索しながら、丁寧に、より高い次元の音楽に導く事が、我々教官陣に求められる事だと感じています。そのために、休憩中や授業外でも、質問を受けたり、アドバイスをするなどのケアを続けるつもりです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オーケストラⅡB	職名	特任准教授	履修者数	1
教員名	上野 正博			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	5.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	5.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

月曜4限のオーケストラの授業は、グランツァールにて、授業用に取り上げた曲や、公開演奏会のための演目を練習しています。学生数が少ない分、教官や演奏要員を加えて、経験を積んだ奏者との共演を通して、オーケストラ合奏の基礎を身につける訓練をしています。オーケストラの練習は、マニュアル通りにはいきません。曲目、奏者、演奏箇所によって、想定外のような問題をクリアして、一つの音楽をオケ全員で作りに上げていくもので、教科書通りにはいきません。臨機応変にその場に応じた練習が要求されます。一人一人の事前の予習があってこそ、全員が集まらなければ出来ないアンサンブル練習が成立すると思っています。集計結果からは、シラバスの内容と、実際の授業内容の差に戸惑っている学生がいることが見受けられます。

● 問題点

最初は学生の中に、シラバスだけに頼り、プロによる本格的なオーケストラ練習に対応しきれない者もいるのでは、と推察されます。

● 改善の方策

シラバスだけに頼り、マニュアルを思い描くだけではオケの授業、練習に対応出来ない事は言うまでもありません。これはアンケート結果のみならず、普段の授業中にも感じられることで、大概是、本人の準備、練習不足が原因と思われます。またシラバスには、年間に取り上げる曲目全てが記載されてはいませんが、年度始めには練習予定を含めて、演奏センターを通じて事前連絡を徹底しています。オケ合奏の現場では何が起こるか分かりません。経験ある指導陣や演奏要員に助けられながら、実戦的に学ぶ場です。そのような中で、様々な技量を持っている学生たちを一人一人見つけ、甘やかすことなく、緊密な人間関係の中からそれぞれに最適な指導方法を模索しながら、丁寧に、より高い次元の音楽に導く事が、我々教官陣に求められる事だと感じています。そのために、休憩中や授業外でも、質問を受けたり、アドバイスをするなどのケアを続けるつもりです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

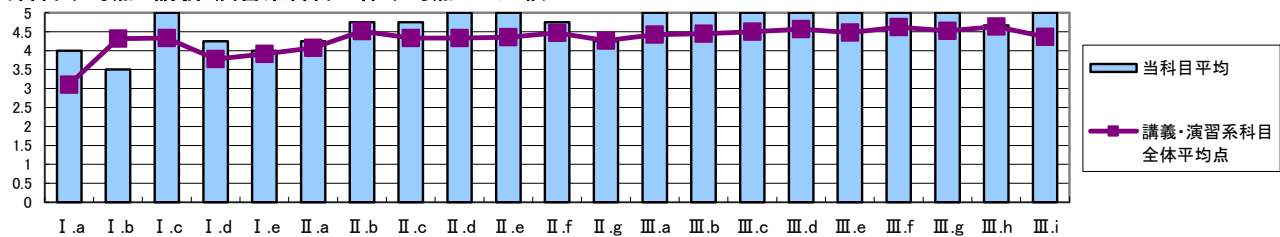
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	横山 裕美子

職名	講師
----	----

履修者数	5
回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.25	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.75	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.75	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.75	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.25	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

再びクラス分けテスト(聴音のみ)を受け、その点数により2つに分けられたうちの下のクラス。後期になって1人が上のaクラスに昇格した。1年次の成績ではなく、あらたにクラス分けテストを課すことで、それぞれの学生の強みと問題点をはっきりすることはとても良いことだと思う。聴音・新曲視唱・新曲リズム・青本テキスト曲弾き歌いを配分時間に注意して練習している。選択科目なので、選択するにあたっての各自の目標や考えがあるので、ゆっくりていねいに個々へのアドバイスを中心として指導するよう努めた。下のクラスではあるが、上のクラスで勉強しているようなむずかしい要素を時にはさみながら、刺激のある授業展開を心がけた。

● 問題点

特に問題はないように思われる。

● 改善の方策

少人数であっても個人差が大きいので、いろいろなタイプの教材開発と授業の進め方を、なお一層工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

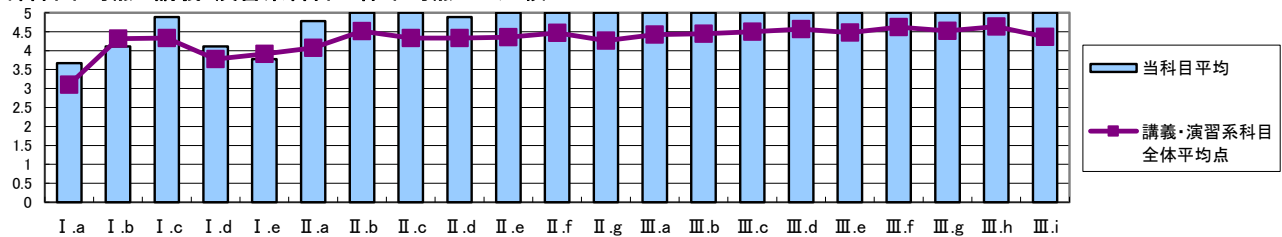
科目名	ソルフェージュ2c
教員名	横山 裕美子

職名	講師
----	----

履修者数	12
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.67	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.11	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.89	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.11	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.78	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.78	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.89	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

最初にクラス分けテスト（聴音のみ）を受け、その点数により3つに分けられたうちの一番下のクラス。後期になって1人が上のクラスに昇格した。下のクラスは、もっと少人数にするべきだが、クラス分けテストがうまく機能しているため実力差がないことと、熱心で集中力がある学生たちのおかげで、この大人数でもだれることなく、授業をすすめることができた。聴音・新曲視唱・新曲リズム・青本テキスト暗譜唱を、配分時間に注意して練習し、個々へのアドバイスに重点をおいて指導した。

● 問題点

I.aはこの科目が必修科目のためと思われる。去年もそうだったが、I.eの学生の自分自身への評価の基準が厳しいことに驚かされる。全員が4月より力をつけたことは間違いない。

● 改善の方策

大人数の中、適度な緊張感を保ちつつ、楽しく力をつけていけるよう、さらにいろいろなタイプの教材を開発していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	合唱ⅠB	職名	特任教授	履修者数	35
教員名	荻久保 和明			回答者数	25

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.28	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.48	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.60	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.84	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.36	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.16	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.72	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.68	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.84	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.76	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.68	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.68	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.68	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.68	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.76	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.75	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.44	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.72	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.77	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.68	4.36

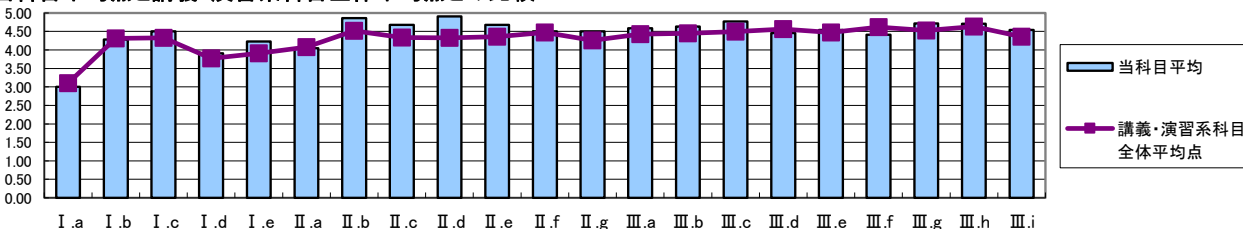
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	合唱ⅡB	職名	特任教授	履修者数	31
教員名	荻久保 和明			回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.29	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.91	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.23	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.05	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.86	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.68	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.91	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.68	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.59	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.64	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.77	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.45	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.55	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.41	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.71	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.71	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.55	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

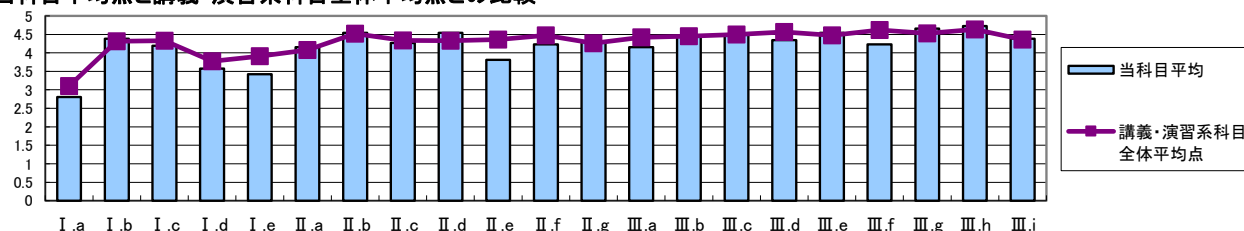


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	和声学2	職名	特任教授	履修者数	36
教員名	荻久保 和明			回答者数	26

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.81	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.38	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.19	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.58	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.42	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.15	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.54	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.27	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.54	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.81	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.23	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.31	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.15	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.46	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.35	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.54	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.23	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.65	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.72	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.38	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	サウンドクリエーションB	職名	特任教授	履修者数	28
教員名	城之内 ミサ			回答者数	23

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.04	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.35	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.39	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.22	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.35	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.52	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.52	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.52	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.35	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.30	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.70	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.43	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.57	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.61	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.57	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.78	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.78	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.61	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.78	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.60	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.39	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

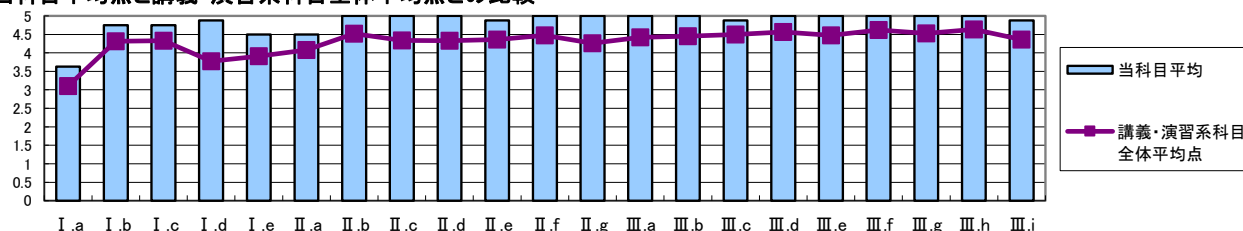


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	アンサンブル(ピアノ)ⅡB	職名	准教授	履修者数	9
教員名	小林 律子			回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.63	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.75	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.75	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.88	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.88	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.88	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.88	4.36

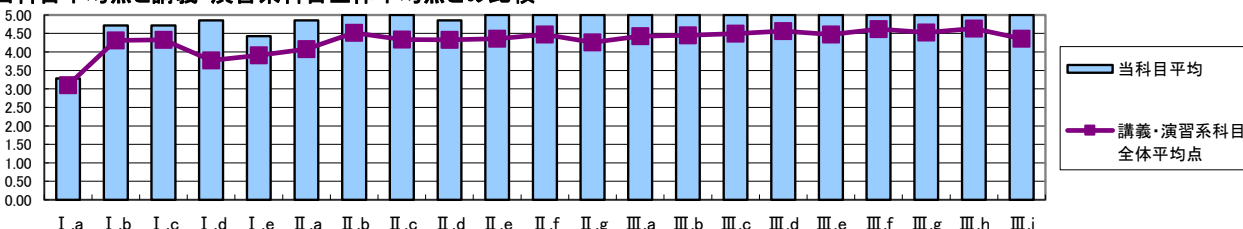
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	アンサンブル(ピアノ)ⅠB	職名	准教授	履修者数	10
教員名	小林 律子			回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.29	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.71	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.71	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.86	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.43	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.86	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.86	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

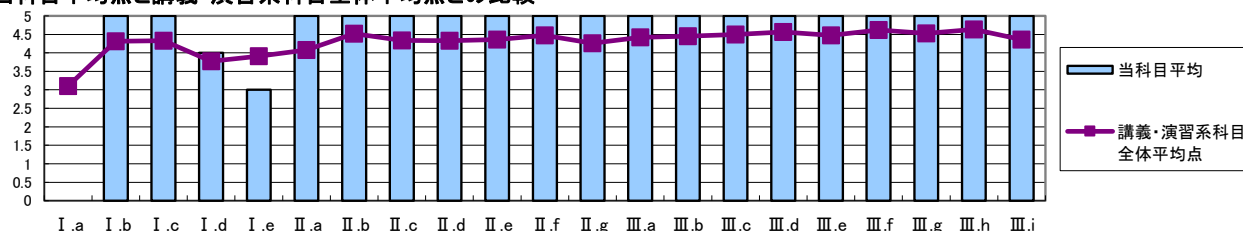


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ウインドオーケストラⅠB	職名	特任准教授	履修者数	3
教員名	福田 洋介			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	-	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

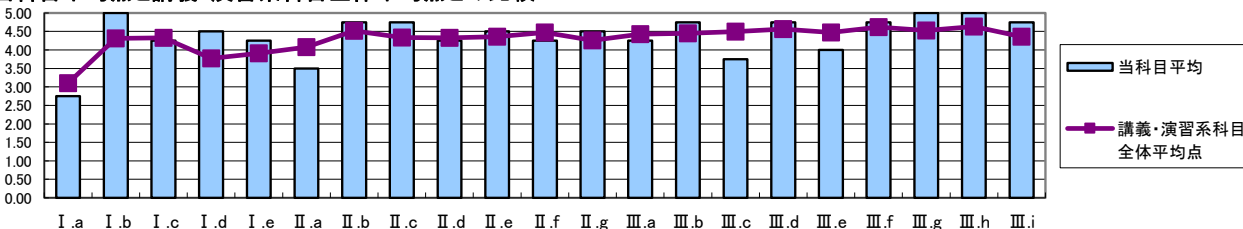
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ウインドオーケストラⅡB	職名	特任准教授	履修者数	4
教員名	福田 洋介			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.75	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	5.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.25	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.25	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.75	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.75	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.25	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.25	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.75	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	3.75	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.75	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.75	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

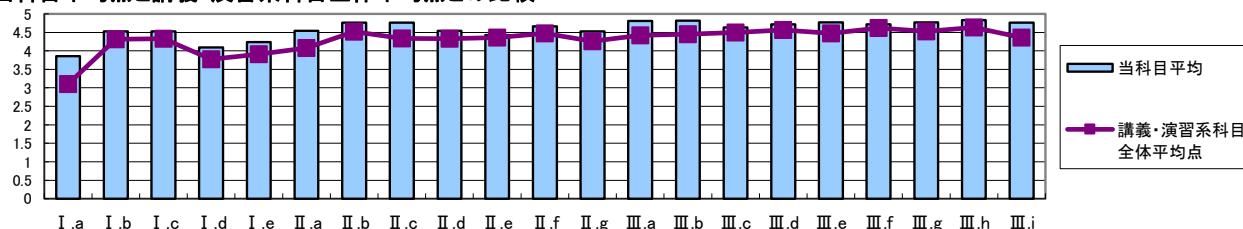


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	和声学4	職名	講師	履修者数	24
教員名	新井 雅之			回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.86	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.52	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.52	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.10	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.24	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.55	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.76	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.76	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.55	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.43	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.52	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.81	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.82	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.64	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.71	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.77	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.71	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.77	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.83	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.76	4.36

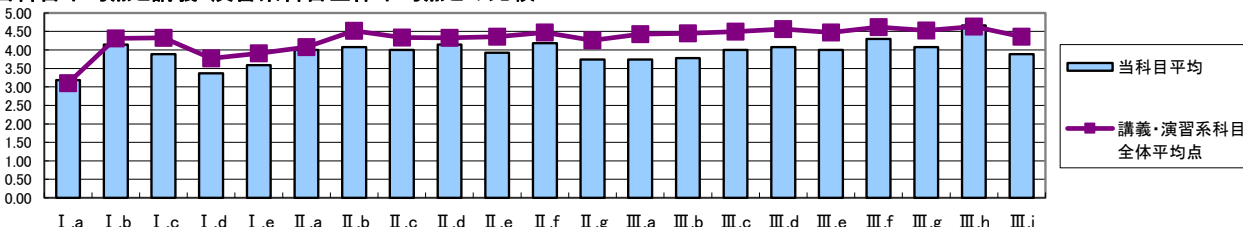
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	音楽の基礎理論B	職名	講師	履修者数	34
教員名	新井 雅之			回答者数	27

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.19	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.15	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.89	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.37	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.59	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.07	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.15	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.93	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.19	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.74	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.74	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.78	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.07	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.30	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.07	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.89	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽教養基礎講座〔楽典〕I B	職名	講師	履修者数	5
教員名	新井 雅之			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.60	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.60	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.20	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.40	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.80	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.20	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.40	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.20	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.40	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.40	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.20	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.40	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.40	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.40	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.80	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.40	4.36

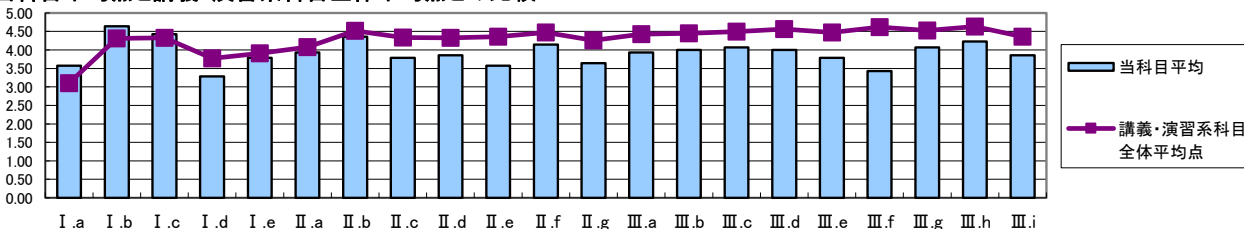
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	レッスンマネージメントB	職名	講師	履修者数	16
教員名	斉藤 浩子			回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.57	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.64	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.43	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.29	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.79	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.93	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.36	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.79	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.57	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.14	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.64	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.93	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.07	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.79	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	3.43	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.07	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.23	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.86	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

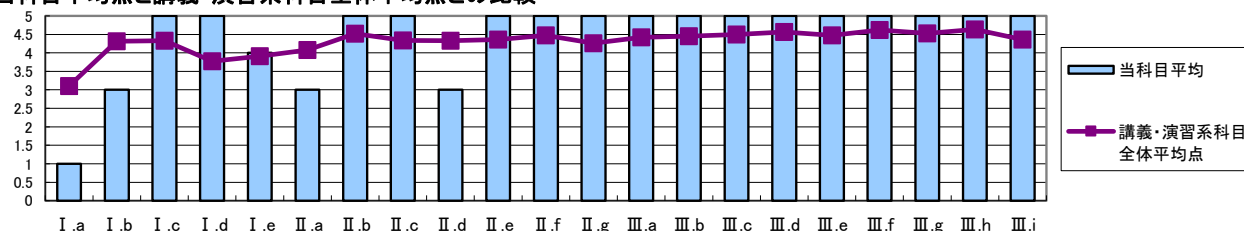


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	電子オルガン即興演奏ⅠB	職名	講師	履修者数	1
教員名	長野 洋二			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

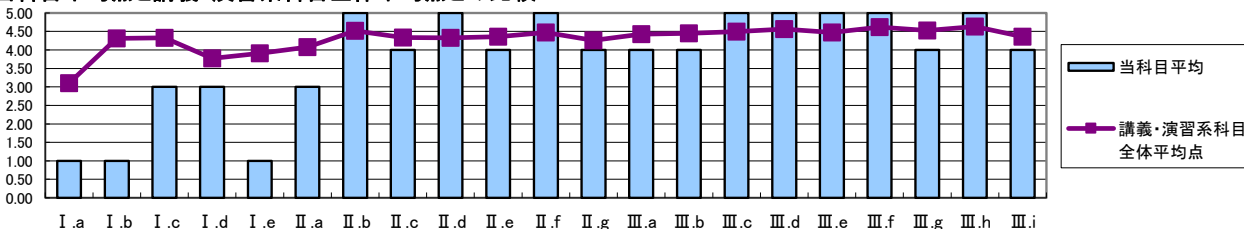
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	電子オルガン即興演奏ⅡB	職名	講師	履修者数	2
教員名	長野 洋二			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	1.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	1.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	シンギングポップスB	職名	講師	履修者数	28
教員名	仁科 薫理			回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.94	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.38	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.13	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.25	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.81	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.88	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.94	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.94	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.88	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.81	4.36

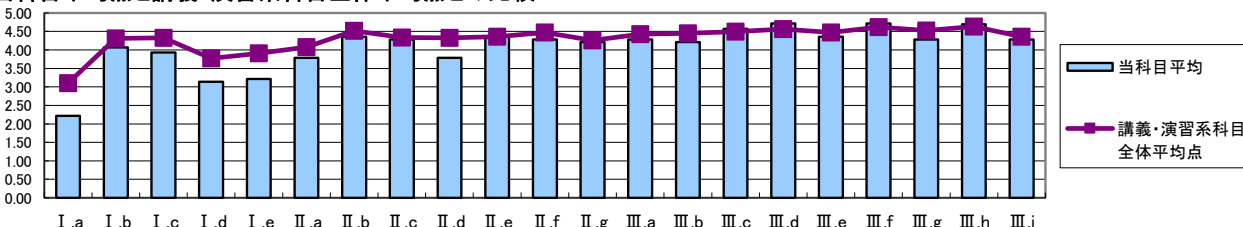
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	リトミックI B	職名	講師	履修者数	22
教員名	藤原 優里			回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.21	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.07	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.93	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.14	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.21	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.79	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.36	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.29	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.79	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.36	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.29	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.21	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.29	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.21	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.57	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.71	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.36	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.71	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.29	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.69	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.29	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

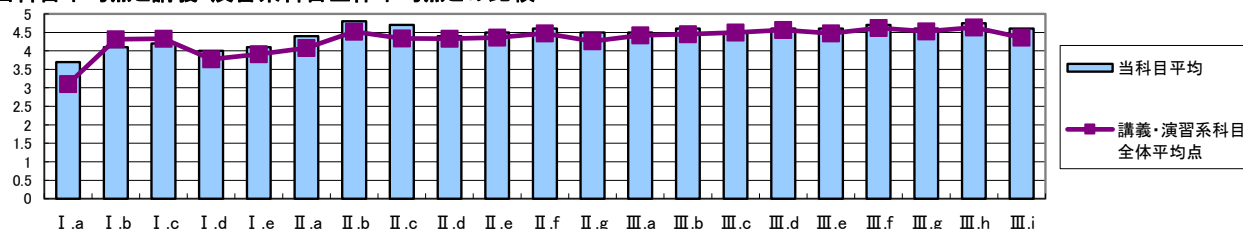


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	リトミックⅡB	職名	講師	履修者数	12
教員名	藤原 優里			回答者数	10

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.70	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.10	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.20	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	4.10	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.80	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.70	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.60	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.50	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.60	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.60	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.70	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.60	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.75	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.60	4.36

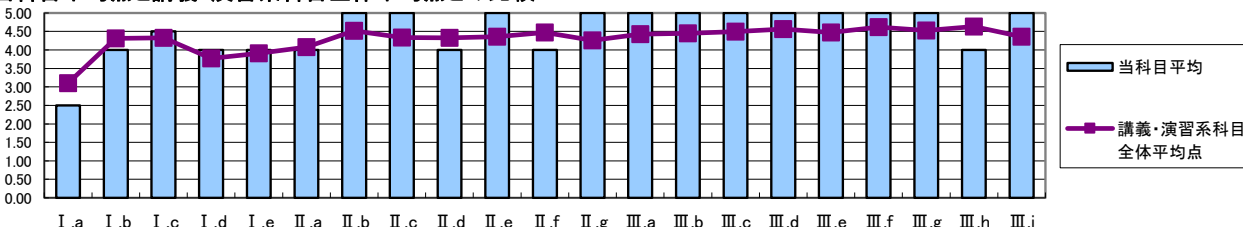
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	アンサンブル(電子オルガン)ⅠB	職名	講師	履修者数	3
教員名	峰村 知子			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.50	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.50	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

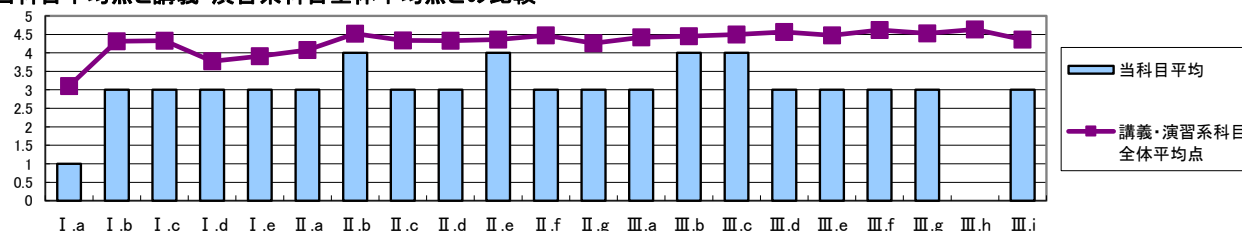


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	アンサンブル(電子オルガン)ⅡB	職名	講師	履修者数	2
教員名	峰村 知子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	3.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	3.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	3.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	3.00	4.36

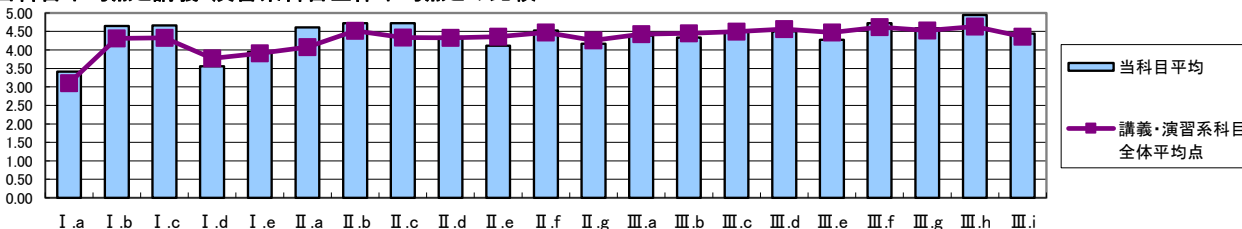
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	音楽史B	職名	講師	履修者数	28
教員名	山下 暁子			回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.41	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.65	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.67	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.56	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.94	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.61	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.72	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.72	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.35	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.12	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.53	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.17	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.39	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.33	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.50	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.28	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.72	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.59	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.94	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.44	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



基礎教育科目

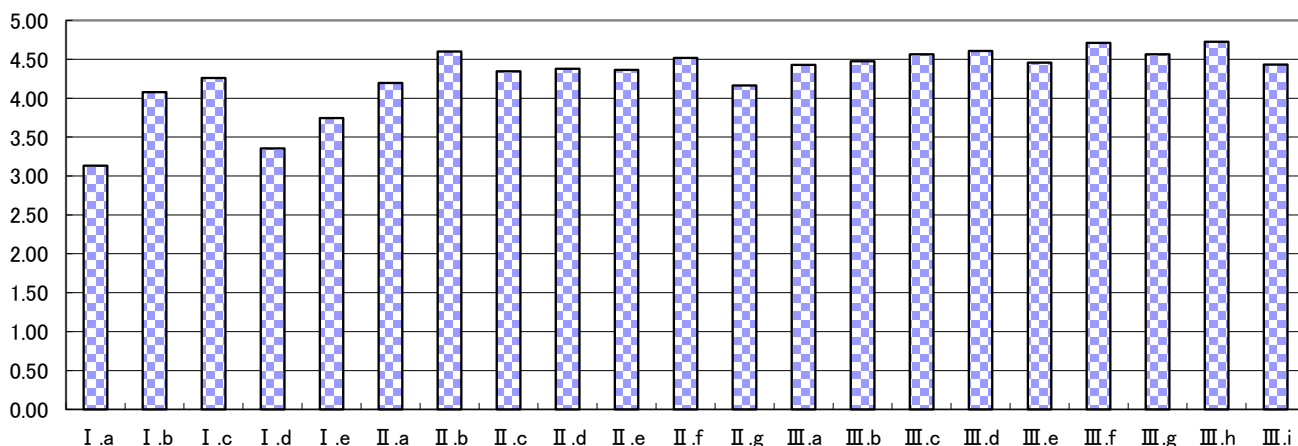
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	基礎教育科目
科目数	11

履修者数	224
回答者数	166

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.13	27	44	49	14	31	165	1
			16.4	26.7	29.7	8.5	18.8		
	b	4.08	80	38	33	11	4	166	0
			48.2	22.9	19.9	6.6	2.4		
	c	4.26	73	66	24	3	0	166	0
	44.0		39.8	14.5	1.8	0.0			
d	3.36	29	37	75	14	11	166	0	
		17.5	22.3	45.2	8.4	6.6			
e	3.74	35	69	48	7	5	164	2	
		21.3	42.1	29.3	4.3	3.0			
II	a	4.20	79	38	44	0	1	162	4
			48.8	23.5	27.2	0.0	0.6		
	b	4.60	115	36	12	2	0	165	1
			69.7	21.8	7.3	1.2	0.0		
	c	4.35	90	48	21	3	2	164	2
			54.9	29.3	12.8	1.8	1.2		
	d	4.38	92	50	20	3	1	166	0
	55.4		30.1	12.0	1.8	0.6			
e	4.36	87	54	21	3	0	165	1	
		52.7	32.7	12.7	1.8	0.0			
f	4.52	105	44	16	0	1	166	0	
		63.3	26.5	9.6	0.0	0.6			
g	4.16	81	47	26	5	6	165	1	
		49.1	28.5	15.8	3.0	3.6			
III	a	4.43	104	38	16	7	1	166	0
			62.7	22.9	9.6	4.2	0.6		
	b	4.48	107	36	18	5	0	166	0
			64.5	21.7	10.8	3.0	0.0		
	c	4.57	112	40	11	2	1	166	0
			67.5	24.1	6.6	1.2	0.6		
	d	4.61	118	33	13	2	0	166	0
			71.1	19.9	7.8	1.2	0.0		
	e	4.46	104	39	19	3	1	166	0
	62.7		23.5	11.4	1.8	0.6			
f	4.71	131	24	10	0	1	166	0	
		78.9	14.5	6.0	0.0	0.6			
g	4.56	113	36	12	4	0	165	1	
		68.5	21.8	7.3	2.4	0.0			
h	4.73	85	13	8	0	0	106	60	
		80.2	12.3	7.5	0.0	0.0			
i	4.43	102	36	21	5	0	164	2	
		62.2	22.0	12.8	3.0	0.0			

基礎教育科目 全体平均点

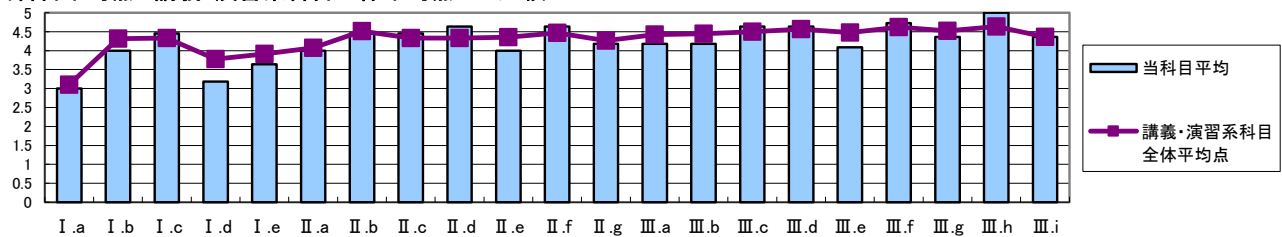


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	法と経済(日本国憲法を含む)B	職名	教授	履修者数	16
教員名	川端 敏朗			回答者数	11

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.45	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.18	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.64	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.45	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.45	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.64	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.64	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.18	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.18	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.18	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.64	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.64	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.09	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.73	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.36	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.36	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者は、2年生であるが、講義にあたり毎回、前回の復習の意味で、資料以外に前回のポイント(A4にまとめたもの)を配布した。各学生の反応を見ながら授業をすすめることができた。学生たちは非常に熱心に受講してくれた。音楽大学の学生にとってはなじみの少ない科目でもあるが、できる限り多くの詳細な資料を配布し、また映像等も活用することによって、興味をもつことができるように心がけた。講義のなかでは、よく考えることができるようにできる限り身近な問題について触れるようにした。履修者の中には、1つ1つ詳しく説明していてとても分かりやすかったという意見や、内容は難しいが、様々な資料を毎回頂けてとても勉強になったという意見があった。また社会生活においても大変役立つ興味深く楽しい講義であったという意見があり、概して良好な意見が多かった。

● 問題点

アンケートの結果から、学生個人が予習および復習にかかる時間が少なかったように見受けられるところが僅かに残念である。

● 改善の方策

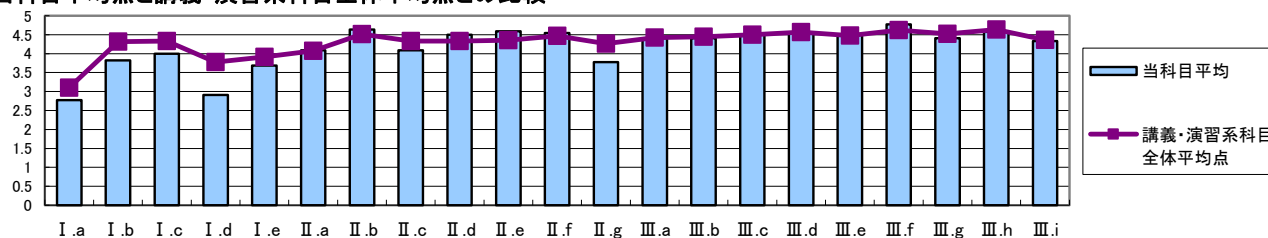
予習、復習によって、授業内容についての理解しやすくなり、興味をもって臨むことができるということのみならず、準備学習は、今後の学生自身の生活にも非常に役立つものとなることでもあるため、重ねてその重要性について指摘していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅡB	職名	准教授	履修者数	30
教員名	岩間 丈正			回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.77	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.82	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	2.91	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.68	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.09	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.64	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.09	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.59	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.55	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.77	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.41	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.41	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.50	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.55	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.50	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.77	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.41	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.57	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

昨年度の大学2年生から短期大学2年生に担任が変更になる。短大2年生は就職に直結しているためキャリア関連の授業は重要である。学生は興味深く授業に参加していた。設問Ⅲは回答が5と4に集中しているため、学生の教員に対する印象は悪くないと思われる。短期大学のスタンダードはシラバスに沿ったテキストを使用するため、ほぼシラバス通りに授業を進められた。

● 問題点

キャリアについての授業は、音楽教員よりキャリア支援職員の方が適切な授業が出来ると思われるため、来年度はキャリア支援センターと連携して授業を進めたい。学生はキャリアに直結した内容には興味を示すが、かかわりが薄いと、あまり興味を持たない。欠席する学生もいる。

● 改善の方策

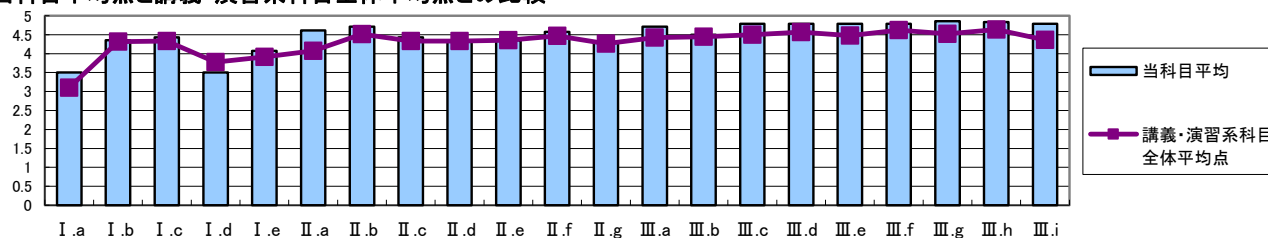
キャリア支援センターとの連携を密にして、学生の就職に寄り添った授業にしたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ひとを読み解く科学B	職名	准教授	履修者数	19
教員名	三戸 元光			回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.50	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.36	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.43	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.07	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.62	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.71	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.43	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.36	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.57	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.29	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.71	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.50	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.79	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.79	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.79	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.79	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.86	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.83	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.79	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

①科目の目的：心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目的です。『ひと』を分かるようになるためには、その内面を正面から受け止めて、心理的な事実やそれに対する感情、願望への理解を深めることによって、『ひと』がどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか、それを多面的に認識できるようにしていきます。なお、「心理学そのもの」については、「現代の心理学A・B」を先に履修することをおすすめします。最終的には、皆さんが「自分自身」を心理学的な視点で「サポート」できるようになることを目標とします。②授業の内容：『ひと』とは何か、『ひとの性格（キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとするものであり、「ひとを理解しようとする願い・ねらい・思い」は心理学を学ぶ人間にとって切実な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なる以上、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに自分自身を多面的に理解し、ひとを多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。Bの授業は、『自分自身を深く理解すること②』を取り上げます。③授業形態：授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。④受講者数：19名在籍のうち回答は14名（社会人5名含む）である。残りは欠席数超過による不合格。⑤受講者の状況：前期に比べると2年生が半減した。社会人（5名）は通年受講が多い。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、「1ポイント以上低い値」の項目は、「予習や復習などをして授業を理解するようにした」の1項目である。それでも0.5ポイント差であり、ほぼすべてが平均値以上と推測する。

● 問題点

教員と学生の意識のズレ：1単位科目の50分間であり、もともと過大な授業を行えない環境にあり、教員と学生の意識のズレは特に見当たらないものと判断している。ただし、レッスン科目を前後に入れている学生が多いため、遅刻が多いとの指摘がある。また私語が目立つので注意されたし、との指摘もある。遅刻については個人の力量ではどうすることもできず、私語についても特定の誰かが教室後方で話しているので、あえて注意をしていない。

● 改善の方策

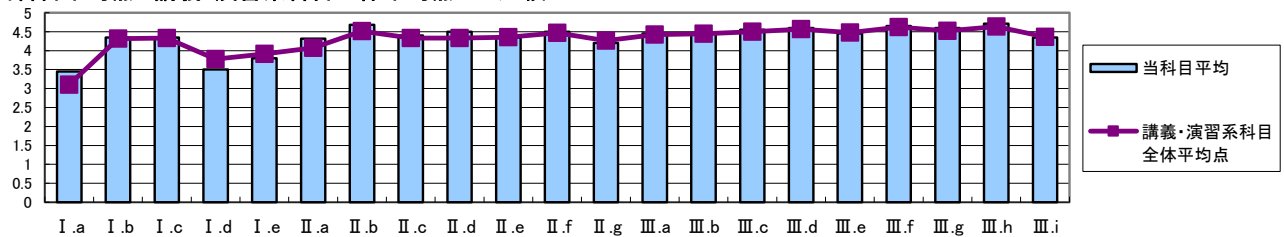
私語については次年度以降、こまめな注意と指導を与えたい。授業内容は特に問題点も指摘されていないので、現状のスタンスを維持する。遅刻の扱いが個別対応にならざるをえず、一律に規制しても学生の責任ではない場合は毎回の理由の問いただし程度になってしまう。なお、社会人と学生の年齢差が大きいため、あえて社会人をばらけさせてグループ演習を行うことをしているが、今のところは順調に進行させることができているようだ。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	健康と音楽B	職名	講師	履修者数	23
教員名	佐々木 和佳			回答者数	20

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.45	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.35	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.35	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.50	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.80	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.32	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.68	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.40	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.35	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	4.50	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.20	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.45	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.45	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	4.55	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.45	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.65	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.60	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.71	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.35	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

様々な障害・疾患の方への音楽療法や音楽に関わる際の目的・音楽の使い方について深く理解することを目的とし、音楽療法の歴史、各領域（高齢者、ホスピス・緩和ケア、精神科、障害児・者）における音楽療法について紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視覚教材を使用。受講者数23名。開講は水曜日の2時限目。受講者は現役生と社会人入学生と年齢の幅が広い。I-a “この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか” について「強くそう思う、ある程度そう思う」55%、「どちらとも言えない」25%、「あまりそう思わない」5%、「全くそう思わない」15%だった。I-d “予習や復習などをして、授業を理解するように努めたか” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」40%、「どちらとも言えない」50%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」10%だった。II-a “授業は、シラバスに沿って行なわれていたか” について「強くそう思う、ある程度そう思う」80%、「どちらとも言えない」21%だった。II-e “授業の内容を理解できた” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」85%、「どちらとも言えない」15%だった。II-g “授業は、学習意欲を刺激されるものであった” について「強くそう思う、ある程度そう思う」75%、「どちらとも言えない」20%、「あまりそう思わない」5%だった。III-a “授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」80%、「どちらとも言えない」50%だった。III-b “教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」85%、「どちらとも言えない」10%、「あまりそう思わない」5%だった。III-i “あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」80%、「どちらとも言えない」15%、「あまりそう思わない」5%だった。

● 問題点

シラバスの活用については、初回授業時にシラバスを配布し各回の内容を紹介し、また毎回の授業の開始時にはその日の内容と、終了時には次回の内容と予習について説明していたが、半数の学生は活用していなかったことがわかった。予習や復習についても、毎回授業内でシラバスを読み上げ伝えていたが、半数以上の学生の予習復習の行動にはつなげていなかったことがわかった。

● 改善の方策

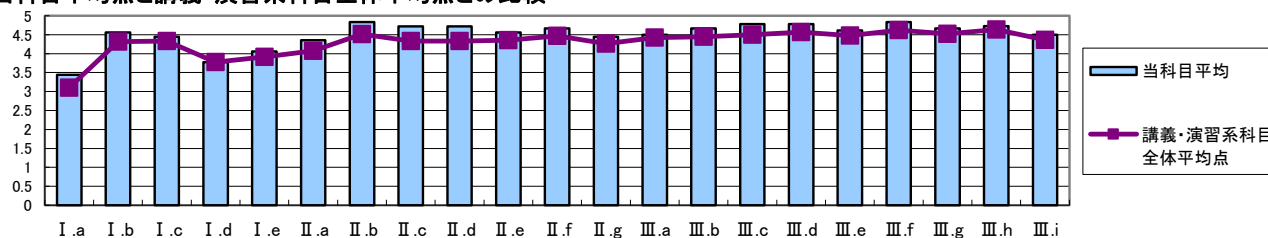
初回授業時にシラバスの活用方法について解説し、毎回の授業内でも授業開始時と終了時にシラバスをもとに説明をする。予習や復習については、講義の内容から予習や復習をしようと思う意欲を引き出すようにし、また予習や復習で行うことをより具体的に伝える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B	職名	講師	履修者数	24
教員名	佐々木 和佳			回答者数	18

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.44	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.56	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.44	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.78	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.06	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.35	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.83	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.72	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.72	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.56	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.44	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.50	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.67	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.78	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.78	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.61	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.83	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.67	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.73	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.50	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

社会福祉に関する基本的な知識を身につけるとともに、我が国や諸外国の福祉の現状を通して、身近な出来事として考えることを目的とし、様々な施策や社会福祉に携わる人たちの仕事内容等を紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数24名。開講は水曜日の3時限目。受講者は現役生と社会人入学生と年齢の幅が広い。I-a “この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか” について「強くそう思う、ある程度そう思う」56%、「どちらとも言えない」22%、「あまりそう思わない」5%、「全くそう思わない」16%だった。I-d “予習や復習などをして、授業を理解するように努めたか” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」50%、「どちらとも言えない」44%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」5%だった。II-a “授業は、シラバスに沿って行われていたか” について「強くそう思う、ある程度そう思う」76%、「どちらとも言えない」24%だった。II-e “授業の内容を理解できた” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」89%、「どちらとも言えない」11%だった。II-g “授業は、学習意欲を刺激されるものであった” について「強くそう思う、ある程度そう思う」89%、「どちらとも言えない」6%、「あまりそう思わない」6%だった。III-a “授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」83%、「どちらとも言えない」11%、「あまりそう思わない」6%だった。III-b “教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」89%、「どちらとも言えない」11%だった。III-g “授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた” について、「強くそう思う、ある程度そう思う」89%、「どちらとも言えない」6%、「あまりそう思わない」6%だった。

● 問題点

シラバスの活用については、初回授業時にシラバスを配布し各回の内容を紹介し、また毎回の授業の開始時にはその日の内容と、終了時には次回の内容と予習について説明していたが、半数の学生は活用していなかったことがわかった。授業の進め方や授業や受講生に対する教員の熱意や情熱について、8割以上の方は満足していると捉えられるが、満足していない意見も見受けられた。

● 改善の方策

初回授業時にシラバスの活用方法について解説し、毎回の授業内でも授業開始時と終了時にシラバスをもとに説明をする。また、予習や復習をする際にシラバスを活用しながら行えるよう具体的に記載する。授業の進め方や授業や受講生に対する教員の熱意や情熱については、学生それぞれに捉え方が異なるとは思いますが、難しい内容でも理解しやすい伝え方を工夫し、一人でも多くの学生にとって有益な時間となるようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

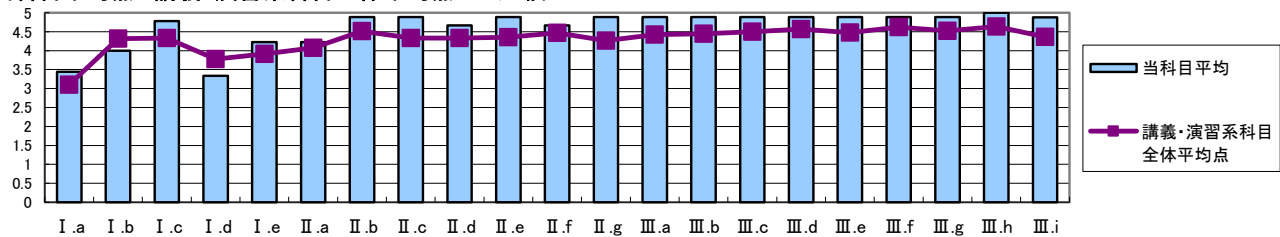
科目名	現代の心理学(発達心理を含む)B
教員名	徳富 政樹

職名	講師
----	----

履修者数	12
回答者数	9

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.44	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.78	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.33	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.22	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.22	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.89	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.89	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.89	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.89	4.26
	h 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.89	4.42
III	a 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.89	4.45
	b 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.89	4.50
	c 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.89	4.56
	d 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.89	4.47
	e 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.89	4.62
	f 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.89	4.52
	g 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	h	4.89	4.52
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.88	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この講義はおそらく受講者が初めて聞くであろう心理学についてわかりやすく話をするのが目的だった。社会心理学、臨床心理学、発達心理学、生理心理学という心理学の分野について概観を行った。履修者は12人で、大部分は90%であった。アンケート結果を見てみると、基本的に高い評価が得られている。受講者にとって満足感が高い講義が展開されたのではないだろうか。

● 問題点

高い評価とは言うものの、それで教員が満足しているものではない。改善点はきつとあるはずである。例えば受講者の理解度がどの程度あるのかきちんと把握できていない点があげられる。また、ひとつのテーマが1回の授業で収まりきれずに次回に持ち越しという回もあった。

● 改善の方策

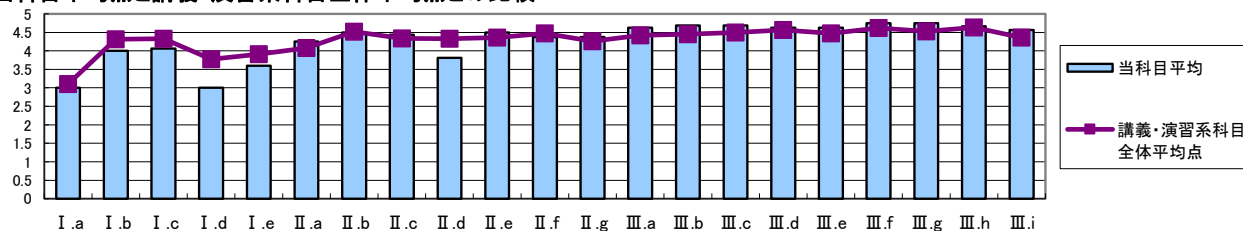
理解度のモニタリングをするために、授業終了後のリアクションペーパーは毎回とるようにしたい。また、1テーマを1回の授業でまとめる工夫も必要だろう。これにより、受講者の理解度に合わせて、追加の説明などを次回授業にすることもできると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	キャリアデザイン	職名	A	履修者数	26
教員名	キャリア支援センター			回答者数	16

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.06	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.60	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.50	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.44	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.81	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.50	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.38	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.38	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.63	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.69	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.69	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.63	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.63	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.75	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.75	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.56	4.36

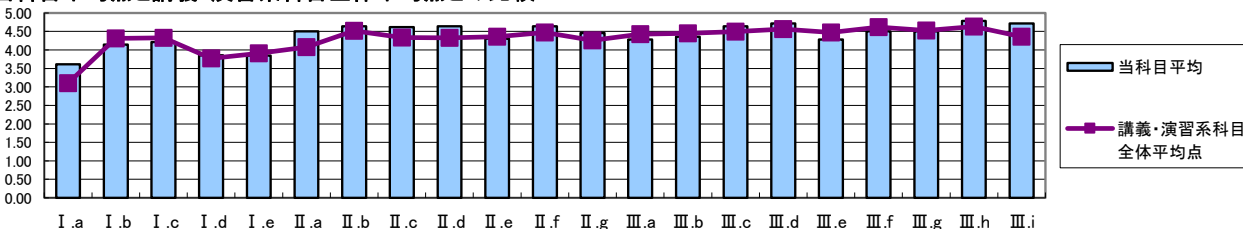
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2	職名	特任教授	履修者数	21
教員名	高橋 幸雄			回答者数	14

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.62	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.14	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.21	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.86	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.85	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.64	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.62	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.64	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.31	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.64	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.46	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.29	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.36	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.64	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.71	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.29	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.50	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.79	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.71	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

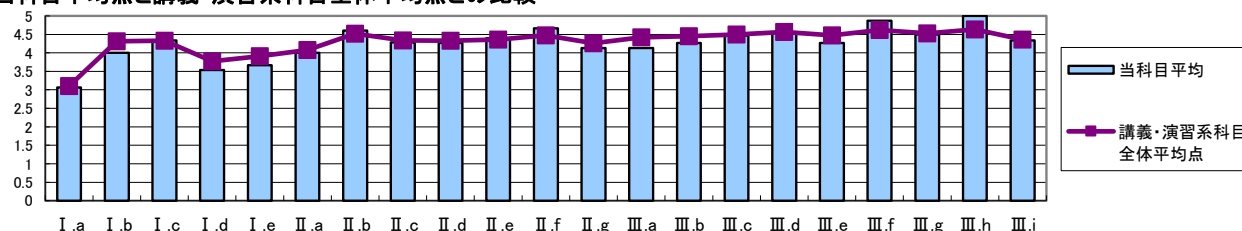


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	英語圏異文化コミュニケーション2	職名	准教授	履修者数	20
教員名	レンツ I. K.			回答者数	15

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	3.07	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	4.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.33	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.53	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.67	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.60	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.29	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.40	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.67	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.13	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.13	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.27	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.47	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.53	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.27	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.87	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.50	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.33	4.36

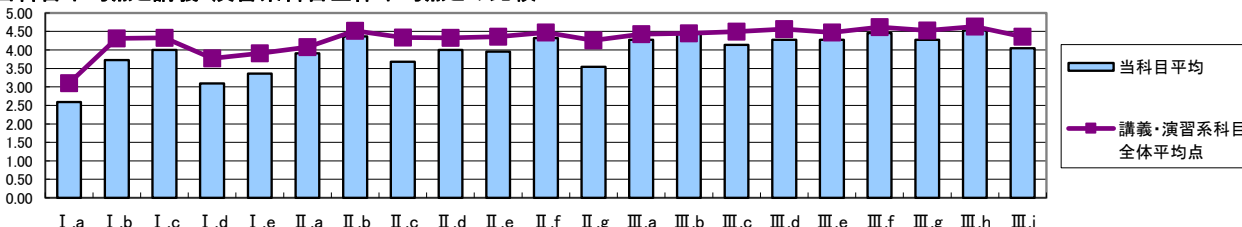
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	東邦スタンダードIB	職名	准教授	履修者数	27
教員名	小林 律子			回答者数	22

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.59	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.73	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.09	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	3.36	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.91	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.36	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.68	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	3.95	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.32	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.55	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.27	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.45	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.14	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.27	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.27	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.45	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.27	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.53	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.05	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

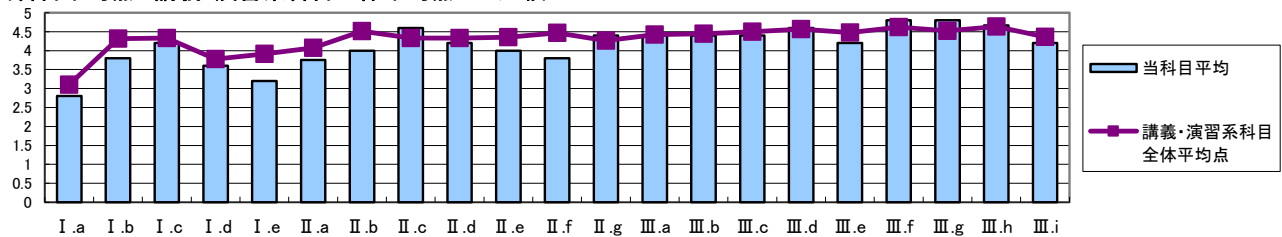
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション2
教員名	バルダリ フラヴィア

職名	講師
----	----

履修者数	6
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	2.80	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.80	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.20	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.60	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.20	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	4.60	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	3.80	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	4.40	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	4.40	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	4.40	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.40	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.60	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	4.20	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	4.80	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.80	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	4.67	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.20	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



文化教養科目

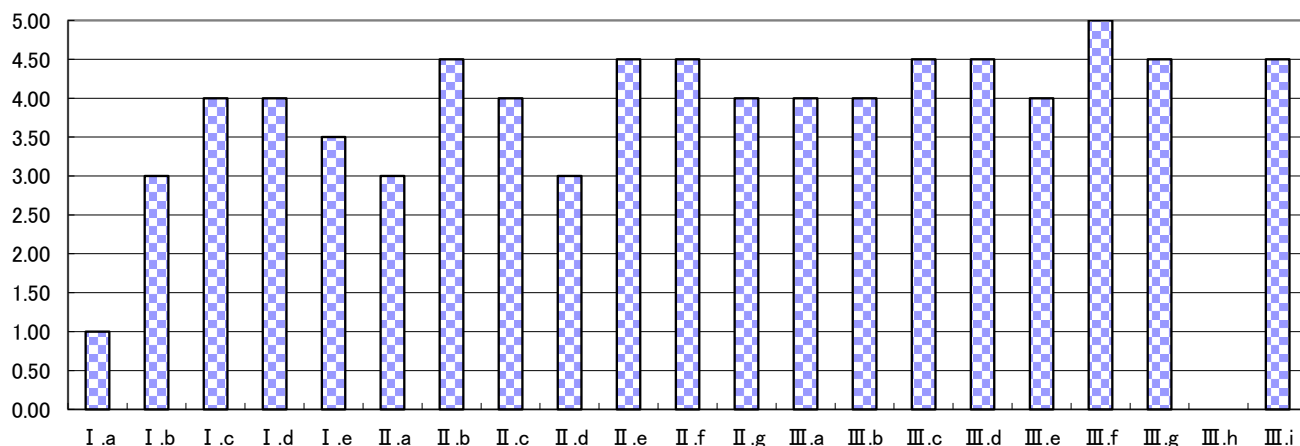
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	文化教養科目
科目数	2

履修者数	3
回答者数	2

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	1.00	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	2	0
	b	3.00	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	c	4.00	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	d	4.00	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	e	3.50	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2	0
II	a	3.00	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	b	4.50	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	c	4.00	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	d	3.00	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	e	4.50	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	f	4.50	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	g	4.00	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2	0
III	a	4.00	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	b	4.00	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	c	4.50	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	d	4.50	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	e	4.00	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	f	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	g	4.50	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	h	-	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0	2
	i	4.50	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0

文化教養科目 全体平均点

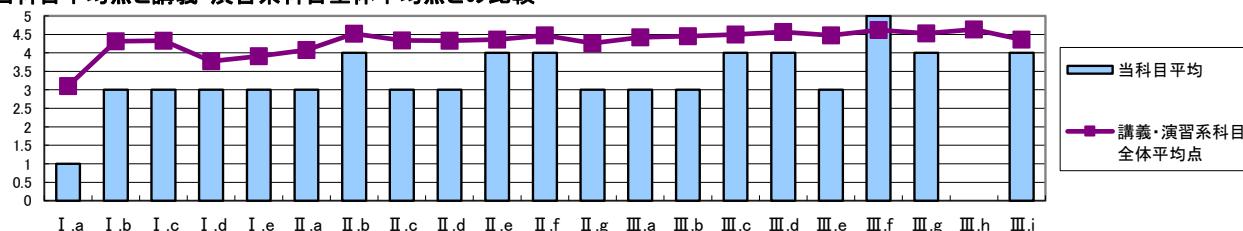


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	P. M. E. IB	職名	講師	履修者数	2
教員名	峰村 知子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	3.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	3.00	3.77
	e この授業を通して、自分なりに考えてみるきっかけになった。	3.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	4.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	3.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	4.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	4.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	3.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	3.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	3.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	4.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	4.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	3.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	4.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	4.00	4.36

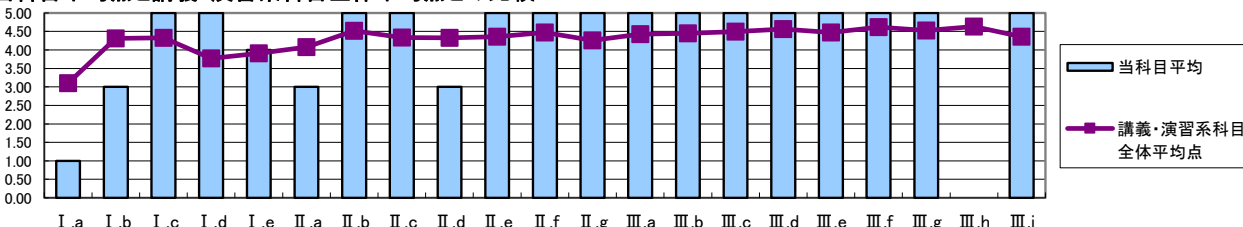
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	P. M. E. IB	職名	講師	履修者数	1
教員名	峰村 知子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	1.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.00	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	5.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	5.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.00	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	-	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



外国人留学生に関する科目

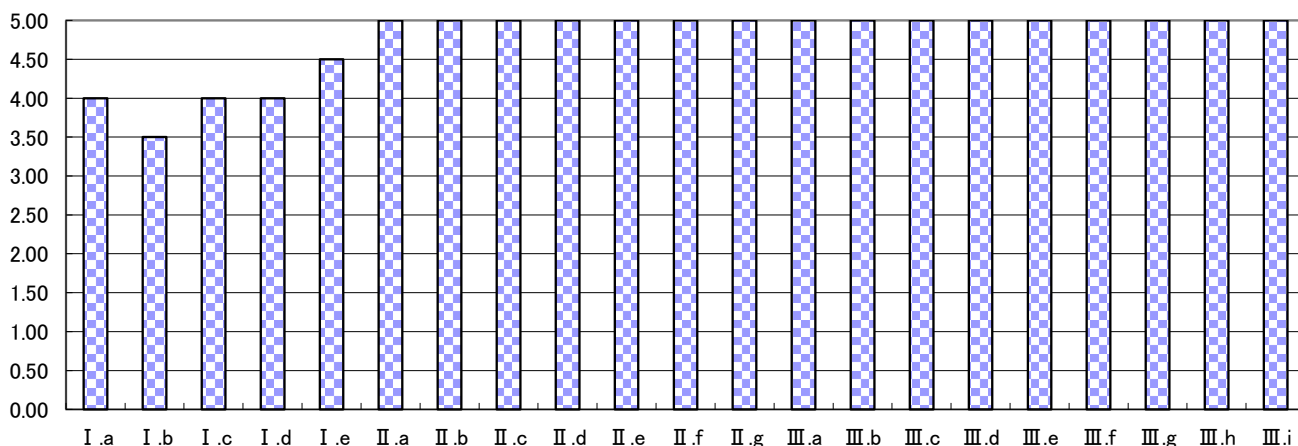
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	外国人留学生に関する科目
科目数	2

履修者数	4
回答者数	4

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.00	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	b	3.50	0 0.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	c	4.00	2 50.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	d	4.00	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	e	4.50	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
II	a	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	b	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	c	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	d	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	e	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	f	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	g	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
III	a	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	b	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	c	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	d	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	e	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	f	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	g	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	h	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	2
	i	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0

外国人留学生に関する科目 全体平均点

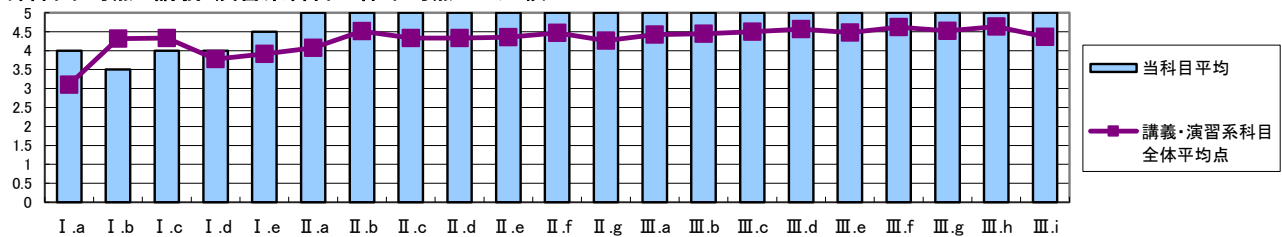


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	日本事情ⅡB	職名	講師	履修者数	2
教員名	一林 久美子			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ（受講者数）は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材（配布資料等）は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

このクラスは、月曜日の2時限目に大塚キャンパスで行なわれた。受講者は、引き続き中国からの留学生2年生2名である。日本語能力のレベルは、国際交流基金と財団法人日本国際教育支援協会が行う認定試験のN2を取得しており、基本的な文法・語彙は習得済みである。この授業の目的は、日本での学生生活が円滑に行くように日本社会の文化や慣習を知り、日本の社会構造について分析的に理解が進むということである。さらに自国を振り返り、日本社会との類似点、相違点などを分析し話すことができるようにしていくことを目指した。前期の授業では、「国境を越えて」と言う大学や大学院の留学生対象の読解のためのテキストを使用した。後期は、朝日新聞記事「アリババの社長退任」、黒木瞳氏のエッセイ「ひみつのHちゃん」、コラム「ことばのたまゆら」等々、読みやすく、自国との対比などをして話しやすい題材を選んだ。

● 問題点

アンケートの結果ではシラバスを活用していないということだが、後期は前期の発言の少ないことの反省から話しやすい題材を選択したため現状に即したということになる。アンケートでは休みが多いと感じているようだが、認定範囲内である。演奏旅行など短大としての活動で休講などがあったためそう感じたのかもしれない。私語については、問題提起をして二人で相談する際に自国語を使用していたのを気にしたのかもしれないが、それは当然のことで、後から日本語でまとめて発言するなどしたので問題はない。

● 改善の方策

来期は、更に日本の社会や時事問題について興味を湧くような授業展開にしていこうと思う。授業の内容については、興味を持てる話題を提供するように心がける。自分で語彙を探するような活動も組み入れていこうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

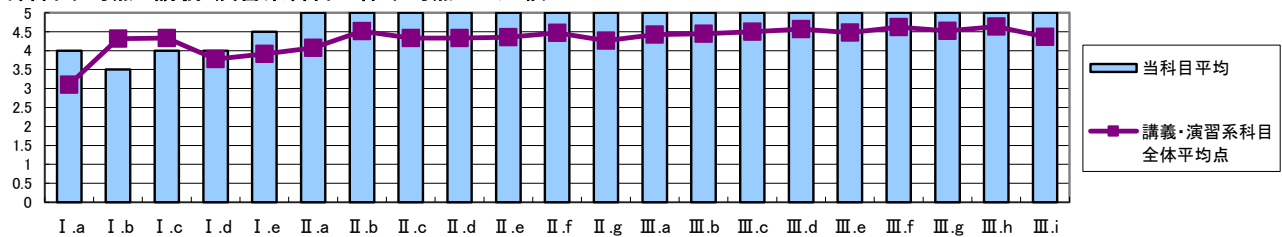
科目名	日本語4
教員名	一林 久美子

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した。	4.00	3.10
	b この授業の出席は良好であった。	3.50	4.32
	c 授業中は、私語を控え学習に集中した。	4.00	4.33
	d 予習や復習などをして、授業を理解するように努めた。	4.00	3.77
	e この授業を受講して、到達目標に達した。	4.50	3.91
II	a 授業は、シラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b 授業のテーマが、はっきりしていた。	5.00	4.52
	c 授業の内容に興味・関心を持てた。	5.00	4.33
	d 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.33
	e 授業の内容を理解できた。	5.00	4.36
	f クラスサイズ(受講者数)は、適切であった。	5.00	4.47
	g 授業は、学習意欲を刺激されるものであった。	5.00	4.26
III	a 授業の進め方は、丁寧で分かりやすかった。	5.00	4.42
	b 教員は、学生の理解を助ける創意工夫をしていた。	5.00	4.45
	c 授業で使われている教材(配布資料等)は、適切であった。	5.00	4.50
	d 教員は、授業の準備を十分に行なっていた。	5.00	4.56
	e 教員の話し方は、明瞭で聞きやすく、板書等は適切であった。	5.00	4.47
	f 教員は、授業回数・時間をきちんと守った。	5.00	4.62
	g 授業や受講生に対する教員の熱意や情熱が感じられた。	5.00	4.52
	h 休講に対する補講は、適切に行なわれていた。 (当てはまる場合のみマークして下さい。)	5.00	4.63
	i あなたにとって、この授業の総合的な評価は良いですか。	5.00	4.36

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

このクラスは、月曜日の3時限目に大塚キャンパスで行なわれた。受講者は引き続き中国からの留学生2年生2名である。日本語能力のレベルは、国際交流基金と財団法人日本国際教育支援協会が行う認定試験のN2を取得しており、基本的な文法・語彙は習得済みである。この授業の目的は、日本社会で使われている日本語が十分に理解でき、使えるようになることである。他の授業も理解し参加できるように、N1のための読解のテキストを使用した。また、N1語彙学習のため毎回小テストを行い、定着を促した。

● 問題点

アンケートの結果ではシラバスを活用していないということだが、成績評価の基準と同様に、初日のオリエンテーションで説明している。お休みでシラバス通りにいかなかったことは致し方ない。アンケートでは休みが多いと感じているようだが、認定範囲内である。演奏旅行など短大としての活動で休講などがあったためそう感じたのかもしれない。私語については、問題提起をして二人で相談する際に自国語を使用していたのを気にしたのかもしれないが、それは当然のことで、後から日本語でまとめて発言するなどしたので問題はない。

● 改善の方策

今期は、N1語彙や読解の学習をし始めたのだが、より生活に密着した日本語を学びたいという要求があったので、来期はテキストを変えようと思っている。授業の内容については、興味を持てる話題を提供したい。小テストや発表の機会を増やして定着を図り、発表をするような活動も組み入れていこうと思う。

東邦音樂大學大学院

ピアノ領域

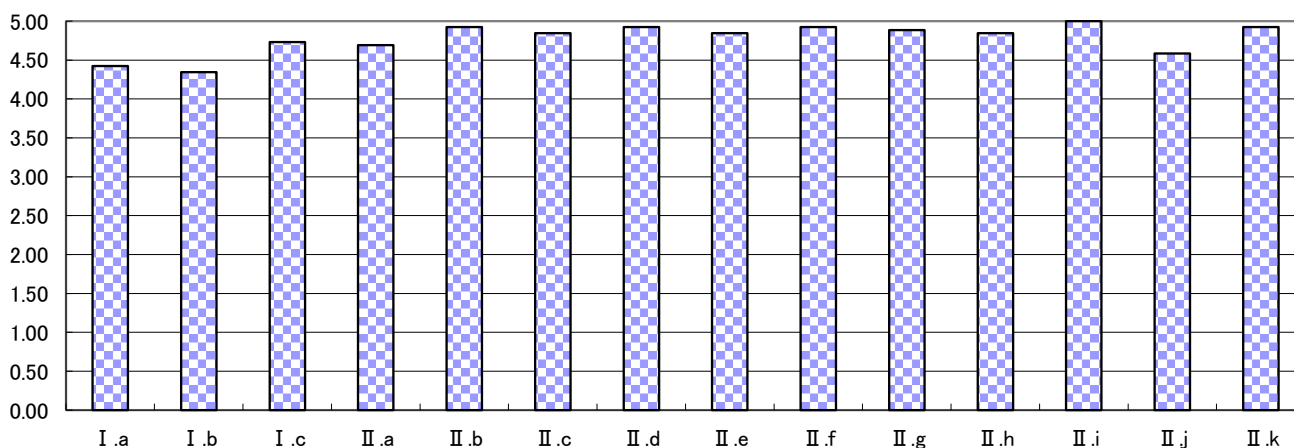
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	ピアノ領域
科目数	10

履修者数	33
回答者数	26

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.42	16	7	1	2	0	26	0
	61.5		26.9	3.8	7.7	0.0			
	b	4.35	10	15	1	0	0	26	0
38.5	57.7		3.8	0.0	0.0				
c	授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.73	19	7	0	0	0	26	0
			73.1	26.9	0.0	0.0	0.0		
II	a	4.69	21	2	3	0	0	26	0
	80.8		7.7	11.5	0.0	0.0			
	b	4.92	25	0	1	0	0	26	0
	96.2		0.0	3.8	0.0	0.0			
	c	4.85	22	4	0	0	0	26	0
	84.6		15.4	0.0	0.0	0.0			
	d	4.92	24	2	0	0	0	26	0
	92.3		7.7	0.0	0.0	0.0			
	e	4.85	22	4	0	0	0	26	0
	84.6		15.4	0.0	0.0	0.0			
	f	4.92	24	2	0	0	0	26	0
	92.3		7.7	0.0	0.0	0.0			
	g	4.88	23	3	0	0	0	26	0
88.5	11.5		0.0	0.0	0.0				
h	4.85	22	4	0	0	0	26	0	
84.6		15.4	0.0	0.0	0.0				
i	5.00	26	0	0	0	0	26	0	
100.0		0.0	0.0	0.0	0.0				
j	4.58	9	1	2	0	0	12	14	
75.0		8.3	16.7	0.0	0.0				
k	この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	4.92	24	2	0	0	0	26	0
			92.3	7.7	0.0	0.0	0.0		

ピアノ領域 全体平均点

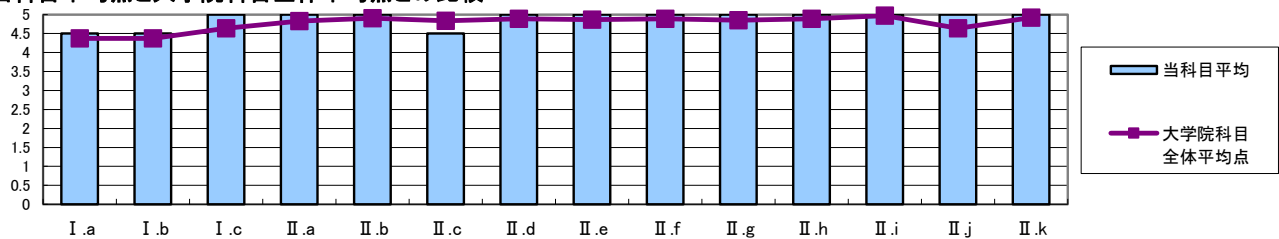


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習	職名	講師	履修者数	2
教員名	太田 幸子			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.50	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.50	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.50	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は留学生2名を担当。東邦音楽大学より担当した学生と、中国の大学卒業者である必然的に語学力に差が出ているが、内部入学者のサポートで無事に1年間クリアする事が出来た。院1年生はスケジュールが、厳しく、演奏時間も長く又大曲になるため早くから準備が必要である。2名共、真面目に努力を積んでおり、十分に成果が表れている。

● 問題点

学生との信頼関係は良好である。設問II.cの数値が低いのは日本語能力が低いためである。

● 改善の方策

学生とのコミュニケーションを大事に、確認をしながら丁寧な指導を今後も心掛けたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

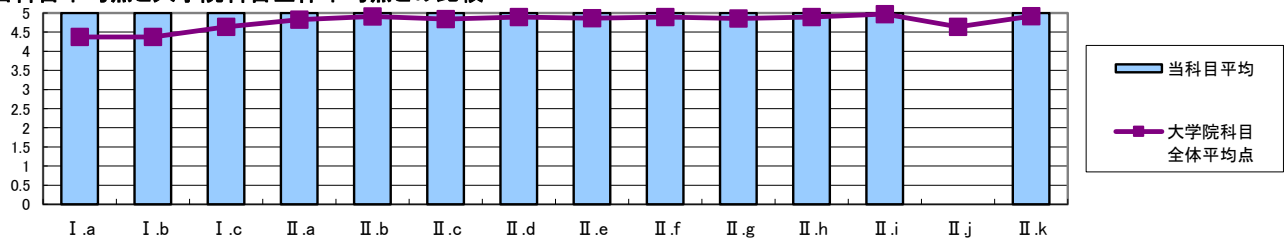
科目名	ピアノ特別演習
教員名	藤井 一興

職名	教授
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	-	4.64
	k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



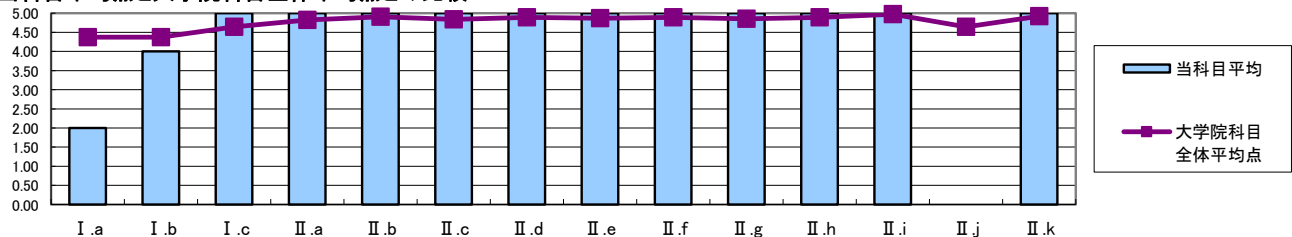
科目名	ピアノ特別演習
教員名	久邇 之宜

職名	特任教授
----	------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	2.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	-	4.64
	k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

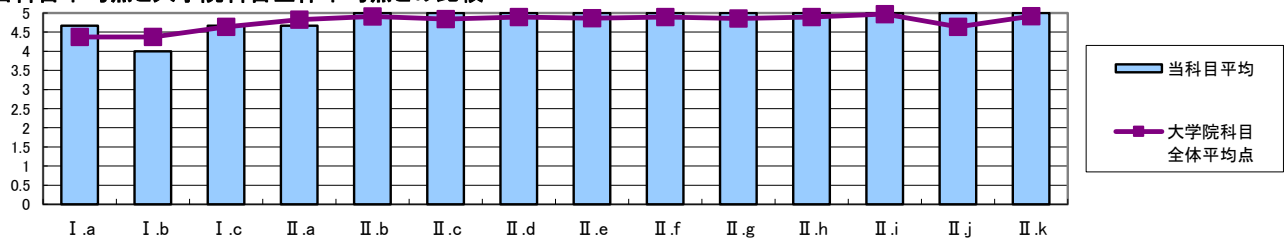
科目名	鍵盤音楽史研究
教員名	伊藤 制子

職名	講師
----	----

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.67	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.67	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	4.67	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



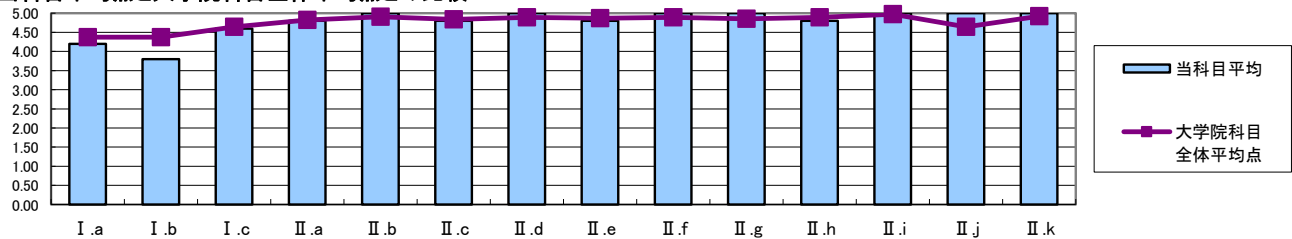
科目名	作品研究A(バロック・古典期)
教員名	伊藤 制子

職名	講師
----	----

履修者数	7
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.20	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	3.80	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.60	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	4.80	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.80	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.80	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	4.80	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

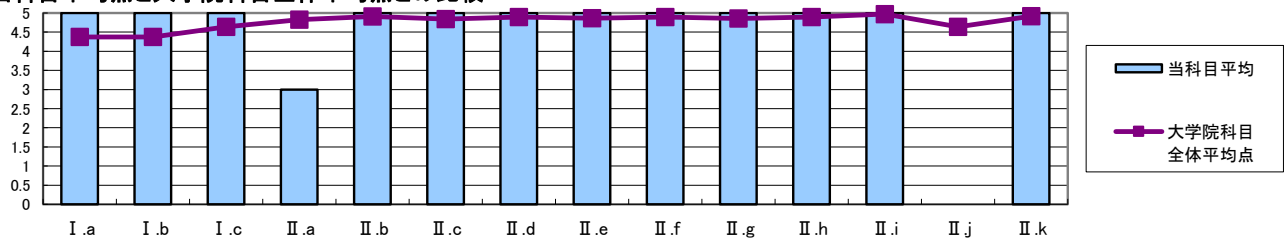
科目名	ピアノ特別演習
教員名	浦川 玲子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	3.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	-	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



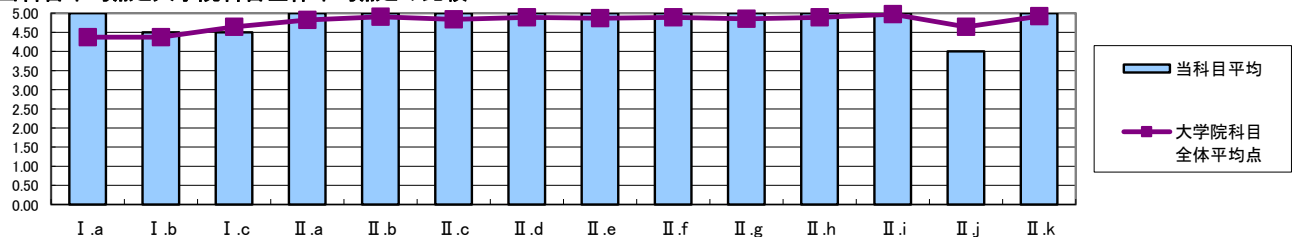
科目名	ピアノ特別演習
教員名	大場 文恵

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.50	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.50	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	4.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

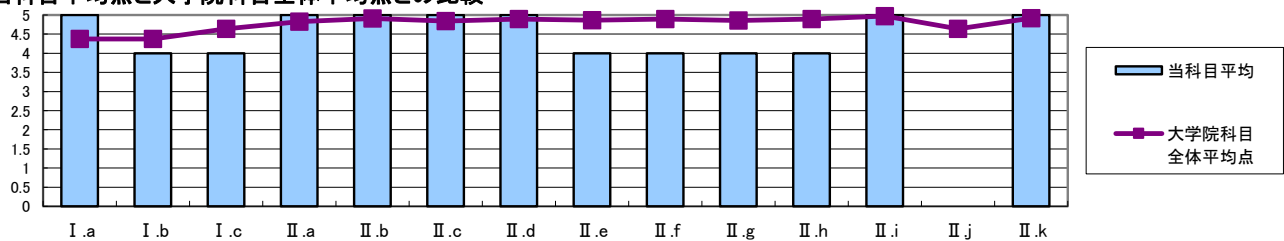
科目名	ピアノ特別演習
教員名	小林 律子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	4.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	4.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	4.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	-	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



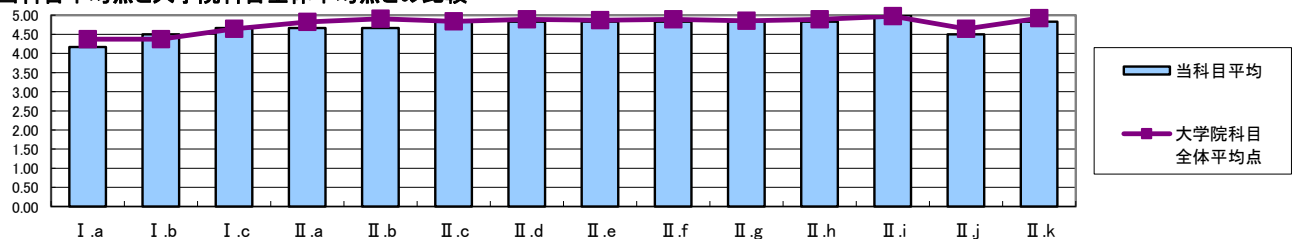
科目名	アンサンブル表現研究A(伴奏法)
教員名	田中 梢

職名	講師
----	----

履修者数	9
回答者数	6

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.17	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.50	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.67	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	4.67	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	4.67	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.83	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	4.83	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.83	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	4.83	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	4.83	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	4.83	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	4.50	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	4.83	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

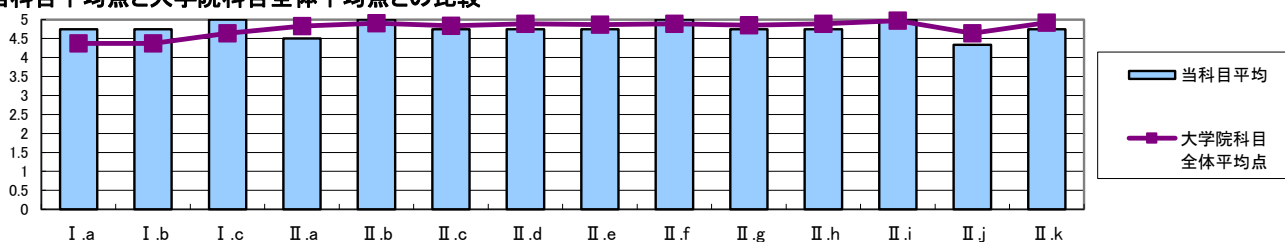


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	アンサンブル表現研究B(ピアノアンサンブル・室内楽)	職名	講師	履修者数	5
教員名	田中 梢			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.75	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.75	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	4.50	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.75	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	4.75	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.75	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	4.75	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	4.75	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	4.33	4.64
	k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	4.75	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



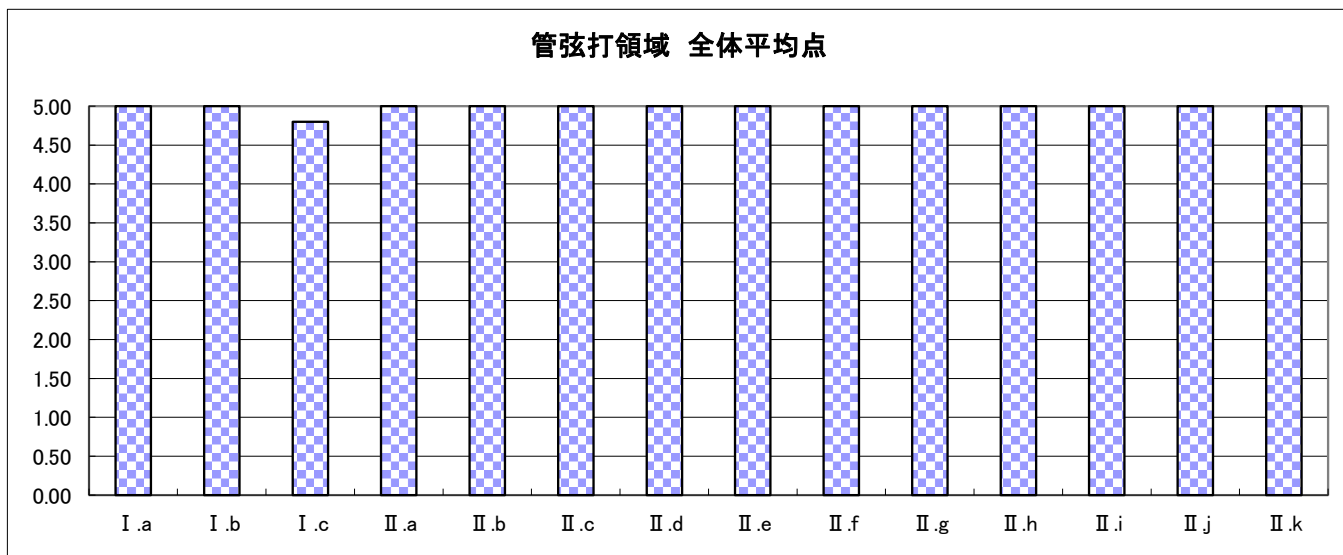
管弦打領域

授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	管弦打領域
科目数	3

履修者数	6
回答者数	5

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数	
			5	4	3	2	1			
I	a	出席状況は良好であった。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	b	予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	c	授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.80	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
II	a	シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	b	授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	c	授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	d	授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	e	教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	f	問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	g	教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	h	教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	i	授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	j	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	1
	k	この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

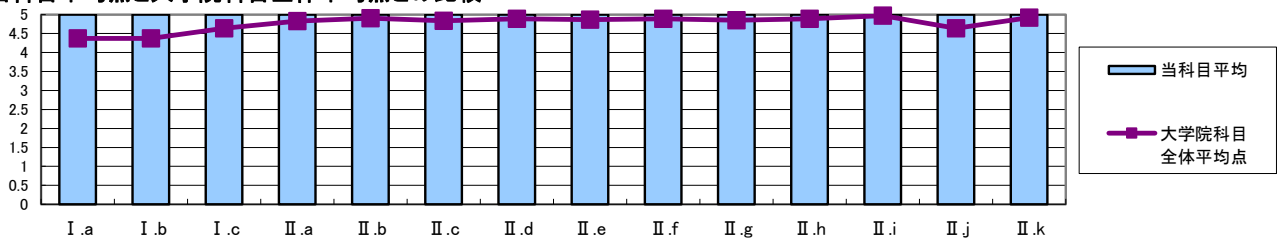
科目名	管弦打特別演習
教員名	天満 敦子

職名	教授
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学院生、学部生、短大生、皆努力が顕著で頼もしいです。在学中に多くのことを学んでもらい、卒業後、演奏家として自立を目指します。

● 問題点

教員と学生と集中関係を目指します。

● 改善の方策

今まで通り、努力していきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

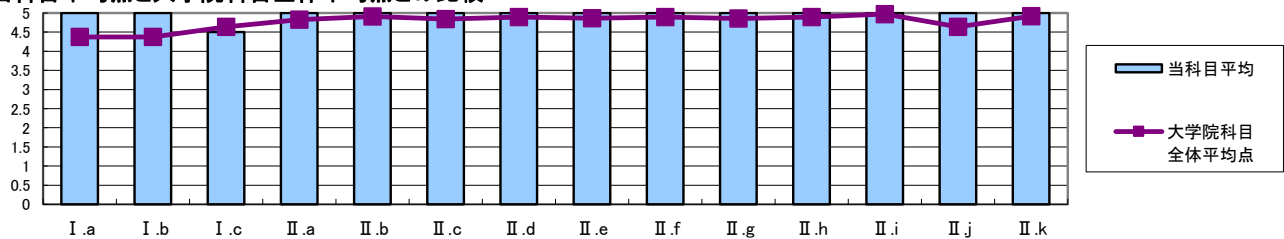
科目名	管弦打特別演習
教員名	浅野 高瑛

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.50	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



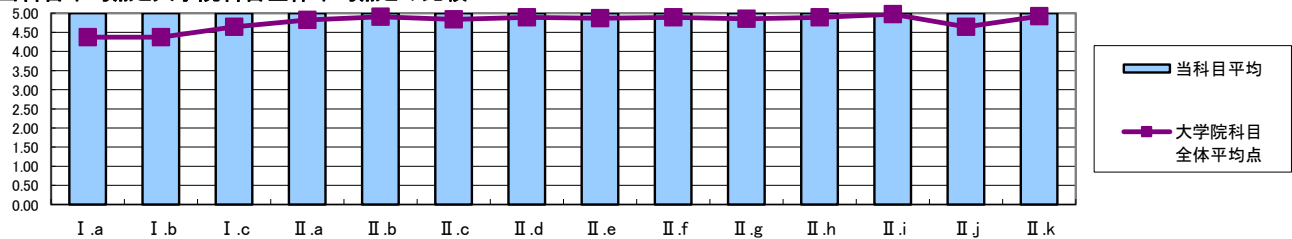
科目名	管弦打特別演習
教員名	松尾 賢一郎

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



声 楽 領 域

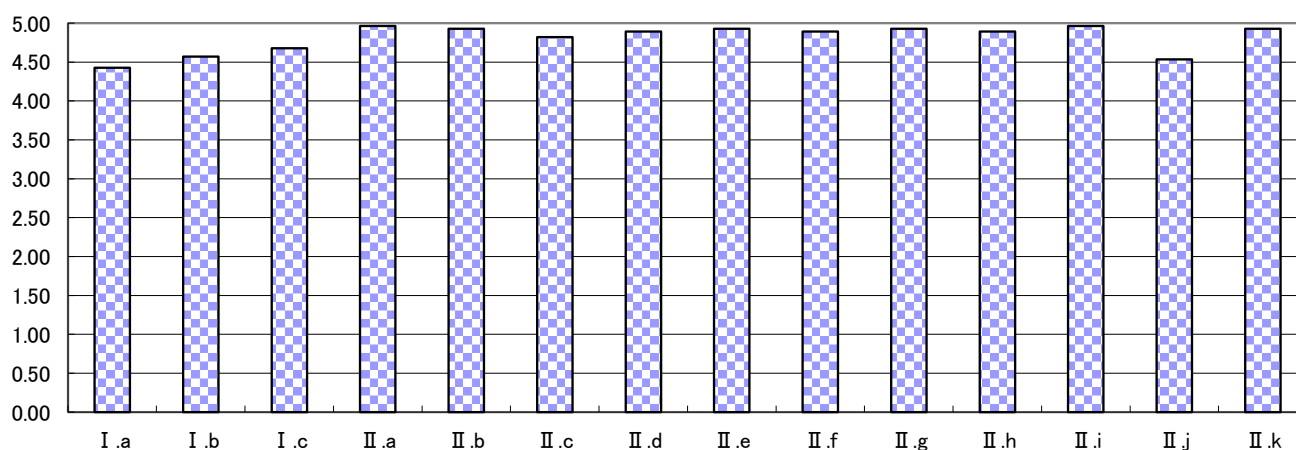
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	声楽領域
科目数	13

履修者数	34
回答者数	28

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数	
			5	4	3	2	1			
I	a	4.43	13	14	1	0	0	28	0	
			46.4	50.0	3.6	0.0	0.0			
	b	4.57	16	12	0	0	0	28	0	
c	授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.68	19	9	0	0	0	28	0	
			67.9	32.1	0.0	0.0	0.0			
II	a	4.96	27	1	0	0	0	28	0	
			96.4	3.6	0.0	0.0	0.0			
	b	4.93	26	2	0	0	0	28	0	
	c	授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.82	24	3	1	0	0	28	0
				85.7	10.7	3.6	0.0	0.0		
	d	授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	4.89	25	3	0	0	0	28	0
				89.3	10.7	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.93	26	2	0	0	0	28	0
				92.9	7.1	0.0	0.0	0.0		
	f	問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	4.89	26	1	1	0	0	28	0
				92.9	3.6	3.6	0.0	0.0		
g	教員は必要に応じて課題を課していた。	4.93	26	2	0	0	0	28	0	
			92.9	7.1	0.0	0.0	0.0			
h	教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	4.89	26	1	1	0	0	28	0	
			92.9	3.6	3.6	0.0	0.0			
i	授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	4.96	26	1	0	0	0	27	1	
			96.3	3.7	0.0	0.0	0.0			
j	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	4.53	11	1	3	0	0	15	13	
			73.3	6.7	20.0	0.0	0.0			
k	この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	4.93	26	2	0	0	0	28	0	
			92.9	7.1	0.0	0.0	0.0			

声楽領域 全体平均点

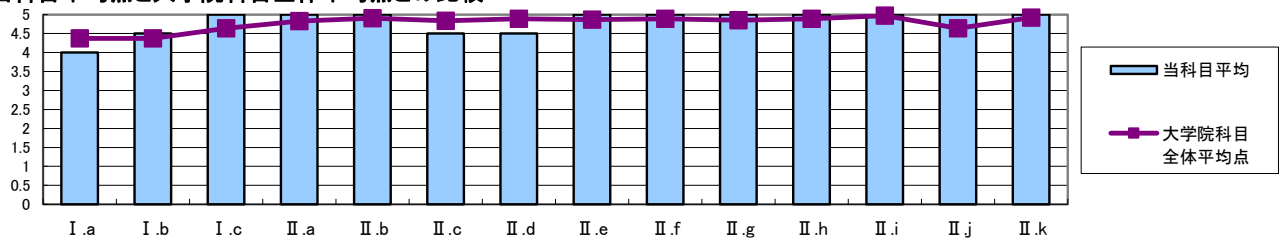


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	作品研究A- I(日本歌曲)	職名	教授	履修者数	3
教員名	山崎 明美			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.50	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.50	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	4.50	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、さまざまな課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者3名のうち2名から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問10項目よりなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。アンケート結果は、設問Iは4点台から5点。設問IIはほぼ5であった。回答の分布はいずれも肯定にとどまっている。

● 問題点

I-a「出席状況」4.5、I-b「予習・復習」4.5となった点だろうか。

● 改善の方策

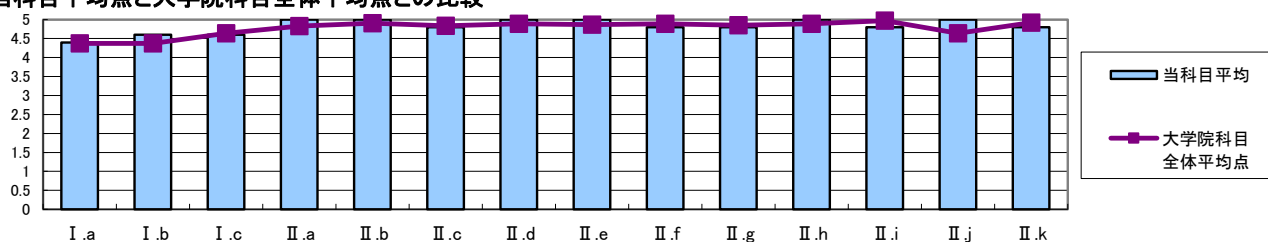
発表者がいるため、該当しない場合の授業では、予習復習に対する反省が見られた。「様々な意見が聴けて参考になる」という自由記述があった。学生への知識の伝達は確かにおこなわれていると実感している。さらに興味の幅が広がる授業にすべく自身も研究を深めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	作品研究A-Ⅱ(日本歌曲)	職名	教授	履修者数	5
教員名	山崎 明美			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a 出席状況は良好であった。	4.40	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.60	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.60	4.64
Ⅱ	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.80	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	4.80	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	4.80	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	4.80	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	4.80	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、さまざまな課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者7名のうち、アンケート期間に体調不良だったものを除く3名から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問10項目よりなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。アンケート結果は、設問ⅠはⅠ-a「出席状況」4.33、その他は4点台後半。設問Ⅱはすべて5点であった。

● 問題点

設問ⅠはⅠ-a「出席状況」4.33となった点であろうか。

● 改善の方策

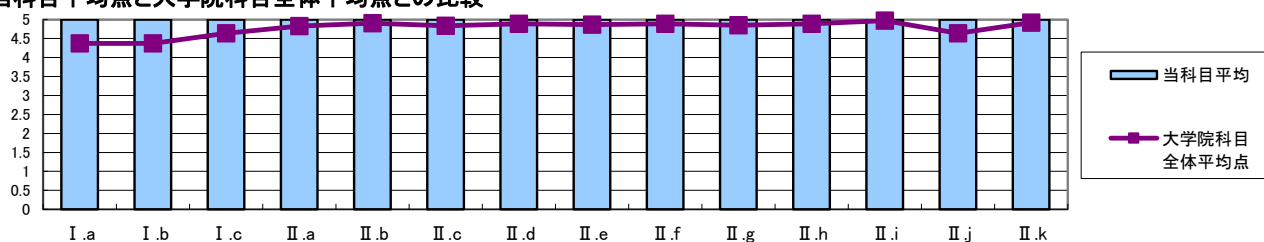
アンケート提出者が3名であるので、1名当たりのパーセントが高くなっている。しかし、3名とも出席に関して肯定の範囲にとどまっている。年代的にも体調を崩しやすいということは理解しているが、授業への出席を促すことも必要かと思う。設問Ⅱが5であったことを考えると、授業目的の伝達はスムーズにおこなわれていたのではないかと思われる。これに慢心することなく、自身の研究も進め、授業に反映させていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	声楽特別演習	職名	講師	履修者数	1
教員名	岩見 真佐子			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
	k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本年度のシラバス、授業計画に基づき専攻実技レッスンを実施。前後期のレッスン開講期間の担当曜日に、学生事情に応じて、オフィスアワー・昼休み・補講を最大限活用してレッスンを行った。学生の履修状況、生活事情に応じてレッスン回数を配慮。各回の自修状況・理解度を確認しながら開講。声楽専攻1名の声楽レッスンを実施。アンケート実施にあたっては、調査期間に履修学生に限定の条件で実施されたことを報告いたします。

● 問題点

自分で学ぶ姿勢が求められるため、「修士論文」「修士演奏」に目標を設定して実技レッスンを実施。二年計画の一年目として位置づけ、院一コンサートを重視。オペラ研究においても意欲をもって取り組めるように、レッスンにてサポート。外国歌曲研究、オペラアリア研究、日本歌曲研究などの演奏実践のために、作品研究と文献研究への発展的な学びの指導を進めた。学生自身の学修意欲が高いので、自分の意欲と学修に対しての準備をきちんと実践すること、作品へのアプローチの深さ、演奏完成度の意識を高める演奏実践（研究公开发表会）を積極的に生かすように指導。自らの気づきで意欲的な図書館利用となるように促して指導を進めた。専門的な発声指導では、自然にリラックスして体得できるように基礎教材の反復を中心に実施。学生の補講希望については時間的に前後学生の授業も考慮したため、回数で確保することに努めた。

● 改善の方策

声楽的な潜在能力を引き出し育ててゆく教育と、履修進級に関わる諸条件を満たす「専攻力」の育成、総合的な声による表現の実践が専門実技レッスンの土台となることを鑑みて、自発的な学びの意欲を尊重し、声楽的な専門研究に裏付けられた修士演奏の実現に繋がるように継続してゆきたい。同時に、レッスンの再現に留まらず自らの力で理想の声、響きを実現してゆく長期的な学びで聴く耳を育て、目標達成の共感共有を発展的な学びへの意欲に繋げてゆくことも重要である。個々に合った有効な教材を作り上げ「作品に対する総合的な気づき」を共有し尊重してゆくことを大切にしてゆきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

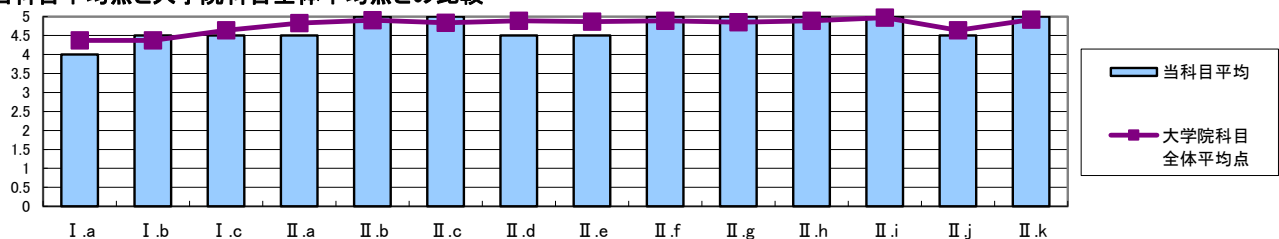
科目名	声楽特別演習
教員名	武藤 直美

職名	講師
----	----

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.50	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.50	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	4.50	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	4.50	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.50	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	4.50	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年生、2年生各1名、計2名の受講者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。受講生は独自の方法で学習し、積極的に曲の意味を音楽として表現しようとする意欲を持って授業に臨んでおりました。また5年生は実技ほか修士論文の作成においてかなり早い段階で準備につとめておりました。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、実技の指導方法については特に問題点はないと思われます。

● 改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、修士論文に向けてのさらなる指導の強化を追求、実践していく所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

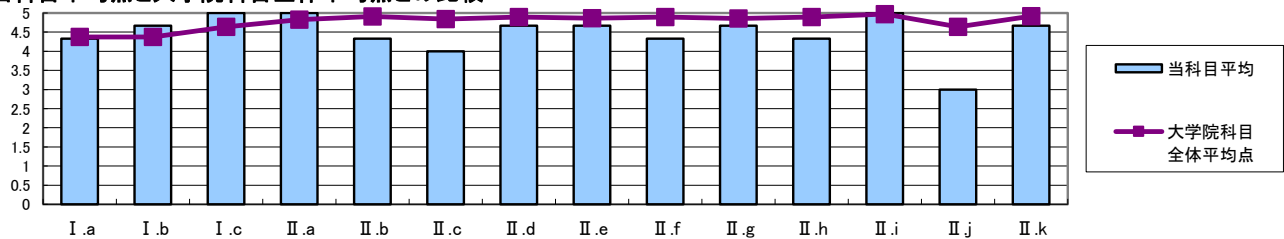
科目名	アンサンブル表現研究(声楽)
教員名	片岡 啓子

職名	特任教授
----	------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.33	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.67	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	4.33	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	4.67	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.67	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	4.33	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	4.67	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	4.33	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	3.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	4.67	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



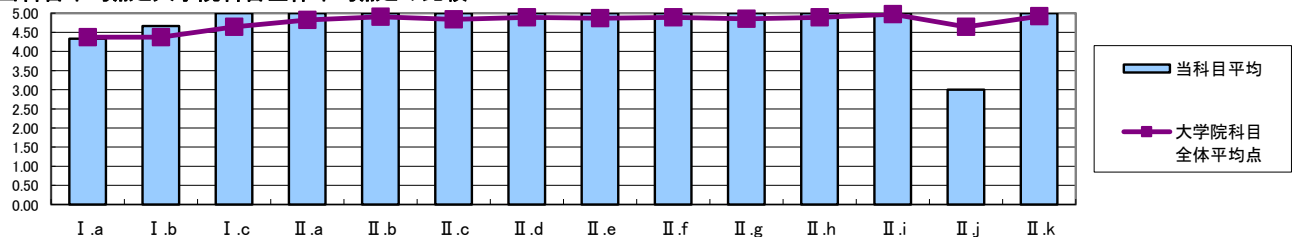
科目名	作品研究B- I(外国歌曲)
教員名	片岡 啓子

職名	特任教授
----	------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.33	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.67	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	3.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

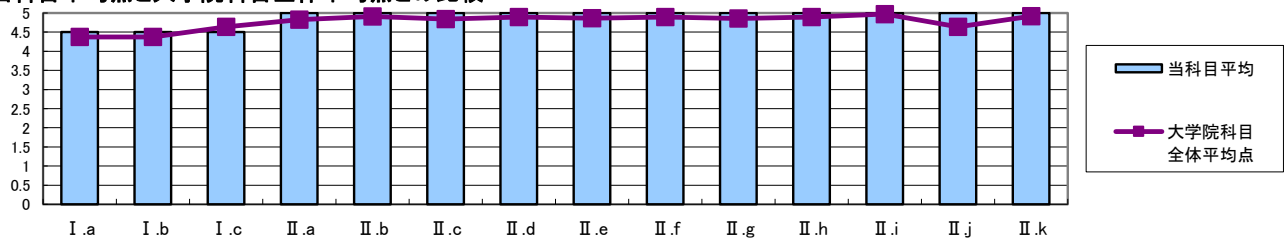
科目名	作品研究B-Ⅱ(外国歌曲)
教員名	片岡 啓子

職名	特任教授
----	------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.50	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.50	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.50	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



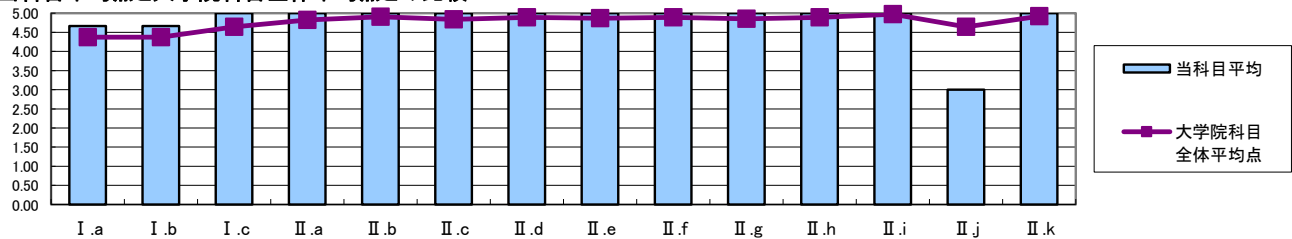
科目名	作品研究C-Ⅰ(オペラ)
教員名	片岡 啓子

職名	特任教授
----	------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.67	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.67	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	3.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

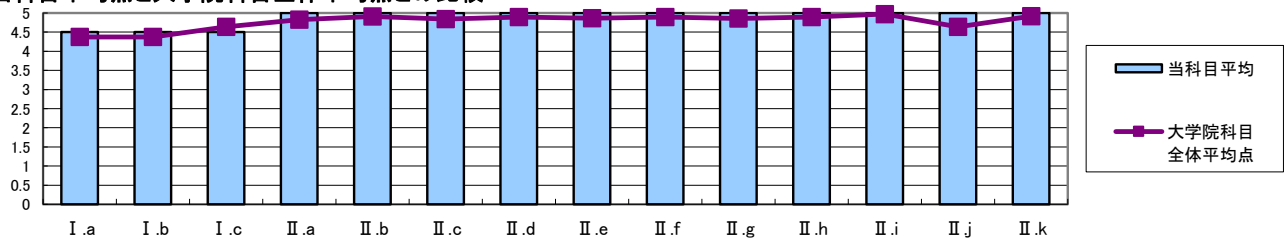
科目名	作品研究C-Ⅱ(オペラ)
教員名	片岡 啓子

職名	特任教授
----	------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.50	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.50	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.50	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



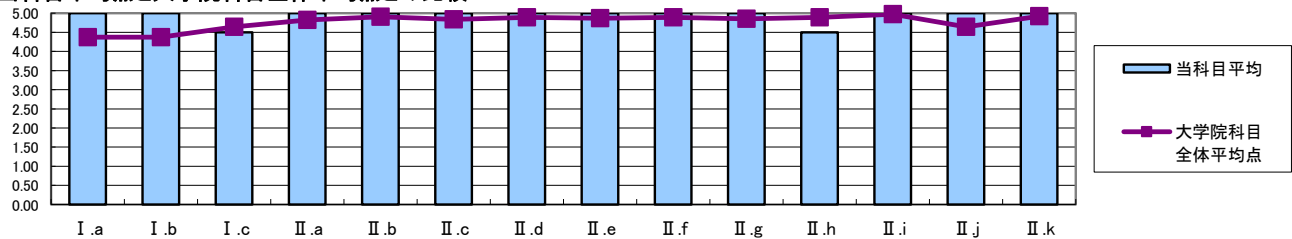
科目名	声楽特別演習
教員名	片岡 啓子

職名	特任教授
----	------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.50	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	4.50	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

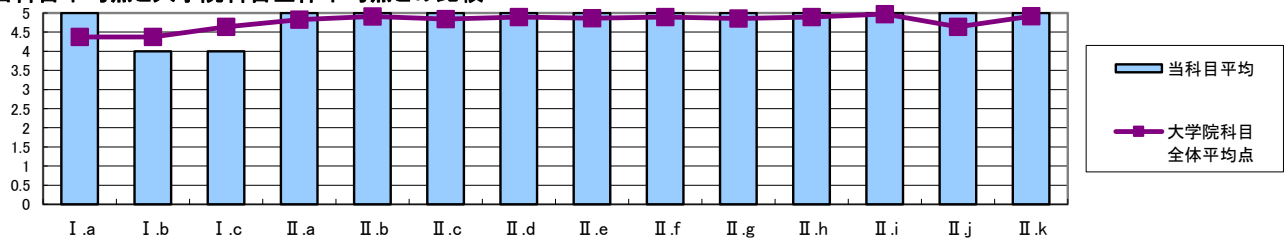
科目名	歌曲・オペラ史研究
教員名	伊藤 制子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



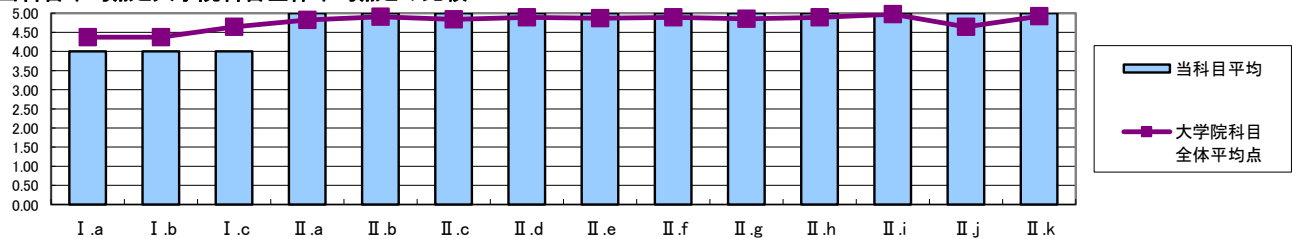
科目名	声楽特別演習
教員名	大島 洋子

職名	講師
----	----

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

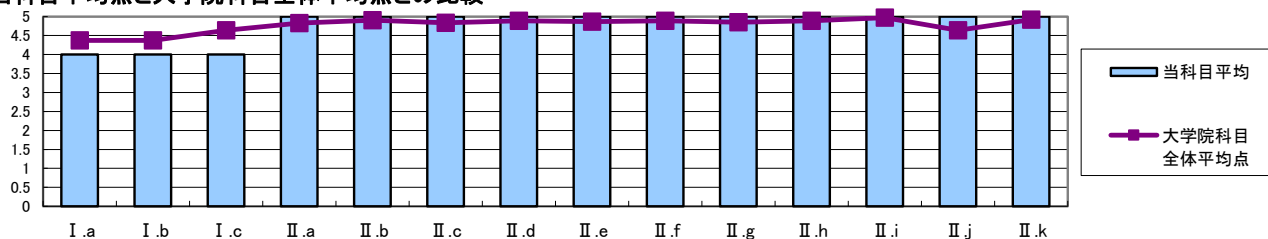


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	声楽特別演習	職名	講師	履修者数	1
教員名	大槻 孝志			回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



作曲領域

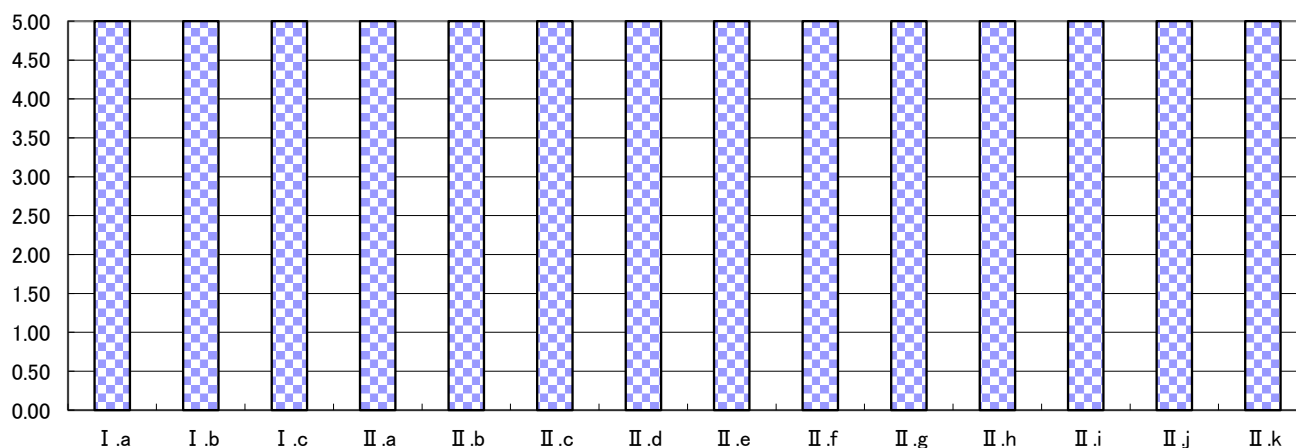
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	作曲領域
科目数	2

履修者数	2
回答者数	2

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数	
			5	4	3	2	1			
I	a	出席状況は良好であった。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	b	予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	c	授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
II	a	シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	b	授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	c	授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	d	授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	e	教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	f	問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	g	教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	h	教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	i	授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	j	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0
	k	この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2	0

作曲領域 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

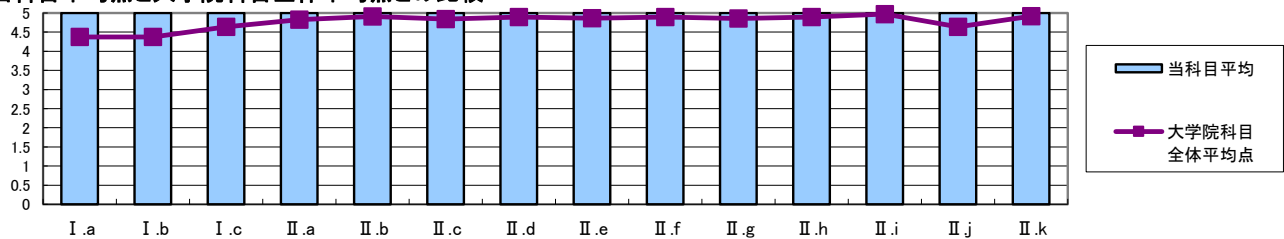
科目名	管絃楽法表現研究Ⅱ
教員名	萩久保 和明

職名	特任教授
----	------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



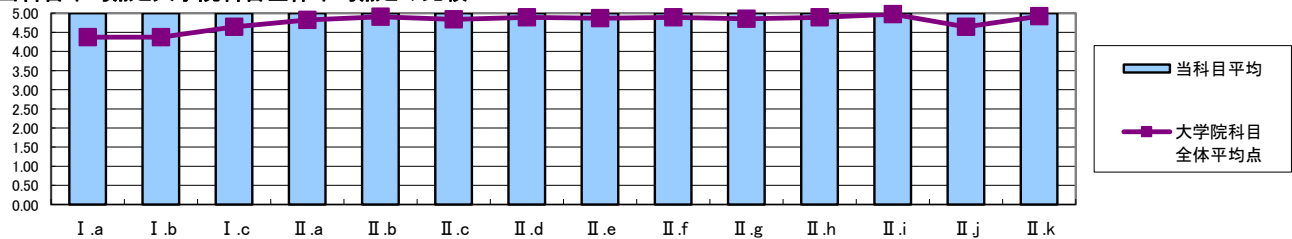
科目名	楽曲表現研究Ⅱ
教員名	萩久保 和明

職名	特任教授
----	------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	5.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	5.00	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



共通科目

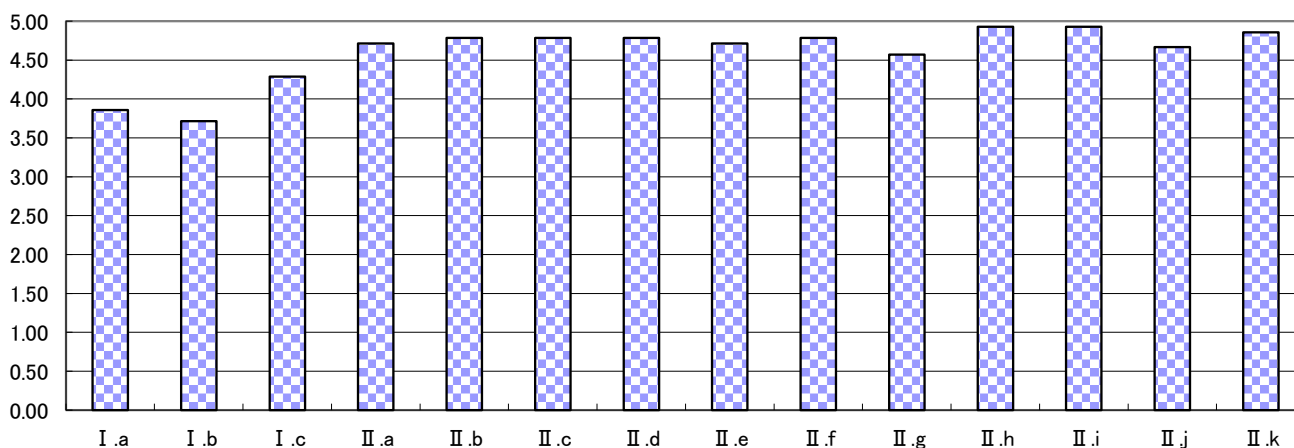
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	共通科目
科目数	4

履修者数	24
回答者数	14

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.86	3	8	1	2	0	14	0
	21.4		57.1	7.1	14.3	0.0			
	b	3.71	4	4	4	2	0	14	0
28.6	28.6		28.6	14.3	0.0				
c	4.29	8	3	2	1	0	14	0	
57.1		21.4	14.3	7.1	0.0				
II	a	4.71	11	2	1	0	0	14	0
	78.6		14.3	7.1	0.0	0.0			
	b	4.79	11	3	0	0	0	14	0
	78.6		21.4	0.0	0.0	0.0			
	c	4.79	11	3	0	0	0	14	0
	78.6		21.4	0.0	0.0	0.0			
	d	4.79	11	3	0	0	0	14	0
	78.6		21.4	0.0	0.0	0.0			
	e	4.71	10	4	0	0	0	14	0
	71.4		28.6	0.0	0.0	0.0			
	f	4.79	11	3	0	0	0	14	0
78.6	21.4		0.0	0.0	0.0				
g	4.57	11	1	1	1	0	14	0	
78.6		7.1	7.1	7.1	0.0				
h	4.93	13	1	0	0	0	14	0	
92.9		7.1	0.0	0.0	0.0				
i	4.93	13	1	0	0	0	14	0	
92.9		7.1	0.0	0.0	0.0				
j	4.67	5	0	1	0	0	6	8	
83.3		0.0	16.7	0.0	0.0				
k	4.86	12	2	0	0	0	14	0	
85.7		14.3	0.0	0.0	0.0				

共通科目 全体平均点

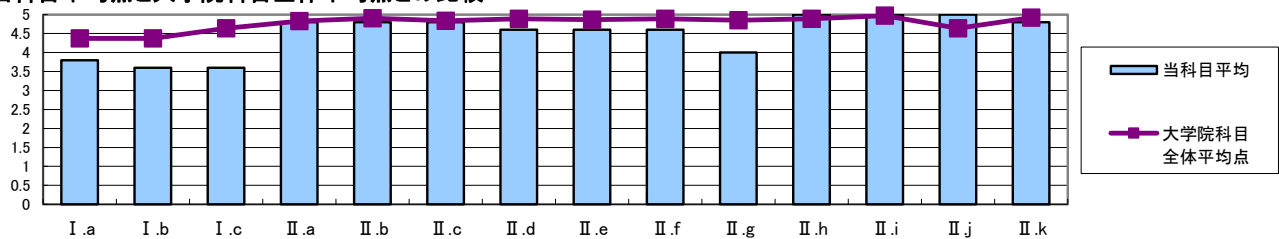


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	演奏表現研究	職名	講師	履修者数	8
教員名	上山 典子			回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	3.80	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	3.60	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	3.60	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	4.80	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	4.80	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.80	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	4.60	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.60	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	4.60	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	4.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
	k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	4.80	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は大学院1年以上を対象とする通年授業で、分析を通して個々の作品の構造やそれぞれの作品が属するジャンルとしての特徴を把握するとともに、これらの作品を生み出した作曲家の意図や当時の時代背景、音楽社会・文化などにも目を向け、豊かな演奏表現につなげることを目的とした。前期はバロック時代～古典派のいわゆる大作曲家の作品を中心に取り上げ、時代による形式構造の変化や作曲家の特色を把握した。後期は19世紀ロマン主義時代から、多くの履修者にとってこれまであまり馴染みがなかったという20世紀半ば頃までを対象に、作品が生み出された音楽史的背景に対する理解を深めた。講義形式を基本としたが、履修者による作品分析、作品批評など積極的な参加とディスカッションを随時求めた。履修登録者はすべて修士1年生の計7名（ピアノ専攻1名、弦専攻1名、管専攻が各4名、声楽専攻が1名）で、最終的に6名が単位を取得した。（初回以降ほとんど欠席となっていた1名は、前期末の時点で履修辞退を申し出てきた。）例年に比べて前期から（特定の学生2～3名の）欠席が多く、授業に対する関心を示す学生と、そうではない学生との学習意欲の差が大きかった。（月曜の午後は川越キャンパスでオーケストラの授業に参加する学生がほとんどで、週によっては、2限の時間帯から出発する必要がある、ということもあった。）また、日本語能力に不安が残る留学生1名が履修していたが、恐らくは言語的問題から、授業に対する関心度が極めて低いまま一年を終えることになった。授業中にスマホ操作に没頭・熱中してしまうなど、問題は深刻だった。これまで長らく授業を担当してきたが、こうした学生は、正直なところ、初めてだった。（性格は穏やかで素直な学生であり、人格的に問題があるわけではない。）数週間の後、思い余って注意をしたところ、次週からは素直に自粛したが、今度はスマホを使用しない方法で、自分の世界に没頭してしまうようなところがあった。今後益々増えるであろう留学生への対応を、考えさせられる一年となった。

● 問題点

アンケートの結果、設問Iの出席、予習復習、授業に対する取り組みの3項目が平均3.8～3.6と、とくに低い結果となっていました。またこれらの問題とも関連が強い設問II-g「教員は必要に応じて課題を課していた」に関して、「あまりそう思わない」と回答した学生が1名いた。

● 改善の方策

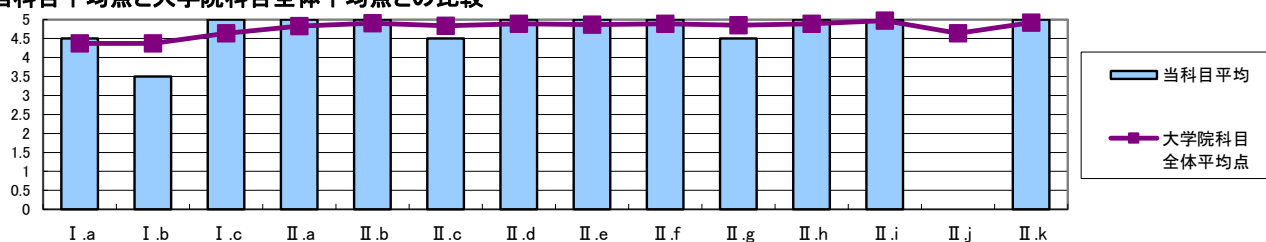
大学院の授業では、厳密な意味での出席管理は必要ないと考えているが、やはりそれでも、今年度は一部の学生の出席率が芳しくなかった。自身の専門実技に忙しい時期であっても、より魅力的な授業が展開されるのであれば、授業に出席しようという気持ちになるだろう。この授業は、大学院の科目のなかでは比較的履修者数の多い授業のため、より多くの学生に関心を持ってもらえるよう、どのような専門の学生にとっても何かしらの興味が引き出せるよう、担当者としては努力を続けていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	楽書研究	職名	講師	履修者数	4
教員名	上山 典子			回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.50	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	3.50	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	5.00	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	5.00	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.50	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	4.50	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	-	4.64
	k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は英語で書かれた音楽事典や文献の内容を読み、その理解を深めることを目的とした。履修者には年間の授業を通して英文で書かれた音楽書を読むことに慣れ、日本語で書かれた文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指してもらった。履修登録者はピアノ専攻修士1年が1名と、声楽専攻の修士2年が2名だった。前期・後期ともに履修者の希望をある程度取り入れながら、CDの解説書や演奏家紹介文、そして演奏会プログラム用の楽曲解説の講読に取り組んだ。修士2年の学生については、過去、修士論文執筆で忙しくなる11～12月にかけて出席率が下がる年もあったが、今年度の2名については、そのような中でも積極的に参加していた。一方、M1の学生は、コンクールや学内演奏会のソリストとしての合わせなどから、後期の出席が非常に限られた（前期については毎回出席し、熱心に学んでいた）。こうした事情から、今回のアンケートはM2履修者2名による結果である。両学生は、昨年度の「演奏表現研究」でも非常に高い学習意欲とパフォーマンスを示しており、実技専攻生でありながら、音楽学的研究に対しても強い関心が伺えた。

● 問題点

アンケートの回答は2名のみだったため、真の問題点は見えにくいところがあるが、そのようななかでも、設問I-b「予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた」の回答が、「ある程度そう思う」と「あまりそう思わない」がそれぞれ1名だった。授業の性格上、講読する文献の予習は本来不可欠なはずだったが、とくに後期に関しては、授業開始前、あるいは授業中に慌てて単語の意味調べを行っている様子も見受けられた。

● 改善の方策

実技レッスンや修士論文の執筆と並行して、演習的性格を持つ授業の履修は大きな負担だとは思いますが、楽書購読の授業においては、やはりある程度の予習が不可欠である。今年度のM2の2名については、両名ともある一定の語学力と音楽書の内容に関する知識を持ち備えていたため、修論執筆の多忙期の予習の怠りが、授業の運営に致命的影響を与えたわけではなかった。しかし、毎年こうした語学力の学生が履修するとは限らないため、予習（復習）の徹底を図っていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

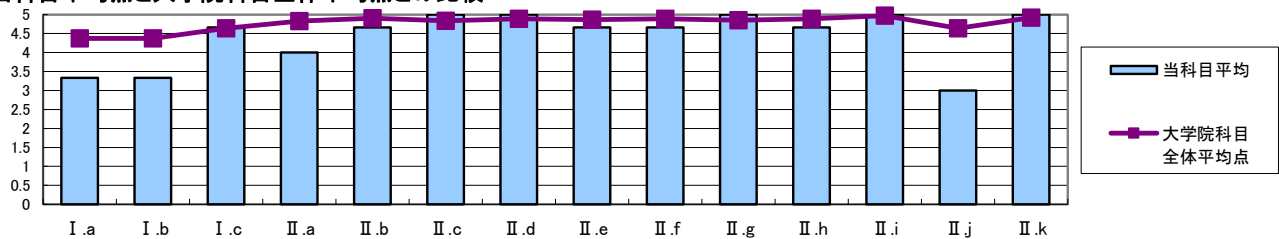
科目名	身体表現演習
教員名	渡辺 恵

職名	講師
----	----

履修者数	6
回答者数	3

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	3.33	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	3.33	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.67	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	4.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	4.67	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	5.00	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	5.00	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.67	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	4.67	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	4.67	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	5.00	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	3.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	5.00	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

・正しい姿勢を保つことができるか。・自分自身の身体をみつめ、コントロール出来るかどうか。・音楽を身体で感じ、表現できるかどうか。・積み重ねの効果を体現出来るかどうか。以上を目的として、パフォーマンスを向上させるための、身体の調整。バレエのレッスンを基礎として、ストレッチ、バーレッスン、センターワークをCD音楽を使用してレッスンを行う。履修者数 … 6名 解答者数 … 3名・バレエ経験のある生徒がリードして、内容の濃いレッスンが出来た。・自分の体の癖に気づき、改善を試みていた。

● 問題点

授業に対する集中度が生徒によって差があった。

● 改善の方策

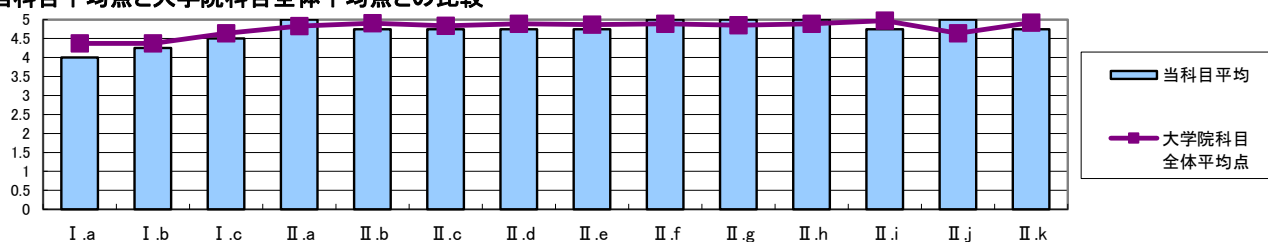
授業の内容と各自の専攻に関連があることを説明して、より一層興味を持たせる。積み重ねの大切さを重ねて説明する。授業に対する魅力を高めるよう、更に毎回のレッスン内容を工夫する。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	フランス語	職名	講師	履修者数	6
教員名	伊藤 制子			回答者数	4

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a 出席状況は良好であった。	4.00	4.37
	b 予習や復習をして授業・レッスンに臨んでいた。	4.25	4.37
	c 授業・レッスンに対する取り組みは良かった。	4.50	4.64
II	a シラバスに記載の科目の目標や主題が、授業・レッスンで明確にされていた。	5.00	4.83
	b 授業・レッスンは知的な感動を与えるなどの魅力があった。	4.75	4.91
	c 授業・レッスンは難しい概念を理解させる努力がなされていた。	4.75	4.84
	d 授業・レッスンの内容が学生の関心を刺激し、広げることができた。	4.75	4.89
	e 教員は専門領域に関する研究の成果を授業・レッスンに反映させていた。	4.75	4.87
	f 問題の発見や研究の進め方についての指導がなされていた。	5.00	4.89
	g 教員は必要に応じて課題を課していた。	5.00	4.85
	h 教員は学生の質問や相談に前向きに対応していた。	5.00	4.89
	i 授業・レッスンに対する教員の取り組みに熱意や情熱を感じられた。	4.75	4.97
	j 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。 (自分の論文指導教員の場合のみマークして下さい。)	5.00	4.64
k この授業・レッスンに対する総合評価は良いですか。	4.75	4.92	

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

2018年度 授業改善のための学生アンケート実施報告書

平成 31 年 3 月 31 日 発行

編集発行 : 東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 FD 委員会

〒112-0012 東京都文京区大塚 4 丁目 46-9

TEL 03 (3946) 9667

FAX 03 (3946) 2455

印刷・集計 : 株式会社 教育ソフトウェア